

西ノ辻遺跡第33次発掘調査報告

1996

財団法人 東大阪市文化財協会

はじめに

第二阪奈有料自動車道路は、大阪都心部と奈良県北部を最短距離で結ぶとともに関西国際空港や関西文化学術研究都市へのアクセス道路として計画されました。

この新道路の建設予定地内には、鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡といった全国的にも有名な遺跡が所在しております。

財団法人東大阪市文化財協会では道路建設にともなって失われ行く埋蔵文化財を記録保存するため、昭和63年度から継続して発掘調査を実施してまいりました。

今回の西ノ辻遺跡第33次調査では、中世の遺構および弥生時代から古墳時代にかけての谷筋と同期の遺物を多量に検出しました。本書が、周辺の歴史的環境や古環境の復元の一助となれば幸いです。

最後に現地調査および資料整理にあたり、ご尽力いただいた大阪府道路公社をはじめとする関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

財団法人東大阪市文化財協会

例 言

1. 本書は、平成4年度に実施した、第二阪奈有料道路建設工事に伴う西ノ辻遺跡第33次発掘調査の報告である。
2. 発掘調査ならびに資料整理は、財団法人東大阪市文化財協会が大阪府道路公社の委託を受けて実施した。
3. 現地調査は平成4年5月18日から平成5年1月26日まで、資料整理を平成6年4月1日から平成8年3月29日まで実施した。
4. 調査は池崎智詞が担当した。また現地調査では、前田秀則 東口一彦 鶴田政樹 永村明良 中谷忠念 室田都英 大西昭彦らの、本書の作成に当たっては、栗塚洋子 西田史絵 飯田有子 山田泰世 西尾しずか 長谷山悦子 藤田房子 三宅弥生 平尾祥子 伊藤利香 種田まゆみ 松村成子 森本美砂子 川田唯加 片岡千佳 石割珠貴 西村慶子 櫻井真弓 狭川育子 大利直美（順不同 敬称略）らの参加を得た。
5. 本書は、池崎がⅠ～ⅣとⅥ章の執筆・編集を、Ⅴ章をパリノ・サーヴェイ株式会社が執筆した。
6. 遺構写真と一部遺物写真は池崎が撮影した。また遺物写真は、スタジオG.F.プロに委託して撮影した。レントゲン写真は財団法人元興寺文化財研究所に委託して撮影した。
7. 木簡の赤外線写真は奈良国立文化財研究所調査部専門員佃幹雄氏に、判読は奈良国立文化財研究所史料調査室室長館野和己氏、文部技官古尾谷知浩氏の手を煩わした。
8. 出土した獣骨は大阪市立自然史博物館の樽野博幸氏に、貝は大阪市立自然史博物館の石井久夫氏に鑑定していただいた。
9. 現地の土色および土器・土製品の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に準拠した。
10. 出土した木質遺物については、財団法人元興寺文化財研究所に委託して保存処理・一部材質鑑定を行った。
11. 現地調査の実施にあたっては、大阪府道路公社、鹿島・森本・戸田J.V.、近畿日本鉄道株式会社、安西工業株式会社の方々にご協力いただいた。記して御礼申し上げます。

本文目次

はじめに

例言

I	調査に至る経過	2
II	位置と環境	2
III	調査の方法	4
IV	調査の成果	5
	1) 層序	7
	2) 遺構と遺物	8
V	西ノ辻遺跡の自然科学分析	45
VI	まとめ	73

挿図目次

第1図	西ノ辻跡周辺の遺跡分布図	1
第2図	調査地点位置図	3
第3図	調査地地区割り図及び基準ライン設定図	5
第4図	調査地東西断面図	6
第5図	中世遺構位置図	7
第6図	井戸1・2平面図及び断面図	9
第7図	井戸1・3・5出土遺物実測図	10
第8図	井戸2出土遺物実測図	11
第9図	井戸2出土遺物実測図	12
第10図	井戸4出土遺物実測図	13
第11図	井戸3・4・5断面図及び井戸4包丁出土状況図	14
第12図	集石遺構実測図	15
第13図	会所状遺構出土筭実測図	15
第14図	第4区中世遺構平・断面図	16
第15図	会所状遺構出土遺物実測図	17
第16図	第5区中世遺構平・断面図	18
第17図	中世包含層及び中世遺構出土遺物実測図	19
第18図	古墳時代土器溜り遺物出土状況図	20
第19図	22～8層出土遺物実測図	21
第20図	8層出土遺物実測図	22

第21図	16層・17層出土遺物実測図	23
第22図	17層・18層出土遺物実測図	24
第23図	18層出土遺物実測図	25
第24図	流路平面図	26
第25図	弥生時代土器溜り遺物出土状況図	27
第26図	19・20・25層及び弥生時代土器溜り出土遺物実測図	28
第27図	37・38・39・40層出土遺物実測図	29
第28図	流路3出土遺物実測図	30
第29図	流路3出土遺物実測図	31
第30図	流路3出土遺物実測図	32
第31図	流路3出土遺物実測図	33
第32図	流路3出土遺物実測図	34
第33図	74・84層・流路4・流路5・流路6・流路8出土遺物実測図	35
第34図	ミニチュア土器・紡錘車実測図	36
第35図	打製石器実測図 石鏃・石剣	37
第36図	磨製石器実測図 石包丁	38
第37図	磨製石器実測図 大型蛤刃石斧・敲石	39
第38図	加工木材実測図	40
第39図	加工木材実測図	41
第40図	加工木材実測図	42
第41図	微化石分析調査地点の層序及び試料採取層準	46
第42図	主要珪藻化石の層位分布	51
第43図	花粉化石群集の層位分布	53
第44図	植物珪酸体組成の層位分布	55
第45図	モモの核の大きさの散布図	69
第46図	線刻土器実測図	43
第47図	縄文土器実測図	43

表目次

第1表	放射性炭素年代測定結果	45
第2表	珪藻分析結果	49
第3表	花粉分析結果	52
第4表	植物珪酸体分析結果	54
第5表	種実・葉・材同定結果	62
第6表	モモの核の大きさ	68
第7表	木製品の樹種同定結果	71
第8表	遺物観察表	75
第9表	出土動物遺体一覧表	96
第10表	出土具一覧表	98

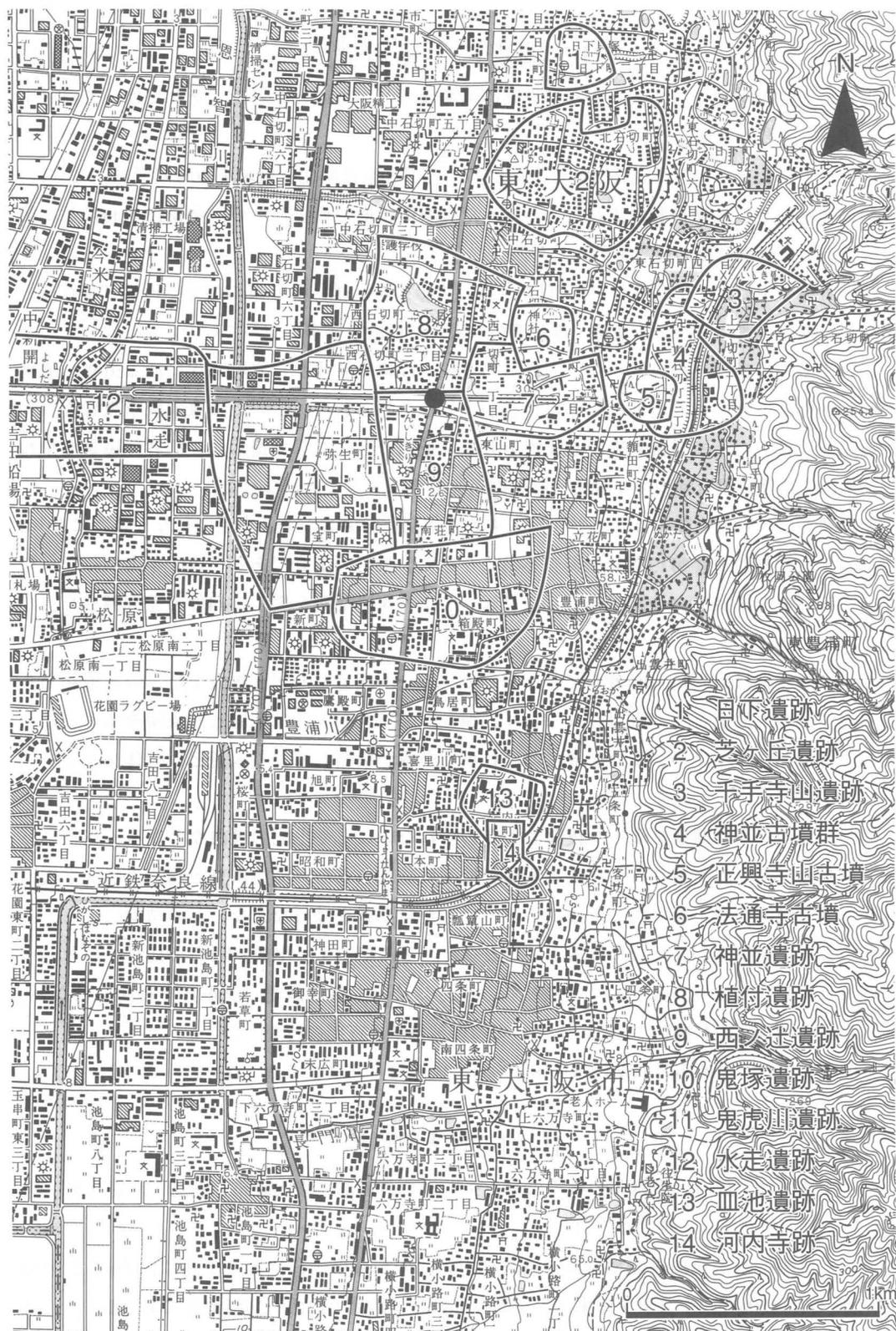
図版目次

図版1	遺構	1. 調査地全景（南から） 2. 夜間機械掘削（南から）
図版2	遺構	1. 覆工板下作業風景 平板実測（西から） 2. 覆工板下作業風景 実測（北西から）
図版3	遺構	1. 第4区会所状遺構検出状況（東から） 2. 第4区会所状遺構遺物出土状況（西から）
図版4	遺構	1. 第5区中世遺構検出状況（東から） 2. 第3区集石遺構検出状況（南から）
図版5	遺構	1. 第7区井戸1断ち割り状況（南から） 2. 第6区井戸2断ち割り状況（北から）
図版6	遺構	1. 第5区井戸3断ち割り状況（西から） 2. 第5区井戸4検出状況（西から）
図版7	遺構	1. 第5区井戸4上部掘削状況（北西から） 2. 第5区井戸4下部遺物出土状況（西から）
図版8	遺構	1. 第2区井戸5断ち割り状況（北から） 2. 第5区第1砂層（16層）遺物出土状況（南西から）
図版9	遺構	1. 第3区西側足跡面検出状況（北から） 2. 第3区東側足跡面検出状況（北から）
図版10	遺構	1. 第4区足跡面検出状況（北から）

		2. 第4区足跡面直上層遺物出土状況（南から）
図版11	遺構	1. 第2区ガス管下トレンチ古墳時代層遺物出土状況（南から） 2. 第2区ガス管下トレンチ古墳時代層遺物出土状況（南から）
図版12	遺構	1. 第4区加工木材出土状況（北から） 2. 第2区流路3内加工木材出土状況（東から）
図版13	遺構	1. 第1区、4区流路3（左）流路4検出状況（北から） 2. 第3区流路3検出状況（北東から）
図版14	遺構	1. 第4区流路3内遺物出土状況（北から） 2. 第4区流路4ベース内遺物出土状況（南から）
図版15	遺構	1. 第3区流路3北岸部遺物出土状況（西から） 2. 第3区流路3南岸部石包丁出土状況（北から）
図版16	遺構	1. 谷断面（南から） 2. 谷完掘状況（北東から南西を見る）
図版17	遺構	1. 谷完掘状況（東から） 2. 谷完掘状況（南西から）
図版18	遺物	中世包含層出土遺物
図版19	遺物	井戸1出土遺物
図版20	遺物	井戸2出土遺物
図版21	遺物	井戸2出土遺物
図版22	遺物	井戸2出土遺物
図版23	遺物	井戸2出土遺物
図版24	遺物	井戸2出土遺物
図版25	遺物	井戸2出土遺物
図版26	遺物	井戸4出土遺物
図版27	遺物	井戸4出土遺物
図版28	遺物	井戸4出土遺物
図版29	遺物	井戸4出土遺物
図版30	遺物	井戸4出土遺物
図版31	遺物	井戸3出土遺物
図版32	遺物	井戸3出土遺物
図版33	遺物	井戸3・5出土遺物
図版34	遺物	会所状遺構出土遺物
図版35	遺物	会所状遺構出土遺物
図版36	遺物	会所状遺構出土遺物
図版37	遺物	会所状遺構出土遺物

- | | | |
|------|----|---------------------|
| 図版38 | 遺物 | 会所状遺構出土遺物 |
| 図版39 | 遺物 | 集石遺構出土遺物 |
| 図版40 | 遺物 | 集石遺構・土壙4・土壙3・溝1出土遺物 |
| 図版41 | 遺物 | 22・23層出土遺物 |
| 図版42 | 遺物 | 8層出土遺物 |
| 図版43 | 遺物 | 8層出土遺物 |
| 図版44 | 遺物 | 8層出土遺物 |
| 図版45 | 遺物 | 16層出土遺物 |
| 図版46 | 遺物 | 17層出土遺物 |
| 図版47 | 遺物 | 17層・18層出土遺物 |
| 図版48 | 遺物 | 18層出土遺物 |
| 図版49 | 遺物 | 18層出土遺物 |
| 図版50 | 遺物 | 18層出土遺物 |
| 図版51 | 遺物 | 19層・20層・25層・37層出土遺物 |
| 図版52 | 遺物 | 37層・38層出土遺物 |
| 図版53 | 遺物 | 37層・38層・39層・40層出土遺物 |
| 図版54 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版55 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版56 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版57 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版58 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版59 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版60 | 遺物 | 流路3出土遺物 |
| 図版61 | 遺物 | 74層・流路4・流路5出土遺物 |
| 図版62 | 遺物 | 84層・流路8・流路6出土遺物 |
| 図版63 | 遺物 | ミニチュア土器・線刻土器 |
| 図版64 | 遺物 | 土製・石製紡錘車 |
| 図版65 | 遺物 | 打製石器（石鏃・石剣） |
| 図版66 | 遺物 | 磨製石器（石包丁） |
| 図版67 | 遺物 | 磨製石器（石包丁） |
| 図版68 | 遺物 | 磨製石器（石包丁） |
| 図版69 | 遺物 | 磨製石器（石斧） |
| 図版70 | 遺物 | 磨製石器（石斧・敲石） |
| 図版71 | 遺物 | 加工痕のある木材 |
| 図版72 | 遺物 | 加工痕のある木材 |

- 図版73 遺物 加工痕のある木材
- 図版74 遺物 井戸2出土動物遺体（カメ・ヒキガエル）
- 図版75 遺物 井戸5・古墳時代～中世包含層出土動物遺体
- 図版76 遺物 流路3・4・集石遺構・井戸2出土動物遺体及び中世包含層出土
貝
- 図版77 遺物 珪藻化石顕微鏡写真
- 図版78 遺物 花粉化石顕微鏡写真
- 図版79 遺物 花粉化石顕微鏡写真
- 図版80 遺物 植物珪酸体顕微鏡写真
- 図版81 遺物 種実遺体顕微鏡写真
- 図版82 遺物 種実遺体顕微鏡写真
- 図版83 遺物 種実遺体顕微鏡写真
- 図版84 遺物 樹種顕微鏡写真
- 図版85 遺物 樹種顕微鏡写真
- 図版86 遺物 樹種顕微鏡写真



第1図 西ノ辻遺跡周辺の遺跡分布図

I 調査に至る経過

近年の人口増加に伴って大阪府や奈良県の開発は著しいものとなった。それに伴って自動車の交通量も著しく増加した。

大阪府道路公社と奈良県道路公社は大阪府の中心部と奈良県北部地域を短時間で結ぶと共に、阪神高速道路や、近畿自動車道路などと結んだ広域道路網の形成のため、全長13.4kmに及ぶ第二阪奈有料自動車道路の建設を計画した。

この計画の中では、道路部分が国道170号線（大阪外環状線）より東の部分で近畿日本鉄道と平行し、鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡を東西に横断する事になっていた。

これまでの発掘調査の成果から、これらの遺跡には縄文時代から室町時代に渡る遺物・遺構の存在が確認されており当地にもその存在が十分に予想された。このため東大阪市教育委員会は道路建設に先だって発掘調査の必要性を大阪府道路公社に対して提示し、両者で協議を重ねた結果、道路建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。

発掘調査は大阪府道路公社から財団法人東大阪市文化財協会が委託を受け行なうことになり、昭和63年度の神並遺跡第13次発掘調査を始めとして、最終の調査である平成4年度に行なった西ノ辻第33次発掘調査（今回報告分）まで延べ5年の現場期間を要し、14件の発掘調査を行なった。

今回の調査地は旧国道と府道の交差点部分で、特に旧国道は八尾と枚方を結ぶ幹線道路として周辺住民の生活道として重用されており、調査区の東西の両側は八尾と四条畷を結ぶ近鉄バスの停留所となっている。また上部には近鉄東大阪線が横断しており国道とは立体交差している。

道路部分の専用は期間を限った夜間しか認められないことや上記の理由などから、当初よりオープンカット（露天掘り）工法による調査は不可能とされた。発掘調査と周辺の状態を鑑みると、調査範囲を覆工板で覆った後、その下でしか発掘調査は行なえないとの結論に達し、モグラのような発掘調査は行なわれることになった。そこでまず、平成3年9月・10月・11月・平成4年1月に覆工板を受けるための支持杭打設部分について事前調査（試掘）を夜間に行ない、次いで平成4年4月に本調査に入るにあたっての機械掘削を夜間に行なった。

発掘の本調査は現地期間平成4年5月18日から平成5年1月26日までおこなった。

II 位置と環境

西ノ辻遺跡は大阪府と奈良県の県境にある生駒山の西麓部、東大阪市西石切町・弥生町・東山町にかけて所在する。標高は7～15m。

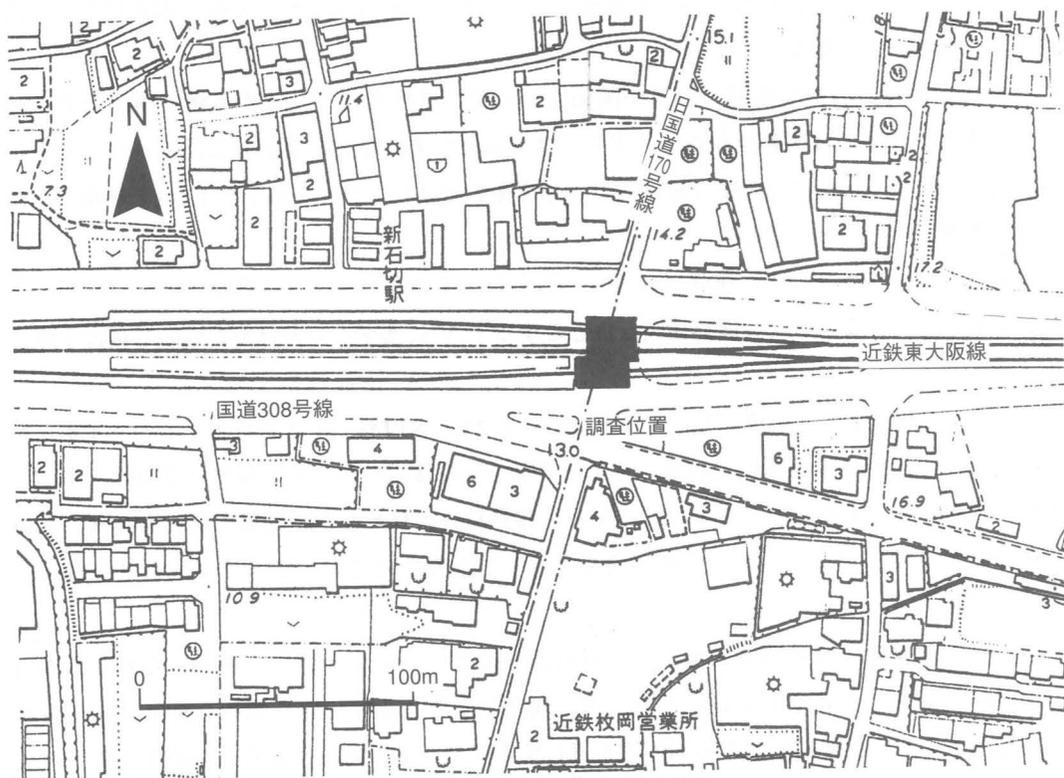
西ノ辻遺跡第33次発掘調査地点は本遺跡推定範囲の北部東側に位置し標高は13.5m、旧国道170号線と府道308号線が交差する東山町交差点部分で、地籍では西石切町地先にあたる。

西ノ辻遺跡は昭和16年に発見されて以来、京都大学や大阪府教育委員会、東大阪市遺跡保護

調査会、財団法人東大阪市文化財協会などによって発掘調査が行なわれてきた。なかでも昭和16・17年の京都大学小林行雄氏のA～N地点の調査では、各地点から様式のことなる弥生時代中期から後期の土器が出土した。小林行雄氏はこの調査の成果をもとに弥生時代中期から後期の土器の編年を組んでいる。このことが西ノ辻遺跡の名を全国に広めた。これ以降現在までに37回の調査を行なっている。(平成7年12月現在)なお、詳細については当協会の報告書「西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告(1995)」に詳しい。

本遺跡の周辺には旧石器時代から室町時代に至る多くの遺跡が分布する。

旧石器時代の遺跡にはナイフ形石器が採集されている千手寺山遺跡・正興寺山遺跡、有舌尖頭器が採集された草香山遺跡、また神並遺跡ではナイフ形石器や有舌尖頭器が出土している。縄文時代の遺跡は、早期の神並遺跡、前期の海岸線の一部を検出した鬼虎川遺跡、後期から晩期の日下遺跡や鬼塚遺跡・芝ヶ丘遺跡などが分布する。弥生時代の遺跡は、本遺跡をはじめ、神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡・芝ヶ丘遺跡・鬼塚遺跡など多くの遺跡が分布する。古墳時代になると集落跡として神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡などが、また後期の古墳群として神並古墳群も分布している。歴史時代には法通寺や河内寺などの寺院遺跡の他、鬼虎川遺跡・神並遺跡・植附遺跡などで集落跡を検出している。



第2図 調査地点位置図

III 調査の方法

今回の調査地点では現地表面から15m下の部分に道路が計画されていた。またトレンチの西側と東側は前年度までにすでに調査が完了しており、道路の建設がすでに進行中であった。

機械による表土掘削は道路専有の範囲が限られていたため、3回に分けて夜間に行なった。

機械掘削は上面の盛土が薄く既設の埋設管の管頭が最深の掘削となり、浅いところでは1mにも満たず、覆工板で覆うと実質の作業スペースは80cmの高さしか確保されなかった。その後調査は重機の作業スペースが確保出来ないという理由の他、最終の7m下の部分まですべてが遺物包含層であることから、全工程人力による掘削となった。

調査にあたりトレンチ内通路の確保及び、断面によるデータ収集の目的からサブトレンチの掘削を先行することにした。トレンチの位置については、調査地の中央部分をほぼ南北方向にガス管が縦断しているためにその下に設定することにした。そしてその東壁については全体の作業スペースが確保されるまでの間、調査区全体の断面として確保し活用した。

今回は通常とは違って調査当初から作業スペース問題の他、たくさんの問題を抱えた調査であった。以下、実際調査に際して直面した問題を列記しておく。

覆工板下での調査であるため自然光がほとんどあたらず、トレンチ内は極端な光量不足であった。実際に調査地上部を走る近鉄東大阪線のおかげで外光はほとんど遮断され、覆工板の継ぎ目からもれる光以外は自然光の入る余地はない。そのため投光器や蛍光灯、水銀灯などの補助光下での調査を余儀なくされた。

補助光源は設置場所や電源の容量の関係上、光量が自然光には及ばず遺構の検出作業や実測・写真撮影作業には困難を極めた。実際には実測や作業時など必要部分に投光器などを集中させることにより一時的な光量を確保した。写真撮影ではハンディなストロボ2台を駆使し、撮影部分を限定して光量不足を凌いだ。

測量に必要な高さや引きが確保されなかったため、業者委託による写真測量やトレンチ内の杭打ちなどもできなかった。鹿島建設を中心とするJ.V.に基準点の割付をお願いし後は手測によった。

トレンチの中央部分（面積にして約1/3）にガス管2本・NTT管・下水道管各1本の計4本が移設が不可能の状態に埋設されており、トレンチ内の人の移動や作業を阻むだけでなく、すべて本管（使用中）であるためベルトコンベアーの移動や人の移動などの作業方法にも通常以上の時間を要せざるを得なかった。作業通路を先行して調査することによってスペースを確保した。

トレンチ西側部分は道路予定地による買収以前はガソリンスタンドであったため、調査当初、ガソリンタンク部分がトレンチの一部に残存しておりそれに伴う強烈な臭気に悩まされた。またトレンチ上部に位置する旧国道を通行する車や、その両脇にあるバスの停留所から沈殿しトレンチ内を充満する排気ガス、ベルトコンベアー稼働時のほこりの充満など、トレンチ

内の連続作業時間が30分間で限界であるという劣悪な作業環境は、ダクトの導入や送風機・扇風機の利用とともに調査が進むに連れて作業スペースの拡張が一部改善につながった。

覆工板支持のために打設された支持杭がトレンチ内での見通しを塞ぎ、行動半径を半減させた。これも作業通路の先行調査によってある程度凌げた。

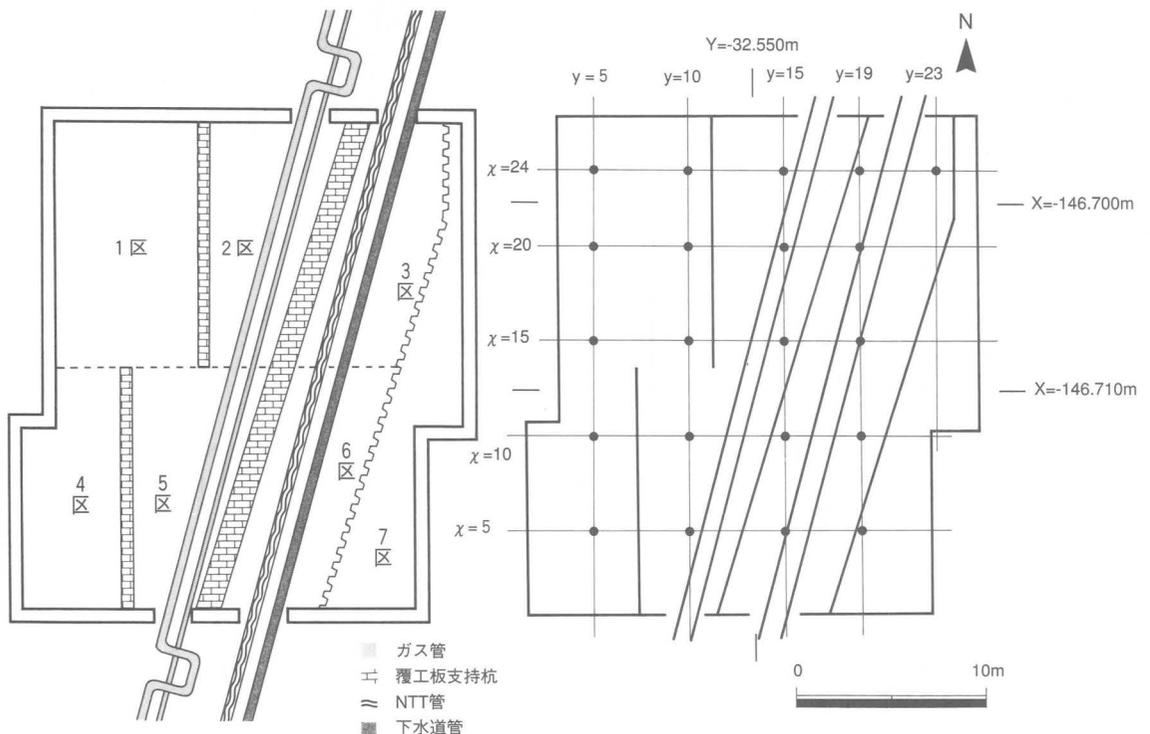
このほかにも期間的にも道路開通時期をにらんだ厳しい制限もあり全行程困難を極めた調査となったが、鹿島建設を始めとするJ.V.の多大な協力と安西工業の作業員さん達や補助員諸君の努力と忍耐により無事調査を終了することができた。

調査範囲と地区割り

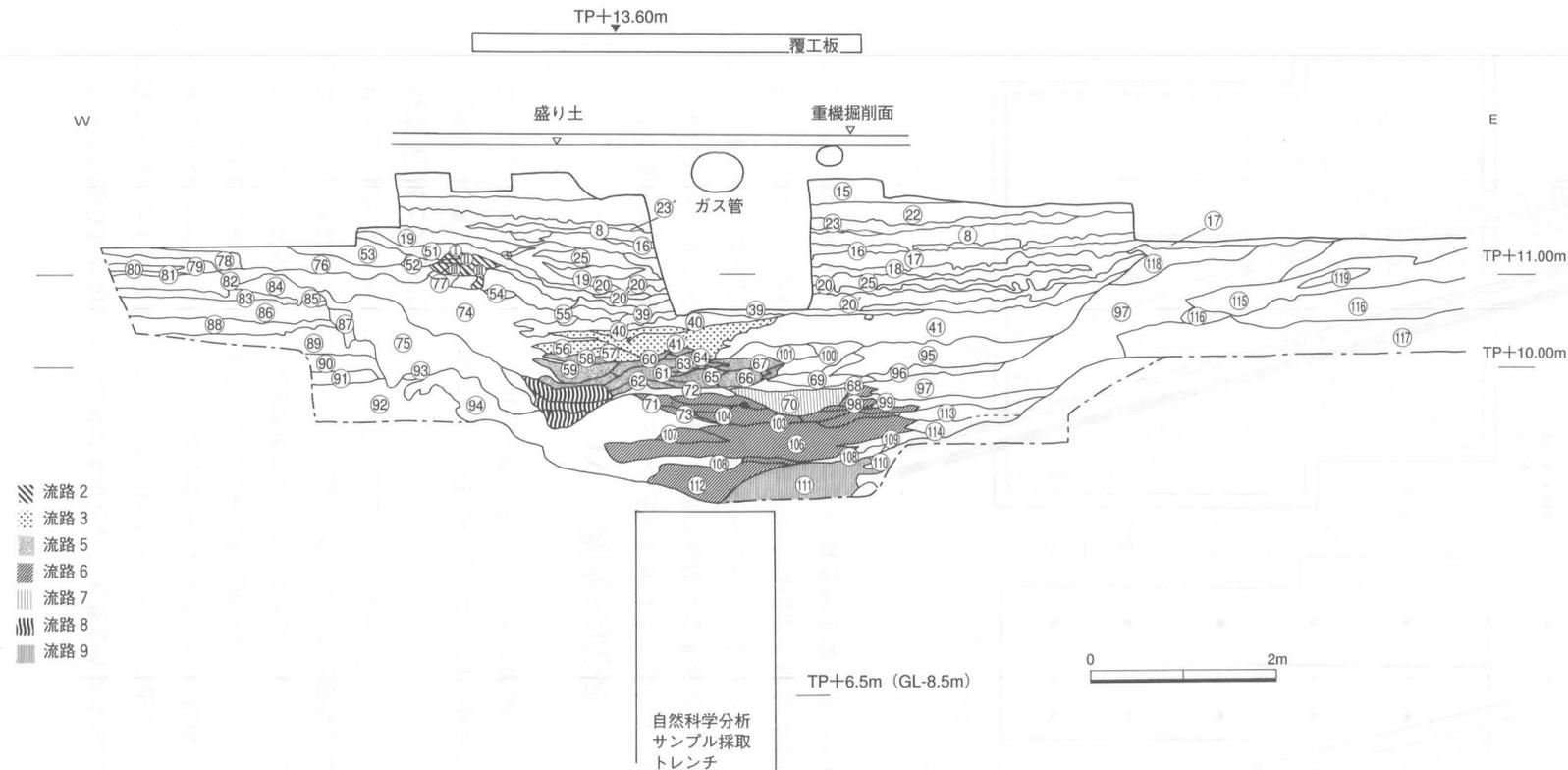
地区割りは覆工板を受けるための支持杭の列によって1区から7区の7つに分けた。用いた座標と高さは、道路公社が設けた国土座標点からJ.V.が道路建設に際して設けた座標点を利用した。

IV 調査の成果

西ノ辻遺跡第33次調査区は後述する通り上面はすでに削平されており、包含層の遺存状態は非常に悪い。調査区の中央部は、流路の堆積層であるためほとんどが包含層で有るが、調査区の東西端部は流路の岸部分で盛土直下は地山であった。また前述したとおりの調査環境であったために、遺構の検出には困難を極め周辺部の様な調査成果はあげられなかった。しかし従前の調査成果から考えると、今回の調査地を含め中世の集落は広がりを見せるものと



第3図 調査地地区割り図及び基準ライン設定図



- ① 2.5Y3/1黒褐色砂レキ混シルト
- ② 2.5Y5/3黄褐色細砂～粘質土
- ③ 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粗砂
- ④ 10YR4/2灰黄褐色砂混粘土
- ⑤ 7.5Y5/2灰オリーブ色細砂
- ⑥ 5Y3/1オリーブ黒色粘土
- ⑦ 2.5Y3/1黒褐色砂混シルト
- ⑧ 7.5GY4/1暗緑灰色砂混シルト
- ⑨ 7.5GY4/1暗緑灰色荒砂混シルト
- ⑩ 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
- ⑪ 5Y3/1オリーブ黒色砂混粘土
- ⑫ 2.5Y3/1黒褐色粘土 (Ca含む)
- ⑬ 2.5Y4/3オリーブ褐色細レキ
- ⑭ 2.5Y3/1黒褐色細レキ混シルト質粘土
- ⑮ 2.5Y3/1黒褐色粘土
- ⑯ 2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土
- ⑰ 10YR2/1黒色シルト
- ⑱ 砂混シルト

- ⑲ 2.5Y3/1黒褐色砂レキ
- ⑳ 土器植物遺体ともに多量に入る
- ㉑ 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂
- ㉒ 2.5Y4/2暗灰黄色極細砂
- ㉓ 5Y3/1オリーブ黒色砂レキ混粘土
- ㉔ 10YR3/1黒褐色シルト質粘土
- ㉕ 2.5Y3/1黒褐色砂レキ混砂
- ㉖ 7.5YR2/2黒褐色砂レキ
- ㉗ 10YR2/1黒色粘質細砂
- ㉘ 2.5Y3/1黒褐色細砂～荒砂
- ㉙ 10YR2/2黒褐色砂レキ混シルト
- ㉚ 5Y3/1オリーブ黒色砂レキ粘質シルト
- ㉛ 5GY3/1暗オリーブ灰色砂質シルト
- ㉜ 5Y3/1オリーブ黒色砂レキ
- ㉝ 10YR4/2灰黄褐色粗砂
- ㉞ 2.5Y3/1黒褐色粗砂混細砂
- ㉟ 10YR1.7/1黒色砂レキ
- ㊱ 10YR3/1黒褐色荒砂～細砂

- ㊲ 5Y3/1オリーブ黒色極細砂
- ㊳ 2.5Y2/1黒色砂質シルト
- ㊴ 2.5Y3/1黒褐色細砂～荒砂
- ㊵ 5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト
- ㊶ 2.5Y3/1黒褐色シルト
- ㊷ 10YR2/1黒色砂レキ混シルト
- ㊸ N3/暗灰色粘質シルト (粗砂含む)
- ㊹ 5B4/1暗青灰色シルト質粘土 (レキ混)
- ㊺ 7.5Y4/1灰色シルト (粗砂混)
- ㊻ 10BG4/1暗青灰色砂レキ混シルト
- ㊼ 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂質シルト

- ㊽ 10G4/1暗緑灰色シルト
- ㊾ 5G3/1暗緑灰色シルト混粗砂
- ㊿ 10G4/1暗緑灰色粘土
- ① 5Y2/2オリーブ黒色シルト混砂レキ
- ② 5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土
- ③ 5Y2/2オリーブ黒色砂レキ混シルト
- ④ 5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土
- ⑤ 5BG3/1暗青灰色砂レキ混粘土
- ⑥ 10Y4/1灰色砂レキ混シルト
- ⑦ 5G5/1緑灰色シルト質細砂
- ⑧ 10YR1.7/1黒色荒砂
- ⑨ 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質粘土

- ⑩ 10YR2/2黒褐色細砂
- ⑪ 5G5/1緑灰色砂質粘土
- ⑫ 10BG4/1暗青灰色シルト質粘土
- ⑬ 5BG4/1暗青灰色シルト
- ⑭ 2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂レキ混シルト
- ⑮ 10Y4/1灰色シルト質細砂
- ⑯ 5Y4/1灰色シルト混砂
- ⑰ 2.5Y3/1黒褐色細砂～荒砂
- ⑱ 2.5GY6/1オリーブ灰色シルト質砂
- ⑲ 5BG3/1暗青灰色シルト (荒砂混)
- ⑳ 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘質シルト
- ㉑ 5Y4/1灰色細砂～荒砂
- ㉒ 2.5Y4/1黄灰色砂 (細砂～粗砂)
- ㉓ 10BG3/1暗青灰シルト混荒砂
- ㉔ 10YR2/1黒色シルト
- ㉕ 5Y3/1オリーブ黒色砂レキ

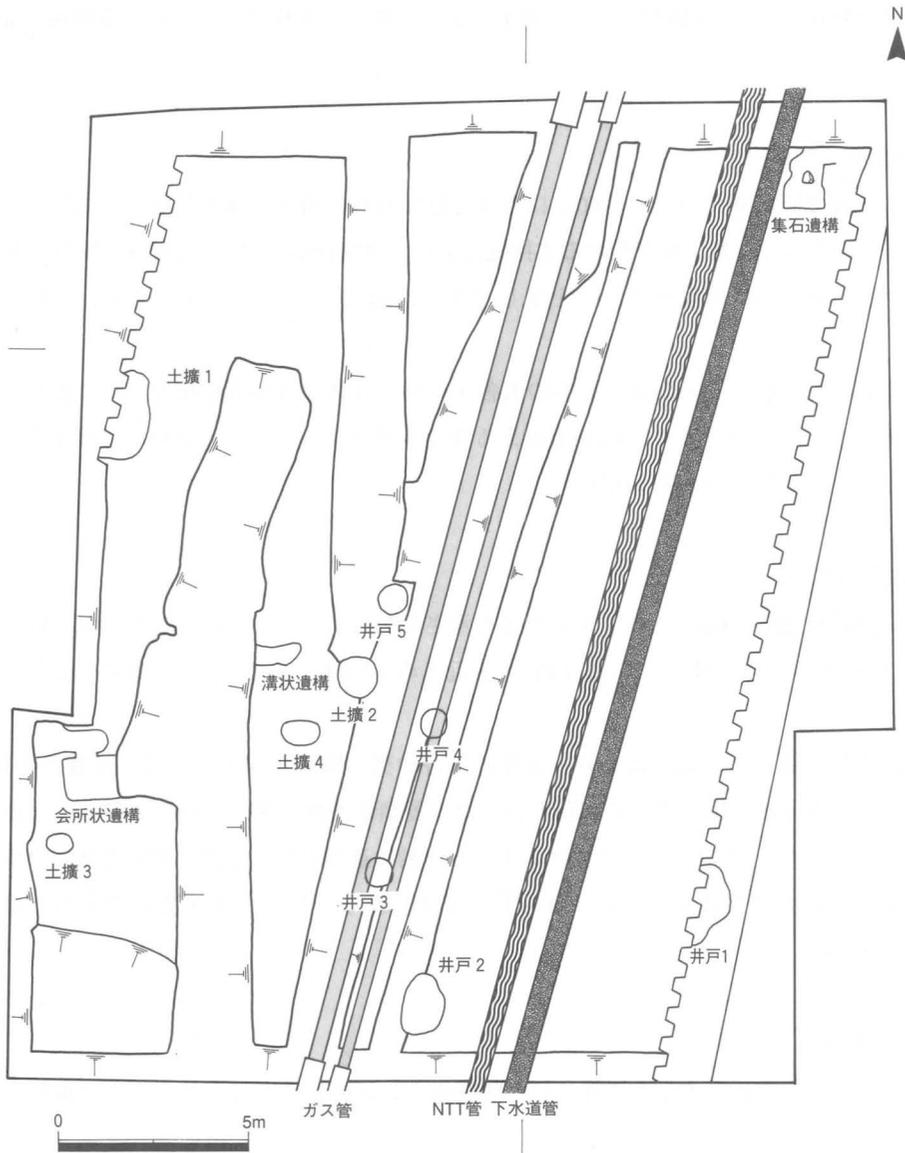
- ㉖ 2.5Y3/1黒褐色シルト
- ㉗ 7.5YR3/2黒褐色シルト質粘土
- ㉘ 10Y5/1灰色シルト
- ㉙ 2.5GY5/1オリーブ灰色砂混粘土
- ㉚ 5Y3/1オリーブ黒色砂レキ
- ㉛ 2.5Y4/1黄灰色砂レキ混シルト
- ㉜ 7.5Y4/1灰色粘土
- ㉝ 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
- ㉞ 10GY4/1暗緑灰色シルト質粘土
- ㉟ 10GY5/1緑灰色粘土
- ㊱ 5BG4/1暗青灰色シルト
- ㊲ 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
- ㊳ 10YR2/2黒褐色砂混シルト

第4図 調査地東西断面図

思われる。今回の調査で検出できた遺構は、出土遺物、遺構の重複関係や堆積関係から中近世・古墳時代・弥生時代に大別できる。また出土した遺物のうち図化したものは観察表を参照にしていきたい。(第8表)以下では、層序の説明の後、時期毎に遺構と出土遺物の記述をすすめていくことにする。

1.) 層序

東から西にかけて低くなる地形から西側の一部について遺物包含層を検出したが、地形の高



第5図 中世遺構位置図

い東側では後世に受けた攪乱の影響によって包含層は既に削平されており、近世以降の盛り土直下で地山を検出した。包含層部分の基本層序は以下のとおり。

第1層 10YR3/1 黒褐色細礫混じり粘土層 中世から近世の遺構面

第2層 10YR4/2 灰黄褐色砂混じり粘土層

第3層 2.5Y3/1 黒褐色粘土層

また谷部分の層序は第4図を参照していただきたい。

2.) 遺構と遺物

1) 中近世の遺構と遺物

中近世では5つの井戸と性格不明な石組遺構、溝、土壇などを検出した。以下遺構毎に記述する。

井戸1

7区の南部西端で検出した。

調査区の東隣で昭和59年から昭和60年にかけて行なわれた西ノ辻16次発掘調査の際、打設した土留め用の鋼矢板と、覆工板を受ける支持杭によって西側1/3は壊され東側2/3の検出である。長径2.2m短径1.6mの楕円径のプランを呈し深さは2.9m以上。井筒は存在せず、素掘りである。

遺物は土師器の小皿・甕・羽釜や瓦器の火舎・香爐・播鉢のほか青磁碗などの土器がいずれも破片で出土した。また人頭大～40cmを越える礫が多数出土しており、井戸廃絶後土器と共に投棄されたものであろう。時期は16世紀

井戸2

6区の南部で検出した。

長径1.6m短径1.2mの楕円径のプランを呈し深さは2.9m以上。井筒は存在せず素掘りである。井戸1同様大きな礫（礫のなかには最大1m近くのものまである。）と、多量の遺物が出土した。

遺物は巴文軒丸瓦などの瓦をはじめ、瓦器の火舎や甕・播鉢・羽釜や三足、東播系の播鉢、青磁や白磁など陶磁器、用途不明の陶器といった土器類が多量に出土した。木製品では曲物の底板が4枚出土した他、イシガメやヒキガエルなどの動物遺体が出土した。動物遺体には解体痕が見られないため食用ではなく井戸に落ち込んで出られなくなったまま死んだものと思われる。時期は15世紀

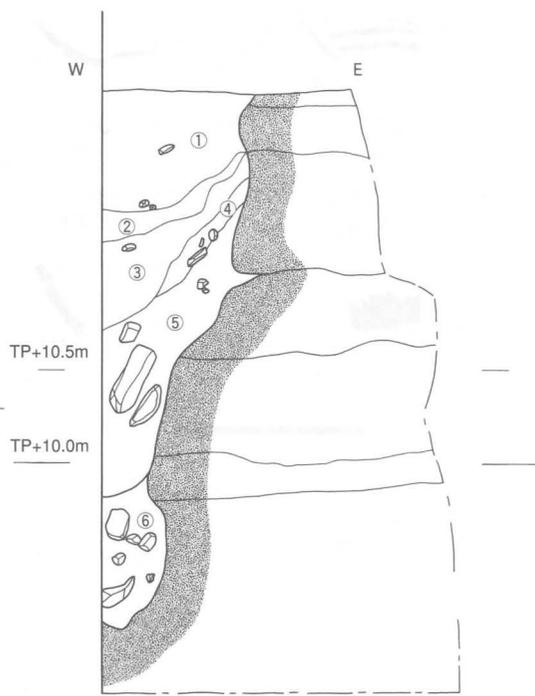
井戸3

5区の南部で検出した。

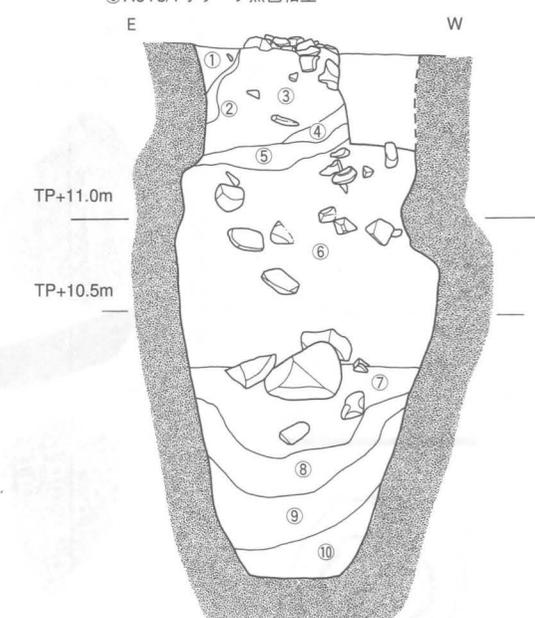
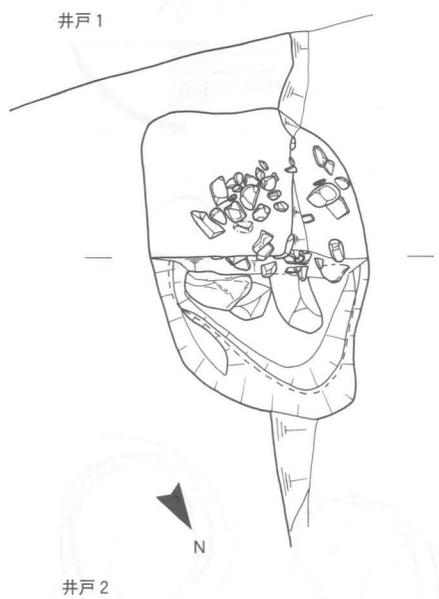
先行して掘削したトレンチとガス管の釣り防護用トレンチによって上部をすでに掘削したため検出面は低い。

直径0.7mの円形のプランを呈し深さは2m以上。井筒は存在せず素掘りである。

遺物は瓦器の小皿が3枚完形で出土した他、土師器の小皿・甕・羽釜や須恵器の坏身、平瓦な

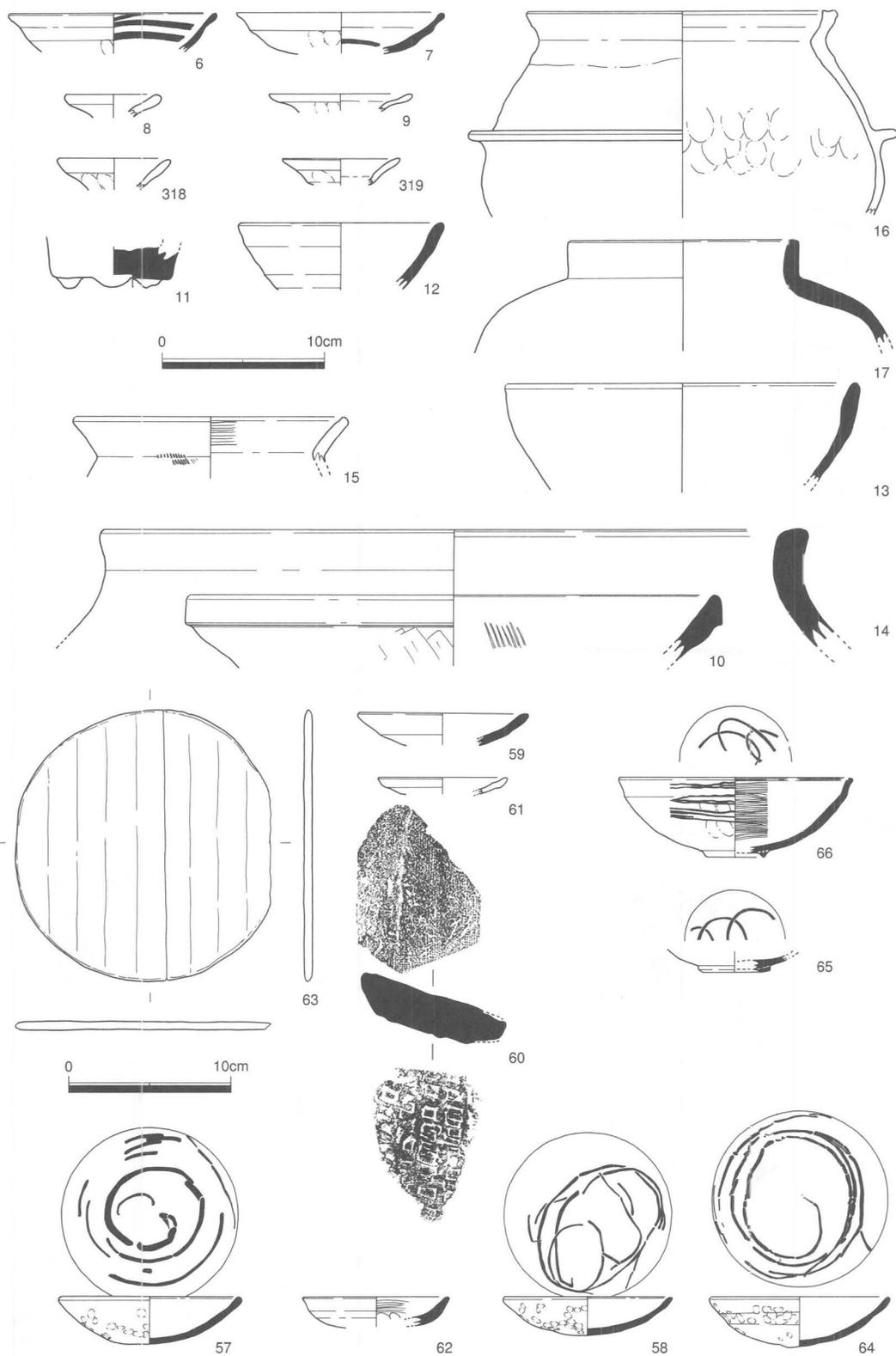


- ①7.5GY2/1緑黒色粘質シルト
- ②5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土
- ③2.5Y2/1黒色シルト
- ④5Y3/1オリーブ黒色粘土
- ⑤10Y3/1オリーブ黒色粘土
- ⑥7.5Y3/1オリーブ黒色粘土

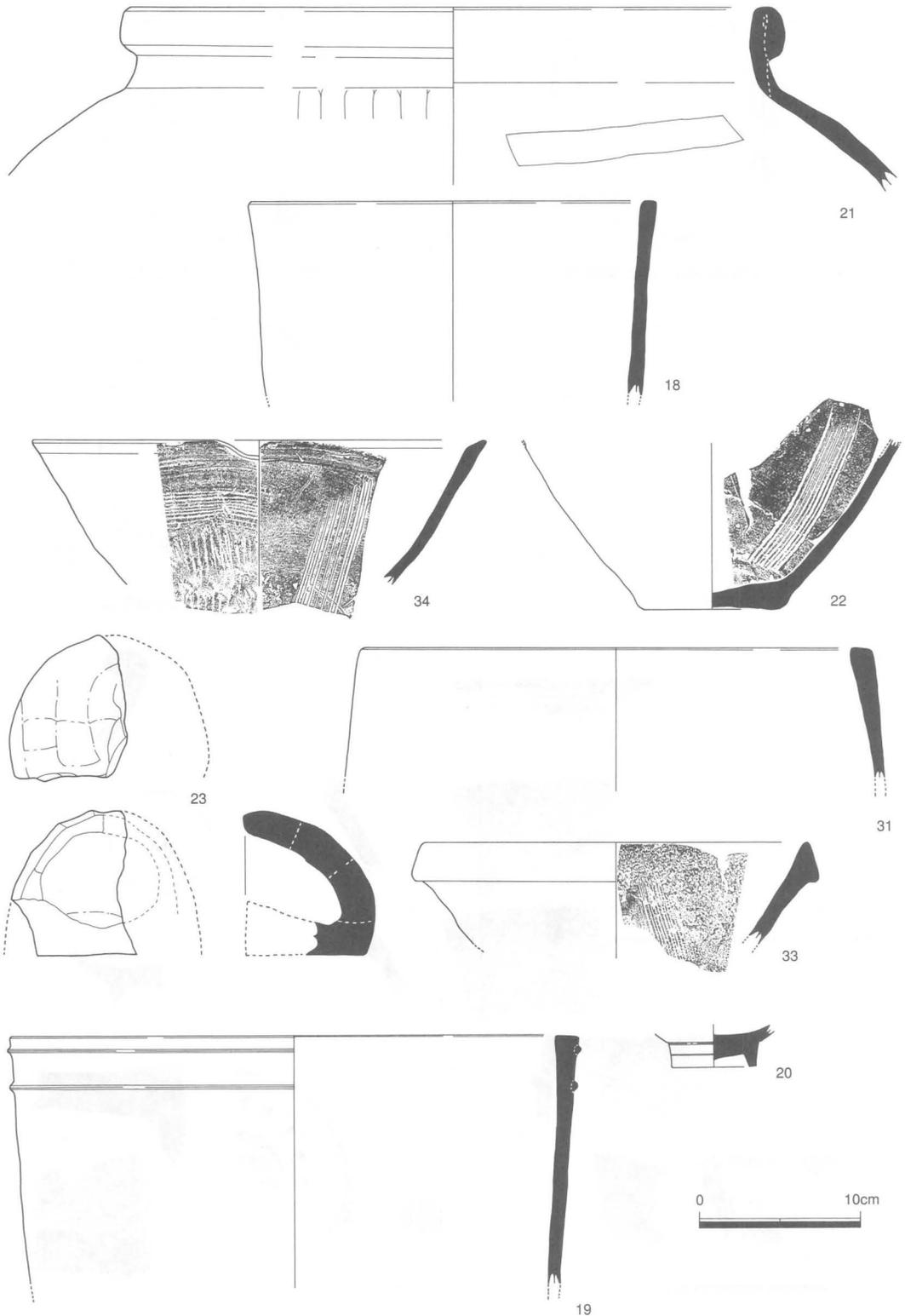


- ①5Y3/1オリーブ黒色シルト
- ②5Y4/1灰色粘質シルト
- ③7.5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土
- ④2.5GY3/1暗オリーブ灰色シルト
- ⑤7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト
- ⑥7.5Y2/2オリーブ黒色砂混粘土
- ⑦7.5Y4/1暗緑灰色粘土
- ⑧7.5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
- ⑨2.5GY3/1暗オリーブ灰色砂混粘土
- ⑩5Y3/1オリーブ黒色砂レキ混粘土

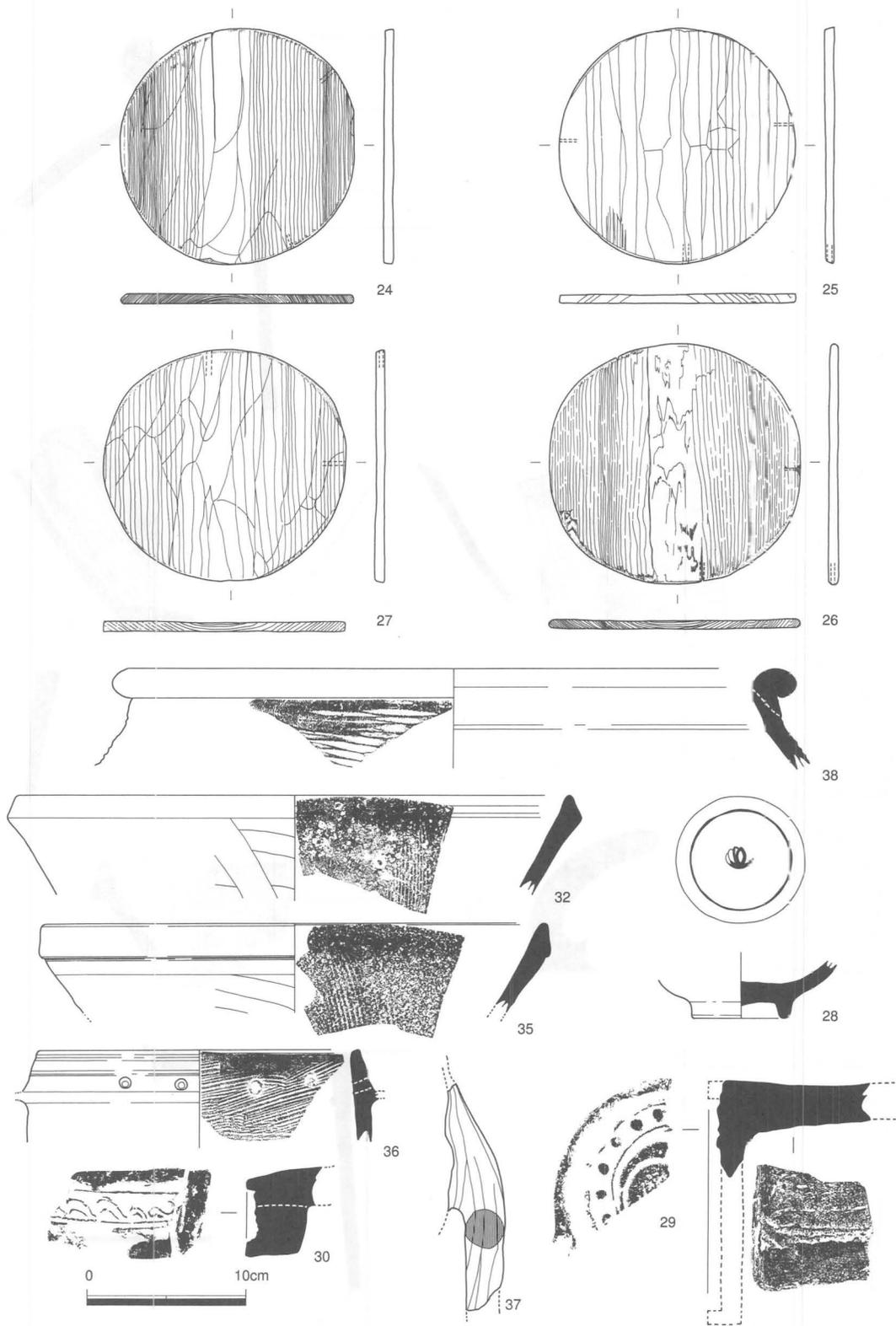
第6図 井戸1・2平面図及び断面図



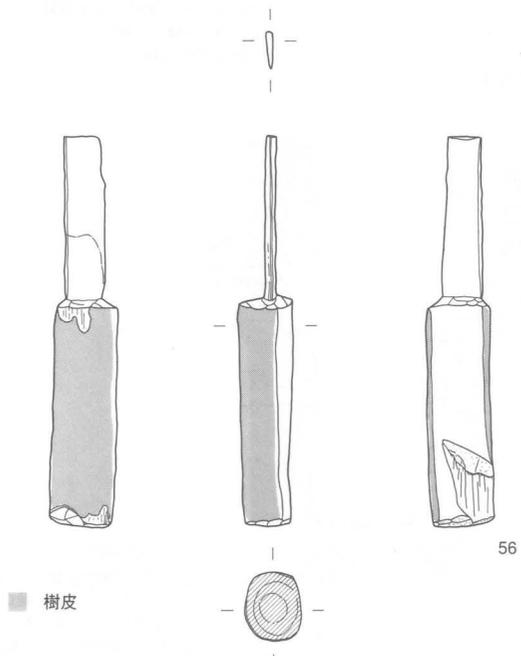
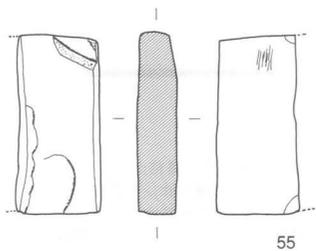
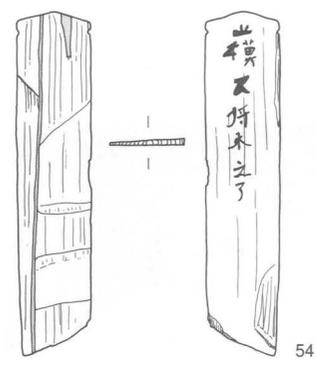
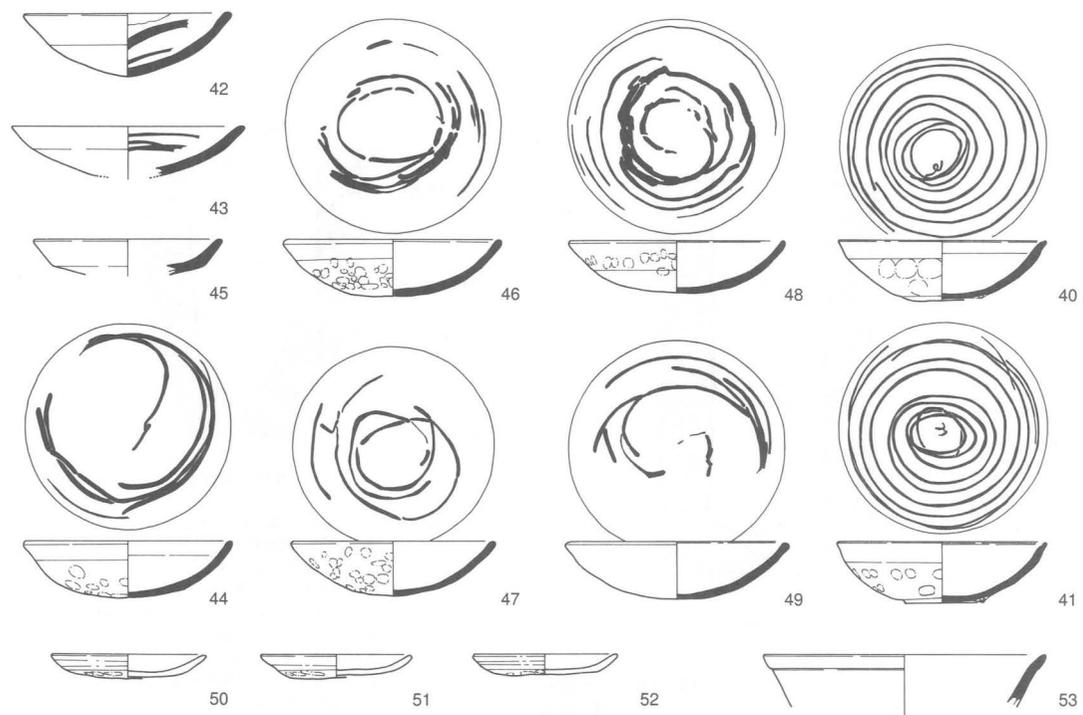
第7図 井戸1・3・5出土遺物実測図



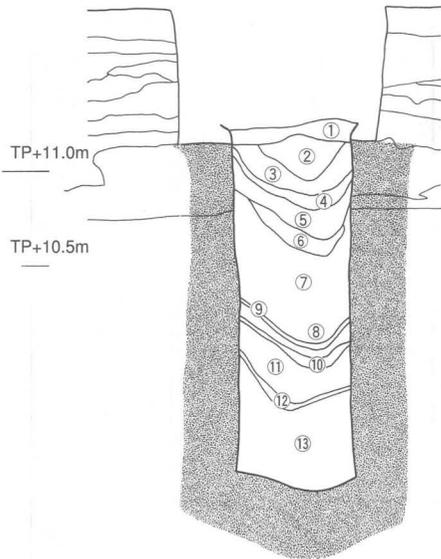
第8図 井戸2出土遺物実測図



第9図 井戸2出土遺物実測図

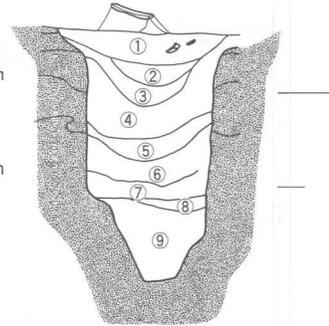


第10図 井戸4出土遺物実測図



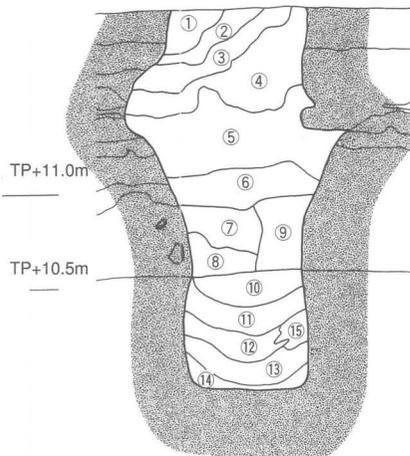
井戸3断面図

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①10GY5/1緑灰色粘土 | ⑧10Y4/1灰色シルト混砂 |
| ②10GY4/1暗緑灰色粘土 | ⑨5Y3/1オリーブ黒色粘土 |
| ③5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト | ⑩7.5GY4/1暗緑灰色細砂 |
| ④2.5GY3/1暗オリーブ灰色砂混粘土 | ⑪5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土 |
| ⑤2.5GY3/1黒褐色シルト質粘土 | ⑫7.5GY3/1暗緑灰色粘土混砂 |
| ⑥7.5Y4/1灰色シルト | ⑬5Y4/1灰色砂混粘土 |
| ⑦5Y4/1灰色粘質シルト | |



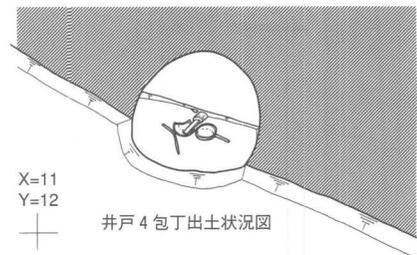
井戸5断面図

- | |
|------------------------|
| ①10YR1.7/1黒色細レキ混シルト |
| ②10YR3/1黒褐色粘土 |
| ③5Y2/1黒色砂混シルト |
| ④5Y3/1オリーブ黒色シルト |
| ⑤2.5GY3/1暗オリーブ灰色シルト質粘土 |
| ⑥10Y3/1オリーブ黒色シルト |
| ⑦10YR2/1黒色シルト質砂 |
| ⑧7.5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト |
| ⑨5Y4/1灰色砂質シルト |



井戸4断面図

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ①10YR2/1黒色細レキ混シルト | ⑨N3/1暗灰色砂質粘土 |
| ②10YR3/1黒褐色細レキ混粘土 | ⑩2.5Y3/1黒褐色砂レキ混粘土 |
| ③5Y3/1オリーブ黒色細レキ混砂質シルト | ⑪2.5Y3/1黒褐色粘土 |
| ④5Y2/2オリーブ黒色粘土 | ⑫5Y4/2灰オリーブ色シルト質細砂 |
| ⑤2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土 | ⑬5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土 |
| ⑥2.5Y4/1黄灰色粘質シルト | ⑭10G3/1暗緑灰色粘土 |
| ⑦10YR3/2黒褐色粘土 | ⑮7.5Y4/2灰オリーブ色細砂 |
| ⑧10YR3/1黒色砂混粘土 | |



井戸4包丁出土状況図

0 1 m

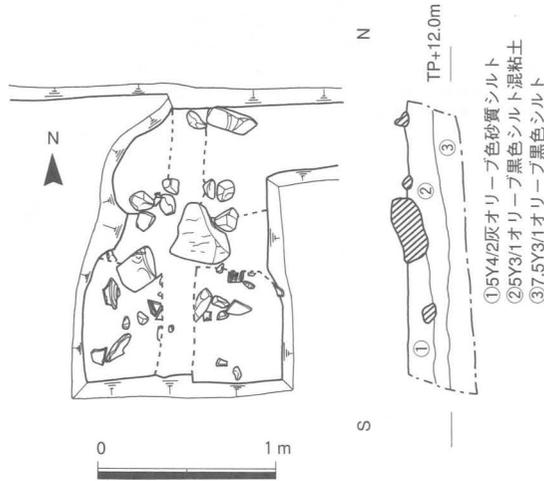
第11図 井戸3・4・5断面図及び井戸4包丁出土状況図

どがいずれも細片で出土した。また、井戸の上層部分からは曲物の底板が1枚出土した。遺物量は少なく、井戸1、2に見られた礫は見られない。時期は13世紀後半～14世紀

井戸4

5区の北側で検出した。

先行して掘削したトレンチですでに全体の1/3が半裁され、残りの部分を断面で検出した。上面はガス管理設時に削平を受けており掘り込み面はわからない。残存部分での検出規模は径約



0.75mの円形のプランを呈し深さは2 m以上。

井筒は存在せず素掘りである。

遺物は瓦器の椀が完形で7枚出土した。また土師器の皿や青磁碗の破片などの土器のほか、木製の把手を付けた包丁や、「蘇民将来之子...」と書かれた木簡、砥石が出土した。

遺物の出土状況は、最下層（14層）からは完形の瓦器皿が、包丁は井戸の中位（10層）より正位に座った完形の瓦器皿のうえに刃部を西に向けた状態で出土した。「蘇民将来」札は包丁より上層の8層より出土した。時期は13世紀後半～14世紀

井戸5

2区の南部で検出した。

直径1mのほぼ円形のプランを呈し、深さは1.3m以上。井筒は存在せず素掘りである。

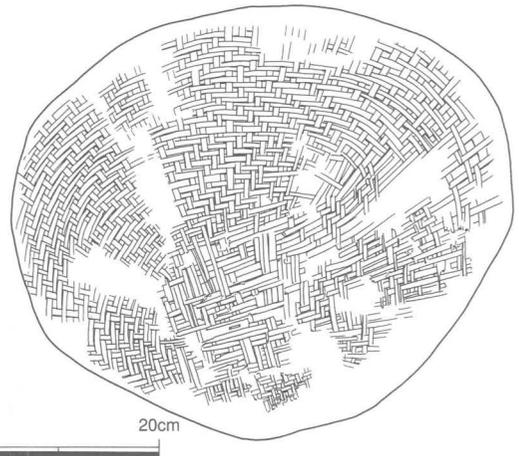
遺物は木筒状木製品その他、瓦器碗や土師器の皿が少量出土した。時期は13世紀前半

集石遺構1

遺構の四方を攪乱されており、本来の規模や形は不明である。残存している規模は南北3.2m東西2.3mの長方形プランを呈する。検出時の状況は、周囲より一段高い部分に70cm～人頭大の礫が一部露呈していた。

遺構内からは土師器や瓦器の羽釜など土器とともに、端部をあざやかに切られたイノシシの骨や、種類は不明だが超大型の鳥の大腿骨など動物遺体を検出した。

時期は13世紀

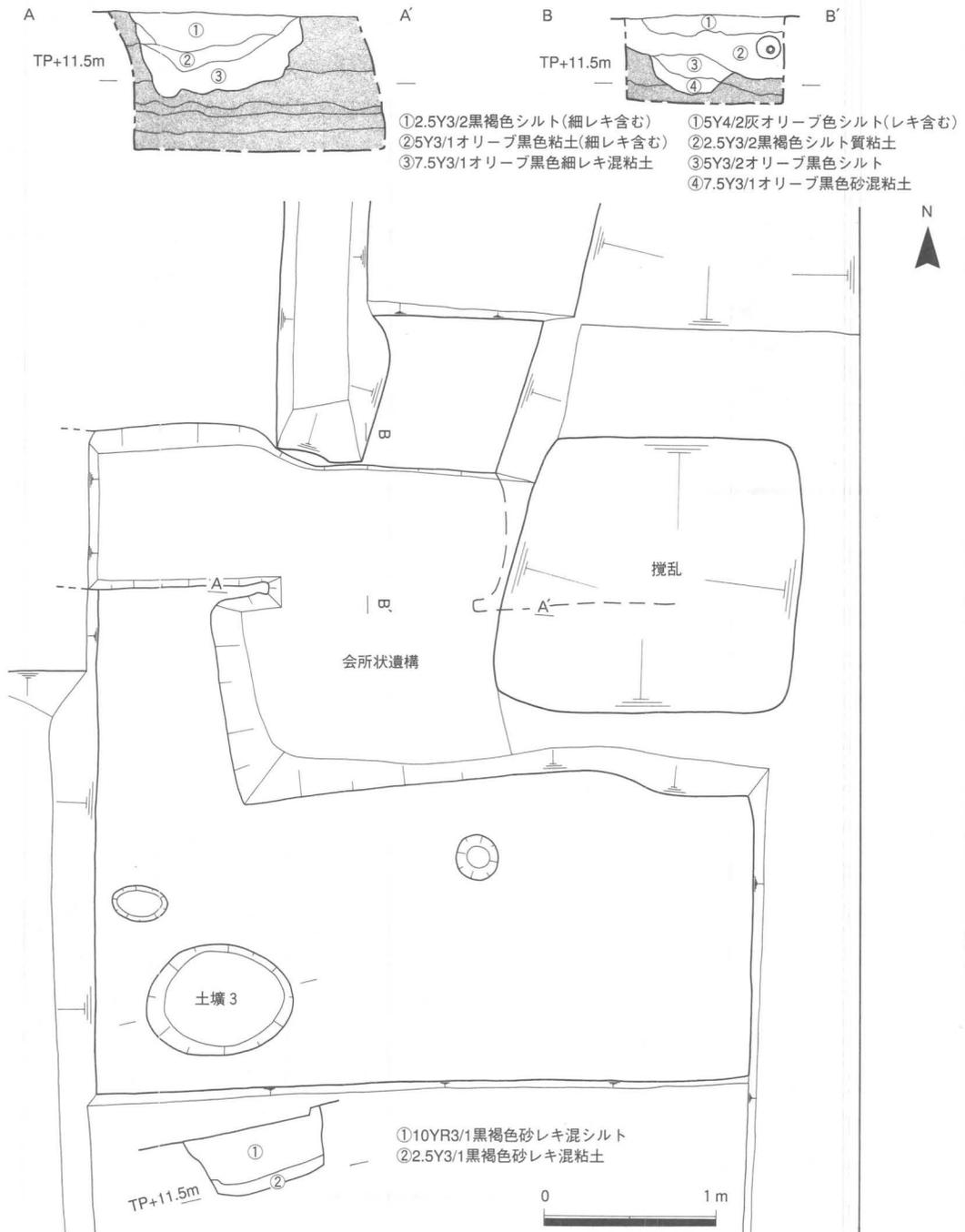


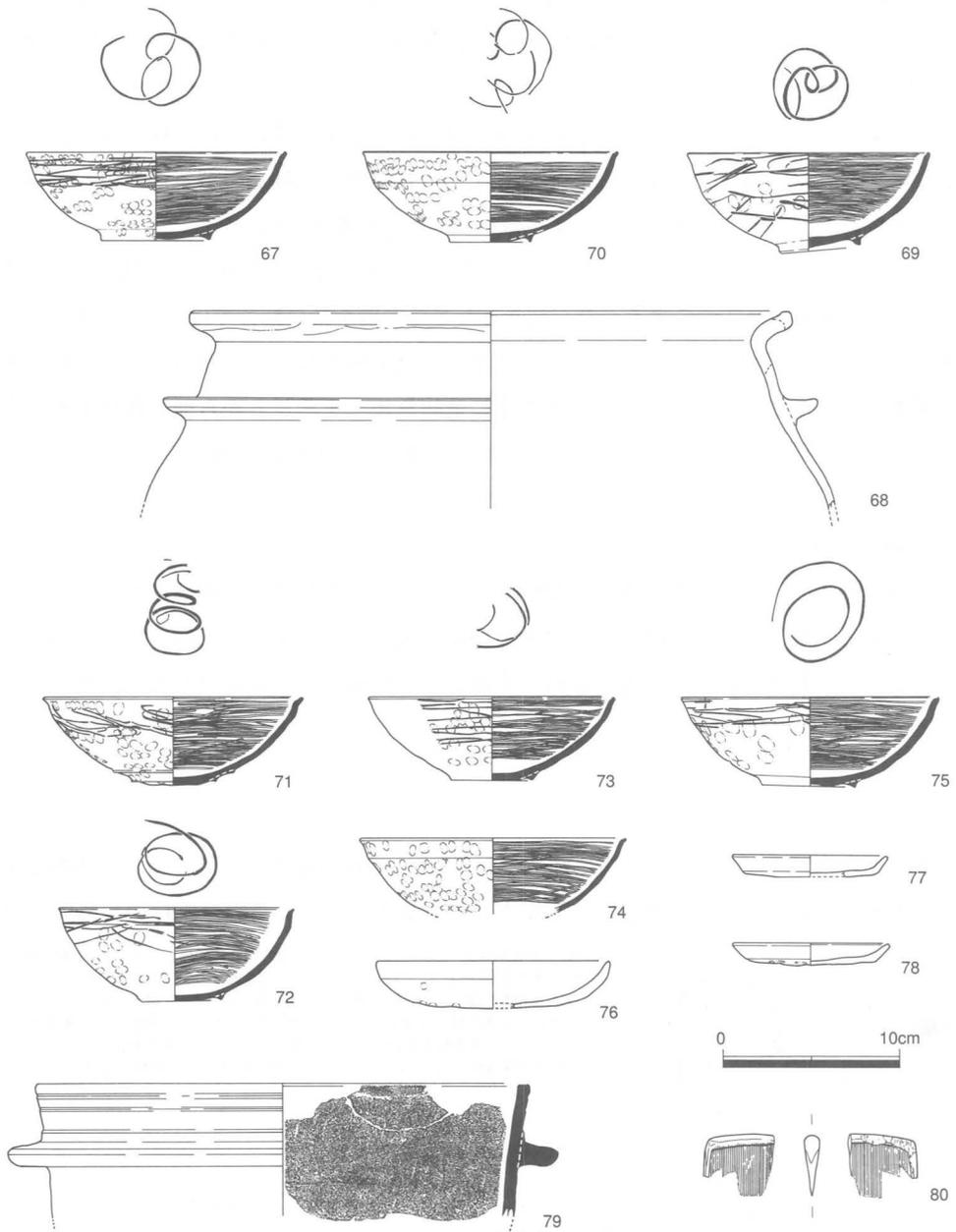
第13図 会所状遺構出土筭実測図

遺構の本来の形が失われているため、この遺構の性格付けは非常に困難である。

断面の観察では地面を掘り込んだ痕跡は見られず、覆土の存在が考えられる。また検出した礫のレベルがほぼ揃っていることから、意図的にレベルを合わせて礫を置いたが、後世の削平によって覆土と共に礫なども抜き取られた可能性が考えられる。

これら遺構の検出状況や土器と共に切断された獣骨が出土する事から遺構の性格を考える





第15図 会所状遺構出土遺物実測図

と、なんらかの祭祀に使用した祭祀遺構としたい。

会所状遺構

遺構の西、北、東の三方向を攪乱され本来の規模や形は不明である。規模は北側幅0.95m、残存長2.5m、南側幅1.2m、残存長1.6mの溝の会所状のプランを呈する遺構である。

3方向は攪乱されているものの、残存部分では北側の溝の東端は丸く収まっている。また南側の溝の西端も丸く収まっている。共に収まる部分が約5cmの間隔で隣接しており、若干遅れて南北0.9m東西0.95mが土壙状に掘削されている。

またこの遺構も前述の井戸と同様、掘り込み面は既に削平を受けており検出面は掘り込み面ではない。これは、盛土を削平した状態で、完形の瓦器碗や土師器の羽釜が露出していたことから明らかで、本来の掘込み面はかなり高かったものと考えられる。

遺構の性格は、出土した遺物から見るとこの3つの遺構にほとんど時期差は見られないことから、一つの遺構と捉え二つの溝をつなぐ会所としての役割を持つ部分ではないか考えたい。

遺物は完形3点を含む合計8個以上といった多くの瓦器碗の他、土師器の羽釜・小皿、植物繊維で編まれた箕や横櫛が出土した。この豊富に遺物を出土することから他の性格も考えるが本来の形が不明な以上、推測の域は出ない。時期は12世紀後半から13世紀

土壙1

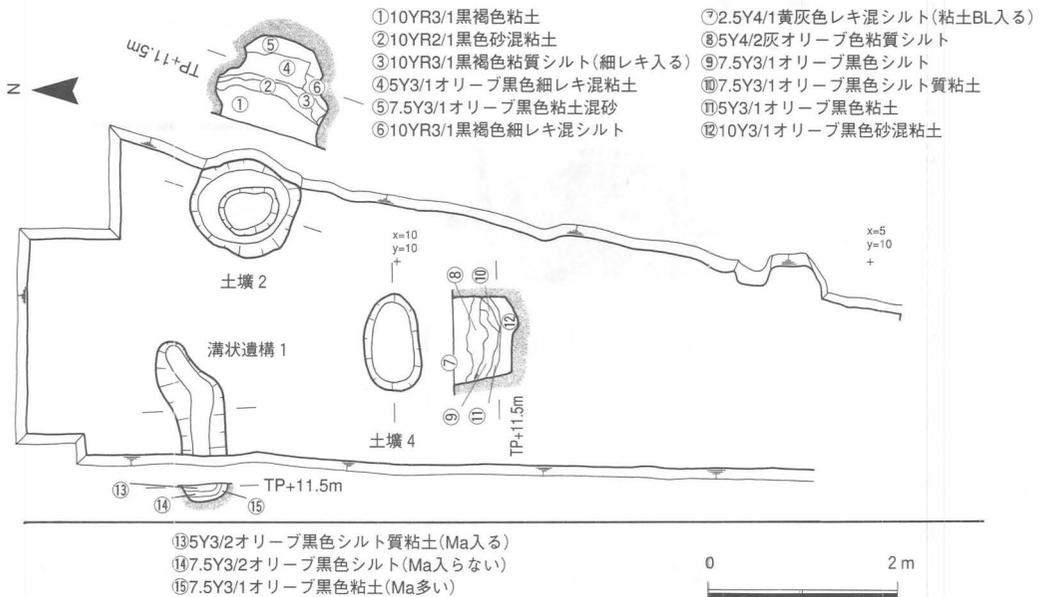
第1区西側で検出した。

昭和59・60年度に大阪府教育委員会が行なった調査区の東端部で、遺構の西半分は欠損している。残存部の規模は長辺2.4m短辺1m深さ0.5mを計る土壙である。上面の掘り込み面は削平を受けており、遺物も瓦や須恵器・瓦器・土師器などが細片で少量出土した。図化できる遺物はない。時期は13~14世紀

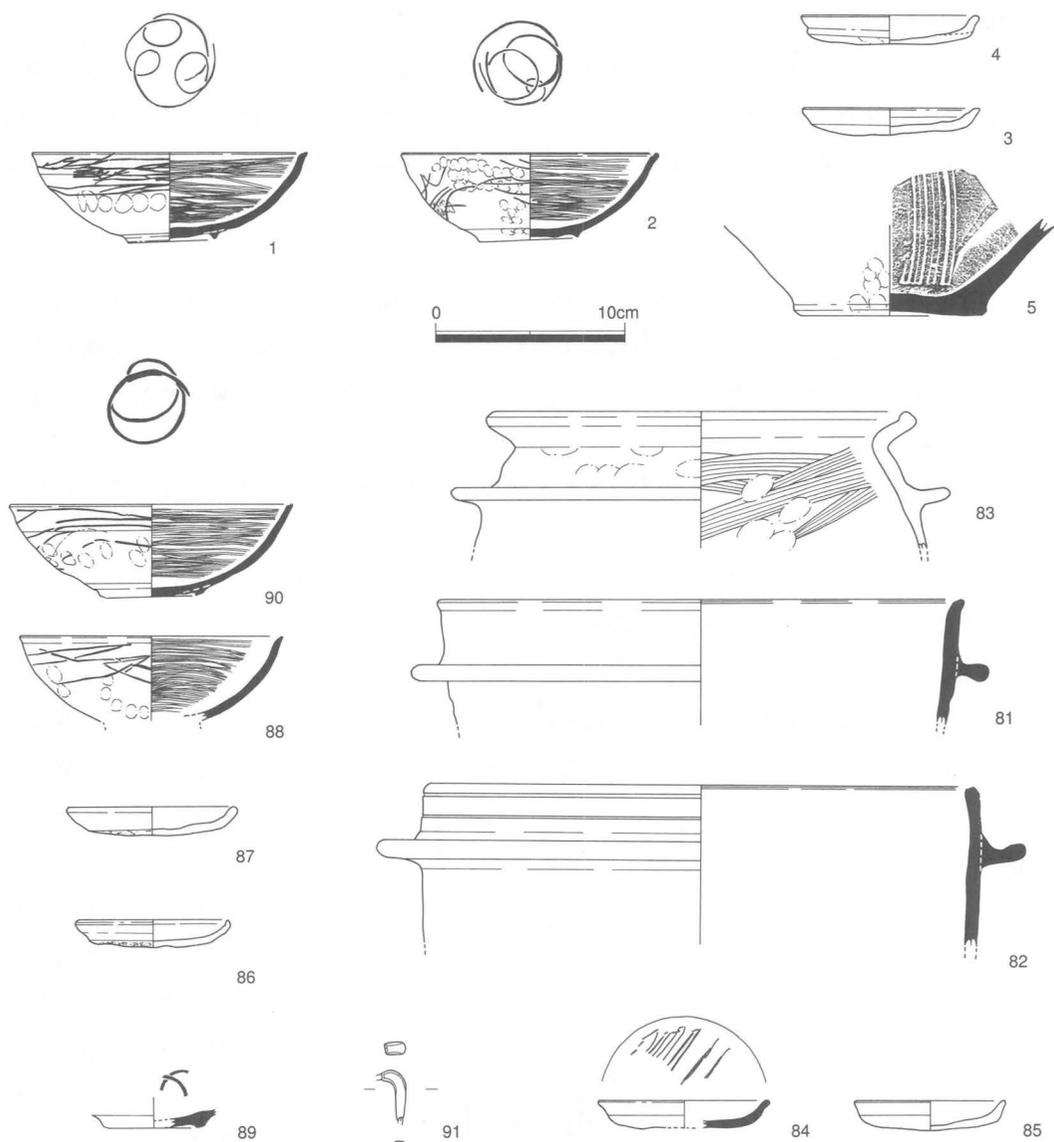
土壙2

第5区の北側で検出した。

直径1.1mの円形のプランを呈する。深さは1m以上、上面は削平を受けている。遺物は土師器の皿や甕・瓦器碗・須恵器の甕の他、製塩土器が少量出土した。遺物は細片のため図化可能な



第16図 第5区中世遺構平・断面図



第17図 中世包含層及び中世遺構出土遺物実測図

ものはない。規模や形、埋土の堆積状況から井戸の可能性も考えられる。時期は12世紀後半～13世紀

土壇3

第4区中央西側で検出した。

長径0.7m短径0.5mの楕円形のプランを呈し、深さは0.4mを計る。遺物は須恵器・土師器の皿・瓦器の小皿や碗・鉄釘などが少量出土した。細片のため図化出来る遺物はとんどない。時期は12世紀後半～13世紀

土壇4

第5区の中央で検出した。

長辺0.9m短辺0.6mの楕円形のプランを呈し深さは0.6mを計る。検出当初は溝との認識で調査を行なったが、東西の端部が丸く収まったことと、断面の断ち割りで遺構両端部の上がりを検出したため土壇と認識を改めた。遺物はほとんどなく土師器の小皿が1点出土。時期は12世紀後半から13世紀

溝状遺構1

第5区の北側で検出した。遺構の西側は支持杭打設時に欠損している。また東側は丸く収まっている。両端に延長が認められないため本来の形が溝かどうか不明である。しかし遺構が浅い上に遺構を検出時に遺物が露出していたことから、上面の削平を受けた溝の残骸として捉えた。

幅0.5m、検出長さ1.2mを計る。遺物は完形を含む瓦器碗と土師器の小皿が出土した。時期は12世紀後半

2) 平安時代の遺構と遺物

平安時代の明らかな遺構や遺物は今回検出していない。

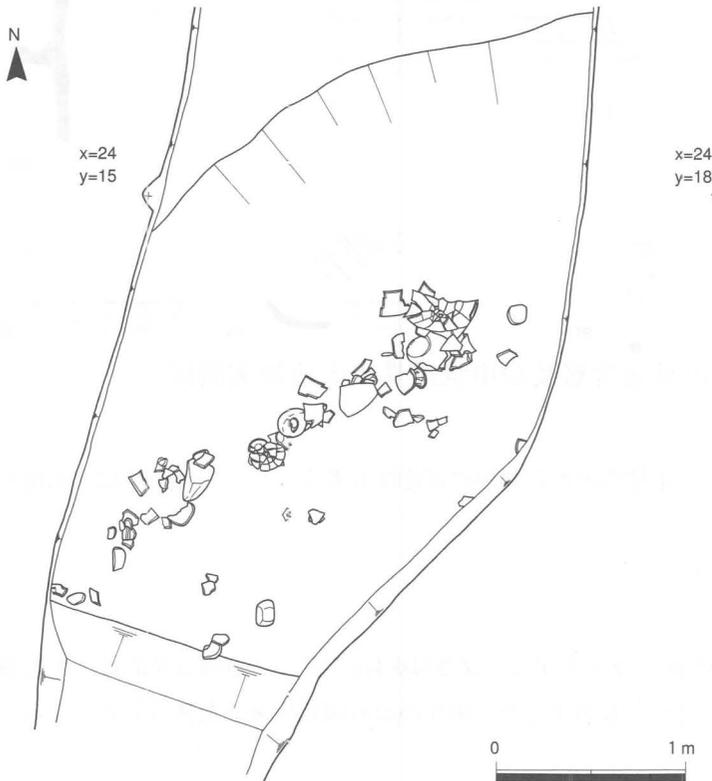
3) 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の明確な遺構は、この時期と見られる人間や動物の足跡を一部で検出した以外は今回の調査では検出していない。残存していたのはトレンチの北西部分。他の部分は削平を受け

たためか調査区全面に広がりは見られなかった。時期を比定する遺物がほとんど検出されなかったため、上下の堆積関係から奈良時代としたが、若干下る可能性もある。

4) 古墳時代の遺構と遺物

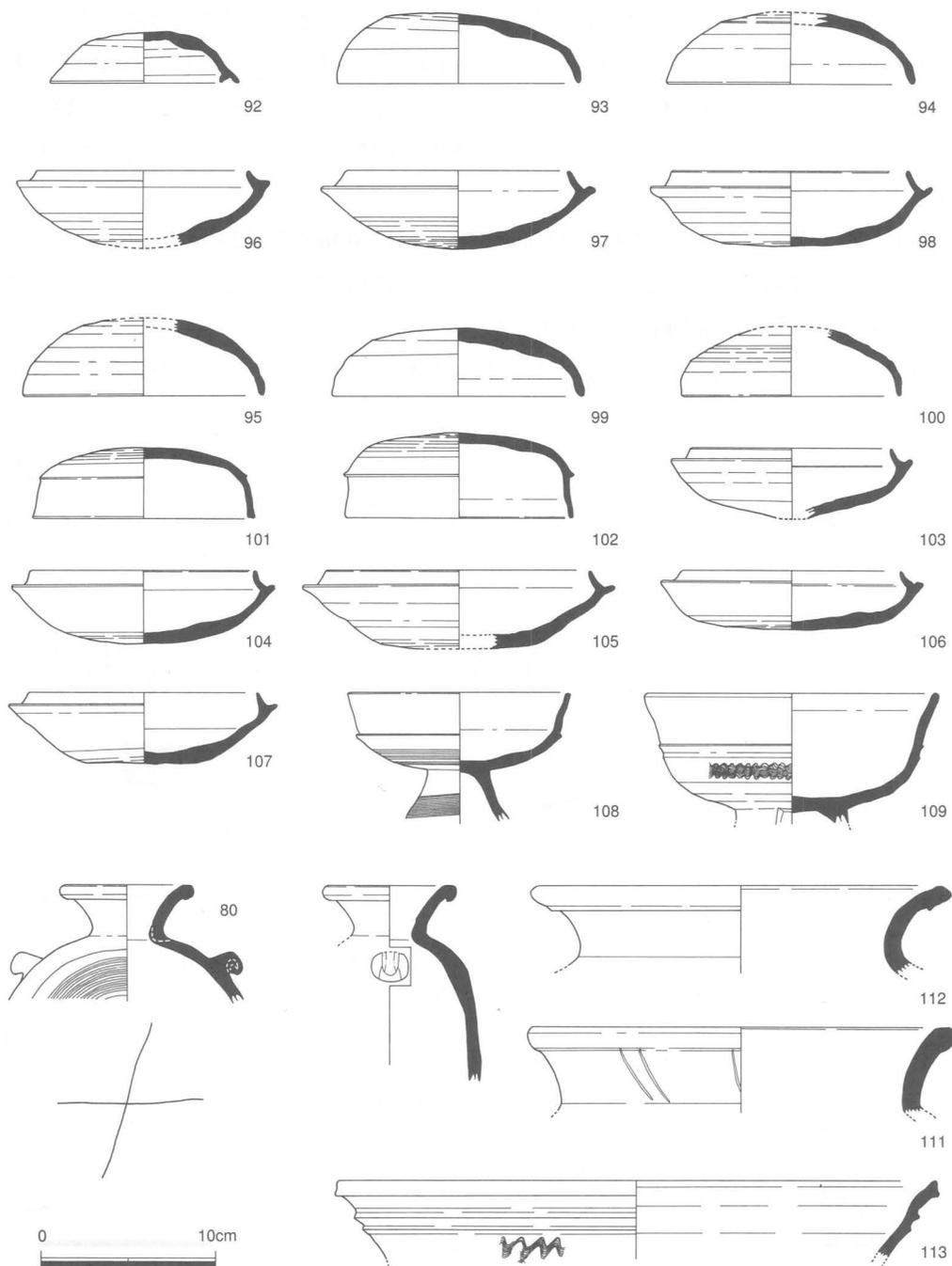
古墳時代の遺構は、砂層直下で人間や動物などの踏み込み（足跡）を検出したほか、流路（谷）の南北の岸を検出し、古墳時代以降にこの流路が陸地化して行く過程が確認で



第18図 古墳時代土器溜り遺物出土状況図

きた。

踏み込み面の直上に約10cm堆積した砂層（第1砂層と呼んでいた。）はトレンチの西側で上がりが検出できたが、東側の上がりは今回のトレンチでは東端部が隣接する前回部分の鋼矢板で切られているため検出できなかった。南東の隅に若干残存している地山部分から考えると、この砂層はトレンチ東部に続くものと思われるが範囲は大きくはない。遺物はこの砂層内から滑



第19図 22～8層出土遺物実測図

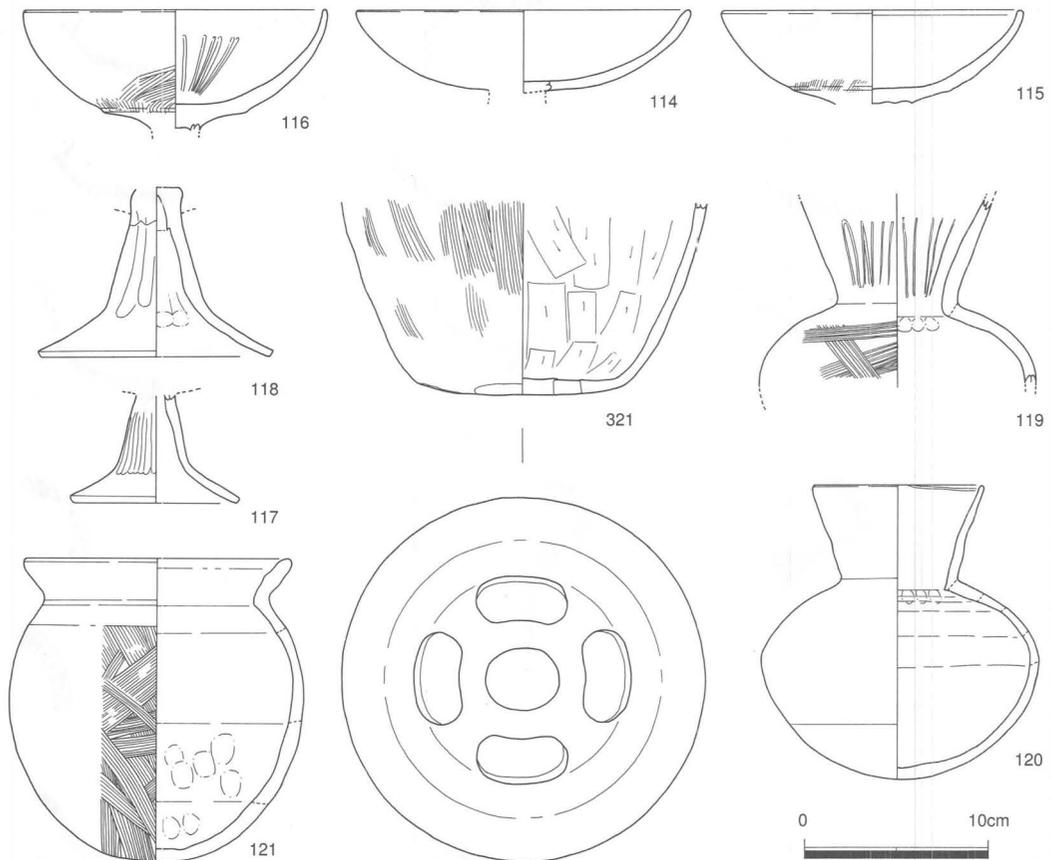
石製の白玉13個を内蔵した布留式土器の甕や須恵器の高坏や蓋坏、甗などが出土した。

またこの足跡面から約0.3m下までは古墳時代の中頃の遺物を包含する包含層であり、現地表面から2.8m下がったところで幅13m長さは28m以上深さ0.8mの流路1を検出した。トレンチの北側ではこの流路の肩部分を検出した。肩の部分は土器溜り（18層）になっており、多量の土師器の高坏や甕、須恵器の器台や甗や高坏・蓋坏などが出土した。土器溜りは、掘り方など平面のプランはなく流路の軸に平行する形で広がりが見られた。しかし、遺物には激しくローリング等の磨滅を受けた痕跡は顕著に見られず、流路上流からの流れ込みで堆積したものとは考えられない。おそらくその場で投棄されたものと考えられる。出土した遺物の時期もほぼ5世紀末から6世紀初頭の幅に収まることから、これらの遺物が堆積したものもその時期以降のごく短期間であったものと思われる。

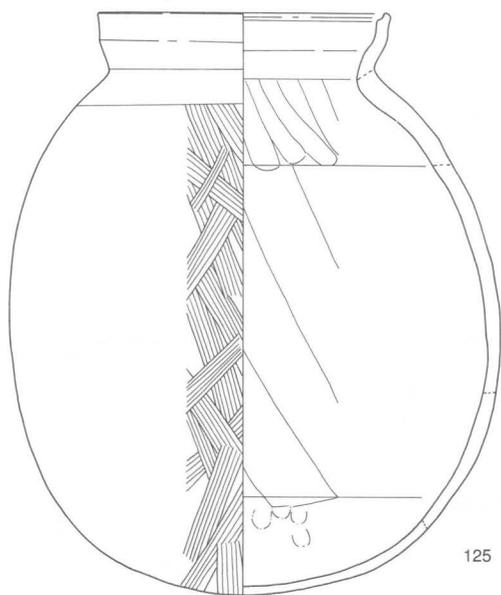
遺物はほとんど入らないが、流路1の肩部分に幅0.8m深さ0.3mの流路2を検出した。

この流路活動期間は短く、流路1の肩を切り込み、流路1が埋没するまでにすでに埋没していた流路であったことが断面の観察より判明した。

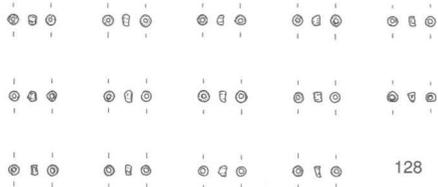
また平面では、この流路の西端部は、トレンチのほぼ中央部で収まっており検出段階では西に



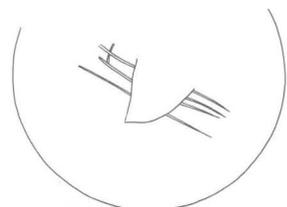
第20図 8層出土遺物実測図



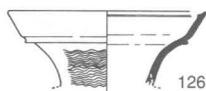
125



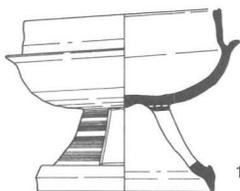
128



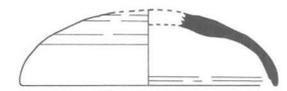
122



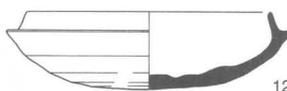
126



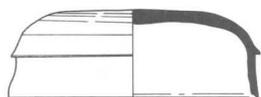
127



123



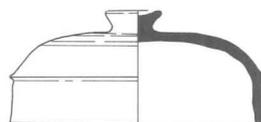
124



129



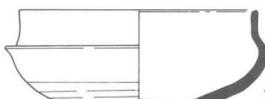
130



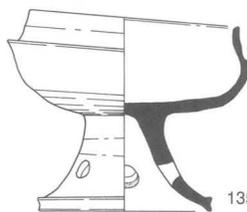
134



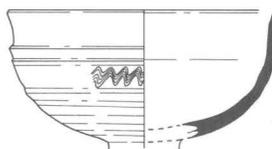
131



132



135



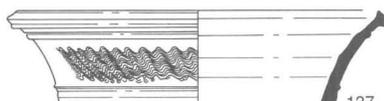
133



136

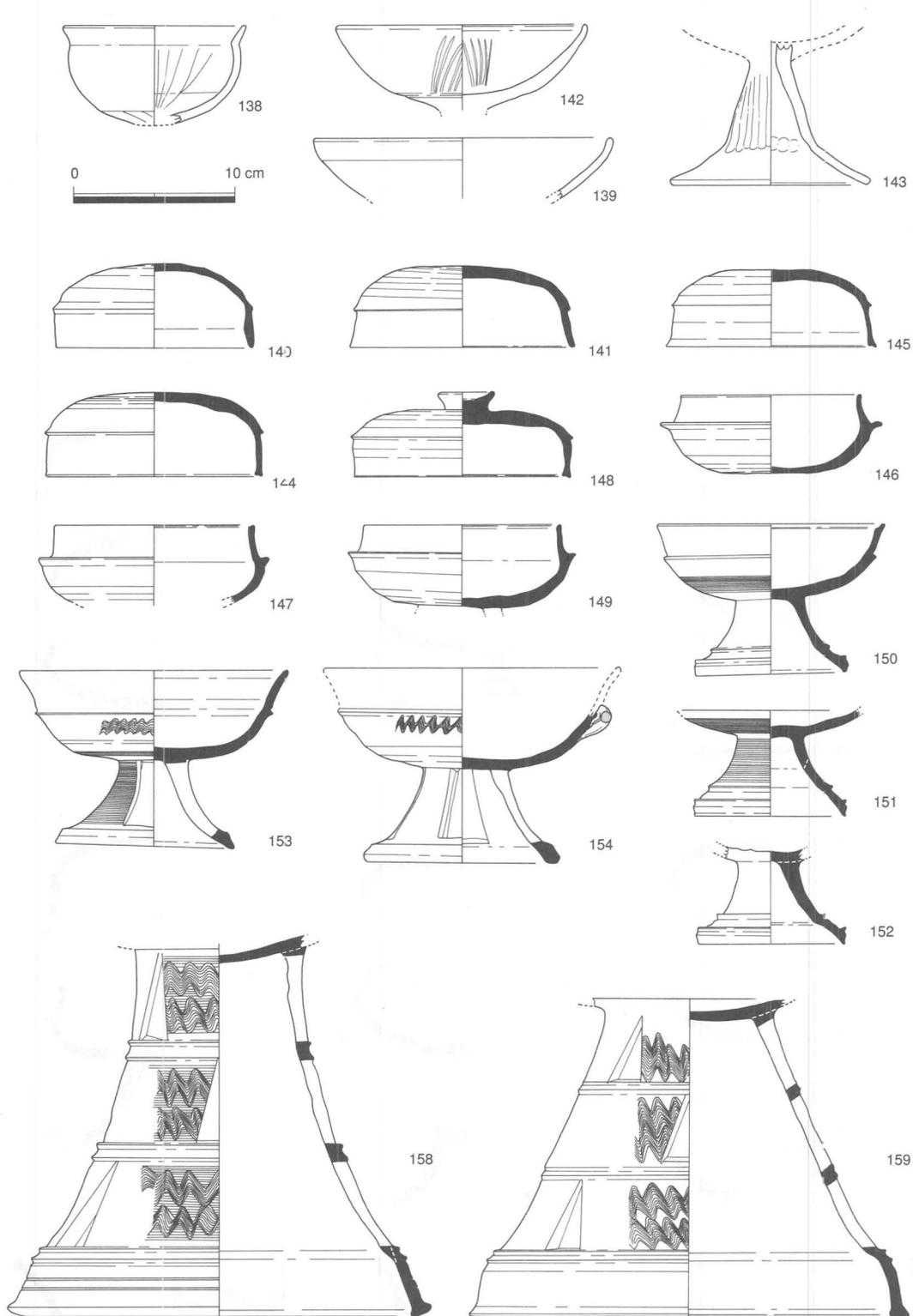


317

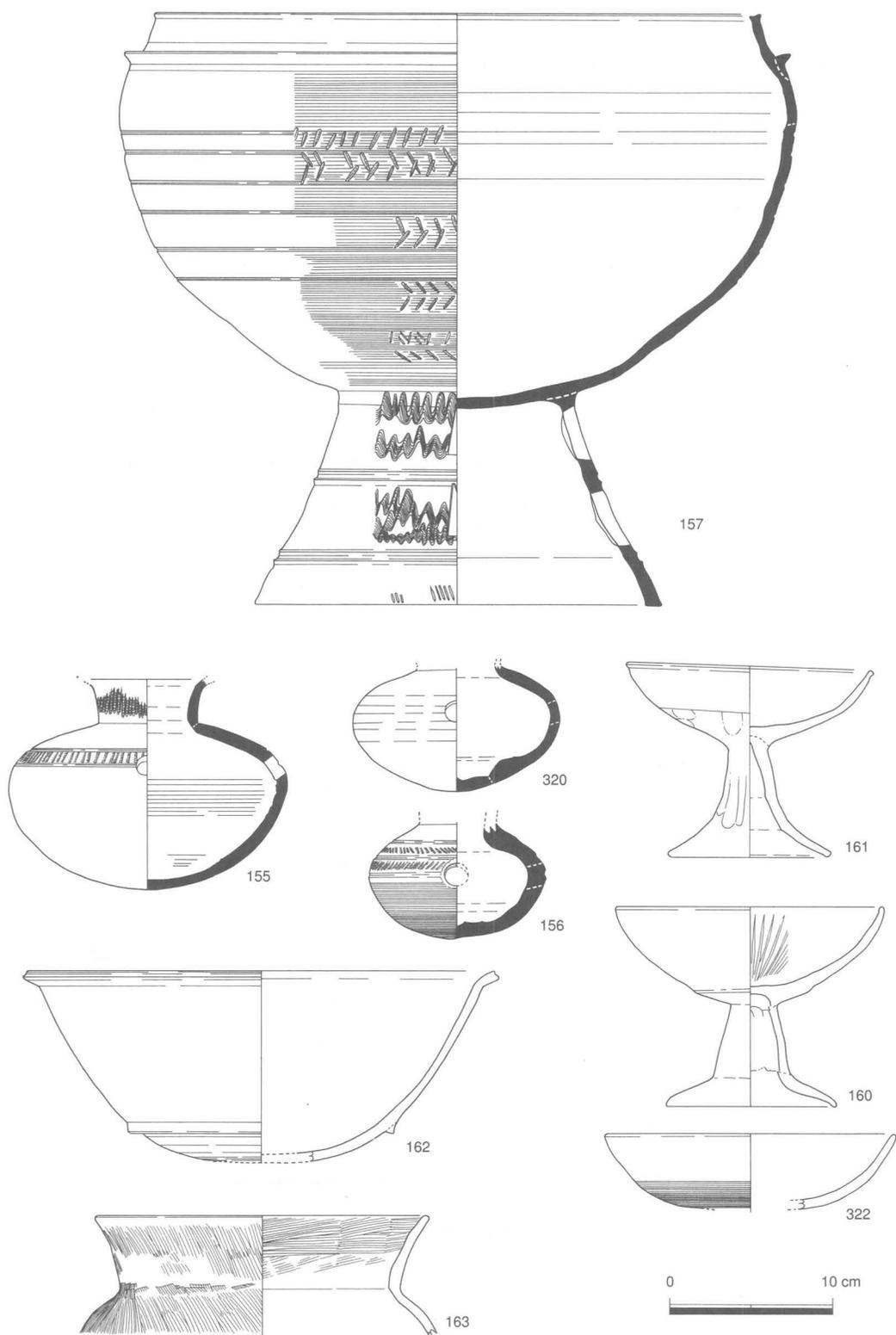


137

第21图 16層・17層出土遺物実測図

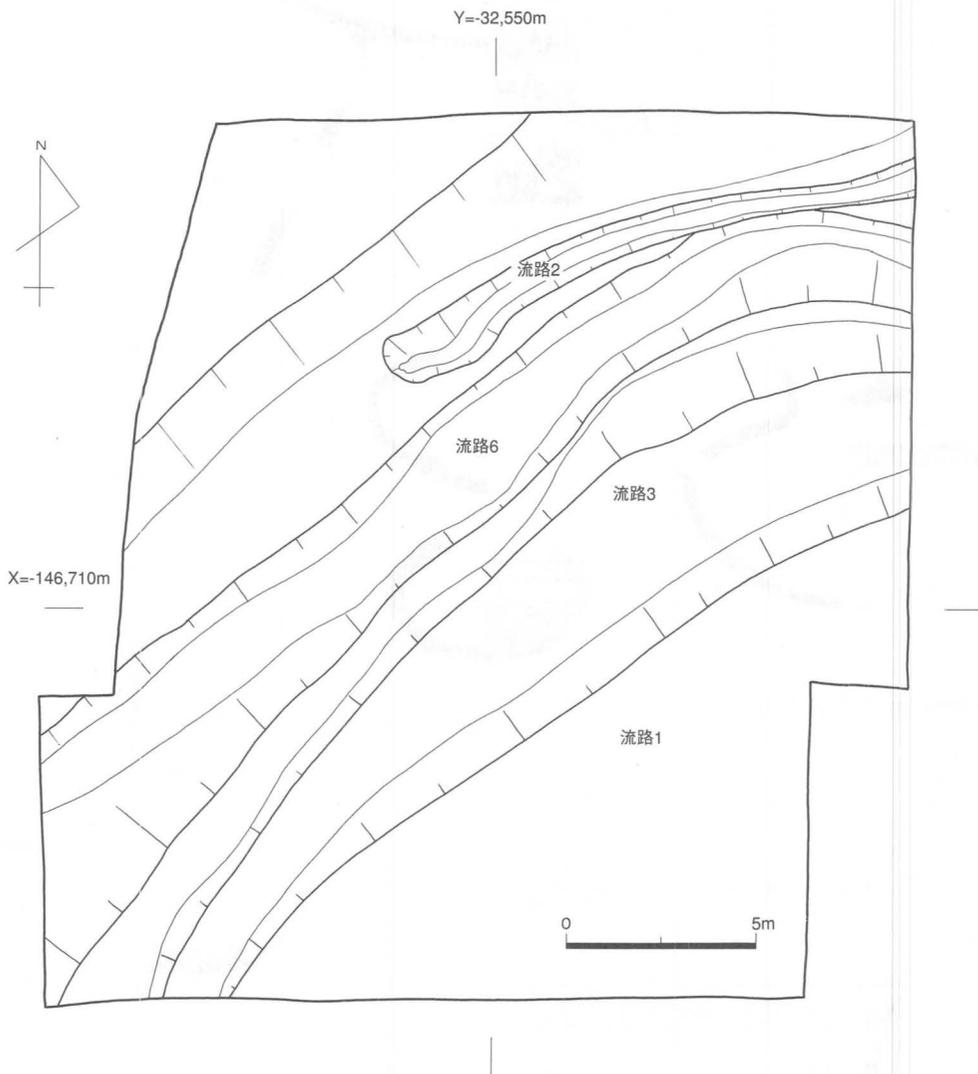


第22图 17層・18層出土遺物実測図



第23図 18層出土遺物実測図

は続かない流路であることがわかった。後世の削平によって西側がなくなったとも考えられるが、遺構の検出状況から自然流路ではなく人工的に作られた流路である可能性を指摘したい。



第24図 流路平面図

5) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、流路を6本と土器溜りを検出した。

土器溜りは、古墳時代の土器溜りの直下で、谷北岸部分のテラス状になった緩斜面に位置す



第25図 弥生時代土器溜り遺物出土状況図

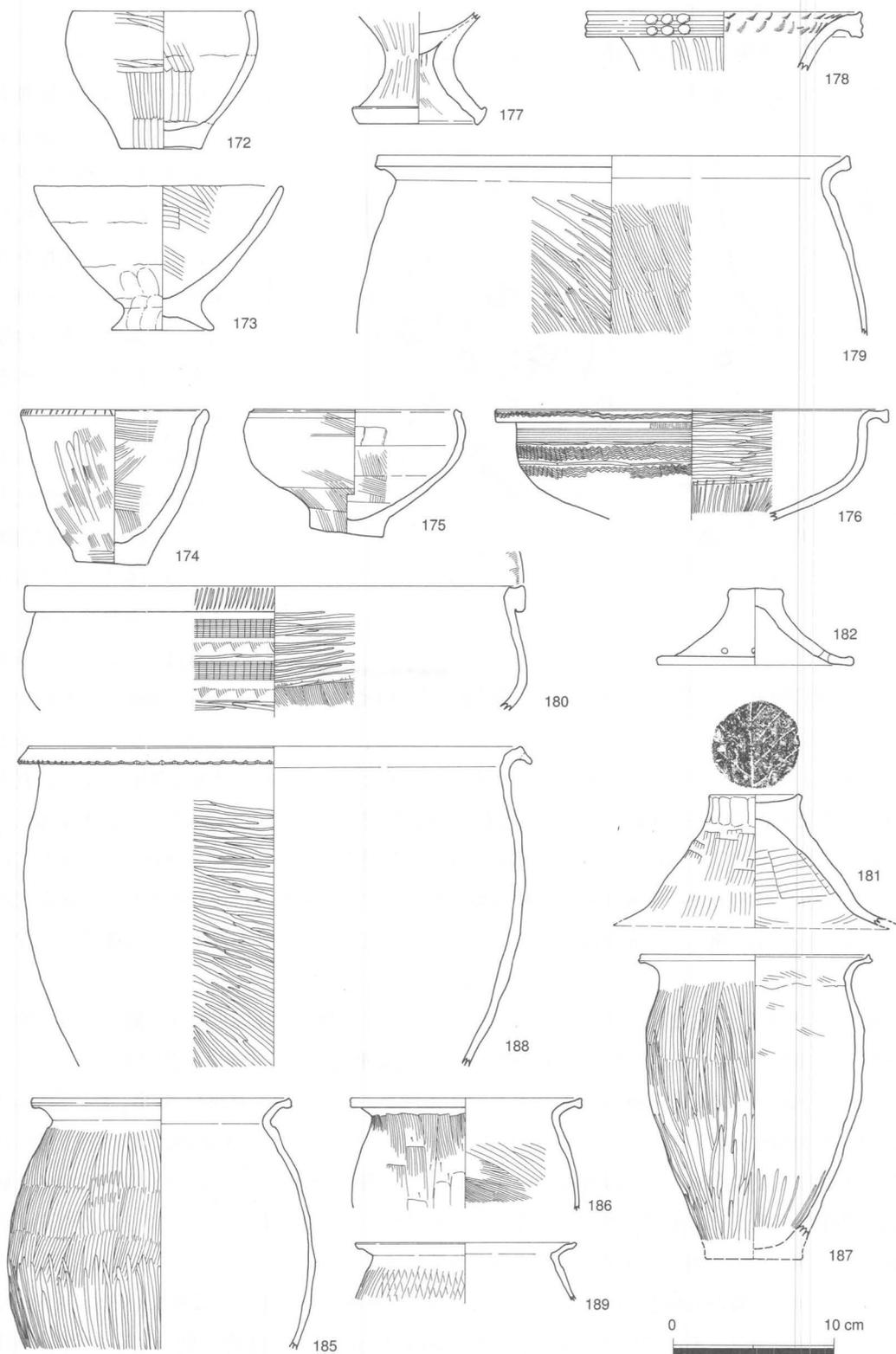
る。古墳時代の土器溜まり同様流路の流向に平行した広がりが見られたが、トレンチ中央部から東端部までの広い範囲に広がっており、多くの弥生時代中期後葉の鉢や甕・高坏などを中心とした遺物が出土した。出土した遺物は、二次焼成を受けたために表面が剥離しているものが多くあったが、それ以外はあまり磨滅はなく、上流から流されて堆積したものではない。完形のものほとんどなく、破損によって投棄されたものであろう。また、遺物には大きな時期差はなく、直上の古墳時代土器溜り同様投棄した期間はあまり長期間にわたったものではないことがわかる。

弥生時代の流路（流路3）は、弥生時代中期後葉に堆積した層の中央部を浸食して南流していた。幅2.5m深さ0.4mを計り弥生時代中期後葉の遺物を中心に弥生時代後期の甕や直口壺などが多量に出土した。埋土には非常に遺物の包含量が多く埋土の大部分が遺物（主に土器）と言っても過言ではない。

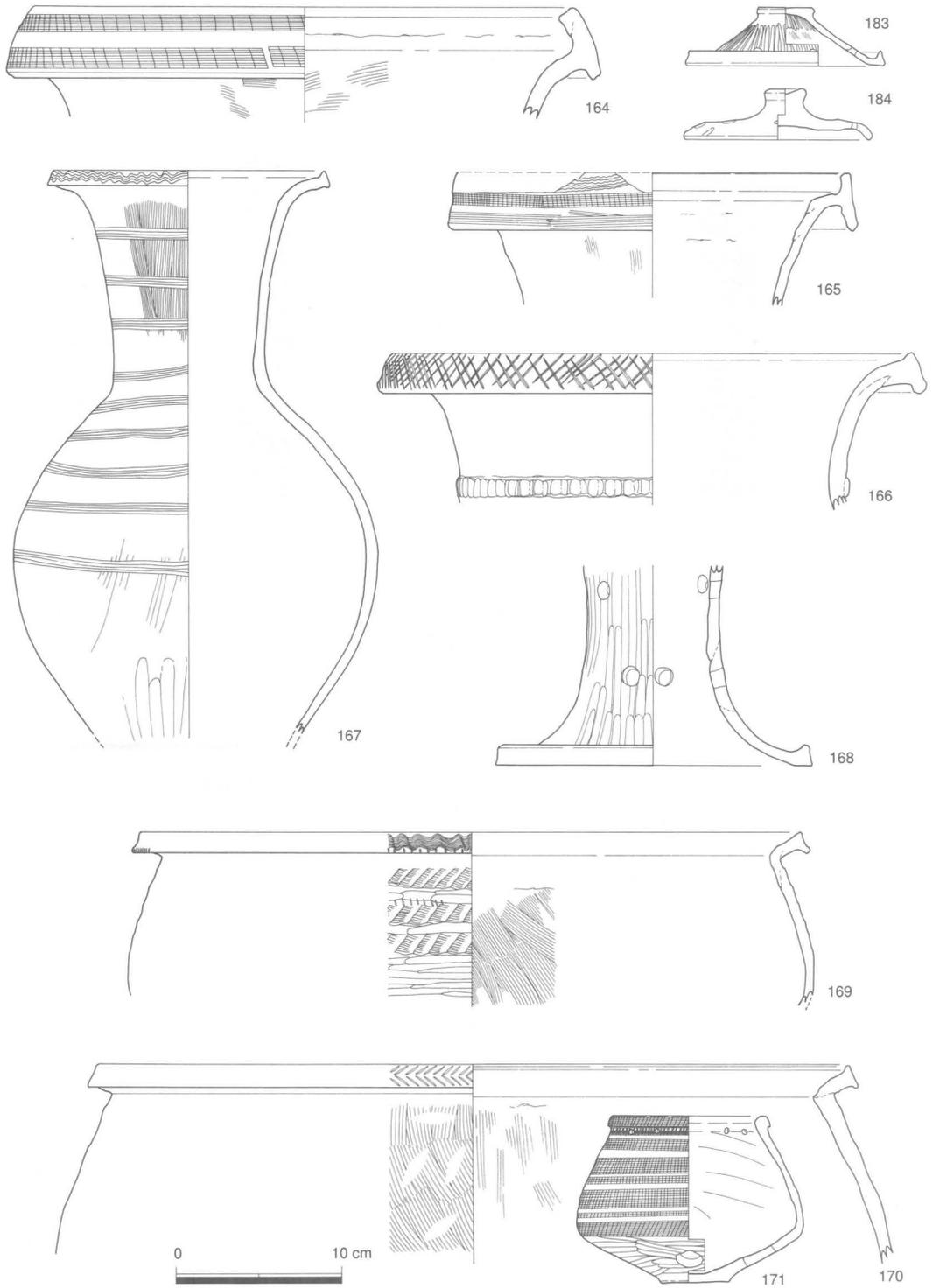
流路3は大きく上下2層に分かれるが、上層から出土する遺物には弥生時代後期の特徴を持った甕や直口壺が見られることから、最終的に埋没した時期は弥生時代後期以降であろう。

トレンチ南西部では、流路3より分かれてやや南向きに流向を持つ流路4を検出した。流路4は幅1.5m深さ0.4mを計り埋土には弥生中期の土器を多量に包蔵する。出土遺物には流路3で見られたような弥生時代後期の遺物は含まないことから、流路3の下層と同じ頃に分岐し流路3の上層部分が埋没するまでにすでに埋ってしまった流路であったことがわかった。よってこの流路が埋没したのは流路3が埋没する以前の弥生時代中期以降といえる。

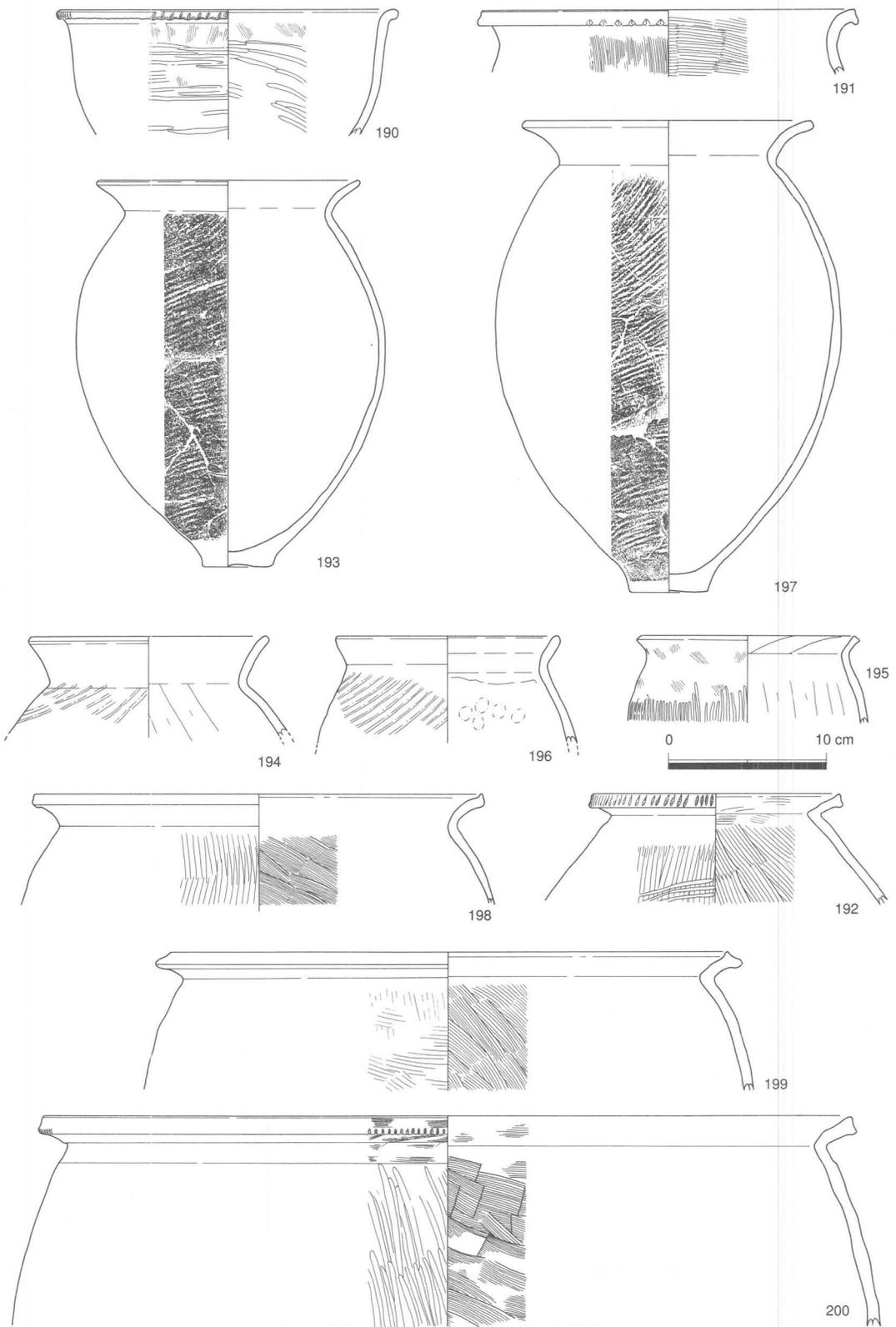
流路3・4の下層から幅2.8m深さ0.4mを計る流路5を検出した。上面は流路3・4に削平されており、本来の深さは不明である。流路3・4同様埋土からは多くの遺物を出土する。流路5の埋没する時期は、出土する遺物や上層の流路との層位的な関係から弥生時代中期半ばから後半と



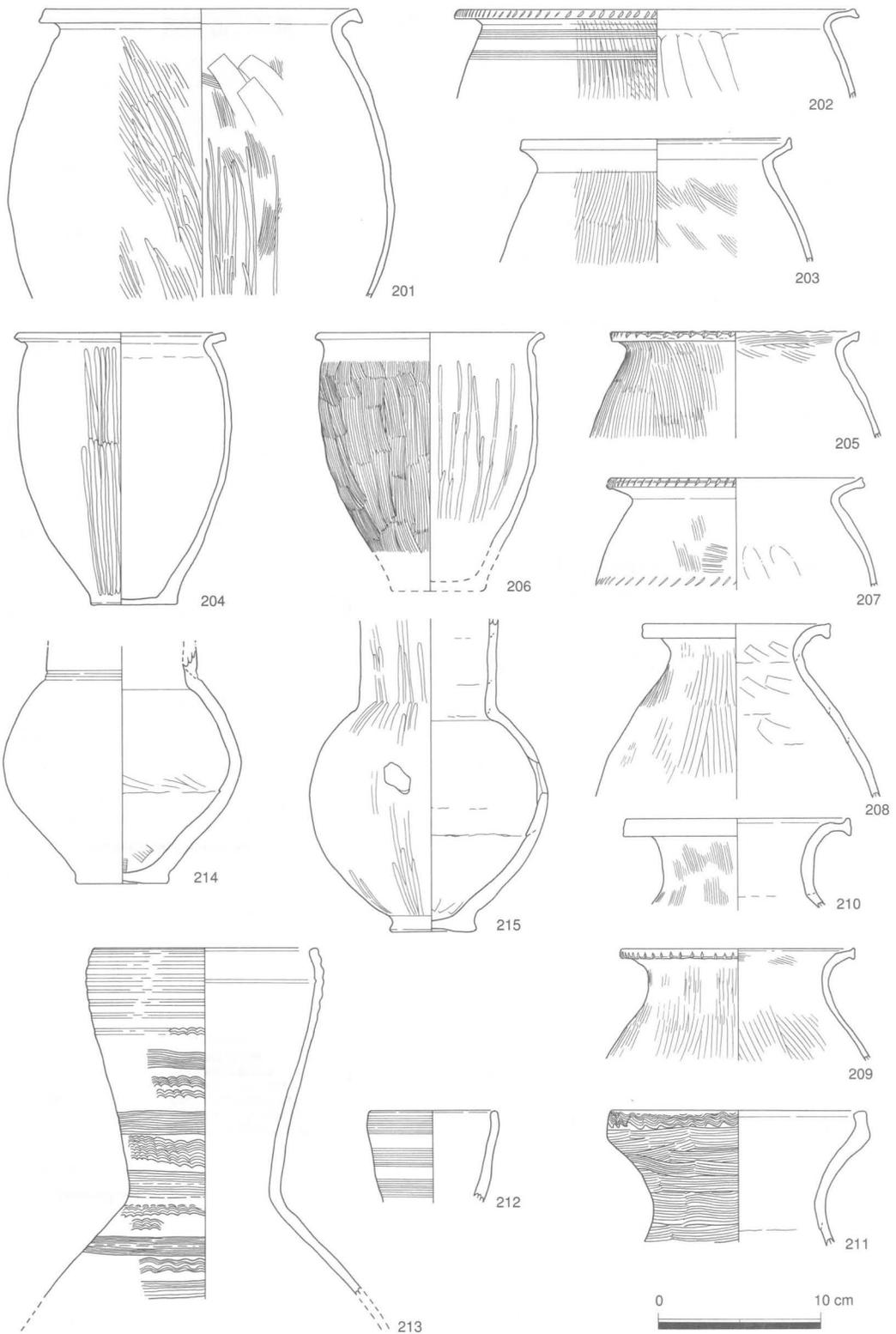
第26図 19・20・25層及び弥生時代土器溜り出土遺物実測図



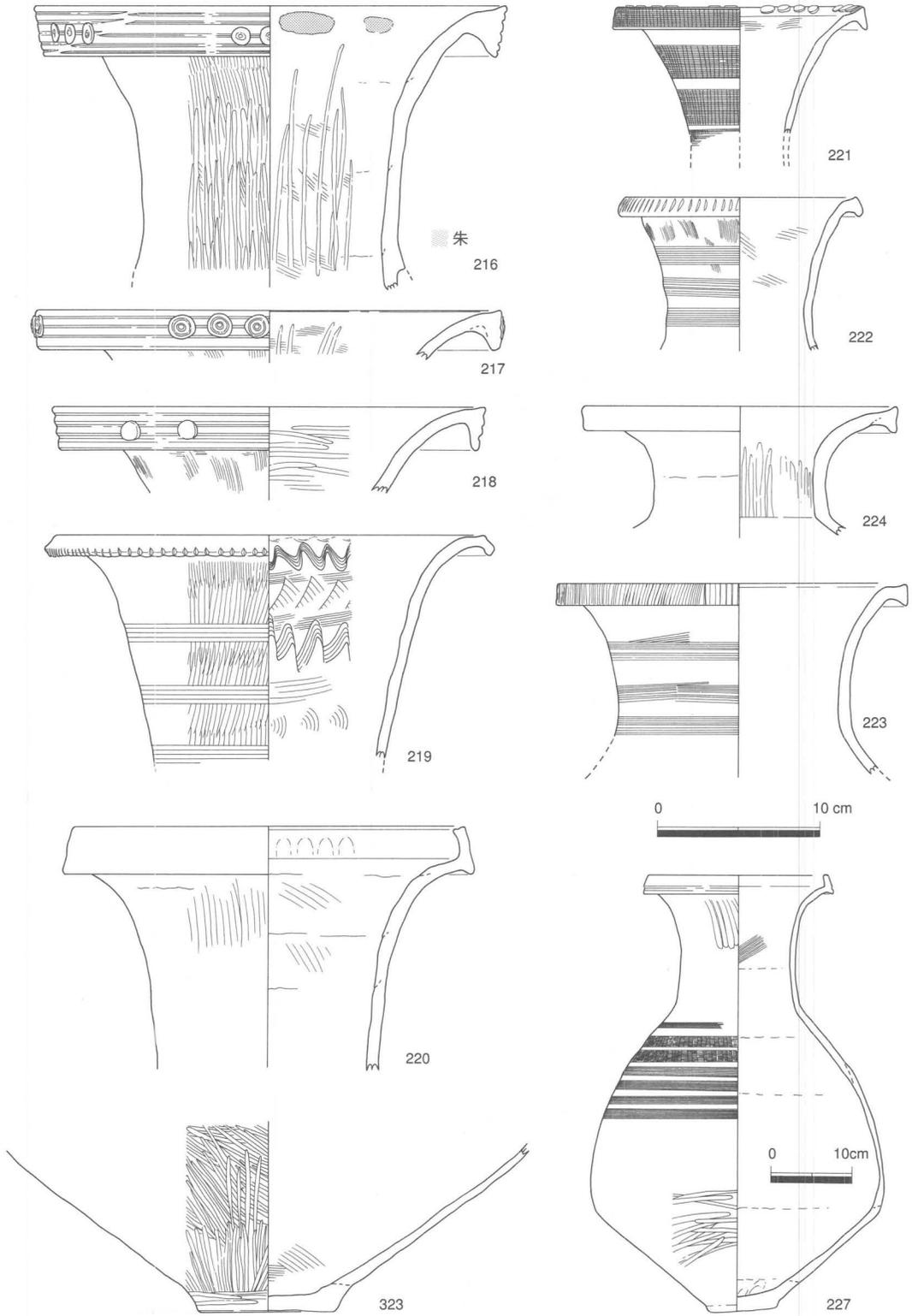
第27図 37・38・39・40層出土遺物実測図



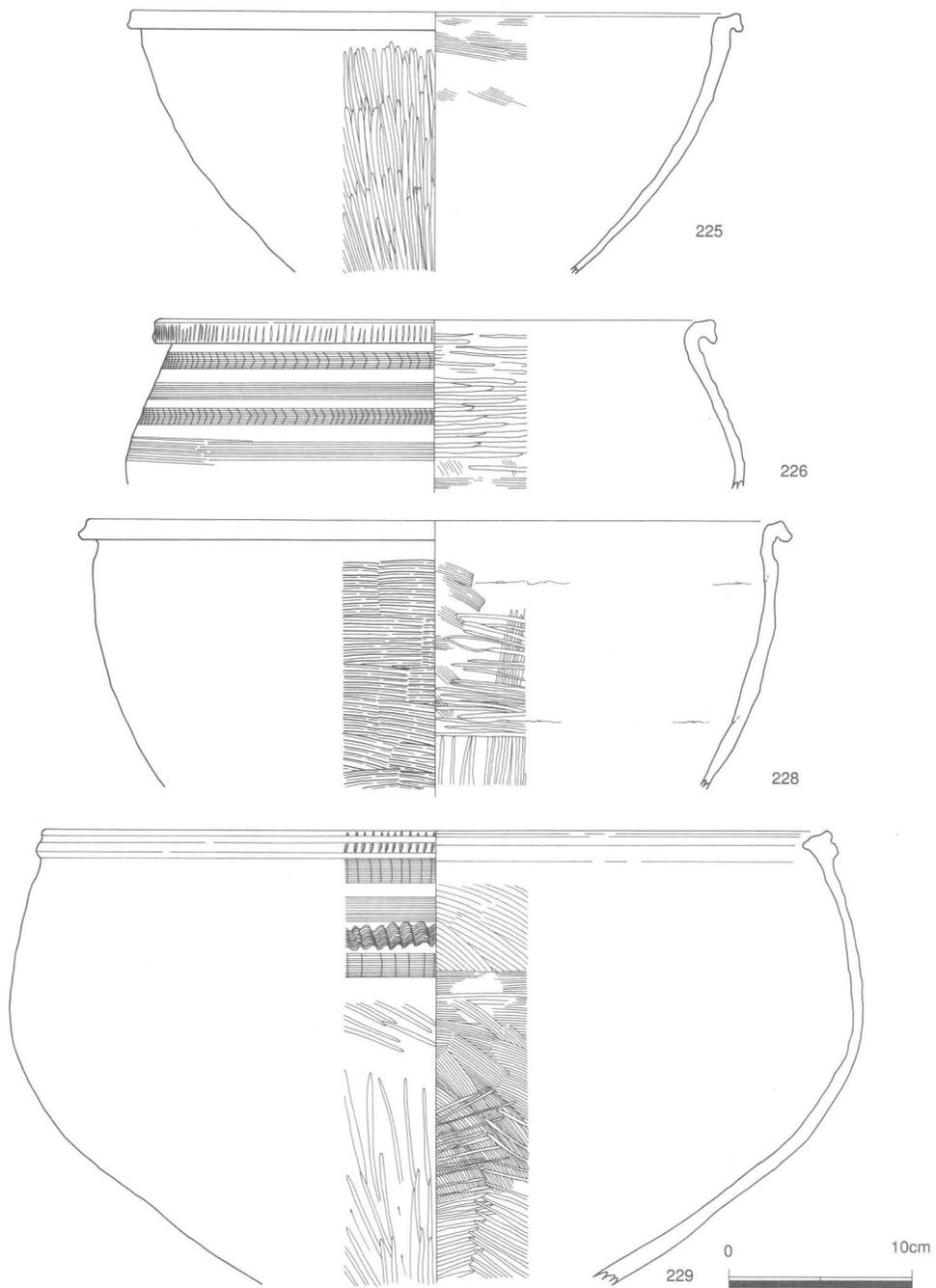
第28图 流路3出土遺物実測図



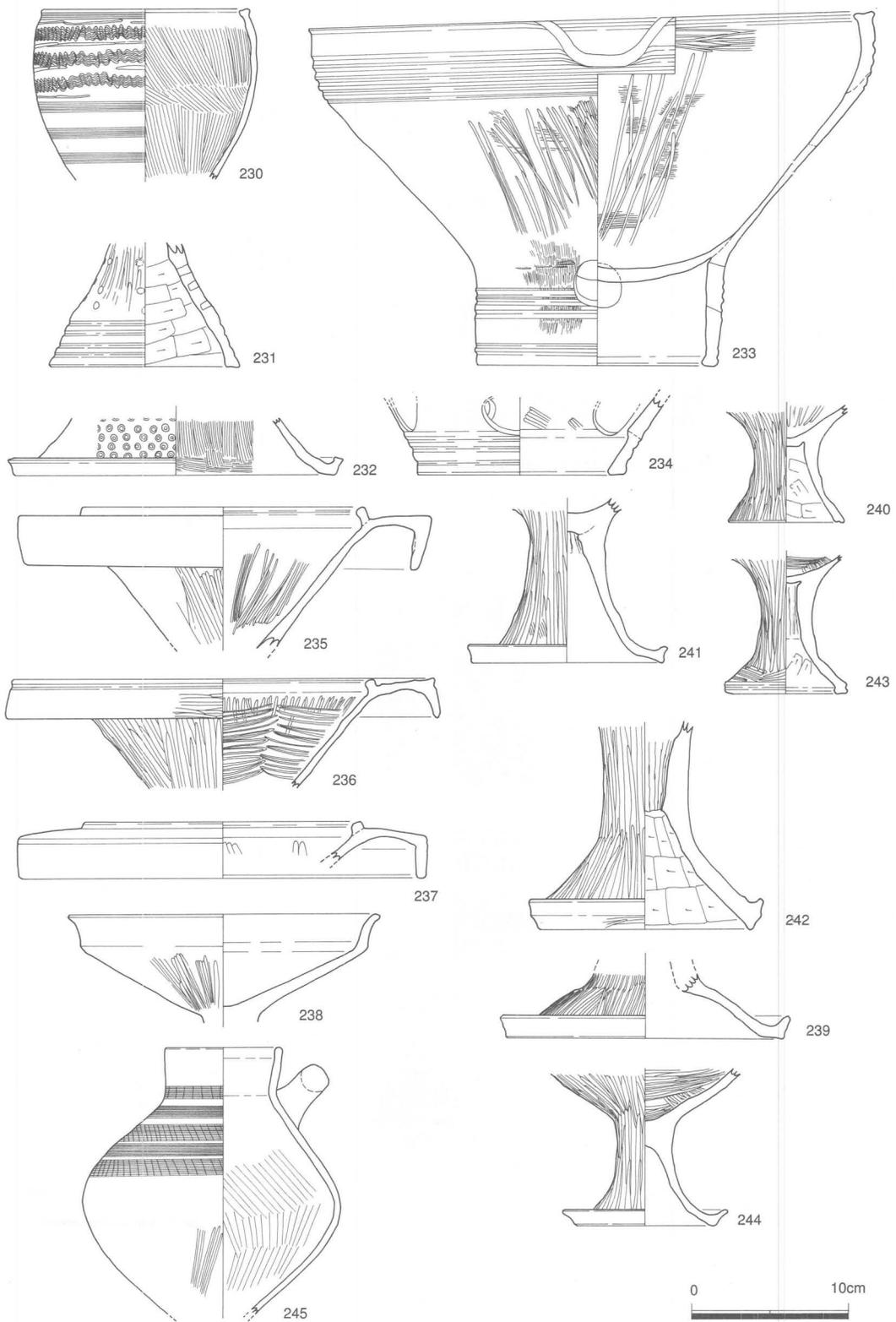
第29図 流路3出土遺物実測図



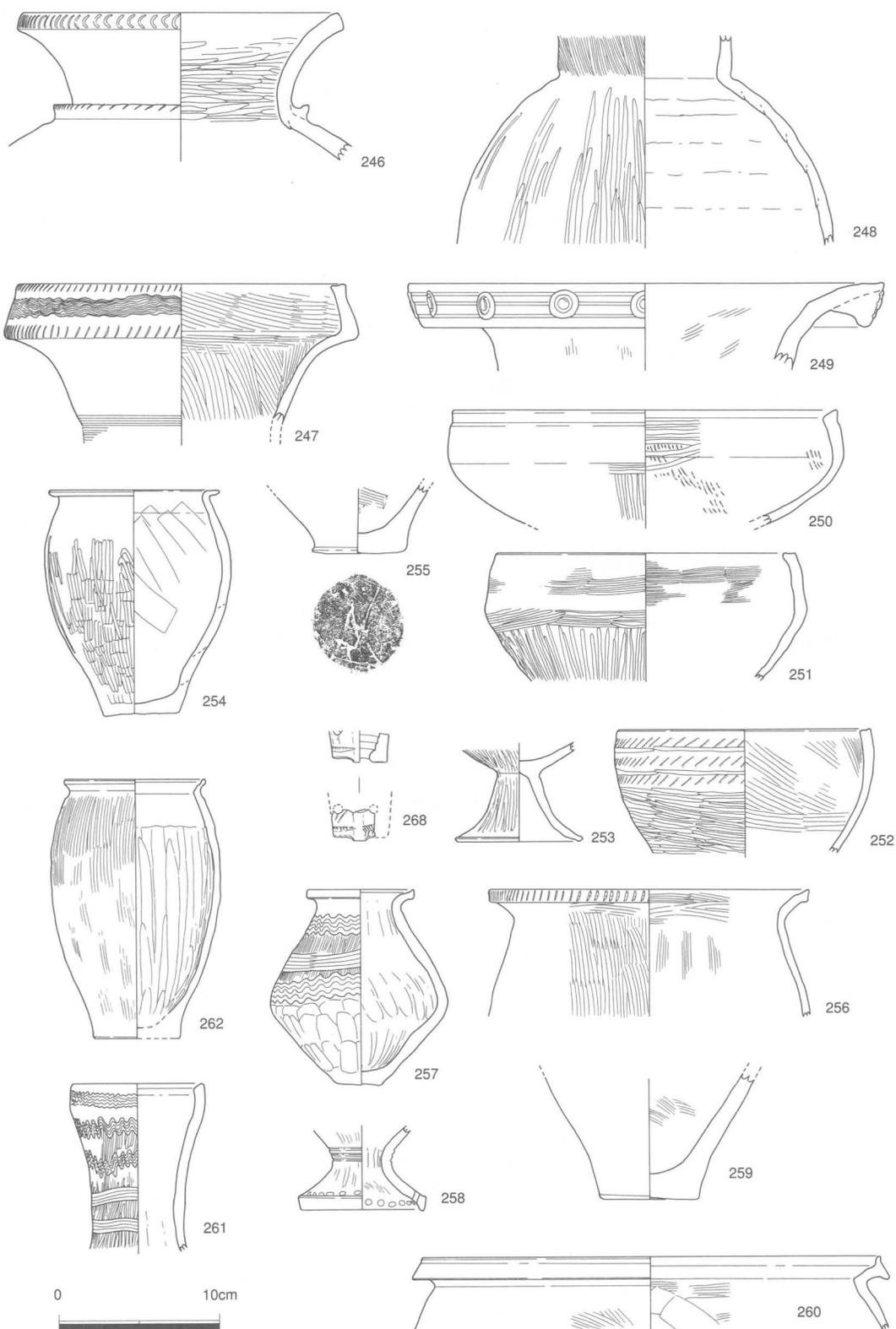
第30图 流路3出土遺物実測図



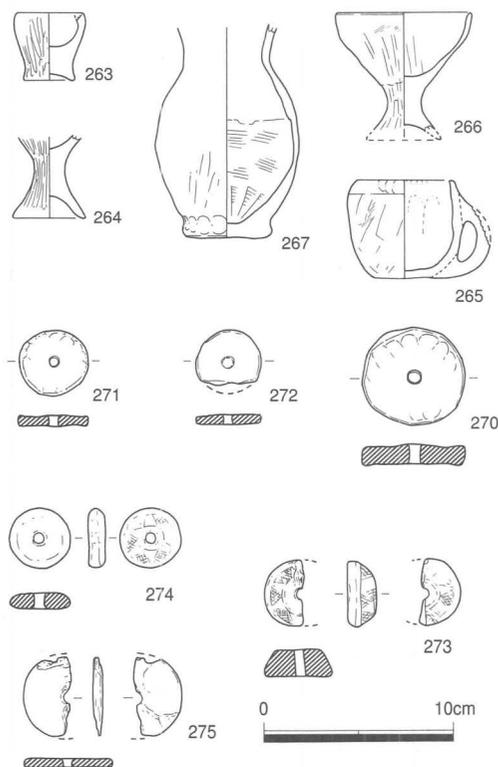
第31図 流路3出土遺物実測図



第32図 流路3出土遺物実測図



第33图 74・84層・流路4・流路5・流路6・流路8出土遺物実測図



第34図 ミニチュア土器・紡錘車実測図

ら弥生中期中葉やや古い時期をあたえられる。

流路9は幅1.3m深さ0.7mを計り最下層に位置し流路6に削平を受けている。遺物は全く含まないために時期は決め難い。他の流路との層位的な関係から弥生時代中期以前にはすでに埋没していたものと思われる。

6) 遺物

今回出土した遺物は大きく人工遺物と自然遺物に分ける事ができる。なかでも人工遺物については前節にも遺構にともなうものについて触れてきた。また観察表にまとめたので詳しくはそちらを参照していただきたい。ここでは一部の人工遺物と自然遺物について述べることにする。

ミニチュア土器 (263~267)

ミニチュア土器は今回数点出土した。なかでも実測可能な5点についてここに掲載した。主に流路3から出土したミニチュア土器は、コーヒーカップ型 (265) ・高坏型 (264・266) ・臼型 (263) ・壺型 (267) である。ともに手づくねで作られており、なかでもコーヒーカップ型は取っ手の部分が一部欠落しているものの完形で、全体に丁寧な作りである。

土製紡錘車 (270~272)

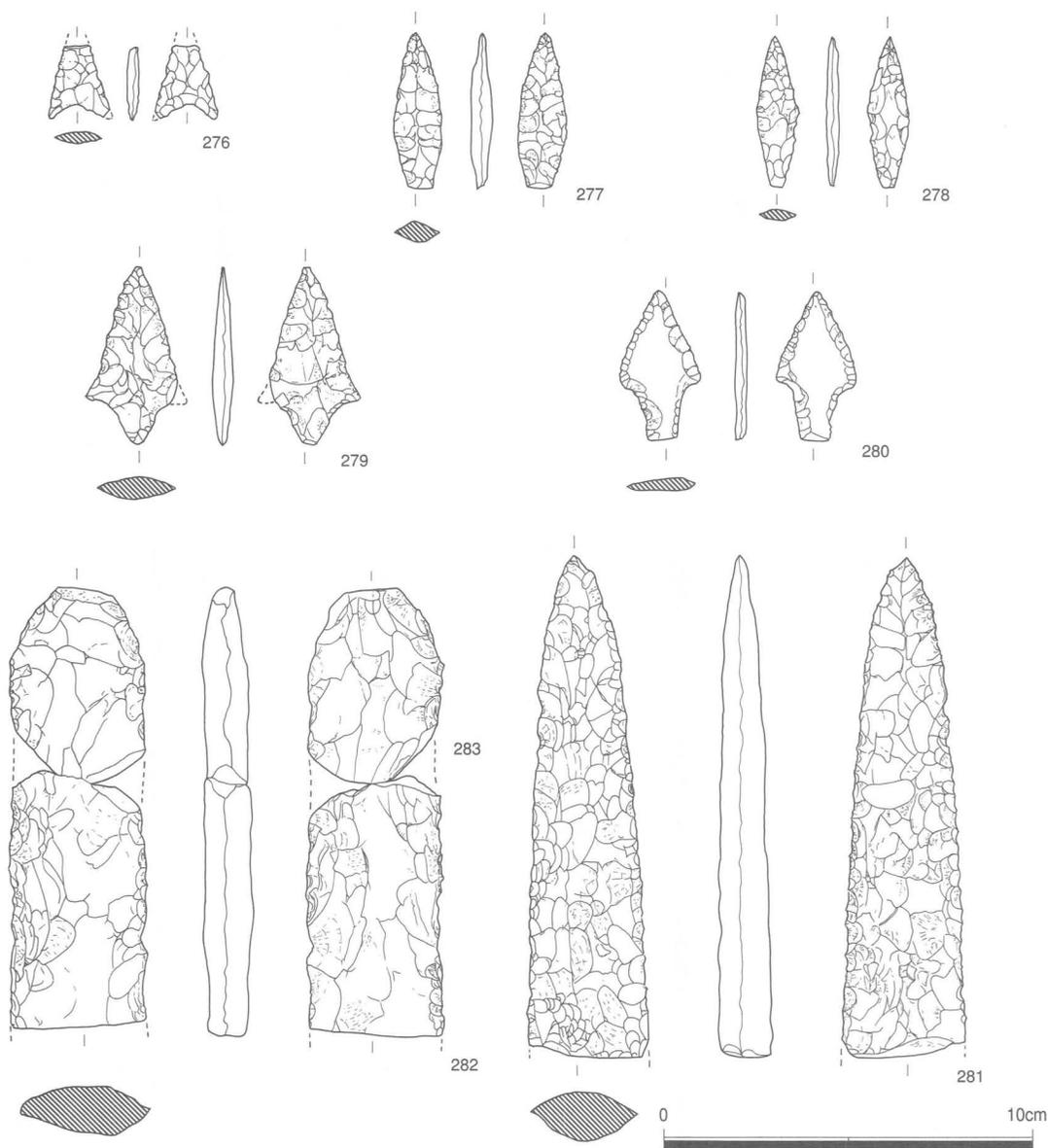
土製の紡錘車は古墳時代と弥生時代中期の堆積層から合計3点出土した。3点はともに中央部

したい。

流路5よりも下層で検出した流路6は、幅2.5m深さ0.8m~1.2mを計る。流路7によって上面は削られている。調査地のほぼ中央部分やや北よりから自然木を集めたシガラミを検出した。遺物はほとんど出土しない。時期は出土遺物と流路5との層位的な関係から弥生時代中期中葉。

流路6を削平し幅1.3m深さ0.3mを計る流路7は平面では確認できず、断面から確認した。遺物などの検出がないため、時期の比定は困難であるが、流路6埋没以降、流路5が活動する以前の時期があたえられる。

流路8は幅1.0m深さ0.4mを計る。流路5に上面は削平されている。出土遺物はあまり多くない。出土する遺物は、流路6の遺物より若干古い様相を呈している。時期は流路5に削平を受けていることや出土する遺物などか

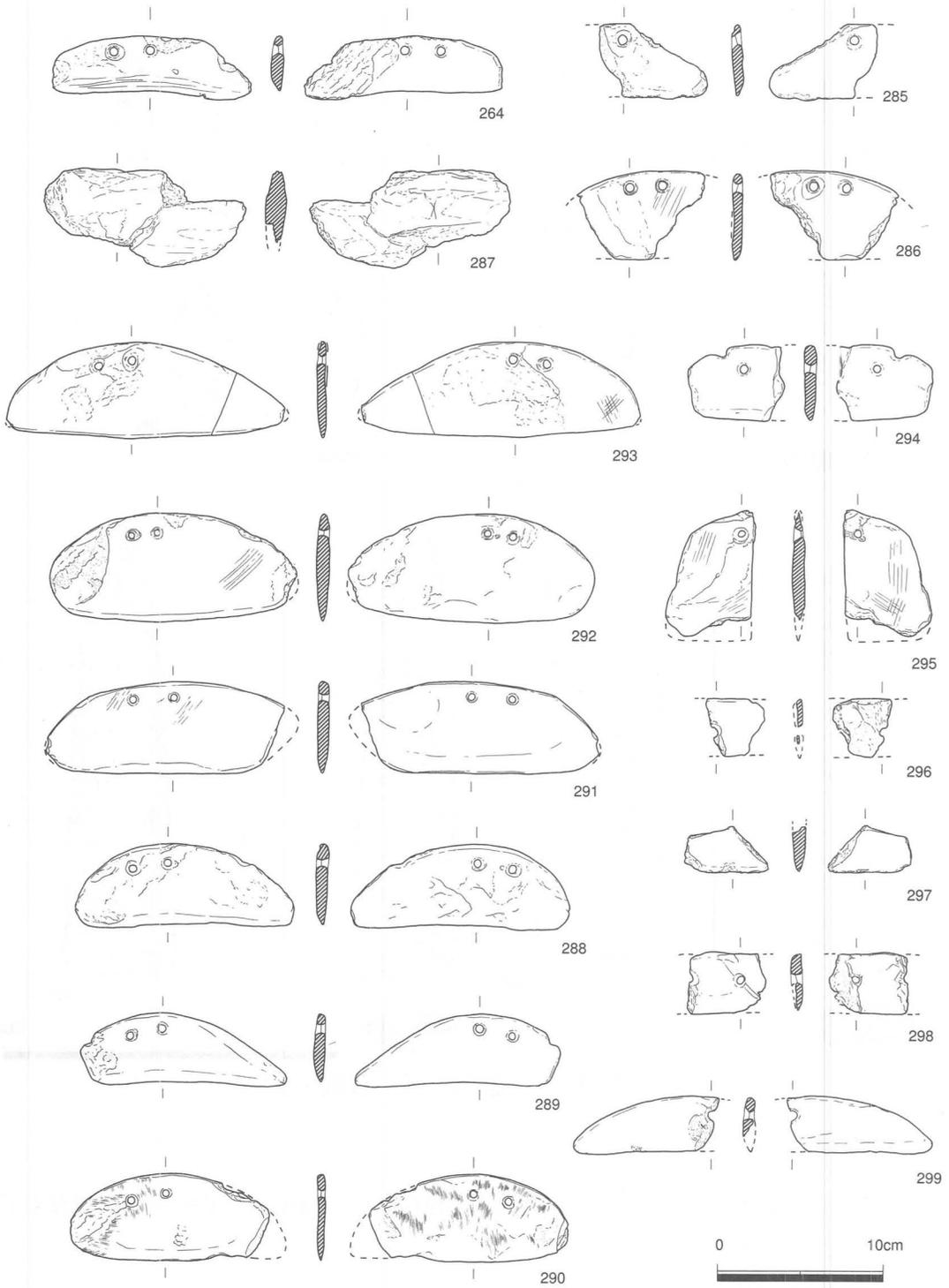


第35図 打製石器実測図 石鏃・石剣

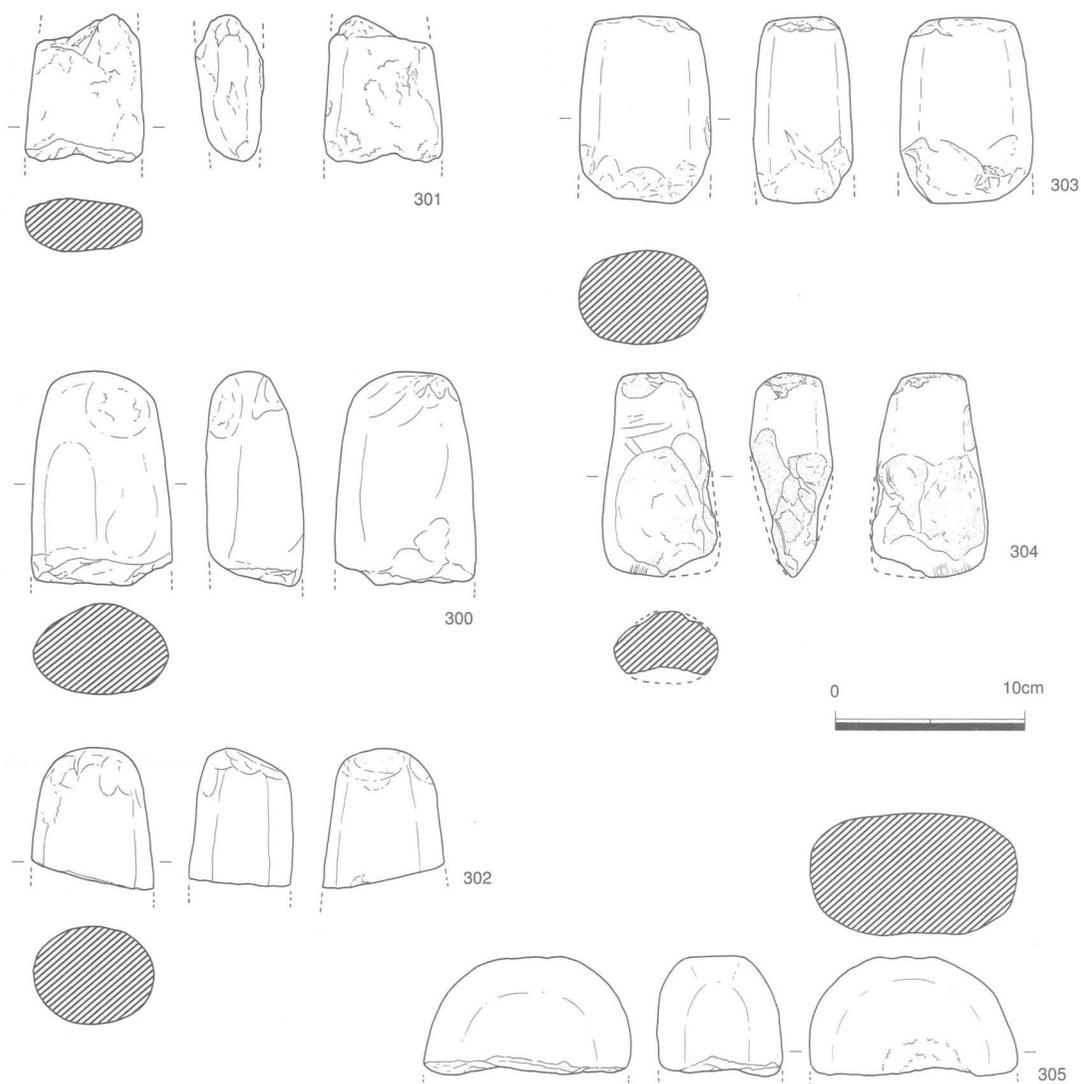
に断面円形の棒状のものを差し込んで手づくねで作られる。円形の形や平面の平滑な部分も丁寧な指押えで仕上げている。

石包丁 (284~299)

まず石包丁についてみると、288~293の6点は谷の北岸部分から、刃部を下向きに6枚を並べた状態で出土した。(図版15) 紐穴を全て同じ方向に向けていたことから6枚を紐などによって結束していた可能性も考えられるが、検出時にはそれらの痕跡は認められなかった。残念ながら



第36图 磨製石器实测图 石包丁

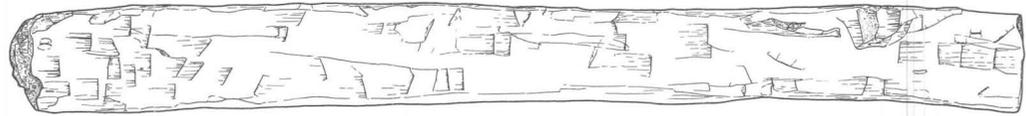
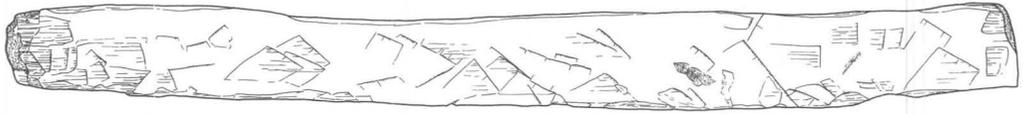
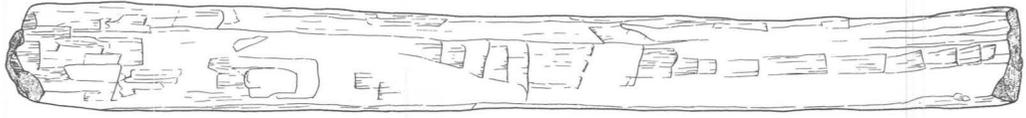
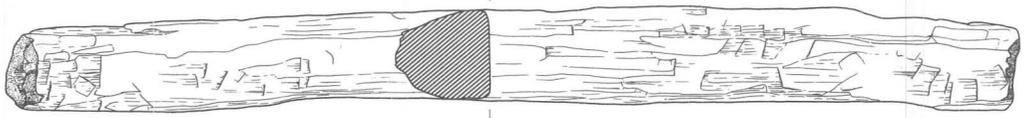


第37図 磨製石器実測図 太型蛤刃石斧・敲石

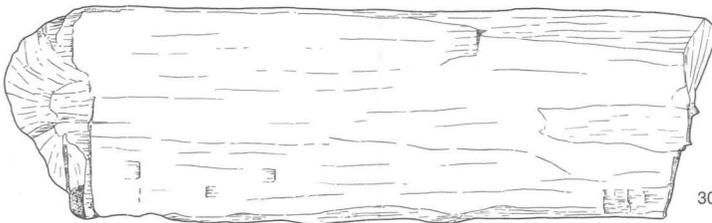
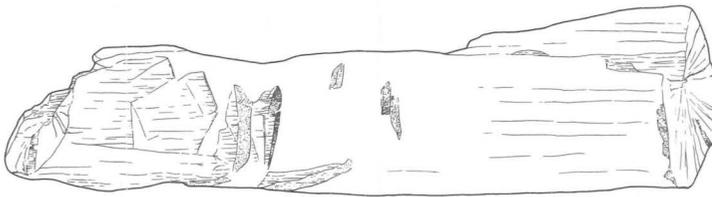
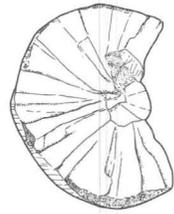
ら覆工板を受ける支持杭のすぐ横からの出土の為、掘り方などの平面プランの確認ができなかった。

6枚はすべて完成品であり、若干の欠損部が見られるものの全てはほぼ完形に近い。また刃部及び穿孔部分にはともに使用痕が認められる。今回の調査で出土している他の石包丁の中にも、破損後穿孔をやり直し再利用した形跡のあるものが見られることから、この6枚に認められる程度の欠損が投棄に至った直接の原因とは考え得ない。出土の状況と考え併せると、その場で単に投棄したものではなく、何らかの意図が働いた事が伺われる。今後類例の増加を待ちたい。

石包丁ではほかに弥生時代中期の土器溜りのなかから、未製品と思われる緑泥片岩

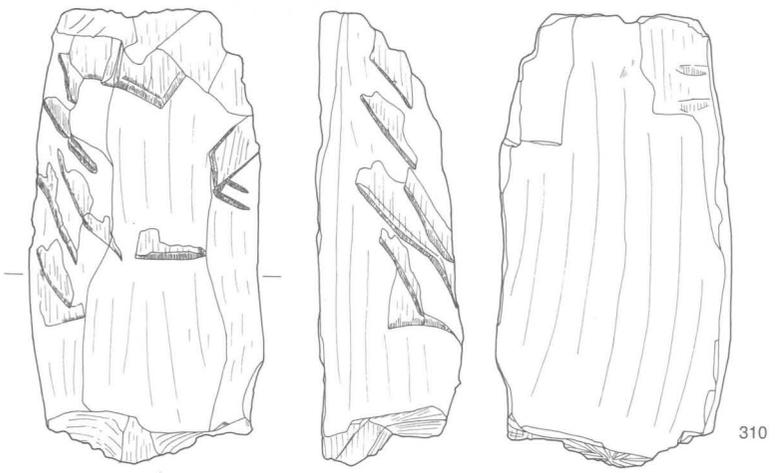
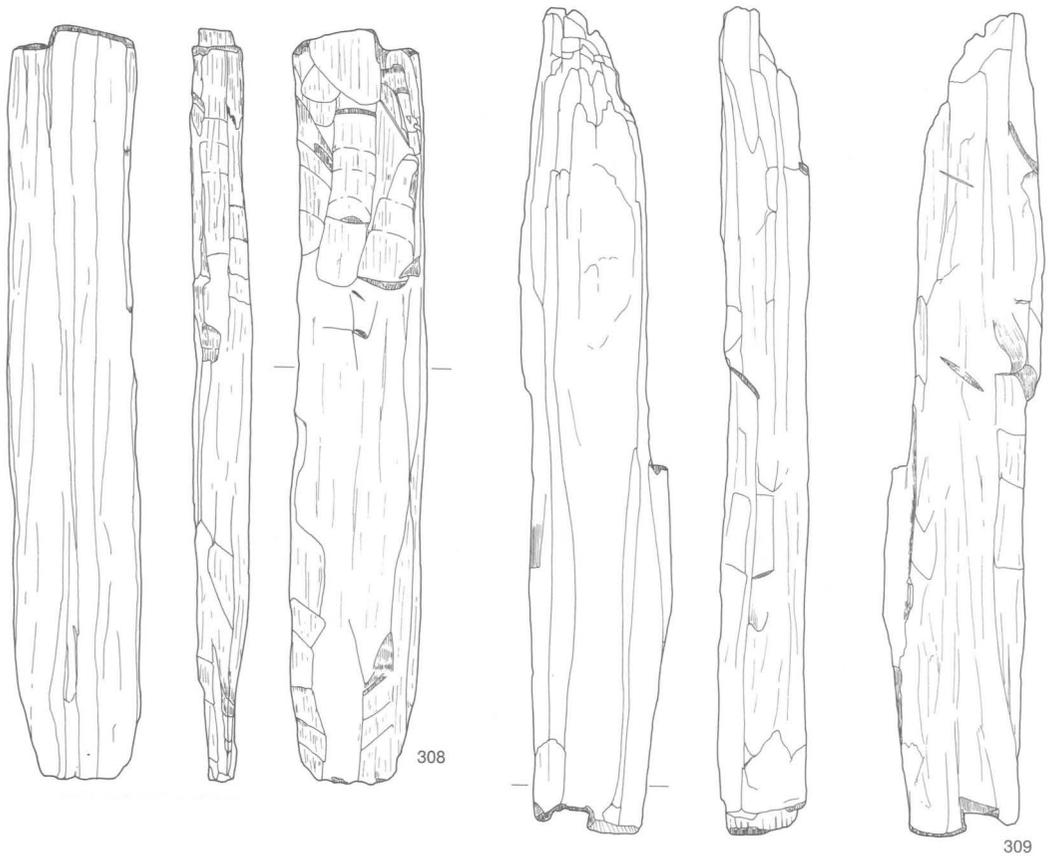


306

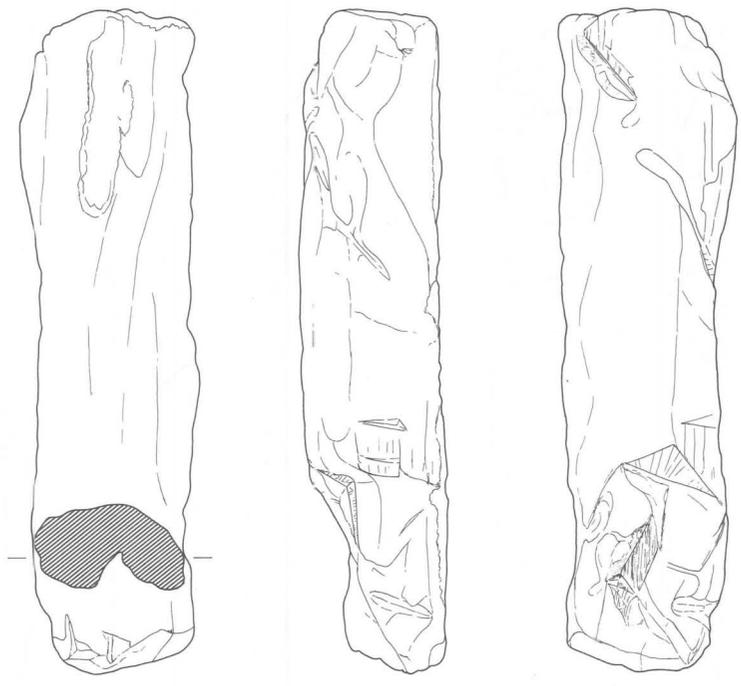


307

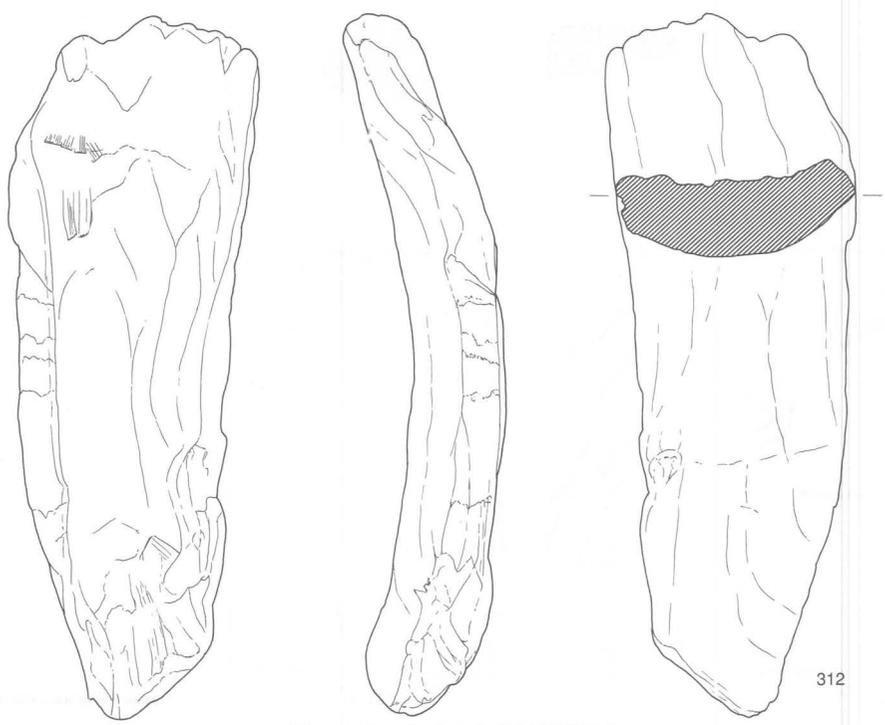
第38图 加工木材実測图



第39图 加工木材实测图



311



312

第40图 加工木材実測図

が出土した。(287) 石包丁の原形を作る段階で失敗したのもであろう。

大型蛤刃石斧 (300~304)

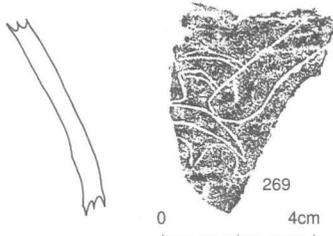
次に同じ磨製石器では大型蛤刃石斧が5点出土した。しかし完形品は一点もなくすべて中央部分で折れており、刃の部分は欠損している。唯一刃部が残存している304についても両面が大きく剥離しており本来の形はとどめていない。刃に使用痕が見られる304を含め他の4点も、残存部分は丁寧に研磨されており、これらの石斧の欠損は使用時に原因があるといえる。

加工木 (306~312)

今回弥生時代の堆積層からはさまざまな土器や石器と同様多くの木が出土した。自然木も含まれるが大半は何らかの加工を施された加工木材であった。主に直径50cm内外の原木とそれをミカン割して若干の加工を施した原材である。本遺跡の上流部分に当たる西ノ辻遺跡第16次調査では、切り出した原木を集めて水漬けで貯蔵した貯木施設を検出していることから今回出土した木材は、上流よりの流れ込みの可能性が揚げられるが、上流で見られる大きな木材が出土していない点も重視したい。また本遺跡の西側に広がる鬼虎川遺跡では実に多種多様な木製品が大量に出土(未製品を含む)しているが、今回の調査では製品や未製品ともに皆無であった。

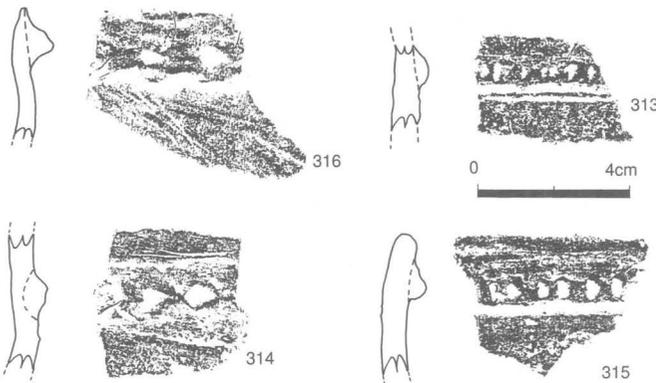
出土したものは切り出された原木に少々手を加えただけのいわゆる「加工痕のある木」に過ぎない。しかし、それぞれの木には明らかに「面」を取ることを意識して加工が施されていることから、ここではあえて「木材」とした。

出土した「木材」に見られる加工痕から加工に使用された工具を推定すると、大きく3種類の工具を使い分けていることがわかる。また、静岡県登呂遺跡出土の資料から復元されている「クサビ」はずいぶん大きいのが、今回出土した木材に残された痕跡からは、刃先の幅0.7cm厚さ0.2cmの工具が復元でき大きなものはない。この工具は素材の推定は困難であるが、鬼虎川遺跡7次調査の際出土した「ノミ状鉄器」に酷似している。出土資料からは、この工具を何度も打ち込み、亀裂を入れて割取っていた工程がわかる。今回掲載はしていないが、直径50cmを超える原木もこの工具を用いて割取っていた。尚、今回の調査では工具そのものの出土は見えていない。



第46図 線刻土器実測図

ミ状鉄器」に酷似している。出土資料からは、この工具を何度も打ち込み、亀裂を入れて割取っていた工程がわかる。今回掲載はしていないが、直径50cmを超える原木もこの工具を用い



第47図 縄文土器実測図

て割取っていた。尚、今回の調査では工具そのものの出土は見えていない。

線刻土器 (269)

線刻土器(絵画文土器)は弥生時代中期後半から後期以降に埋没した流路3のから出土した。何が描かれているかは不明。

縄文土器 (313~316)

「位置と環境」の章でも触れているが、本遺跡の東側には神並遺跡が存在し、旧石器時代から縄文時代早期などの遺物が出土しており、西側に広がる鬼虎川遺跡では縄文時代前期を初めとする遺物が出土していることから、今回の調査においても下層で縄文時代の遺物が期待されたが、明らかな縄文時代の遺物は4点で、いずれも縄文時代後期後葉の凸帯文土器であった。4点の縄文土器は凸帯の部分のみの出土であり、接合可能な他の破片は出土していない。

6) 自然遺物

今回の調査で出土した自然遺物は大きく動物遺体・種子などの植物遺体・微化石・貝に分けることができる。このうち種子・微化石はパリノサーヴェイの報告に委ね、ここでは、動物遺体と貝について触れることにする。尚詳しくは9表及び10表にまとめたので参照していただきたい。

動物遺体

動物遺体は数は多くないが各時期の堆積層から出土している。なかでも中世の遺構に伴う骨は残存状況も良い。井戸2からはイシガメが子供を含め5個体以上とヒキガエルが、井戸5からは種の特定は出来なかったが6個体以上のカエルが出土した。井戸に落ち込んで抜け出すことが出来なかったのだろうか。集石遺構からは、種は不明であるがかなり大型の鳥（ハクチョウやアホウドリよりもっと大きい）の大腿骨や、あざやかな切断痕の残るイノシシの右腸骨などが出土した。井戸2からはカメのほかにもウシの中足骨や立方舟状骨などが出土した。またウマの骨も古墳時代以降から中・近世にかけての各層から歯を中心に出土した。

弥生時代中期では流路3・4の肩部分からイノシシの骨が出土した。

貝

西ノ辻遺跡は周辺の調査でも貝の出土量は極めて少ない。今回の調査では出土量は多くないものの、古墳時代の層をはじめ中世及び中世以降の時代の層より貝が出土した。中世以降の堆積層から出土する貝は、食用にされた種類のものである。

今回古墳時代の土器溜りを調査の際、遺物を土ごと取り上げ、遺物の周辺ないしは遺物のなかに溜まった土について2mmと1mmのフルイを使用して洗い出しを行った結果、多くの貝を甲殻類の爪や魚骨などとともに検出することができた。魚骨や甲殻類は種の判別までは至らなかったが、貝についてはかなりの種類を判別することができた。なかでも直径1cmにも満たない貝で海にしか生息しないマメウニや大阪で初めてといわれるゴマツボやホソマキギヌガイヤナガヌマケボリクチキレが出土したことは、当時の交易ルートや古環境を考える上で貴重な成果といえる。ただ前述したように、これらの貝は水洗選別によって検出し得た位にサイズの小さい貝であるため、通常の調査で現場においてこれらの貝を検出するのは至難の業であろうと思われる。しかし、今回の調査で出土している限り周辺での出土も当然見込まれることから、これらの貝がどこから来たのか、また自棲していたのか、当時どのような役割を担ったのか今後の課題として類例の増加を待ちたい。

V 西ノ辻遺跡の自然科学分析

西ノ辻遺跡33次の古環境復元

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

生駒山西麓の扇状地末端部に位置する西ノ辻遺跡では、旧石器時代および縄文時代晩期以降の古植生に関する情報を得ることを目的とした自然科学分析調査が実施されてきている。これらの調査成果によれば、遺跡周辺の古環境は、旧石器時代の頃は針葉樹が卓越し、気候的に寒冷であったことが推定されている。また、縄文時代晩期以降はカシ類を中心とした暖温帯林であったが、弥生時代中期～後期ないし古墳時代にかけての時期に近辺の森林植生が急激に衰退し、開けた場所となったことが推定されている。

今回の33次発掘調査でも同様な目的の自然科学分析調査を2回にわたって実施し、報告を完了している。第1回目の調査では、弥生時代から奈良時代にかけて埋没した谷と、その上位の中世の遺構堆積物から出土した木製品や種実などの植物遺体の種類同定を行い、当時の人間の生業活動の一端について検討を行った。第2回目の調査では、遺跡の基盤となっている沖積層下部層について、放射性炭素年代測定・珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、その堆積年代と当時の水域環境および古植生に関する検討を行い、同時に弥生時代中期以降の堆積物から出土した植物遺体（種実・葉・材）について種類の同定を行い、古植生や当時の有用植物に関する検討を行っている。本報告は、これら2回の調査報告を整理したものである。

I. 沖積層下部層の古環境復元

1. 調査地点の層序

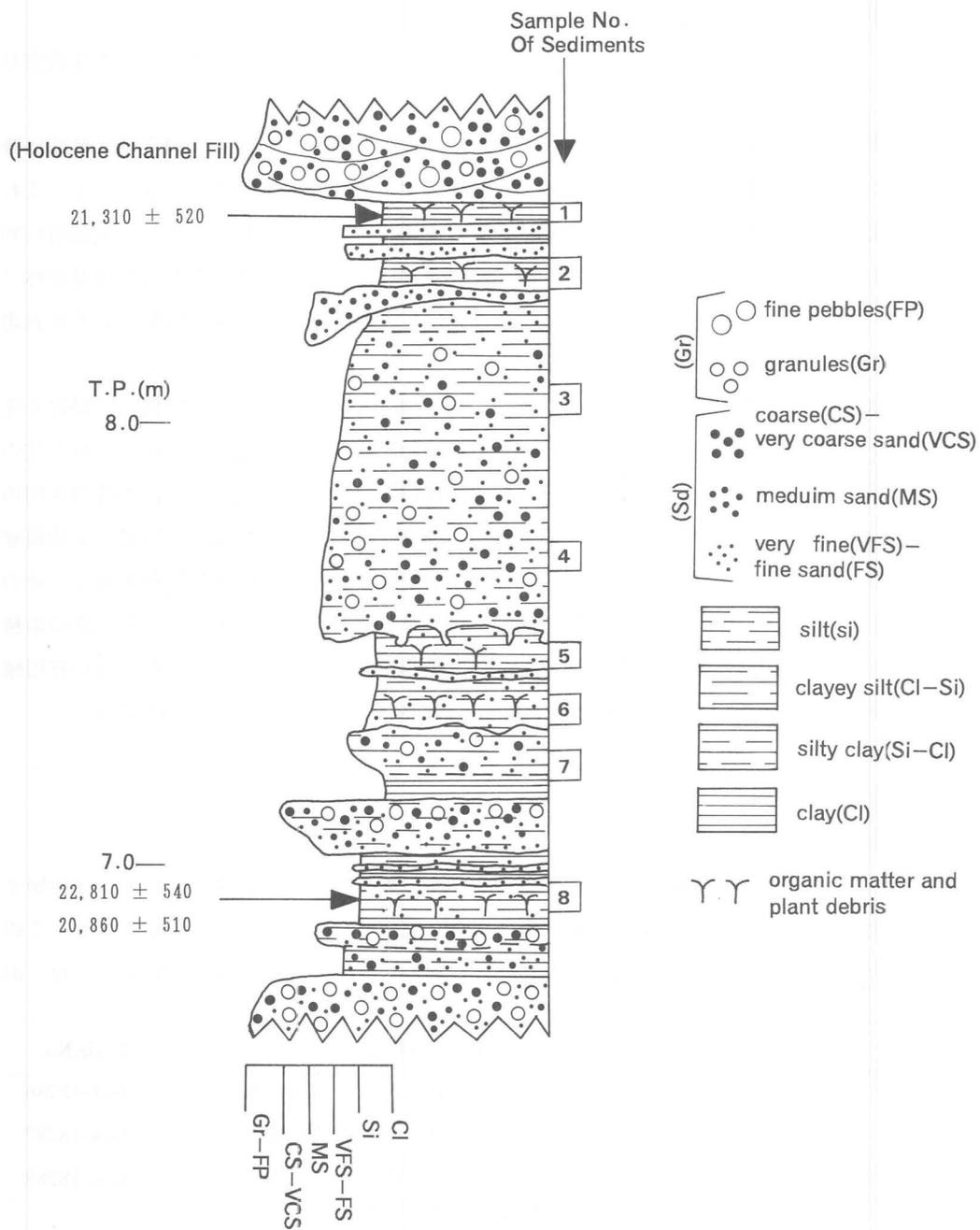
調査地点の層序および試料採取層準を図1に示す。完新世の流路が形成されている沖積層下部層は、砂・礫といった粗粒堆積物と植物遺体を含む腐植質粘土・シルトの層からなる。このうち、最下位と最上位の腐植質堆積物について、放射性炭素（ ^{14}C ）年代測定を行った。測

試料番号	採取層準（試料の質）	年代（1950年よりの年数）	Code.No.
1	試料番号1（腐植質堆積物）	21,310±520（19,360B.C.）	Gak-18286
2-1	試料番号9（腐植質堆積物）	22,810±540（20,860B.C.）	Gak-18287
2-2	試料番号9（腐植質堆積物）	20,860±510（18,910B.C.）	Gak-18288

第1表 放射性炭素年代測定結果

定は学習院大学放射性炭素年代測定室に依頼して行った（表1）。

放射性炭素年代測定値によれば、最下位と最上位の腐植質堆積物では、堆積時期には大きな年代差がないことになり、その間の堆積速度が速かったことが推定される。また、この年代値は、全国的に得られている放射性炭素年代の傾向と比較すると、ほぼ最終氷期最盛期頃の年代



第41図 微化石分析調査地点の層序及び試料採取層準

値に相当する。

2. 分析方法

微化石分析は、腐植質堆積物を中心とした8層準（試料番号1～8）について実施する。以下に各分析方法について述べる。

(1) 珪藻分析

試料を湿重で5.4～7.7 g秤量し、過酸化水素水 (H_2O_2)、塩酸 (HCl) の順に化学処理し、試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。自然沈降法で粘土分、傾斜法で砂分を除去した後、適量計り取りカバーガラス上に滴下、乾燥後、プリユラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（珪藻化石の少ない試料はこの限りではない）。この際の種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot (1986・1988・1991ab)、K.Krammer (1992) などの分類基準に基づく。また、産出した珪藻化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。

結果は、産出種をアルファベット順に並べた同定・計数結果の一覧表と主要珪藻化石の層位分布図として表示する。結果表では、産出種を海水-汽水-淡水生種に分類し、淡水生種については更に塩分・水素イオン濃度 (pH) ・流水に対する適応性について生態区分する。図中の海水-汽水-淡水生種の帯グラフと各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の帯グラフは淡水生種の合計を基数とした相対頻度で算出し、産出率3.0%以上を示す分類群についてのみ表示する。なお、堆積環境の解析に当たっては、安藤 (1990)、伊藤・堀内 (1991) の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

湿重約10 gの試料について、水酸化カリウム (10% KOH) 処理、篩別 ($250\mu m$)、重液分離 ($ZnBr_2$: 比重2.2)、フッ化水素 (HF) 処理、アセトリシス (無水酢酸9・濃硫酸1の混液) 処理の順に物理・化学的な処理を施して、花粉・孢子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入し、プレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら、出現する全ての種類について同定・計数を行う。

結果は、同定・計数結果の一覧表と花粉化石群集の層位分布図として示す。図中の出現率は木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除く数を基数として百分率で算出してある。複数の種類をハイフォンで結んだものは種類間の区別が困難なものである。

(3) 植物珪酸体分

湿重約3 gの試料について過酸化水素水 (H_2O_2) ・塩酸 (HCl) 処理、超音波処理 (70w, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム: 比重2.5) の

順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを適度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。プリウラックスで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下で全面を走査する。その間に、出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、同定・計数結果の一覧表と植物珪酸体群集の層位分布図として示す。図中の出現率は機動細胞珪酸体・短細胞珪酸体とも各々の珪酸体総数を基数として百分率で算出している。

3. 結果

(1) 珪藻化石

珪藻分析結果を表2・図42に示す。珪藻化石は試料番号7～5で少なく、試料番号4・3ではほとんど検出されない。全層準を通じて産出した珪藻化石は97分類群であり、全て淡水性種からなる。試料番号1・2・8では多産するが完形殻の出現率は40%前後と低い。

試料番号1・2・8の珪藻化石群集の生態性的特徴は、いずれの試料も類似し、塩類に対しては不定性種が優占、水素イオン濃度に対しては酸性・中性・アルカリ性種がほぼ同率、流水に対しては流水不定性種が高率を占め、次いで真・好流水性種が多産する。以下に層位別に各種群の産状を述べる。

試料番号8では陸生珪藻と水生珪藻の種群がほぼ同率で産出する。陸生珪藻では、*Pinnularia schroederii*、*Caloneis leptosoma*、*Diploneis yatukaensis*、*Hantzschia amphioxys*、水生珪藻では *Diploneis ovalis*、*Pinnularia viridis*、*Navicula elginensis* などが産出する。

試料番号2・1の各種群の産状は類似する。*Navicula elginensis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Diploneis ovalis*、*Gomphonema parvulum* が多産する。

なお、化石の少なかった試料番号7～5層準から産出する種群は、試料番号8・2・1層準から産出する種群とはほぼ同様の種群である。

(2) 花粉化石

結果を表3・図43に示す。花粉化石は試料番号1・2から良好に出現するが、試料番号8～3では少なく、検出される化石の保存状態は悪い。

試料番号1・2の花粉化石群集は類似し、総花粉・孢子の中で木本花粉が高率を占める。その中では、マツ属（単維管束亜属を含む）が卓越し、次いでトウヒ属が多産する。このほかモミ属・ツガ属・ハンノキ属などを伴う。草本花粉ではカヤツリグサ科、ヨモギ属などをわずかに伴う。

(3) 植物珪酸体

結果を表4・図44に示す。植物珪酸体は2・4以外の試料では比較的良好に出現するが、試料番号2・4では化石数が少ない。

植物珪酸体組成は、試料番号5と3、3と1の間の層準で変化する。試料番号8～5ではヨ

				1	2	3	4	5	7	8
[K]Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-	ak-il	r-ph	4	1	-	-	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V.Heurck	ind	al-bi	ind	1	2	-	-	-	-	-
[N]Aulacoseira distans (Ehr.)Simonsen	Ogh-	ao-il	hi	-	-	-	1	-	-	-
Aulacoseira sp.-1	ind	unk	unk	-	-	-	-	3	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Mereschkowsky	Ogh-	ak-il	r-ph	3	4	-	-	-	1	2
Caloneis lauta Carter & Bailey-Watts	hob	ind	ind	2	-	-	-	-	-	-
[B]Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-	ind	ind	3	5	-	-	-	1	9
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	unk	ak-il	ind	1	2	-	-	-	-	-
Caloneis tenuis (Greg.)Krammer	Ogh-	ak-il	ind	1	-	-	-	-	-	-
[·]Caloneis sp.-1	ind	unk	unk	9	4	-	-	-	1	1
Caloneis spp.	Ogh-	unk	unk	-	-	-	-	-	-	1
Cyclotella sp.	ind	unk	unk	-	-	1	-	-	-	-
##[O]Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-	ak-il	ind	-	-	-	-	-	1	1
Cymbella cuspidata Kuetzing	ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-
[O]Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-	ind	ind	1	1	-	-	-	-	-
Cymbella perpusilla A.Cleve	ind	ao-il	l-ph	1	1	-	-	-	-	-
##Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-	ind	ind	-	2	-	-	-	-	2
##[K]Cymbella sinuata Gregory	ind	ak-il	r-ph	1	-	-	1	-	1	-
Cymbella spp.	Ogh-	unk	unk	1	-	-	-	4	1	-
[A]Diploneis elliptica (Kuetz.)Cleve	nuk	ak-il	ind	-	-	-	-	-	-	1
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-	ak-il	ind	21	-	-	-	-	8	10
Diploneis parva Cleve	nuk	ind	ind	6	15	-	-	-	2	1
[·]Diploneis yatukenensis Horikawa et Okuno	Ogh-	ind	ind	3	1	-	-	1	2	7
Diploneis spp.	nuk	unk	unk	-	-	-	-	5	11	10
Eunotia bilunaris (Ehrenberg)Mills	Ogh-	ao-il	ind	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia curvata var. linearis (Okuno)H.kobayasi	ind	ao-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-
[P]Eunotia exigua (Breb.)Grunow	Ogh-	ao-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-
[A]Eunotia fallax A.Cleve	ind	ao-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia formica Ehrenberg	Ogh-	ao-il	hi	-	-	-	-	1	-	-
Eunotia gracilis (Ehr.)Rabenhorst	ind	ind	hi	-	-	-	-	-	-	-
[O]Eunotia monodon var. tropica Hustedt	Ogh-	ao-il	l-ph	1	5	-	-	-	-	-
[O]Eunotia pectinalis var.minor (Kuetz.)Rabenhorst	hob	ao-il	ind	18	-	-	-	7	1	1
[B][O]Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-	ao-il	ind	-	31	-	-	-	-	1
[·]Eunotia praerupta var. rupestris (Skv.)Ando	ind	ao-il	ind	-	-	-	-	-	-	5
Eunotia tenella (Grun.)Hustedt	Ogh-	ao-il	ind	2	1	-	-	-	-	-
Eunotia sp.	ind	unk	unk	1	-	1	-	1	-	-
Eunotia spp.	Ogh-	unk	unk	-	-	-	-	-	2	2
[O]Gomphonema acuminatum Ehrenberg	unk	ak-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-	ak-il	ind	-	-	-	-	5	1	-
Gomphonema angustatum var. linearis Hustedt	ind	ao-il	unk	-	15	-	-	-	-	-
##Gomphonema clevei Fricke	Ogh-	al-bi	r-ph	-	1	-	-	-	-	1
[O]Gomphonema gracile Ehrenberg	ind	al-bi	l-ph	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-	ak-il	ind	9	1	-	-	4	-	2
Gomphonema truncatum Ehrenberg	ind	ak-il	l-ph	-	18	-	-	-	-	1
Gomphonema spp.	Ogh-	unk	unk	-	-	-	-	5	-	2
[A]Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	ind	ak-il	ind	11	-	-	1	3	-	1
[A]Melosira rooseana Rabenhorst	Ogh-	ind	ind	-	14	-	-	-	-	-
##[K]Meridion circulae Agardh	unk	ak-il	r-bi	-	1	-	1	-	-	1
##[K]Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-	ak-il	r-bi	2	-	-	-	-	-	3
Navicula bacillum Ehrenberg	hob	ak-il	ind	1	8	-	-	-	-	-
##[A]Navicula contenta Grunow	Ogh-	ak-il	ind	3	-	-	-	1	-	-
[O]Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	hob	ak-il	r-ph	21	1	-	-	-	1	2
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-	ak-il	ind	3	13	-	-	-	-	-
##Navicula goeppertiana (Bleisch)H.L.Smith	hob	ak-il	ind	-	5	-	-	-	-	-
[·]Navicula hambergii Hustedt	Ogh-	ind	ind	2	1	-	-	-	-	-
Navicula cf. hilliardii Mangin	hob	ak-il	ind	4	1	-	-	-	-	-
[B]Navicula ignota Krasske	Ogh-	ind	ind	1	1	-	-	-	-	-
Navicula cf. laevisissima Kuetzing	hob	ao-il	ind	5	3	-	-	-	-	5
[·]Navicula lapidosa Krasske	Ogh-	ind	ind	1	3	-	-	-	-	-
#[A]Navicula mutica Kuetzing	hob	ind	ind	2	-	1	-	1	1	-
[·]Navicula placenta Ehrenberg	Ogh-	ind	ind	2	4	-	-	-	-	-
##Navicula pupula Kuetzing	hob	ak-il	ind	1	2	-	-	-	-	-
[·]Navicula tantula Hustedt	Ogh-	ak-il	ind	4	-	-	-	-	-	-
[·]Navicula tokyoensis H.Kobayasi	hob	ind	ind	-	-	-	-	-	-	1
Navicula sp.	Ogh-	unk	unk	2	-	-	-	-	-	-
Navicula spp.	hob	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-	ind	l-ph	1	-	-	-	-	-	2
[·]Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	hob	ao-il	ind	3	-	-	-	-	-	-

第2表 珪藻分析結果 (1)

				1	2	3	4	5	7	8
[B]Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-	al-il	ind			-	-	-	-	1
Nitzschia hantzschiana Rabenhorst	hil	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-
[B]Nitzschia nana Grunow	Ogh-	ind	ind			-	-	-	-	-
[O]Pinnularia acrosphaeria W.Smith	ind	al-il	l-ph	-	1	1	-	-	-	-
[B]Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-	ind	ind			-	-	-	-	-
[A]Pinnularia borealis Ehrenberg	ind	ind	ind	1	1	-	-	1	-	-
Pinnularia esoxiformis var. eifelana Kramer	Ogh-	ac-il	ind			-	-	-	-	-
Pinnularia hemiptera (Kuetz.)Cleve	ind	ind	ind	1	1	-	-	-	-	1
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-	ac-il	ind			-	-	1	-	4
#Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	hob	ac-il	ind	2	-	-	-	-	-	-
[O]Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-	ac-il	l-ph			-	-	-	-	-
[A]Pinnularia obscura krasske	ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-	ind	ind			-	-	-	1	4
[·]Pinnularia schroederii (Hust.)Kramer	hob	ind	ind	1	2	-	1	4	17	21
Pinnularia similis Hustedt	Ogh-	ind	ind			-	-	-	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	hob	ac-il	l-ph	6	1	-	-	-	-	2
[B]Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-	ind	ind			-	-	-	-	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia ueno Skvortzow	Ogh-	ac-il	l-ph			-	-	-	-	1
[O]Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	ind	ac-il	ind	2	3	-	-	1	-	3
Pinnularia sp.	Ogh-	unk	unk			-	-	-	-	2
Pinnularia spp.	hob	unk	unk	1	2	-	-	5	-	6
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Müller	Ogh-	al-bi	ind			-	-	2	7	9
Stauroneis acuta W.Smith	ind	al-il	l-ph	2	1	-	-	-	-	1
[B]Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-	ind	ind			-	-	-	-	-
Stauroneis sp.	ind	unk	unk	3	6	-	-	1	-	-
Suriella bohemica Maly	Ogh-	unk	unk			-	-	-	-	-
Marine Water Species				0						
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0

凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性

- Ogh-hil : 貧塩好塩性種
- Ogh-ind : 貧塩不定性種
- Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種
- Ogh-unk : 貧塩不明種

pH : 水素イオン濃度に対する適応性

- al-bi : 真アルカリ性種
- al-il : 好アルカリ性種
- ind : pH不定性種
- ac-il : 好酸性種
- ac-bi : 真酸性種
- unk : pH不明種

C.R. : 流水に対する適応性

- l-bi : 真止水性種
- l-ph : 好止水性種
- ind : 流水不定性種
- r-ph : 好流水性種
- r-bi : 真流水性種
- unk : 流水不明種

環境指標種群

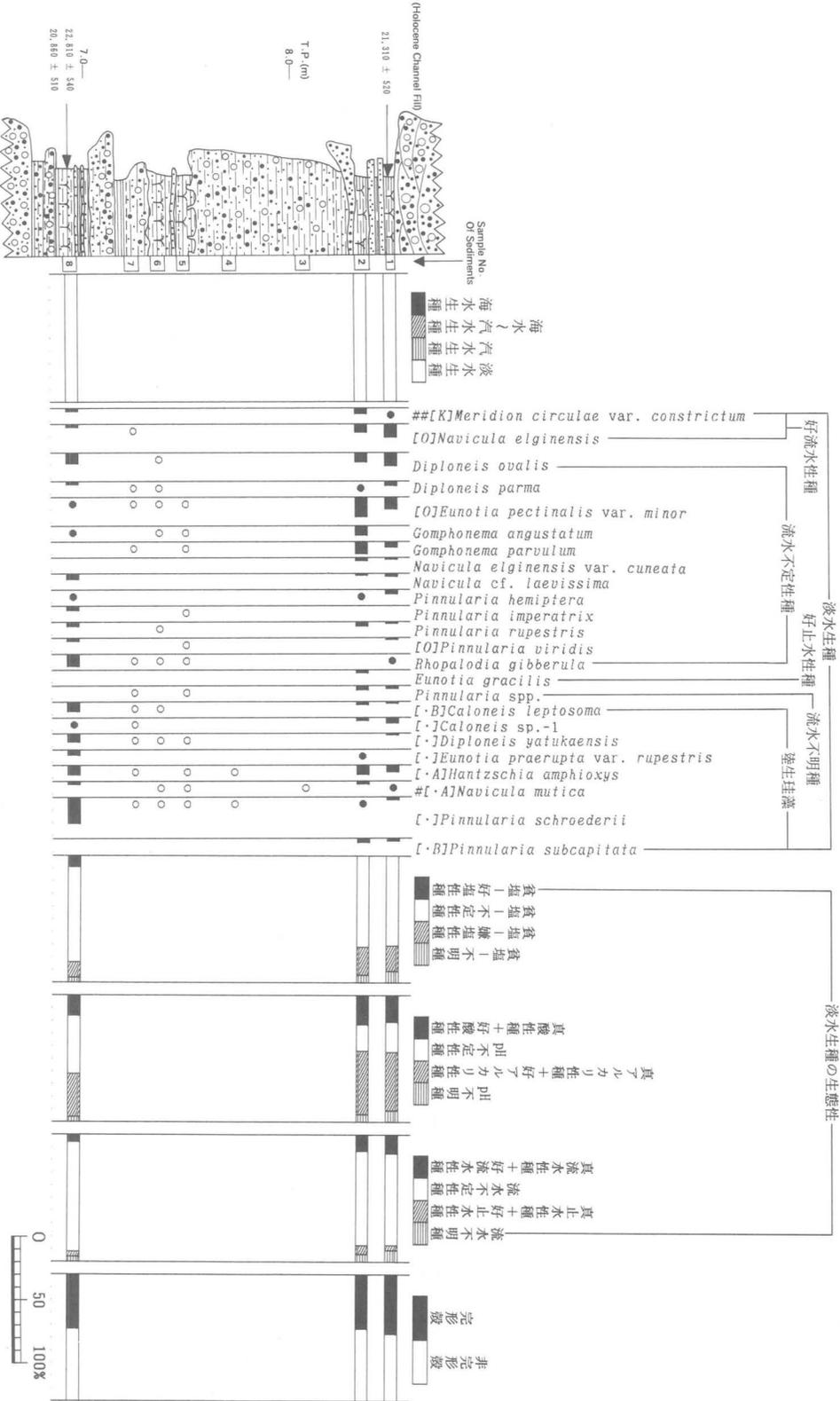
[K] : 中～下流性河川指標種, [N] : 湖沼沼沢湿地指標種, [O] : 沼沢湿地付着生種 (安藤, 1990)

: 好汚濁性種, ## : 好清水性種 (渡辺ほか, 1986)

[·] : 陸生珪藻 ([·A] : A群, [·B] : B群、伊藤・堀内, 1991)

第2表 珪藻分析結果 (2)

第42図 主要珪藻化石の層位分布



海水-汽水-淡水性種産出率、各種産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として算出した。
 いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお、●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出を示す。

環境指標種群: [K]:中〜下流性河川指標種 [O]:沼沢湿地付着性種 (安藤, 1990)
 #:好汚濁性種 ##:好清水性種 (渡辺ほか, 1988)
 [・]:陸生珪藻 [・A]:A群 [・B]:B群、伊藤・堀内, 1991

0 50 100%

種類(Taxa)	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8
木 本 花 粉		13	16	-	-	1	-	3	2
モミ属		28	10	-	-	1	1	4	-
トウヒ属		46	47	-	-	-	-	-	2
マツ属大単維管		57	52	-	-	-	-	-	-
マツ属(不明)		57	53	1	1	2	-	4	1
コウヤマキ属		2	-	-	-	-	-	-	-
スギ属		-	-	-	-	-	-	-	1
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		3	1	-	-	-	-	-	-
ヤナギ科		-	1	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属		-	1	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属		1	4	-	-	-	-	-	-
カバノキ属		1	7	1	-	1	1	2	-
ハンノキ属		13	38	1	-	-	-	8	-
ブナ属		-	1	-	-	-	-	-	2
コナラ属コナラ亜属		2	6	-	-	1	-	12	-
ニレ属-ケヤキ属		5	4	-	-	-	-	2	-
キハダ属		-	-	-	-	-	-	-	1
カエデ属		1	2	-	-	-	-	-	-
シナノキ属		2	2	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属		-	-	-	-	-	-	3	-

草 本 花 粉									
イネ科		-	1	-	-	2	-	-	1
カヤツリグサ科		9	7	-	-	-	-	3	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節		3	-	-	-	2	-	-	1
ナデシコ科		1	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属		-	1	-	-	1	-	1	3
キンポウゲ科		2	8	-	-	-	-	-	-
ワレモコウ属		-	2	-	-	-	1	-	1
セリ科		1	-	-	-	-	-	1	-
ヨモギ属		4	8	-	-	-	14	26	16
他のキク亜科		2	11	-	-	-	-	-	-

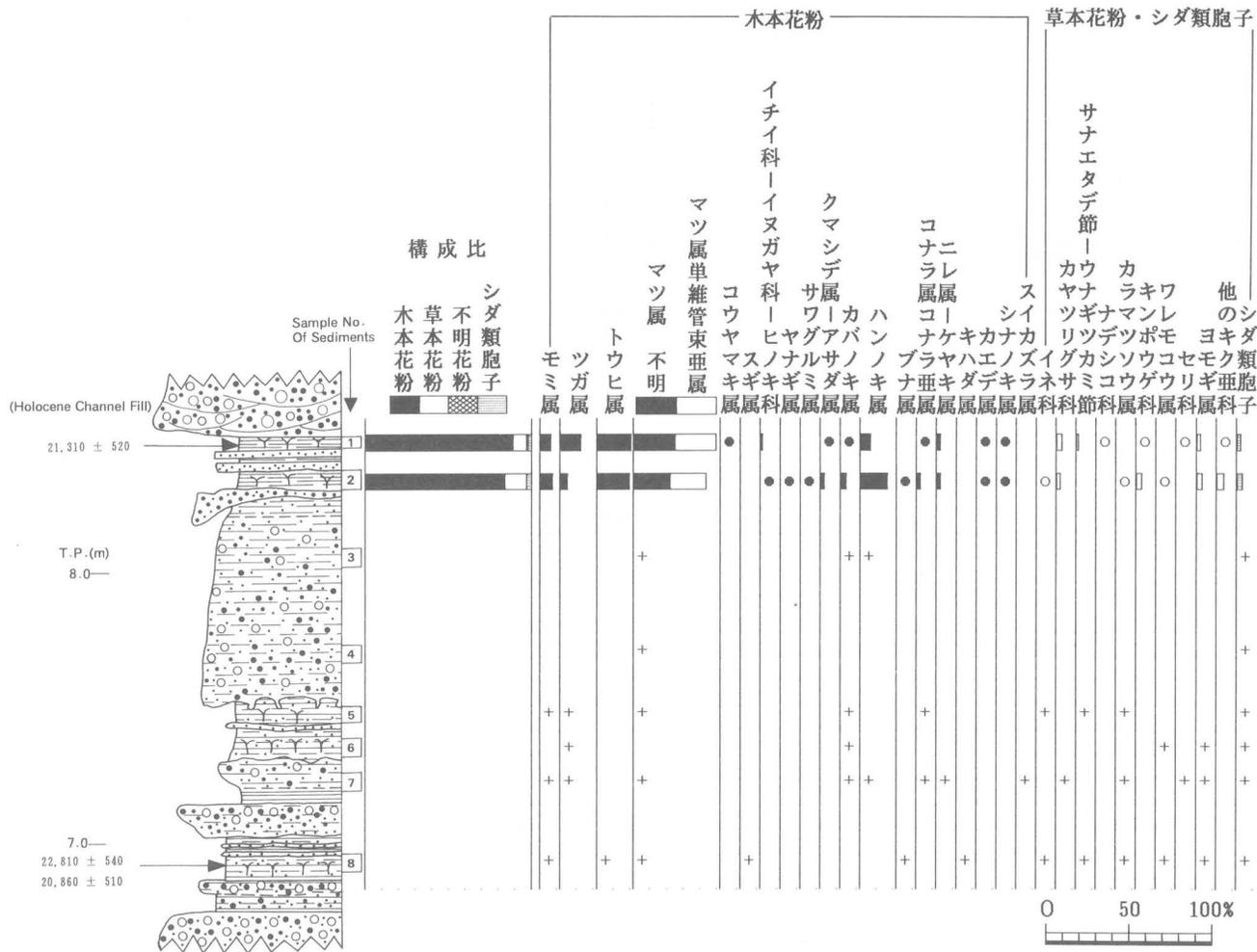
不明花粉		2	-	-	-	-	1	3	1

シ ダ 類 胞 子									
シダ類胞子		5	10	4	2	125	6	66	14

合 計									
木 本 花 粉		231	245	3	1	6	2	38	9
草 本 花 粉		22	38	0	0	5	15	31	22
不 明 花 粉		2	0	0	0	0	1	3	1
シ ダ 類 胞 子		5	10	4	2	125	6	66	14
総 花 粉 ・ 胞 子		260	293	7	3	136	24	138	46

第3表 花粉分析結果

第43図 花粉化石群集の層位分布



出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は花粉化石の保存が悪い試料における出現を示す。

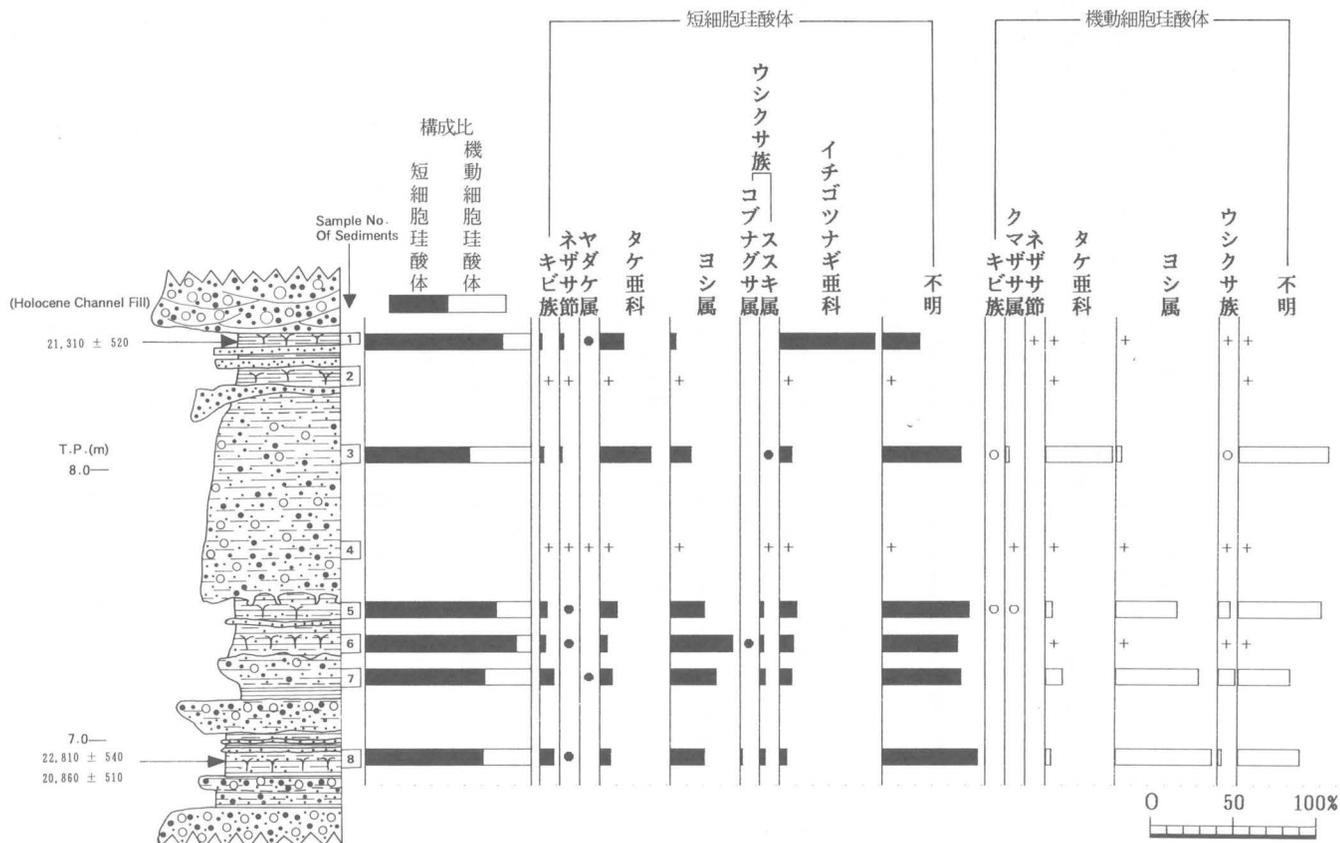
種 類(Taxa)	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科葉部短細胞珪酸体		3	2	5	10	15	9	21	19
キビ族		4	3	3	4	3	2	-	1
タケ亜科ネザサ節		1	-	-	2	-	-	1	-
タケ亜科ヤダケ属		31	11	68	31	39	13	19	15
タケ亜科		6	5	28	41	76	111	73	50
ヨシ属		-	-	-	-	-	2	-	3
ウシコサ族コブナグサ属		-	-	1	1	8	5	9	8
ウシコサ族ススキ属		127	26	15	10	38	24	19	11
イチゴツナギ亜科		22	5	32	33	88	63	45	57
不明キビ型		4	1	13	15	18	7	5	11
不明ダンチク型		23	21	44	58	87	66	76	74

イネ科葉身機動細胞珪酸体									
キビ族		-	-	1	-	1	-	-	-
タケ亜科クマザサ属		-	-	2	1	1	-	-	-
タケ亜科ネザサ節		1	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科		9	1	53	10	4	1	10	3
ヨシ属		1	-	4	5	37	8	52	59
ウシクサ族		1	-	1	2	7	1	10	2
不明		32	7	72	11	51	20	33	38

合計									
イネ科葉部短細胞珪酸体		221	74	209	205	302	302	268	249
イネ科葉身機動細胞珪酸体		44	8	133	29	30	30	105	102
検 出 個 数		265	82	342	234	332	332	373	351

第4表 植物珪酸体分析結果

第44図 植物珪酸体組成の層位分布



出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。
 なお、●○は1%未満、+は短細胞珪酸体総数が200未満、機動細胞珪酸体総数が100未満
 の試料から出現した種類を示す。

シ属が卓越し、タケ亜科、ウシクサ族（ススキ属を含む）などを伴う。試料番号3ではタケ亜科が増加し、ヨシ属は低率になる。試料番号1ではイチゴツナギ亜科が増加し、タケ亜科が低率になる。

4. 考察

(1) 堆積域の古環境

最下位の腐植質シルト層（試料番号8）からは、陸生珪藻と水生珪藻の種群がほぼ同率の割合で産出した。陸生珪藻の構成は、*Pinnularia schroederii*、*Caloneis leptosoma*、*Diploneis yatukaensis*、*Hantzschia amphioxys*といった種群からなる。このうち、*Hantzschia amphioxys*は、陸生珪藻の中でも特に耐乾性の強い種群（A群）とされる（伊藤・堀内，1990）。水生珪藻は、淡水域に広く分布している*Diploneis ovalis*、*Rhopalodia gibberula*のほか、沼沢湿地付着生種群（安藤，1990）の主要構成種である*Pinnularia viridis*、*Navicula elginensis*などから構成される。以上の特徴から、しばしば乾燥する沼沢～湿地のような堆積環境が推定される。また、本層からはヨシ属の植物珪酸体が高率に出現した。ヨシ属は湖沼・ため池・河川・水路から湿原まで、いたるところの水域や湿地に最も普通に生育する大型の抽水～湿生植物である。このことから堆積域にはヨシ属が繁茂していたことが推定される。

試料番号7～5の堆積物は、珪藻化石が少なかったことから堆積環境を推定するには充分ではないが、産出種群が試料番号8と同様な種群から構成されていることから、これらの層準も沼沢～湿地の環境下で堆積した可能性がある。また、ヨシ属の植物珪酸体が多産したことから、堆積域にはヨシ属が生育する場所が存在したことが推定される。

試料番号4・3の礫混じりシルト質砂層は、珪藻化石がほとんど産出しなかったので堆積環境について推定することは困難である。一方、植物珪酸体組成では卓越していたヨシ属が減少傾向を示し、タケ亜科が増加傾向を示した。一般にササ類・タケ類といったタケ亜科植物は乾いた場所に分布しており、当時の調査地点周辺にはそのような場所が存在した可能性がある。ただし、本層は層相から泥流や洪水などの一過性の堆積物である可能性があり、そうだとすれば堆積物中の植物珪酸体は異地性のもので、異なる場所・時期の植生を反映していることになる。このことは今後本層の分布状況やその成因に関する検討を行った上で再検討する必要がある。

試料番号2・1の腐植質堆積物は、珪藻化石群集において*Navicula elginensis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*といった沼沢湿地付着生種群の主要構成種が比較的多産したことから、沼沢～湿地の環境で堆積したことが推定される。また、植物珪酸体組成ではイチゴツナギ亜科が卓越した。イチゴツナギ亜科には湿地から乾燥した場所まであらゆる環境に生育する種を含み、そのほとんどが小型の植物である。また、植物珪酸体組成で本種類が卓越するが例は少なく、ここでの産状は局所的な植生を反映した結果である可能性が強い。そうだとすれば、イチゴツナギ亜科は過大評価されていることになり、当時はヨシ属やイチゴツナギ亜科などが生育して

いたと考えられる。

以上、述べてきたように沖積層下部層堆積域の古環境は、腐植質堆積物が堆積する頃は基本的には沼沢～湿地の環境であったと推定される。堆積域にはヨシ属やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物などが生育していたと推定される。上記したように調査を行った沖積層下部層の堆積速度は速かったと考えられるが、その間には腐植質堆積物が堆積する比較的静穏な時期もあったことになる。

(2) 森林植生

調査地点の沖積層下部層が堆積した頃の森林植生は、木本花粉化石群集の産状から次のように推定される。

木本花粉化石群集では、モミ属・ツガ属・トウヒ属・マツ属（単維管束亜属を含む）といった針葉樹の種類が卓越した。これら針葉樹の種類が当時の植生を構成する主要素であったと考えられる。また、ハンノキ属などの落葉広葉樹の種類も認められることから、落葉広葉樹の種類も当時の森林構成要素であったと考えられる。

このように最終氷期最盛期頃の植生は、トウヒ属・マツ属単維管束亜属などの針葉樹が卓越するものであったと推定される。これら針葉樹の種類は、現在では冷温帯～亜寒帯に分布の中心があることから、当時の調査地点の気候は現在より冷涼かつ乾燥していたことが示唆される。

最終氷期最盛期の植物相および植生に関する情報は、全国各地で得られており、各地域とも針葉樹の種類が卓越している。今回の結果は、このような各地域で得られている傾向と調和的といえる。

II. 弥生時代中期以降の大型植物化石の種類

1. 試料

試料は、弥生時代中期以降の堆積物から、発掘調査時にウォーターフローテーションによって拾い出された種実、木材、葉である。詳細については、同定結果とともに表5に示す。

2. 方法

(1) 材化石

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(2) 種実・葉同定

肉眼または双眼実体顕微鏡で試料を観察し、その形態的特徴から種類を同定する。

3. 結果

種実・葉・材の同定結果は、一覧表として表5に示す。以下に各部位別に検出された種類の形態学的特徴を記載する。

(1) 種実化石

a) 木本植物

・イヌガヤ (*Cephalotaxus Harringtonia* (Knight) K.Koch f.drupacea (Sieb. et Zucc.) Kitamura)

イヌガヤ科イヌガヤ属 種子

種子は黒色で長さ1.9cm、幅0.95cm、先端が尖った楕円形。表面はいぼ状でざらつく。種皮は薄く硬い。

・イヌシデ (*Carpinus tschonoskii* Maximowicz) カバノキ科クマシデ属 果実

果実は茶褐色。側面観は三角状卵形、上面観は両凸レンズ形。長さ3.5mm、幅3mm程度。やや弾力がある。表面には縦方向に8本程度の筋が存在する。

・クマシデ属 (*Carpinus* sp.) カバノキ科 果実

果実は茶褐色。側面観は三角状卵形、上面観は両凸レンズ形。長さ3.5mm、幅2.3mm程度。やや弾力がある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ブナ科 果実・殻斗

殻斗・果実は黒褐色。殻斗は大きさ1cm程度。鱗片は癒着して同心円状の輪のように見える。果実は、大きさ0.6~1.8cm程度。卵型で先端部は尖る。基部には、座についていた円形の部分がありざらつく。先端部には輪状の模様がある。

・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科 果実

果実は黒褐色、卵円形~楕円形で、大きさ1.7cm程度。殻斗を欠いた状態で検出され、他の特徴も不明瞭なためコナラ属と同定する。

・シイノキ属近似種 (*Castanopsis* sp.) ブナ科 種子

果実は黒褐色、長楕円形で、大きさ1.8cm程度。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* Planchon) ニレ科 核

核は黄褐色~灰褐色。側面観は広倒卵形、上面観は楕円形。長さ5.8mm、幅6.2mm程度。基部に白色の突起をもち、表面には微細な網目状の模様をもつ。核は硬い。

・アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Thunb.) Mueller-Arg.) トウダイグサ科 核

核は黒色。大きさは3.3mm程度、ややつぶれた球形。Y字型の小さなへそがあり、表面には小さな瘤状隆起がある。種皮は薄く硬い。

・ウメ (*Prunus mume* Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。褐色。大きさは1.5cm前後。核の形は楕円形で、やや扁平である。下端についてはややとがり、丸く大きな臍点がありへこんでいるが、上端については臍はなくとがっている。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面には、不規則な円形のくぼみが配列している。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属 核

核(内果皮)は褐色~黒色、大きさは1.9~3.1cmの楕円形。基部には丸く大きなへそがありへこんでおり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ、縫合線が顕著に見られる。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。完形モモ核の大きさの計測結果については表6に示す。

・スモモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科 核

核は茶褐色。側面観は楕円形、上面観は両凸レンズ形。長さ1.4cm、幅0.8cm程度、一側面には縫合線が発達し、底部に「へそ」が目立つ。表面には弱いしわ状構造が存在。核は厚く、硬い。

・クマノミズキ (*Cornus macrophylla* Wallich) ミズキ科ミズキ属 核

核は黒色、大きさは3.5mm程度。縦方向にややつぶれた球形。基部に丸いへそがある。表面には数本の縦方向に走る浅い溝がある。

・ハクウンボク (*Styrax Ovassia* Sieb. et Zicc.) エゴノキ科エゴノキ属

核が検出された。灰黒色。側面観は楕円形、上面観は円形。大きさは15mm程度。下端に大きな「へそ」があり、表面に3本の浅い溝がある。核は厚く硬い。

・エゴノキ属 (*Styrax* sp.) エゴノキ科

核は黒褐色、長さ1.6cm前後の楕円形。下端に大きなへそがあり、表面には3~6本の縦方向の浅い溝がある。種皮は厚く硬い。以上の特徴よりハクウンボクに近似する。

・マタタビ属 (*Actindia* sp.) マタタビ科 種子

種子は暗褐色~やや紫色を帯びる茶褐色。側面観は楕円形、上面観は両凸レンズ形。長さ1.6mm、幅1.2mm程度。表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く、硬い。

・カラスザンショウ属 (*Fagala* sp.) ミカン科

果実が検出された。黒褐色。大きさは4mm程度。楕円形。表面には粗い亀甲状の網目模様が見られる。

・ニワトコ (*Sambucus sieboldiana* Blume) スイカズラ科 種子

種子は淡褐色~黄褐色。側面観・上面観とも楕円形。長さ2.5mm、幅1.4mm程度。向軸面上端に小さな「へそ」があり、表面には全面にわたってしわ状構造が発達する。種皮はやや厚く、やや弾力がある。

b) 草本植物

・オモダカ属 (*Sagittaria* sp.) オモダカ科 果実

果実は淡茶褐色。側面観は倒卵形、上面観は扁平。長さ2.5mm、幅1.8mm程度。種子の周囲には翼が広がり、向軸側の上部はやや針状に尖る。果皮はやや厚く柔らかい。

・イネ (*Oryza sativa* Linne) イネ科 胚乳

胚乳は炭化し、黒色。側面観・上面観とも楕円形。長さ5.1mm、幅2.9mm程度。下端側方部には胚の脱落した部分があり、表面には縦方向の隆起が存在する。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* sp.) イネ科オオムギ属 胚乳

胚乳は炭化し、黒色。大きさは5.3mm程度、紡錘形で先端部は尖り基部は丸い。片面には1本の深い溝があり、その反対側の基部には胚の痕跡がありまるく窪む。

・ホタルイ属 (*Scirpus* sp.) カヤツリグサ科 果実

果実は黒色。側面観は広倒卵形、上面観は半円形に近い三陵形。長さ2.1mm、幅1.7mm程度。果実底部周囲より刺針を出す。果実表面は微細な縦方向の筋が認められる。果皮はやや厚く硬い。

・カヤツリグサ科 (*Cyperaceae* sp.) 果実

果実は黄褐色。側面観は楕円形、上面観は三陵形。長さ1.9mm、幅1.7mm程度。果実表面には縦長の網目模様状構造がある。

・タデ属 (*Polygonum* sp.) タデ科 果実

果実は黒色～暗赤褐色。側面観は両端が尖る卵形、上面観は三陵形。長さ2.5mm、幅1.8mm程度。果実の表面には明瞭で細かい網目模様状構造が認められるが、陵の部分はやや平滑となり、光沢がある。果皮は厚く硬い。

・タデ科 (*Polygonaceae* sp.)

果実が検出された。大きさは3mm程度。3陵形で、果皮は薄く堅い。表面はざらつく。

・ソバ属 (*Fagopyrum* sp.)

果実は黒灰色。側面観は両端が尖る楕円形、上面観は三陵形。長さ5.0mm、幅3.4mm程度。果実の表面には明瞭で細かい網目模様状構造が認められるが、陵の部分はやや平滑となり光沢がある。

・アカザ科ーヒユ科 (*Chenopodiaceae- Amaranthaceae* sp.)

種子は黒色で光沢がある。側面観は円形に近い腎形、上面観は両凸レンズ形。径2.9mm程度。表面には微細な網目模様があり、微凹凸をつくる。

・キイチゴ属 (*Rubus* sp.) バラ科 核

核は褐色。大きさは、縦軸1.8mm、横軸1.2mm程度。半月形で、一端に「へそ」が存在する。表面全体はあらい不規則な網目模様でおおわれ、網目の畝の部分は部分的にとぎれている。

・ノブドウ属 (*Ampelopsis* sp.) ブドウ科 種子

種子は暗灰黒色。側面観は倒心形、上面観は楕円形。長さ4.1mm、幅4.1mm程度。背面にさじ状の「へそ」があり、腹面には2つの細長い穴が縦方向に並ぶ。種皮は薄い硬い。

・シソ属 (*Perilla* sp.) シソ科 果実

果実は黄茶褐色。ほぼ球形。径1.5mm程度。表面には粗い網目模様状のわずかな隆起が存在する。向軸面下端に点状の「へそ」が存在する。果皮はやや厚く硬い。

・メナモミ属 (*Siegesbeckia* sp.) キク科 果実

果実は黒灰色。側面観は上端が切形の長半円形、上面観は4～5角形。長さ2.1mm、幅1.1mm程度。表面は微細斑紋状の凸部が密布する。

・ナス科 (Solanaceae sp.)

種子が検出された。腎臓形で、側面のくびれた部分に「へそ」があり、表面には「へそ」を中心として同心円状に網目模様が発達する。大きさは4mm程度。褐色。表面は柔らかい。網目模様はやや細かく、畝は波うっている。

・メハジキ属 (Leonurus sp.) シソ科

果実が検出された。褐色で大きさは2mm程度。側面観は倒卵形、上面観は扇形。大きさは2mm程度。頭部は丸みを帯びた切形。下端はやや偏平となる。表面はざらつき弾力がある

・カラスウリ (Trichosanthes cucumeroides (Ser.) Maxim.) ウリ科カラスウリ属

種子が検出された。黒色で長さは8mm程度。円筒形で中央に幅4mmの帯がとりまいている。

・メロン類 (Cucumis melo L.) ウリ科

種子が検出された。褐色で大きさは6mm程度。側面観は楕円形、上面観はやや偏平な楕円形。表面は比較的平滑。

(2) 葉

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.) ブナ科

葉は楕円形、長さ5~7.5cm程度。革質、上半部に数個の大型のきょ歯がある。表は光沢がある。中肋は幅狭く、目立たない。側脈は10~15対、真直に平行状に開出し、上半部のものはきょ歯頭に達する。側脈間の細脈は多数。

(3) 木材

・モミ属 (Abies sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は薄い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・マツ属複雑管束亜属 (Pinus subgen. Diploxyylon sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は急~やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は、単列、1~15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

第5表 種実・葉・材同定結果(1)

調査 回	試料 番号	R- 番号	地区名	遺構名	層名・遺構面	備考	時代性	種類(部位:個数)
第 1 回 調 査	1	780	2区	SE-05	①'層		12~14世紀	イネ(胚乳:1)、ナス科(種子:1) コナラ属コナラ亜属クヌギ節(材:7)、マツ属単維管束亜属(材:2)、イネ科タケ亜科(材:3)
	2	780	2区	SE-05	①'層		12~14世紀	ホタルイ属(果実:2)
	3	780	2区	SE-05	①'層		12~14世紀	ウメ(核:5)
	4	894	5区	SE-04	H層		12~14世紀	同定可能な植物遺体なし
	5	894	5区	SE-04	H層		12~14世紀	同定可能な植物遺体なし
	6	689	4区中央		第1砂層	その2	6世紀前半以降	モモ(核:1)
	7	690	1区東側		第1砂層直上礫		6世紀前半以降	モモ(核:5)
	8	818	5区中央		第1砂層		6世紀前半以降	同定可能な植物遺体なし
	9	740	5区		第1砂層		6世紀前半以降	ホタルイ属(果実:1)、タデ科(果実:1)、アサガ科(種子:1)、 メハジキ属(果実:1)、メロン類(種子:1)
	10	1118	3区北東		谷北岸部おちぎわ18層		6世紀前半以降	同定可能な植物遺体なし
	11	1119	3区西北		谷北岸部おちぎわ18層		6世紀前半以降	カナムグラ(種子:1)
	12	1106	2区サトレ				6世紀前半以降	アカガシ亜属(果実:1)
	13	965	2区サトレ北側		37層土器溜まり		6世紀前半以降	イネ(胚乳:2)
	14	1095	2区サトレセクション北	シガミ?		その3	弥生時代後期	アカガシ亜属(果実:14)、ノブドウ(種子:1)、タデ科(果実:1)
	15	1095	2区サトレセクション北	シガミ?		その3	弥生時代後期	タデ科(果実:6)
	16	1094	2区サトレセクション北	シガミ?			弥生時代後期	アカガシ亜属(果実:2)
	17	1094	2区サトレセクション北	シガミ?			弥生時代後期	タデ科(果実:10)
	18	1095	2区サトレセクション北	シガミ?		その1	弥生時代後期	アカガシ亜属(果実:12)
	19	1095	2区サトレセクション北	シガミ?		その2	弥生時代後期	アカガシ亜属(果実:8)
	20	1317	3区Gトレンチ以北		植物遺体層	その3	弥生時代後期	アカガシ亜属(果実:5)、ハクウンボク(核:1)
	21	1240	1・2区	SR-03	遺構内砂礫層		弥生中期中葉~後期	同定可能な植物遺体なし
	22	1291	4区	SR-03	Fトレ以南1層		弥生中期中葉~後期	同定可能な植物遺体なし
	23	1291	4区	SR-03	Fトレ以南1層		弥生中期中葉~後期	タマシテ属(種子:6)、アカガシ亜属(果実:13)、カラスザンショウ(核:2)、 ノブドウ(種子:1)、クマノミズキ(核:1)
49	1266		SE-04	K層	その1の②	12~14世紀	マメ科(種子:6)、カラスウリ(種子:1)	
50	1326	2区	SE-04	6層	その5・7・8	12~14世紀	同定可能な植物遺体なし	
51	1251	2区	SE-04	8層	その2	12~14世紀	同定可能な植物遺体なし	
第 2 回 調 査	1	1	A-北			攪乱確認調査	不明	モモ(核:1)
	2	20				試堀 堀削土内(2回目)	不明	モモ(核:破片1)
	3	37				試堀 堀削土内(2回目)	不明	モモ(核:破片1)
	4	46	北東部			薬注試堀	不明	モモ(核:破片1)
	5	83	1区西側	SK-01		SK-01検出中	不明	モモ(核:破片2)
	6	90	1区	SK-01	第1面	SK-01堀削中	12~15世紀	センダン(核:1)、不明(1)
	7	139	4区 北側			攪乱 堀削中		モモ(核:破片1)
	8	147	4区	SD-01		SD-01遺構検出中	12~13世紀	モモ(核:1)
	9	153	7区	SD-01		SE-01堀削中	12~15世紀	モモ(核:破片1)

第5表 種実・葉・材同定結果 (2)

調査 回	試料 番号	R- 番号	地区名	遺構名	層名・遺構面	備考	時代性	種類 (部位:個数)	
第 2 回 調 査	10	163	7区 S			遺構検出		モモ (核:破片1)	
	11	216	7区	SE-01	下層	SE-01	12~15世紀	モモ (核:破片1)	
	12	222	7区	SE-01		SE-01	12~15世紀	モモ (核:破片1)	
	13	244			第1面	堀削中	12~15世紀	モモ (核:破片1)	
	14	273	4区	SD-01		SD-01下3東側	12~13世紀	オモタガ族 (種子:3), ホタルイ族 (果実:1), メナモミ属 (果実:1)	
	15	274	6区	SE-02		SE-02	12~15世紀	モモ (核:破片1)	
	16	284	4区	SD-01		SD-01 カゴの一部	12~13世紀	カヤツリグサ科 (種子:1), ソバ (種子:1)	
	17	292	7区	SE-01		SE-01	12~15世紀	シソ属 (果実:1), 不明 (1)	
	18	356	2区			ガス管サブトレ南側堀削中	弥生後期~古墳初頭	モモ (核:2)	
	19	397	4区	SD-01	第4層	SD-01南北セクション内	12~13世紀	種類不明葉片	
	20	401	4区	SD-01	第4層	SD-01③南北セクション内	12~13世紀	ムクノキ (材)	
	21	422	4区	SD-01	下層第1面	SD-02東側	12~13世紀	モモ (核:1)	
	22	423	3区	SX-02		SX-02周辺	12~13世紀	モモ (核:破片1)	
	23	438	3区 南部西側			堀削中	12~13世紀	モモ (核:1)	
	24	439	6区 南部西側			堀削中	平安~中世	モモ (核:破片1)	
	25	442	6区 北部西側			堀削中	平安~中世	モモ (核:破片1)	
	26	444	4区 北側				平安~中世	モモ (核:1・破片1)	
	27	448	6区 北側			第1砂層直上粘土層	検出中	奈良~平安	モモ (核:破片5)
	28	462	3区			第1砂層	堀削中	古墳初頭	モモ (核:1)
	29	457	3区			中央下層 第1面	検出中	奈良~平安	モモ (核:1)
	30	492	5区 中央			砂層上面	その2	平安~中世	モモ (核:2), スモモ (核:1)
	31	511	5区 北側			第1砂層上層粘土層	堀削中	12~15世紀	モモ (核:破片2)
	32	522	3区 中央			第1面	その1	古墳~12世紀	モモ (核:3・破片3)
	33	529	4区	SD-01	第1面下層	SD-01 東側セクション	12~13世紀	不明 (1)	
	34	536	5区 北側			6層第1面下層		古墳~12世紀	モモ (核:3・破片2)
	35	542	5区	SD-02	6層	SD-02	12~13世紀	モモ (核:1)	
	36	561	2区			ガス管下古墳 I・II(TP11.3m付近)	弥生後期~古墳初頭	保存悪く同定不能	
	37	599	4区 中央			第1面下層		古墳~12世紀	モモ (核:破片1)
	38	609	5区 北西			第1砂層直上砂礫層	その2	奈良~平安	モモ (核:破片1)
	39	620	4区 北端			第1砂層直上細礫層	谷北岸部 その2	奈良~平安	種実遺体なし
	40	628	1区			第1細礫層直上層	セクション北側	奈良~平安	モモ (核:破片2)
	41	668	2区 南				谷北岸部	弥生後期~古墳初頭	モモ (核:3)
	42	679/	4区 西側			第1砂層直上粘土層⑤	その2	奈良~平安	モモ (核:1)
	43	688	1区 谷北岸部			第1砂層直上粘土層⑥		奈良~平安	スモモ (核:1)
	44	697	5区 北側			第1砂直上細礫層	その2	奈良~平安	モモ (核:破片1)
	45	699	1区 南端			第1砂直上細礫層		奈良~平安	モモ (核:1)
	46	700	4区 南側			第1砂層	堀削中	古墳初頭	モモ (核:破片1)
	47	715	3区 中央			第1砂層直上粘土層⑤	その2	奈良~平安	モモ (核:破片1)

第5表 種実・葉・材同定結果 (3)

調査 回	試料 番号	R- 番号	地区名	遺構名	層名・遺構面	備考	時代性	種類 (部位:個数)
第 2 回 調 査	48	750	3区 西側		第1砂層直上粘土層㊦	その2	奈良～平安	モモ (核:破片1)
	49	754	2区	SE-05		SE-05周辺 その2	弥生中期～後期	モモ (核:1)
	50	755	2区		第1層直上細礫層		奈良～平安	モモ (核:1)
	51	766	2区 南西		第1層直上細礫層		奈良～平安	モモ (核:1)
	52	777	1区 セクション北側		第1層直上?	谷北岸部	古墳初頭	イネ (胚乳:1)
	53	787	2区 南西		第1砂層直上粘土層㊦		古墳初頭	モモ (核:1)
	54	870	1区 セクション以南		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片1)
	55	887	5区		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片1)
	56	897	5区	SE-04	I層	SE-04 その2	12～15世紀	芽 (1)
	57	918	1区 南		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)
	58	930	2区 サブトレ中央		20層下	スクモ掘削中	弥生後期	アカガシ亜属 (果実:3・殻斗:3), コナラ属 (果実:破片3)
	59	936	2区サブトレセクション以北		スクモ層	掘削中	弥生後期	不明 (2)
	60	937	5区	SE-04	H・I層下層	SE-04	12～15世紀	虫えい
	61	942	3区 北西隅		第3面直上		古墳初頭?	スモモ (核:1)
	62	945	3区 北部西側		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片1)
	62	947	3区 中央		第3面	NTT・下水管 掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)
	64	960	2区 サブトレ南		20層以下 スクモ層		弥生後期	アカガシ亜属 (幼果:1)
	65	964	3区 西部北側		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片1)
	66	971	3区 西側南部		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)
	67	980	3区 北部		第3面 23層?	掘削中	奈良～平安	モモ (核:破片1)
	68	983	3区 北部西側		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片1)
	69	999	1区 南部サブトレ		20層直下スクモ層	掘削中	弥生後期	タデ属 (果実:9), マタタビ属 (種子:1), 不明 (1)
	70	1018	3区 北西			2区サブトレ 古墳と同層	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)
	71	1068	1区 南東		25層		弥生後期～古墳初頭	種実遺体なし
	72	1097	5区 セクション南側		41層以下中層	掘削中	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (幼果:1・殻斗:1:果実:2), コナラ属 (果実:破片2)
	73	1107	第2区 北セクション南側		41層	検出中	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (幼果:5), コナラ属 (果実:破片2), エゴノキ属 (種子:5)
	74	1126	第2区・第1区			Bトレンチ掘削中		エゴノキ属 (種子:1)
	75	1134	第2区		22層	Aトレンチ東壁 掘削中	平安～中世	モモ (核:破片3)
76	1135	第6区		第3面	掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)	
77	1147	第3区		19層	掘削中	弥生後期～古墳初頭	コナラ属 (種子)	
78	1149	第6区		17層	掘削中 その2	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:1)	
79	1159	第4区 中央		41層	検出中	弥生中期～後期	コナラ属 (果実:破片4), エゴノキ属 (種子:1)	
80	1160	第5区 西側中央		40層	掘削中	弥生後期	アカガシ亜属 (幼果:1)	
81	1161	第4区 中央		40層	掘削中	弥生後期	アカガシ亜属 (殻斗5, 幼果:1)	
82	1179	第5区 中央		41層	検出中	弥生後期	エゴノキ属 (種子:1)	
83	1215	第2区 Aトレンチ東壁		17層	北セクション北側 Eトレンチ掘削中	弥生後期～古墳初頭	アカガシ亜属 (幼果:6)	
84	1219	第2区 Aトレンチ東壁		17層	北セクション南側 Bトレンチ掘削中	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片3)	
85	1224	第2区 AトレンチEトレンチ		20層	東壁北側	弥生後期～古墳初頭	アカガシ亜属 (幼果:1・果実:1), エゴノキ属 (種子:2)	

第5表 種実・葉・材同定結果(4)

調査回	試料番号	R-番号	地区名	遺構名	層名・遺構面	備考	時代性	種類(部位:個数)	
第2 回 調 査	86	1227	第4区		19~41層	Y6ライン X=5.3杭柱 掘削中	弥生後期~古墳初頭	アカガシ亜属(果実:1・殻斗:1)、コナラ属(果実:破片3)	
	87	1246	第5区			SK-02 下部		モモ(核:破片1)	
	88	1250	第2区 北セクション	SR-05	41層以下	北側Fトレンチ掘削中	弥生中期	アカガシ亜属(果実:1)、種類不明の葉片多数	
	90	1254		SR-03		残土内 ほとんどSR-03内?	弥生中期~後期	モモ(核:1)	
	91	1257	第1区・2区	SR-03			弥生中期~後期	アカガシ亜属(幼果:1)	
	92	1260	第4区			検出中	弥生後期	タデ属(果実1・破片2)、芽2	
	93	1271	第4区 中央	SR-03			弥生中期~後期	イヌガヤ(種子:1)	
	94	1279	第2区 北セクション南側	SR-03		周辺 Bトレンチ掘削中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(幼果:17)、アカメガシワ(種子:1)、ヒサカキ(種子:3)、ニワトコ(種子:4) タデ属(果実:5)、アカザ科-ヒユ科(種子:1)、キイチゴ属(核:1)、芽(13)、不明(8)	
	95	1288	第4区・5区	SR-03		SR-03 Fトレ~Cトレ迄の間	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:1)、コナラ亜属(果実:破片3)	
	96	1294				残土内		アカガシ亜属(幼果:1)	
	97	1300	第3区 Gトレンチ西側			(谷北岸部) 掘削中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:15・幼果:6)、コナラ属(果実:破片10)、エゴノキ属(種子:1)	
	98	1301	第3区 Gトレンチ中央		41層以下	掘削中	弥生中期以前	アカガシ亜属(果実2・殻斗:1)、コナラ属(果実:破片2)	
	99	1302	第4区・5区	SR-03		SR-03 Fトレンチ以北	弥生後期	アカガシ亜属(果実:1・幼果:2)、コナラ属(果実:破片4)、スモモ(核:1)	
	100	1319	第2区	SE-05	7層	SE-05	12~15世紀	アカガシ亜属(幼果:1)、コナラ属(果実:破片1)	
	101	1322	第3区			Eトレンチ精査中	弥生中期以前	エゴノキ属(種子:破片1)	
	102	1323	第3区 Gトレ・Eトレの間		植物遺体層	掘削中	弥生中期以前	アカガシ亜属(果実:13・幼果:9)、コナラ属(果実:破片22)、エゴノキ属(種子:1)	
	103	1326	第2区	SE-05	6層	SE-05	12~15世紀	オオムギ(胚乳:1)	
	104	1330	第3区 北東	SR-03		スクモ砂礫層含む	掘削中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:5・幼果:4・殻斗:3)、コナラ属(果実:12) エゴノキ属(種子:2)、モモ(核:1)
	105	1333	第2区	SE-05	下層		12~15世紀	アカガシ亜属(幼果:1 材:2)	
	106	1334	第3区 Gトレ以西	SR-03	(上層、スクモ層)	掘削中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:4・幼果:3・殻斗:3)、コナラ属(果実:破片20)	
	107	1339	第3区 北側Gトレ以東	SR-03	砂礫層	埋土	弥生中期~後期	アカガシ亜属(殻斗:1)	
	108	1343	第3区		第1砂層より下~40層	X=23, Y=24 杭柱	弥生後期	アカガシ亜属(果実:1)、コナラ属(果実:破片3)	
	109	1344				残土内		アカガシ亜属(果実:4・幼果:11)、コナラ属(果実:破片1)、エゴノキ属(種子:2) ノブドウ属(種子:1)	
	110	1355	第3区 Gトレより東	SR-03		掘削中	弥生中期~後期	エゴノキ属(種子:2)	
111	1371	第1区~2区	SR-03			弥生中期~後期	アカガシ亜属(幼果:1)、コナラ属(果実:破片2)、クマノミズキ(核:1) タデ属(果実:1)、芽(9)、不明(1)		
112	1372	第1区~2区	SR-03			弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:1・殻斗:3・幼果:9)、コナラ属(果実:破片6)、ヒサカキ(種子:1) マタヒ属(種子:1)、ニワトコ属(種子:1)、アカザ科-ヒユ科(種子:1) カヤツリグサ科(種子:2)、タデ属(果実:5)、芽(9)、不明(7)		
113	1376	第4区 北端		19層~20層	谷北岸部	弥生後期~古墳初頭	ニワトコ(種子:1)、不明(2)		
114	1383	第5区		15層~22層	Aトレンチ東壁 掘削中	弥生後期~古墳初頭	モモ(核:1)		
115	1393	第5区 南セクション以北	SR-03	下層	掘削中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:1)		
116	1397	第2区		第2区	16層直上	古墳~中世	モモ(核:1)		
117	1404	第5区	SR-03	42層	南岸部分 検出中	弥生中期~後期	アカガシ亜属(果実:1)、コナラ属(果実:破片2)		
118	1432	第3区	SR-03	第4面	Gトレンチ以南	弥生中期~後期	アカガシ亜属(殻斗:1・幼果:7)、イヌシデ(種子:2)、芽(1)		

第5表 種実・葉・材同定結果 (5)

調査 回数	試料 番号	R- 番号	地区名	遺構名	層名・遺構面	備考	時代性	種類 (部位:個数)	
第 2 回 調 査	119	1443	第3区	SR-03	第4面	Bトレンチ以北	弥生中期～後期	クマシデ属 (果実:1), アカガシ亜属 (果実:10・幼果:24・穀斗:11), コナラ属 (果実:6) ヒサカキ (種子:1), タラノキ (種子:1), タデ属 (果実:6), キイチゴ属 (核:1) 芽 (18)	
	120	1443	第2区	SR-03		Bトレンチ掘削中	弥生中期～後期	コアンラ属 (果実:2)	
	121	1448		SR-05		SR-04下層 掘削中SE-01 西半	弥生中期	エゴノキ属 (種子:1)	
	122	1452	第5区 南ヶ丘以北			分	12～15世紀	エノキザサ近以種 (種子:1), カヤツリグサ科 (果実:1)	
	123	1455	第4区 中央	SR-03	41層下層 SR-03	X=10, Y=15杭柱 掘削中	弥生中期～後期	コナラ属 (種子:破片2)	
	124	1461	第2区 南ヶ丘以北	SR-04		SR-04 東肩	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (果実:1), コナラ属 (果実:3), 葉 (1)	
	125	1470	第2区		8層	Aトレンチ東壁 掘削中		モモ (核:破片1), エゴノキ属 (種子:1)	
	126	1469	第4区		23層	北ヶ丘以北Aトレンチ東壁掘削中		モモ (核:破片1)	
	127	1499	第3区 Gトレ以東		40層	谷南岸武検出中	奈良～平安	アカガシ亜属 (果実:1)	
	128	1514	第2区	SR-03		下層砂礫層	弥生後期	アカガシ亜属 (果実:6), コナラ属 (果実:6)	
	129	1586	第4区	SR-06		(上位スクモ層)	SR-03下層	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (幼果:6), コナラ属 (果実:1)
	130	1589				SR-05以下 Fトレンチ掘削中	弥生中期以前	アカガシ亜属 (果実:1)	
	131	1598	第3区 南ヶ丘北側	SR-03	41層	残土内	弥生中期以前	アカガシ亜属 (幼果:10・果実3), コナラ属 (果実:破片2), モモ (核:破片1)	
	132	1599	第3区 北端	SR-03		南岸部 掘削中		シノキ属近以種 (果実:1)	
	133	1625	第3区 北側	SR-03		下層 掘削中	弥生中期～後期	ムクノキ (核:1), アカガシ亜属 (果実:1)	
	134	1632	第4区 北側		41層	下層 掘削中	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (穀斗:1), コナラ属 (果実:破片3)	
	135	1648	第5区 南側		48層～42層		弥生中期～後期	不明 (1)	
	136	1653	第2区～5区		(砂礫層)	谷南岸部 検出中	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (幼果:1), (芽1)	
	137	1658	第1区 南側			下層流路内	弥生中期～後期	アカガシ亜属 (幼果:1), コナラ属 (果実:破片5)	
	138	1666	第1区		84層	SR-07以上SR-03以下	中世	アカガシ亜属 (幼果:1)	
139	1689	第5区		20層	谷北岸部 検出中	弥生後期	コナラ属 (果実:1)		
140	1695	第5区		84層	南ヶ丘 掘削中	弥生後期～古墳初頭	アカガシ亜属 (幼果:2)		
141	1701	第1区・2区				弥生後期	保存悪〈同定不能		
142	1705	第4区 Fトレ以南			SR-07以下 X=3,Y=8杭柱掘削中	弥生中期～後期	モモ (核:破片1)		
143	1716	第5区 南ヶ丘	SR-03	41層	SR-03埋土砂礫	弥生後期	アカガシ亜属 (幼果:22・穀斗:1・果実1), 芽 (1), 不明2, アカガシ亜属 (葉:)		
144	1717	第3区 北側		37層	谷北岸部 検出中	平安～中世	タラノキ (種子:1), ニワトコ (種子:1), アカザ科-ヒユ科 (種子:1), 不明 (1)		
145	1753	第2区 北ヶ丘		23層		奈良～平安	モモ (核:完形2)		
146	1754	第2区 北ヶ丘		22層	その2	平安～中世	モモ (形;破片7)		
147	1762	第3区 北側	SR-03	38層・37層	北岸部落ち際	弥生中期～後期	不明 (1)		
148	1773	第2区		34層	Aトレンチ東壁	弥生後期～古墳初頭	モモ (核:破片2)		
149	1790	第2区		37層以下	谷北岸部	弥生中期	マタタビ属 (種子:1), ニワトコ (種子:12)		
150	1843	第2区・3区 北側		37層		弥生中期以前	イネ (胚牛:1), 不明 (1)		

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

散孔材で横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～5細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状およびターミナル状。

・イネ科タケ亜科 (*Gramineae* subfam. *Bambusoideae* sp.)

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

4. 考察

(1) 各時期の植物遺体

弥生時代中期以降の堆積物から出土した種実・葉・材の各部位の植物遺体の種類は、全層準・全部位を合わせて、木本植物21種類、草本植物16種類に同定された。各時代の傾向について以下に述べる。

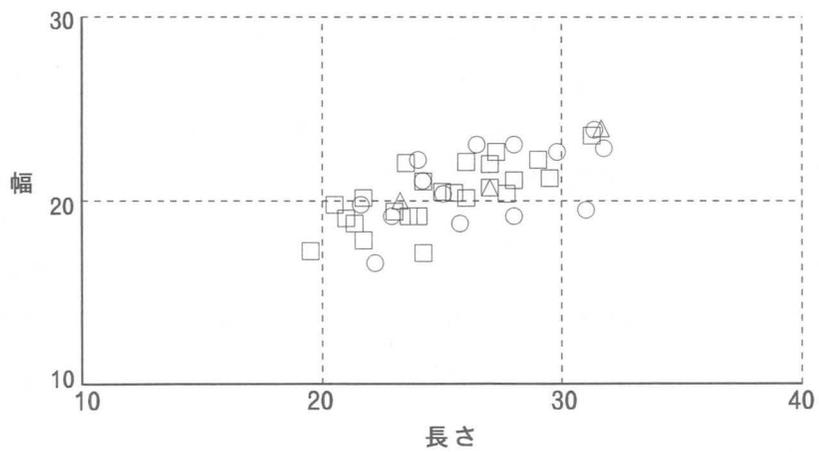
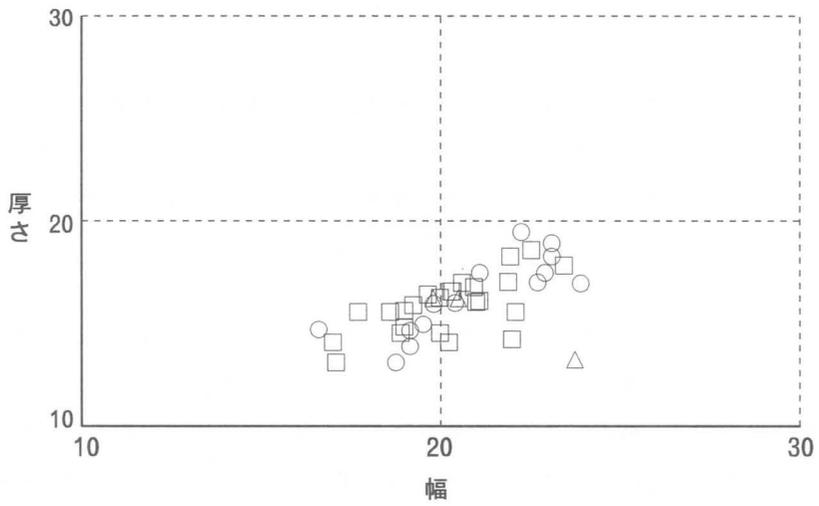
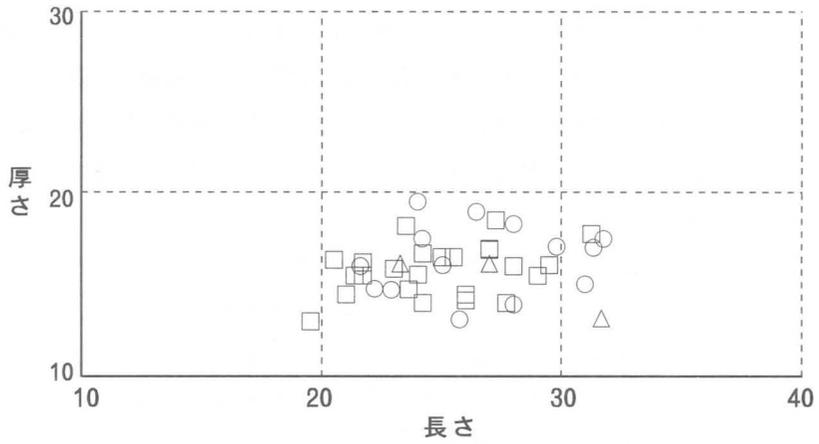
弥生時代中期以前から弥生時代後期の流路堆積物中から出土した植物遺体は、木本植物ではイヌガヤ、イヌシデ、クマシデ属、アカガシ亜属、コナラ属、シイノキ属近似種、ムクノキ、アカメガシワ、ヒサカキ、モモ、スモモ、マタタビ属、ハクウンボク、エゴノキ属、クマノミズキ、カラスザンショウ属、ニワトコ、草本植物ではイネ、タデ属、ノブドウ、マメ科、カラスウリが認められた。ほとんどが木本植物に由来するものであった。その中ではアカガシ亜属の果実が圧倒的に多かった。アカガシ亜属の果実は食用となることから、人間が利用していた可能性もあるが、出土した果実の多くが幼果であったことから、流路集水域に生育していた母植物に由来するものと考えられる。このほかの木本植物の種類も集水域周辺に生育していたものに由来すると考えられる。

本時期の植生については、16次調査区の植物化石群集の調査から、アカガシ亜属を中心とした照葉樹林であったことが推定されている(未公表)。その森林構成要素には、今回の調査で出土した種類が認められる。このことも今回の植物遺体が当時の植生の一部を反映していることを裏づける。また、出土種実のうち、モモ、スモモは食用として利用されていた可能性があり、栽培種のイネ属の存在は、本時期に周辺地域で稲作が行われていたことを示唆している。

弥時代生後期～古墳時代初頭頃の堆積物から出土した植物遺体は、木本植物ではアカガシ亜属、モモ、スモモ、ニワトコ、エゴノキ属、草本植物ではイネが認められた。前時期に比較して、木本植物のモモの出土数が増加し、多数出土したアカガシ亜属が減少する。また、種類構成も単調となっている。このような傾向は、16次調査区でも認められている。ここでは、植物化石群集において、木本植物化石が減少し、種類構成が単調となることなどから、調査地点近辺に成立していた森林が急激に衰退したことが推定されている。今回の結果もそのような植生変化と連動した変化の可能性が強い。また、この変化の原因としては、食用となるモモ核が多産するようになることから、調査地近辺における人間活動が活発になったことが考えられる。

調査回	試料番号	R-番号	時代性	大きさ			比率		
				長さ	幅	厚み	長さ/幅	幅/厚み	長さ/厚み
第1回調査	6	689	6世紀前半以降	20.10	15.45	13.50	1.30	1.14	1.49
	7	690	6世紀前半以降	25.15	22.45	17.10	1.12	1.31	1.47
	7	690	6世紀前半以降	24.70	18.65	15.15	1.32	1.23	1.63
	7	690	6世紀前半以降	24.15	19.15	14.60	1.26	1.31	1.65
	7	690	6世紀前半以降	21.30	19.90	15.70	1.07	1.27	1.36
	7	690	6世紀前半以降	23.15	19.15	15.85	1.21	1.21	1.46
第2回調査	1	1	不明	20.10	15.45	13.50	1.30	1.14	1.49
	8	147	12~13世紀	23.60	19.00	14.75	1.24	1.29	1.60
	15	274	12~15世紀	27.70	20.25	14.00	1.37	1.45	1.98
	18	356	弥生後期~古墳初頭	22.20	16.60	14.75	1.34	1.13	1.51
	18	356	弥生後期~古墳初頭	31.00	19.50	15.00	1.59	1.30	2.07
	21	422	12~13世紀	21.00	18.90	14.45	1.11	1.31	1.45
	23	438	平安~中世	27.25	22.55	18.50	1.21	1.22	1.47
	26	444	奈良~平安	21.35	18.60	15.50	1.15	1.20	1.38
	28	462	奈良~平安	29.50	21.10	16.05	1.40	1.31	1.84
	29	475	奈良~平安	23.50	21.95	18.20	1.07	1.21	1.29
	30	492	平安~中世	25.50	20.30	16.50	1.26	1.23	1.55
	30	492	平安~中世	31.25	23.45	17.75	1.33	1.32	1.76
	32	522	古墳~12世紀	19.50	17.10	13.00	1.14	1.32	1.50
	32	522	古墳~12世紀	27.00	20.60	16.90	1.31	1.22	1.60
	32	522	古墳~12世紀	29.00	22.10	15.50	1.31	1.43	1.87
	34	536	古墳~12世紀	21.70	20.00	16.20	1.09	1.23	1.34
	34	536	古墳~12世紀	26.00	20.00	14.45	1.30	1.38	1.80
	34	536	古墳~12世紀	28.00	21.00	16.00	1.33	1.31	1.75
	35	542	12~13世紀	24.00	19.00	15.55	1.26	1.22	1.54
	41	668	弥生後期~古墳初頭	24.00	22.25	19.50	1.08	1.14	1.23
	41	668	弥生後期~古墳初頭	24.20	21.10	17.50	1.15	1.21	1.38
	41	668	弥生後期~古墳初頭	26.45	23.10	18.95	1.15	1.22	1.40
	42	679	奈良~平安	24.20	20.95	16.70	1.16	1.25	1.45
	45	699	奈良~平安	27.00	21.90	16.95	1.23	1.29	1.59
	49	754	弥生中期~後期	27.00	20.50	16.00	1.32	1.28	1.69
	50	755	奈良~平安	26.00	22.00	14.15	1.18	1.55	1.84
	51	766	奈良~平安	20.50	19.65	16.35	1.04	1.20	1.25
	53	787	古墳初頭	28.00	23.10	18.30	1.21	1.26	1.53
	57	918	弥生後期~古墳初頭	21.60	19.80	16.00	1.09	1.24	1.35
	62	945	弥生後期~古墳初頭	22.90	19.15	14.70	1.20	1.30	1.56
	63	947	弥生後期~古墳初頭	25.05	20.40	16.05	1.23	1.27	1.56
	66	971	弥生後期~古墳初頭	31.35	23.90	17.00	1.31	1.41	1.84
	67	980	奈良~平安	21.70	17.70	15.50	1.23	1.14	1.40
	70	1018	弥生後期~古墳初頭	31.75	22.90	17.50	1.39	1.31	1.81
76	1135	弥生後期~古墳初頭	25.75	18.75	13.10	1.37	1.43	1.97	
78	1149	弥生後期~古墳初頭	28.00	19.15	13.90	1.46	1.38	2.01	
90	1254	弥生中期~後期	31.65	23.75	13.00	1.33	1.83	2.43	
104	1330	弥生中期~後期	23.25	19.80	16.00	1.17	1.24	1.45	
114	1383	弥生後期~古墳初頭	29.80	22.70	17.05	1.31	1.33	1.75	
116	1397	古墳~中世	25.00	20.35	16.50	1.23	1.23	1.52	
145	1753	奈良~平安	23.00	19.25	15.85	1.19	1.21	1.45	
145	1753	奈良~平安	24.20	17.00	14.00	1.42	1.21	1.73	
平均				25.51	20.40	15.88	1.25	1.28	1.60
標準偏差				3.36	1.99	1.61	0.12	0.12	0.25
変動係数				13.17	9.76	10.16	9.29	9.52	15.48

表6 モモの核の大きさ



(△：弥生，○：弥生後期～古墳初頭，□：奈良・平安以降)

第45図 モモの核の大きさの散布図

6世紀前半以降とされる堆積物の植物遺体は、木本植物ではアカガシ亜属・モモ、草本植物ではイネ・ホタルイ属・カナムグラ・タデ科・アカザ科・メハジキ属・メロン類が認められた。これらの種類のうち、モモ・イネ・メロン類は現在でも食用とされる種類であり、当時も食用として利用されていた可能性があり、その栽培が行われていた可能性も考えられる。また、出土種実の多くが人間と関わりの深い植物であることから、当時の植生は多少なりとも人間の影響を受けていたことが推定される。

奈良～平安時代から15世紀頃の堆積物から出土した植物遺体は、木本植物ではムクノキ、モモ、スモモ、センダン、タラノキ、ニワトコ、草本植物ではカヤツリグサ科、ホタルイ属、ソバ、アカザ科-ヒユ科、エノキグサ近似種、シソ、メナモミ属が認められた。この中ではモモの核数が圧倒的に多く、前時期に比較しても多い。また、草本植物の種類数および出土量も増加している。このような傾向は、草本植物遺体の中に栽培種のオオムギヤソバなどの雑穀類が認められたことから、調査地での人間の生業活動が以前にもまして活発になったことを示唆している。

12～14世紀の井戸堆積物の出土種実には、木本植物のマツ属複維管束亜属・ウメ・コナラ亜属クヌギ節・イネ科タケ亜科、草本植物のイネ・ホタルイ属・マメ科・ナス科・カラスウリに同定された。このうち、ウメ・イネは食用となる種類であり、井戸内堆積物からの出土であることから、当時の人間に利用されていたことが推定される。

(2) モモ核の形態について

今回の調査地点では、モモの核が多数出土した。モモの核については、その形態分類に関する研究が古くから行われてきた。最近の報告では、奈良県布留遺跡の試料からモモ核の形態分類と変遷が編まれており、形態によって出現時期が限られている傾向があることが指摘されている（金原ほか，1992）。本遺跡の西側に隣接する鬼虎川遺跡では、異なる形態的特徴をもつ2種類のタイプ（A・Bタイプ）が認められている（未公表）。また、その形態的特徴と出現時期の傾向は、金原（1992）の傾向と調和的であり、モモ核の形態分類および変遷が畿内の広い範囲で同じように見られた可能性が指摘されている（未公表）。今回の調査では、形態の一つである大きさ（長さ・幅・厚さ）について測定し（表6）、時期別変化が認められるかについて検討を試みた。モモ核の大きさの時期別散布図を図5に示す。図からも判るように、モモ核の大きさの傾向は、時期別に大きな違いは認められなかった。このことは今回出土したモモ核は同様な形態的特徴をもつタイプとみなせる。ただし、金原（1992）が指摘している形態的特徴には、大きさ以外にモモ核の表面模様や外観なども含まれており、今後は、それらの形態的特徴についても観察を行い、総合的に評価することが課題として残される。

Ⅲ. 木製品の樹種

1. 試料

試料は、各遺構から出土した木製品など8点（No.3～No.10）である。各試料の詳細について

は、樹種同定結果とともに表7に示した。

2. 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結果

同定結果を表7に示す。木製品などの内、No.3とNo.9については、切片の作製ができず、不明とした。その他の試料は、針葉樹2種類（マツ属複維管束亜属・ヒノキ属）、広葉樹3種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ）とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

番号	製品名	時代・時期	樹種名
3	横櫓	13世紀	不明
4	加工木（建築部材?）	弥生時代後期	コナラ属アカガシ亜属
5	加工木（建築部材?）	弥生時代後期	クリ
6	加工木（建築部材?）	弥生時代後期	クリ
7	加工木（建築部材?）	弥生時代後期	コナラ属アカガシ亜属
8	曲物（側板）	15世紀	ヒノキ属
9	曲物（底板）	15世紀	不明
10	倒木（加工痕有り）	弥生時代後期	コナラ属アカガシ亜属

第7表 木製品の樹種同定結果

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ブナ科

放射孔材で、道管は単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

4. 考察

出土した木製品は、横櫓と曲物（底板）が樹種の同定に至らなかった。建築部材の可能性のある加工木には、アカガシ亜属とクリが認められた。両種とも強度の高い木材であり、建築部材の可能性と矛盾しない。

曲物（側板）はヒノキ属であった。同様の例は各地で確認され、時代・地域・植生等に関係なく同様の用材選択が行われていたことがうかがえる。

なお、井戸（SE-05）の種実試料中からは木材が検出され、クヌギ節・複維管束亜属・タケ亜科が確認された。このうち、複維管束亜属とタケ亜科については、井戸材として使用されることがあり、井戸材の一部が井戸中に剥落した可能性がある。また最も多いクヌギ節は、集落周辺等で多く見られる樹種であることから、周辺に生育していた樹木が何らかの要因で井戸中に堆積した可能性がある。また、強度を必要とする木製品にもよく利用されており、木製品の一部の可能性もある。

<引用文献>

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理 42,p.73-88.

Hustedt, F.(1937-1939)Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen- Flora von Java, Bali und Sumatra Nach dem Material der Deutschen limnologischen Sunda-Expedition. Teil I ~ III, Band.15,p.131-506,Band.16,p.1-155,274-394.

金原正明・粉川昭平・太田三喜（1992）モモ核を中心とする古代有用植物の変遷. 日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集, p.76-77.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26.p.1-353. BERLIN・STUTTGART.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 Diatom, 6, p.23-45.

Lowe, R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. 334p. In Environmental Monitoring Ser. EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.

渡辺仁治・山田妥恵子・浅井一視（1988）珪藻群集による有機汚濁指数（DAI_{po}）の止水域への適用. 水質汚濁研究 11,no.12,p.765-773.

VI まとめ

西ノ辻遺跡第33次発掘調査では以上のような資料を得ることができた。以下に調査の成果と今後の課題を述べ、まとめにかえたい。

室町時代～鎌倉時代

当期の遺構には5基の井戸・土壇・溝状・集石・会所状遺構などがある。後世の削平により遺構本来の形が失われているものが多く、機能・用途など性格の不明な遺構がある。しかし、遺物の遺存状態は良好で、完形の遺物も多く出土した。中でも、井戸からは完形の土器を含む多くの遺物が出土し、井戸4からは「蘇民将来」札や包丁が完形の皿とともに出土し、中世の井戸祭祀の一端を示す資料として挙げるができる。西ノ辻遺跡周辺部では比較的「蘇民将来」札は出土していることから、「蘇民将来」札と思想が中世祭祀に大きな役割を果たしていたものと考えられる。

また井戸の中には非常に多くの遺物を埋蔵する井戸とほとんど遺物の入らない井戸が存在することから、井戸の終焉にも何らかの形が存在するものと思われるが、今回は問題提起にとどめ、井戸祭祀については稿を改めたい。

古墳時代

当期の遺構は人や動物の踏み込みと流路1の南北の肩である。流路1の北岸部分では主に5世紀末から6世紀初頭の遺物が群集して出土した土器溜りを検出した。

この土器溜りからは須恵器や土師器が多量に出土したが、蓋が存在し口径37cmを超え、最大径は41.4cmをはかる上部と、25cmの底径で13cmの脚部がついた不思議な形をした須恵器も同時に出土した（拙稿「西ノ辻遺跡の変わった須恵器」東大阪市文化財協会ニュースVol6-4参照）。

出土した遺物は一般に古墳に供献されるものも含まれることから、周辺に古墳の存在を推定できる。しかしこの時期の古墳はこの周辺では現在までに確認されていない。また流路の南岸部分ではほとんどこの時期の遺物は検出していないことから人間の生活範囲は、流路の北岸部以北に広がっていたものとおもわれる。

弥生時代

当期の遺構は流路6本と中期の土器溜りを検出した。流路は主に弥生時代中期の短期間に埋没と開析を繰り返し谷を形成していったものであることがわかった。古墳時代同様、流路の北岸部からはトレンチ中央から東端にかけて広がる土器溜りを検出し多くの遺物が出土したが、南岸部にはみられなかった。

南岸部では土器溜りは見られなかったものの、遺物の堆積する方向に片寄りが見られなかったことから、弥生時代中期については流路による生活範囲の限定はなかったものと思われるが、中期後葉から後期にかけてはやはり遺物の出土は北岸部に片寄る傾向が見られる。

本調査区は当初の推測とは若干流路（谷筋）の方向が違うものの、トレンチのほとんどが流路であったことから、周辺部で検出している様な生活にともなう遺構の検出は各時代を通じてほとんどなかった。よって今回の調査では、西ノ辻遺跡の古環境復元には資料を供したが、西ノ辻集落の実態に迫るまでには至らなかった。

神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡の各遺跡は調査件数は比較的多いものの、大きな範囲で連続的に調査を行ったものは、308号線関連・阪神高速道路関連とこの第二阪奈有料道路関連の調査だけであり、東西にはほぼその広がり押えかけてはいるが、南北方向にはその広がりを掴みきれていないのが実態であり、同時に各遺跡の本質はほとんど解明されていない。今回の調査成果を含め従前の調査成果を一つの足掛りとして、これらの遺跡の本質を解明してゆくことを今後の課題として今回の報告の最後にかえる。

報告No 押印No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ	ヨコナデ の後ミガ キ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ 端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ			
1 17 18 145	第5北 第1面		瓦器	椀	14.4				ヨコナデ の後ミガ キ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ 端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	ヨコナデ	外：2.5Y5/1黄灰色 内：N5/灰色 1.5mm石英、2mm長石、角閃石	完形 全面に指紋明瞭
2 17 18 146	2区第1 面		瓦器	椀	13.4				ヨコナデ の後ユビ オサエ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ 端部沈線	不定方向 のナデの 後縁線ミ ガキ	ヨコナデ	外：10Y6/1灰色 内：N7/ 灰白色 長石	3/4完形	
3 17 18 153	2区第1 面		土師器	小皿	9.1				ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	仕上げナ デ	外：10YR8/3浅黄橙色 内：10YR8/3浅黄橙色 雲母、長石、1mm角閃石	ほぼ完形	
4 17 18 153	第1面		土師器	小皿	9.5				ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エの後ナ デ	ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	外：2.5Y7/3浅黄色 内：2.5Y8/3淡黄色 雲母、長石	楕円形 短径：8.3 3/4完形	
5 17 18 156	第1面		瓦器	播り鉢						ユビオサ エ	未調整		ヨコナデ の後8本 /1.2cmの ヨコナデ 播目	不定方向 のナデ	外：N4/灰色 内：N8/灰 白色 3mm長石	内面磨減激しい	
6 17 18 128	第1面		瓦器	小皿	12.8				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ の後暗文 ミガキ	ヨコナデ の後暗文 ミガキ		外：2.5Y8/1灰白色 内：2.5Y8/1灰白色 密、長石	反転作図 全面炭素の吸着がない	
7 7 19 73	1層	井戸1	瓦器	小皿	12.8				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ の後暗文		外：N3/暗灰色 内：N5/ 灰色 密、長石	反転作図	
8 7 19 72	1層	井戸1	瓦器	小皿	6.0				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ		10YR7/3にぶい黄橙色 長石、石英	反転作図	
9 7 19 75	1層	井戸1	土師器	小皿	8.8				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ		外：5YR7/4にぶい橙色 内：5YR7/4にぶい橙色 長石、雲母	反転作図	
10 7 19 74	1層	井戸1	土師器	播り鉢	32.2				ヨコナデ	ユビオサ エの後ヘ ラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ の後播目 (7本/6cm) 煤付着		外：7.5Y6/1灰色 内：7.5Y6/1灰色 2mm長石、1.5mmチャート、石英、雲母	反転作図 二次焼成を受ける	
11 7 19 83		井戸1	瓦器	香爐							ナデ 高 台ナデツ ケ			ケズリ	外：5Y6/1灰色 内：N4/ 灰色 4mm長石、2mm石英、角 閃石		
12 7 19 115	6層	井戸1	磁器	青磁椀	12.7				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ		5G7/1明緑灰色 密、長石	器面に最大3mmの孔有 反転作図	
13 7 19 78	6層内	井戸1	瓦器	鉢	21.5				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ 剥離著し い		外：5Y3/1オリーフ黒色 内：N4/灰色 3mm長石、石英、角閃石	反転作図 全面に指紋明瞭に残る磨減激しく表面剥離する	
14 7 19 81		井戸1	瓦器	火舎	43.0				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ		N5/灰色 長石、石英	反転作図	
15 7 19 86		井戸1	土師器	甕	16.6				ヨコナデ 付け根部 分ハケ目			ヨコナデ の後ハケ 目(6条1 単位)			外：2.5Y6/3にぶい黄色 内：2.5Y6/3にぶい黄色 2mm長石、角閃石、石英、雲母	反転作図	

第8表

報告No 押図No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴					色 調		備 考
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土	
16 7 19 80		井戸1	土師器	羽釜	18.85	26.35			ヨコナデ ユビオサ エ一部指 着	ユビオサ エ 煤付 着		ユビオサ エ 全面に 指紋明瞭	ユビオサ エ		外：2.5Y8/3淡黄色 内： 2.5Y8/2灰白色 2mm長石、石英、角閃石	反転作図
17 7 19 82		井戸1	瓦器	短頸壺	14.1				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ユビオサ エの後ヨ コナデ		外：N7.5/黒色 内：N4/ 灰色 長石、石英	反転作図
18 8 20 91	5層	井戸2	瓦器	火舎	25.0				ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ユビオサ エの後ヨ コナデ剥 離激しい		外：5YR8/3淡橙色 内： N3/暗灰色 長石、石英	反転作図 二次焼 成を受ける
19 8 20 84		井戸2	瓦器	火舎	32.2	33.4			ヨコナデ	ユビオサ エの後縦 方向のナ デ		ユビオサ エの後ヨ コナデ	ユビオサ エの後ヨ コナデ		外：N4/灰色 内：N6/灰 色 長石、石英	反転作図
20 8 20 118	6層	井戸2	磁器	椀		5.2			ヨコナデ 沈線	ヘラケズ リ高台部 ヘラケズ リ沈線		ヨコナデ 釉薬有	ヨコナデ 釉薬有		外：10Y8/1灰白色 内： 10Y8/2灰白色 やや粗、1mm長石	白磁椀
21 8 20 127	5層	井戸2	陶器	甕	39.8				ヨコナデ 付け根部 分縦方向 のナデ	不定方向 のナデ		ヨコナデ	イタナデ		外：10R4/3赤褐色 内： 2.5YR6/6橙色 6mm長石、3mm石英、雲 母	
22 8 20 129	6層下	井戸2	瓦器	播り鉢		9.2				ユビオサ エの後縦 方向のハ テ		ユビオサ エ	ヨコナデ の後播目 (8本/2cm)	ヨコナデ 中心に向 けてのナ デ	外：N5/灰色 内：N4/灰 色 長石、石英	
23 8 21 120	6層	井戸2	陶器	用途不明陶質 土器 花器?	11.2	9.0									5YR7/4にぶい橙色 6mm石英、4mm長石、 6mm角閃石、雲母	外面ユビオサエ 内面ヘラケズリ 口縁端部はヘラケ ズリ
24 9 22 247		井戸2	木製品	曲物底板		14.9		0.65								完形 木釘穴有 ヒノキ
25 9 22 248		井戸2	木製品	曲物底板		14.9		0.58								完形 木釘穴有 煤付着 ヒノキ
26 9 22 245		井戸2	木製品	曲物底板		15.7		0.5~ 0.6								完形 木釘穴有 ヒノキ
27 9 23 246		井戸2	木製品	曲物底板		15.12		0.65								完形 木釘穴(木 釘残存する) ヒノキ
28 9 23 126		井戸2	磁器	椀		5.8				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	10Y5/2オリープ灰色 緻密、雲母	青磁椀
29 9 23 112		井戸2	瓦	丸瓦											2.5Y5/2暗灰黄色 5mm長石、石英	巴文軒丸瓦 瓦当 復元径15.2
30 9 23 94		井戸2	瓦	平瓦											10YR4/1褐灰色 2mm長石、石英	表面一部布目残る

第8表

報告No 挿入No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法量				特徴						色調		備考		
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎土				
					底径	器高	幅	重さ											
31 8 24 85	6層	井戸2	瓦器	火舎	31.2					ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ユビオサエの後縦方向のナデ		N3/暗灰色	反転作図		
																密、長石			
32 9 24 90		井戸2	瓦器	播り鉢	34.6					ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデの後播目(7本/1.9cm)		外：7.5Y6/灰色 内：N8/灰白色	反転作図 内面磨減激しい		
																		長石、石英、雲母	
33 8 24 87	6層	井戸2	瓦器	播り鉢	23.6	25.2				剥離が激しく調整不明	剥離が激しく調整不明		剥離が激しく調整不明	剥離が激しく調整不明 播目有		外：5Y8/2灰白色 内：N5Y灰色	二次焼成を受ける		
																			長石、石英
34 8 24 130	6層	井戸2	瓦器	播り鉢	48.2					ヨコナデ	横方向のハケ目 縦方向のハケ目 ユビオサエ		ヨコナデ	ヨコナデの後播目(7本/2.7cm)		外：N7/灰白色 内：N5/灰色	反転作図		
																		密、長石	
35 9 25 89		井戸2	瓦器	播り鉢	31.4					ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデの後播目(8本/1.6cm)		外：N6/灰色 内：N7/灰白色	反転作図		
																		4mm長石、石英、若干雲母	
36 9 25 88		井戸2	瓦器	羽釜	20.0					ヨコナデ	ヨコナデ	ハケ目調整	ハケ目調整			外：N4/灰色 内：7.5Y7/1明褐色	穿孔の穴は貫通していない		
																		2mmチャート、2mm長石、石英	
37 9 25 92		井戸2	瓦器	三足		2.5										外：7.5Y4/1灰色 内：10YR7/1灰白色	ケズリ 炭素の吸着悪い 脚部		
																			2mm長石、雲母
38 9 25 93		井戸2	瓦器	甕	42.9					ヨコナデ	タタキ		ヨコナデ	横方向のハケ目		5B2/1青黒色	反転作図		
																		長石、石英	
39 25 119		井戸2	須恵器	壺		7.0									ヨコナデ	N7/灰白色			
																			長石、石英
40 10 26 98		井戸4	瓦器	皿	11.0					ヨコナデ	ユビオサエ	高台部ヨコナデつけ	ヨコナデ	仕上げナデ ラセン状暗文		N6/灰色 端部は色が濃い			
																		雲母、長石	
41 10 26 102		井戸4	瓦器	小皿	11.0	11.5				ヨコナデ	ユビオサエ	ヨコナデ	ヨコナデ	不定方向のナデ	不定方向のナデ	外：7.5Y4/1灰色 内：N3/暗灰色	完形		
																			角閃石、1mm石英、2mm長石
42 10 27 121		井戸4	瓦器	椀	11.0					ヨコナデ	ユビオサエ	ユビオサエ	ヨコナデ	不定方向のナデの後暗文	不定方向のナデの後暗文	外：N8/灰白色 内：N3/暗灰色	灯明皿		
																		2mm長石	
43 10 27 111		井戸4	瓦器	小皿	12.4					ヨコナデ	ユビオサエ	ユビオサエ	ヨコナデ	縦方向のナデの後ラセン状暗文	縦方向のナデの後ラセン状暗文	外：5Y7/1灰白色 内：7.5Y8/1灰白色	反転作図 外面、内面共に全く炭素の吸着見られない		
																		5mm石英、長石	
44 10 27 100		井戸4	瓦器	小皿	10.8	11.05				ヨコナデ	ユビオサエ	ユビオサエ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの後仕上げナデ	外：N5/灰色 内N6/灰色	完形		
																			2mm長石、石英、角閃石
45 10 27 97		井戸4	瓦器	小皿	10.0					ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサエ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N4/灰色 内：N8/灰白色	反転作図		
																		長石、雲母、密	

第8表

報告No 採回No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
46 10 27 99	井戸4	瓦器	小皿	11.2	11.6			ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	外：N5/灰色 内：N6/灰 色 角閃石、長石、石英	完形		
47 10 28 108	井戸4	瓦器	皿	10.6				ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文	外：N5/灰色 内：N5/灰 色 長石、石英	完形		
48 10 28 101	井戸4	瓦器	小皿	11.2	11.4			ヨコナデ	ユビオサ エの後ヨ コナデ	ユビオサ エの後ヨ コナデ	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	ヨコナデの 後縦方向の 仕上げナデ その後暗文	外：N5/灰色 内：N6/灰 色 角閃石、石英	完形		
49 10 28 109	井戸4	瓦器	皿	11.4	11.8			ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文	外：N3/暗灰色 内：N4/ 灰色 粗雑、5mm長石、石英	1/2完形		
50 10 28 103	井戸4	土師器	小皿	8.0	8.17			ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	外：2.5Y7/2灰黄色 内： 2.5Y8/3淡黄色 角閃石、1mm長石、石英、 雲母	完形		
51 10 28 104	井戸4	土師器	小皿	7.78	7.95			ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	縦方向の ナデ後ヨ コナデ	外：2.5Y7/2灰黄色 内： 2.5Y8/2灰白色 角閃石、長石、雲母	完形		
52 10 28 105	井戸4	土師器	小皿	7.5	7.65			ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5Y7/3浅黄色 内： 5Y7/3浅黄色 角閃石、長石、石英	完形		
53 10 28 122	井戸4	磁器	青磁碗	15.0				ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5GY6/1緑灰色 緻密	反転作図			
54 10 29 117	井戸4	木製品	「蘇民 将来」 札			18.2	0.33~ 0.12								頭部圭頭		
55 10 29 96	井戸4	石製品	砥石			9.3	2.1							5GB7/1明青灰色 4.2	使用痕有り 結板 岩		
56 10 30 116	井戸4	金属製 品	包丁			柄 12.1									刃先欠損 柄部樹 皮3/4残存		
57 7 31 106	井戸3	瓦器	皿	10.9				ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文	外：N5/灰色 内：N5/灰 色 長石、石英	ほぼ完形		
58 7 31 107	井戸3	瓦器	皿	10.2				ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文	外：7.5Y8/1灰白色 内： 7.5Y8/1灰白色 長石	完形		
59 7 32 123	井戸3	瓦器	小皿	10.5				ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	不定方向 のナデ		N5/灰色 長石、石英	反転作図		
60 7 32 124	井戸3	瓦	平瓦				2.5							N4/灰色 石英、7mmクサリレキ、 4mm角閃石、長石、雲母	内面格子クタクキ 外面布目		

第8表

報告No 挿図No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
61 7 32 125		井戸3	土師器	皿	8.0				ヨコナデ	ユビオサエ		ヨコナデ	ヨコナデ			2.5Y8/3淡黄色	反転作図
																長石	
62 7 32 95		井戸3	瓦器	小皿	8.9				ヨコナデ	ユビオサエ		圏線ミガキ	不定方向 のナデの 後暗文			外：N4/灰色 内：N6/灰色	反転作図
																長石、石英	
63 7 32 243		井戸3	木製品	曲物底板	16.75		0.6										欠損 表面側面摩耗が激しい 1.75~1.8cmのピッチで工具によるケズリ痕残存する ヒノキ
64 7 33 110		井戸3	瓦器	小皿	11.0				ヨコナデ	ユビオサエの後ヨコナデ	ユビオサエ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文		外：N3/暗灰色 内：N7/灰白色	完形
																長石、雲母	
65 7 33 114	下層	井戸5	瓦器	椀						ユビオサエ	ヨコナデ			不定方向 のナデの 後ラセン 状暗文		N4/灰色	
						4.4	0.8									緻密、長石	
66 7 33 113	1層	井戸5	瓦器	椀	14.4				ヨコナデ	ユビオサエ	ヨコナデ	端部沈線	密なミガキ	不定方向 のナデの 後ラセン 状暗文		外：N4/灰色 内：N6/灰色	反転作図
																密、長石、雲母	
67 15 34 150		会所状遺構 南西スミ	瓦器	椀	14.6				ヨコナデの後ミガキ	ユビオサエの後ヨコナデ	縦方向のナデ 高台部ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデの 後ミガキ	不定方向 のナデの 後ミガキ	外：N5/灰色 内：N5/灰色	1/2完形 反転作図
																長石	
68 15 34 132		会所状遺構	土師器	羽釜	34.0	37.3			ヨコナデ	ユビオサエ		ヨコナデ	ヨコナデ			外：10YR4/2灰黄褐色 内：10YR8/1灰白色	反転作図
																3mm石英、長石、角閃石、雲母	
69 15 35 137		会所状遺構	瓦器	椀	13.6				ヨコナデ	ユビオサエの後暗文	未調整 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデの 後ミガキ	不定方向 のナデの 後ミガキ	外：10Y5/1灰色 内：N6/灰色	完形
																長石、石英、角閃石	
70 15 35 147		会所状遺構 南西スミ	瓦器	椀	14.3				ヨコナデの後ユビオサエ	ユビオサエ	未調整 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	外：10YR7/2にぶい黄橙色 内：N5/灰色	全体に炭素の吸着わるい
																長石、石英	
71 15 36 148	2層	会所状遺構 西アゼ	瓦器	椀	14.5				ヨコナデの後ユビオサエ	ユビオサエの後ミガキ	ユビオサエ 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	外：N4/灰色 内：N4/灰色	1/2完形 反転作図
																緻密	
72 15 36 138		会所状遺構	瓦器	椀	13.4				ヨコナデ	ユビオサエの後暗文	未調整 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	外：5BG4/1暗青灰色 内：5B4/1暗青灰色	完形 表面指紋付着する
																石英、長石	
73 15 37 151		会所状遺構 (2)	瓦器	椀	13.9				ヨコナデの後ミガキ	ユビオサエ	未調整 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデの 後ミガキ	不定方向 のナデの 後ミガキ	外：N5/灰色 内：N5/灰色	
																長石	
74 15 37 152		会所状遺構 (2) 東	瓦器	椀	15.0				ヨコナデの後ユビオサエ	ユビオサエ		ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデ		外：N3/暗灰色 内：N4/灰色	反転作図 1/4完形
																長石、石英	
75 16 38 143		会所状遺構 (2)	瓦器	椀	14.5	14.6			ヨコナデの後ミガキ	ユビオサエの後ミガキ	ヨコナデ 高台ヨコナデ	ヨコナデ	端部沈線	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	外：N3/暗灰色 内：N4/灰色	完形 高台部1/2剥離している
																長石、石英	

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調	備 考	
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面			胎 土
76 15 38 131	3層	会所状 遺構 (2)	土師器	皿	13.1				ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	縦方向の ナデ	外：10YR8/3浅黄橙色 内：10YR7/3にぶい黄橙色 長石、石英、角閃石、雲 母	反転作図 1/2完 形 表面指紋付着
77 15 38 140		会所状 遺構 (2) 東 西	土師器	皿	8.7		1.23		ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	外：2.5YR7/4淡赤橙色 内：10YR7/3にぶい黄橙色 長石、石英、角閃石、雲 母	反転作図1/3残	
78 15 38 141		会所状 遺構 (1)	土師器	小皿	8.7	8.9		1.25	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	縦方向の ナデ	外：5Y7/4浅黄色 内： 5Y8/3浅黄色 角閃石、1.5mm石英、 1.2mm長石、金雲母		
79 15 38 136		会所状 遺構西 側	瓦器	羽釜	27.8	31.2			ヨコナデ 凹線 煤 付着	ヨコナデ		ハケメ調 整	ハケメ調 整		外：5Y4/1灰色 内： 10YR7/1灰白色 2.5mm角閃石、長石、石 英	反転作図	
80 15 38 12		会所状 遺構東 西	木製品	横櫛				0.9- 0.1									一部磨減、欠損あ り イスノキ 10本/cm
81 17 39 134		集石遺 構	瓦器	羽釜	27.6	30.6			ヨコナデ	ヨコナデ			ヨコナデ		外：7.5Y4/1灰色 内： 7.5Y4/1灰色 4mm長石、石英、角閃石、 雲母	反転作図	
82 17 39 133		集石遺 構	瓦器	羽釜	28.8	31.6			ヨコナデ 沈線	ヨコナデ			ヨコナデ	板状工具 によるナ デ	外：2.5Y7/1灰白色 2mm長石、1.5mm角閃石、 石英、雲母	反転作図	
83 17 39 157		集石遺 構	土師器	羽釜	21.8	26.3			ヨコナデ		ユビオサ エ	ヨコナデ	ハケ目の 後指紋有		外：5YR8/2灰白色 内： 灰白色2.5Y8/2 2.5mm角閃石、長石、石 英、雲母	反転作図	
84 17 40 149		集石遺 構	瓦器	小皿	8.9				ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	不定方向 のナデ	外：N5/灰色 内：N4/灰 色 2mm長石	反転作図1/3完形	
85 17 40 155		集石遺 構	土師器	小皿	7.8	8.0			ヨコナデ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	外：2.5Y7/2灰黄色 内： 2.5Y7/1灰白色 雲母、1.5mm石英、長石	反転作図1/2完形	
86 17 40 135		土壇4	土師器	小皿	7.95	8.22			ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：7.5YR6/3にぶい褐色 内：10YR6/3にぶい黄褐色 角閃石、1.2mmの石英、 長石、雲母、クサリレキ	二次焼成の為か全 体に褐色	
87 17 40 142		溝状遺 構1	土師器	小皿	9.65	9.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	全体の1/3 縦方向の ナデ	外：2.5Y7/2灰黄色 内： 2.5Y8/3淡黄色 角閃石、石英、雲母		
88 17 40 139		溝状遺 構1	瓦器	椀	13.8				ヨコナデ	ユビオサ エの後ミ ガキ	ユビオサ エ ヨコ ナデ	ヨコナデ	不定方向 のナデの 後暗文	不定方向 のナデの 後暗文	外：N4/灰色 内：N5/灰 色 長石、石英、角閃石	1/2完形 反転作 図	
89 17 40 161		土壇3	瓦器	椀							ユビオサ エ 高台 部ヨコナ デ			不定方向 のナデの 後ラセン 状ミガキ	N6/灰色 長石、石英、角閃石		
90 17 40 144		溝状遺 構1	瓦器	椀	14.8	14.95			ヨコナデ の後ユビ オサエ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ	不定方向 のナデ	不定方向 のナデ	外：N4/灰色 内：N4/灰 色 長石、石英、角閃石	完形	

第8表

報告No 挿入No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考	
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎	土		
					底径	器高	幅	重さ										
91	1層	土壇3	金属製 品	鉄釘		0.05												
17																		
40																		
160																		
92	22層		須恵器	坏蓋	8.8	10.8			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ 未調整	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N5/灰色 内：SPB5/1 青灰色 長石、2mm石英	3/5完形 全体の 4/5自然釉付着		
19						2.9												
41																		
15																		
93	22層		須恵器	坏蓋	13.6	14.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N6/灰 色 1mm長石	反転作図		
19						4.0												
41																		
35																		
94	22層		須恵器	坏蓋	14.0				ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：2.5Y6/1黄灰色 内： 5YR6/2灰褐色 3mm石英、長石、角閃石	反転作図		
19																		
41																		
48																		
95	22層		須恵器	坏蓋	13.6				ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N2/黒色 内：N6/灰 色 3mm石英、3mm長石	反転作図 1/4残 表面自然釉		
19																		
41																		
54																		
96	22層		須恵器	坏身	12.1	14.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N7/灰白色 内：N7/ 灰白色 5mm長石、石英	反転作図		
19																		
41																		
56																		
97	22層		須恵器	坏身	12.6	15.7			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N7/灰白色 内：N6/ 灰色 角閃石、1.2mm長石、石 英	反転作図 1/3完 形		
19						4.6												
41																		
22																		
98	22層		須恵器	坏身	13.5	16.1			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5B6/1青灰色 内： 5B6/1青灰色 4mm長石、石英、混和材 径大きい	反転作図 1/4残		
19						4.35												
41																		
59																		
99	22層		須恵器	坏蓋	14.2				ヨコナデ	ヘラケズ リ	未調整	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N7/灰白色 内： SP7/1明紫灰色 2mm長石、2mm石英	反転作図 内面指 紋有 外面に自然 釉付着		
19						3.9												
41																		
41																		
100	8層		須恵器	坏蓋	12.4	12.6			ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N5/灰色 内：N6/灰 色 3mm石英、長石（混和材 径大きい）	反転作図		
19																		
42																		
51																		
101	8層		須恵器	坏蓋	12.6				ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N6/灰 色 3mm長石	3/4完形		
19						4.05												
42																		
24																		
102	8層		須恵器	坏蓋	12.8	13.2			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：7.5Y7/1灰白色 内： 5Y8/1灰白色 1.5mm長石、1mm石英	1/2残 反転作図		
19						4.85												
42																		
33																		
103	8層		須恵器	坏身	11.4	13.8			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ 焼け 歪み	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N6/灰 色 2mm長石、石英	反転作図		
19						3.9												
42																		
47																		
104	8層		須恵器	坏身	12.85	15.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	仕上げナ デ	外：N6/灰色 内：N7/灰 白色 8mm長石、2mm石英	反転作図 2/3完 形		
19						4.15												
42																		
32																		
105	8層		須恵器	坏身	15.1	17.9			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N7/灰白色 内：N7/ 灰白色 1mm長石、石英	反転作図 1/3残 存		
19																		
42																		
55																		

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
106	8層		須恵器	坏身	12.5	15.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ハラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：5PB6/1青灰色	反転作図
19															2mm石英、2.5mm長石		
42						4.0											
57																	
107	8層		須恵器	坏身	13.05				ヨコナデ	ヨコナデ	ハラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N7/灰白色		
19																	
42						7.2									5mm長石、石英		
30																	
108	8層		須恵器	高坏	12.7				ヨコナデ	カキ目		ヨコナデ	ヨコナデ		外：5G4/1暗緑灰色 内：5B5/1青灰色	一部反転	
19																	
42															3mm長石、3mmチャート、石英		
37																	
109	8層		須恵器	高坏	16.4	16.8			ヨコナデ	ヨコナデの後波状文 ハラケズリ		ヨコナデ	自然釉全面にかかり調整等不明		外：N5/灰色 内：N7/灰白色	反転作図 スカシは全周で4ヶ所に入る(復元推定)	
19																	
42															長石、石英		
19																	
110	8層		須恵器	壺瓶	7.6				ヨコナデ	ハラケズリカキ目 中央にハラ記号		ヨコナデ	ナデヨコナデ黒斑付着(鉱物)		外：5Y6/1灰色 内：N7/灰白色		
19																	
43						11.2									長石、角閃石		
11																	
111	8層		須恵器	壺	23.8				ヨコナデ	ヨコナデの後ハラ記号		ヨコナデ			外：5Y5/1灰色 内：5Y5/1灰色	反転作図 自然釉付着 口縁部	
19																	
43															4mm長石、2.5mm石英		
64																	
112	8層		須恵器	壺	23.0				ヨコナデ			ヨコナデ	自然釉付着		外：N6/灰色 内：N7/灰白色	反転作図 口縁部	
19																	
43															3mm長石、雲母		
63																	
113	8層		須恵器	壺	34.0				ヨコナデ	ヨコナデの後波状文(8本1単位)		ヨコナデ	ヨコナデ		外：N4/灰色 内：N4/灰色	反転作図 口縁部	
19																	
43															1mm長石、石英		
69																	
114	8層		土師器	高坏	18.2				ヨコナデ	ハラケズリの後ナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5YR7/6橙色 内：5YR7/6橙色	坏部 反転作図	
20																	
44															長石、石英、角閃石、雲母		
184																	
115	8層		土師器	高坏	16.4				ヨコナデ	ヨコナデハケメ	ユビオサエの後ナデ	磨減の為詳細不明	磨減の為詳細不明	放射状に工具痕有	外：2.5YR7/6橙色 内：5YR7/4にぶい橙色	坏部 反転作図	
20																	
44															2.5mm石英、長石、角閃石		
196																	
116	8層		土師器	高坏	16.4				ヨコナデ	右上がりのハケメ(5*9mm)	ユビオサエの後ナデ	ヨコナデ	ヨコナデの後放射状のミガキ	ヨコナデの後放射状のミガキ	外：2.5YR6/4にぶい橙色 内：5YR6/4にぶい橙色	坏部反転作図	
20																	
44															長石、石英、角閃石		
195																	
117	8層		土師器	高坏						ハラケズリ	ヨコナデ		しほりの後ナデ	横方向のハケメ	外：2.5YR7/4淡赤橙色 内：5YR7/4にぶい橙色	反転作図 脚部	
20																	
44						9.3									長石、石英、角閃石、雲母		
197																	
118	8層		土師器	高坏						ハラケズリ	ユビオサエの後ナデ 端部ヨコナデ		棒状工具によるナデ ユビオサエ	ヨコナデとハケメ	外：2.5YR8/3淡黄色 内：2.5YR8/3淡黄色	脚部	
20																	
44						12.8									7mm長石、2mm石英、2mm雲母、角閃石		
181																	
119	8層		土師器	壺	10.8	15.1			タケハケ後ヨコハケ後ジグザグにハラミガキ	ハラミガキ		ユビオサエヨコナデの後放射状のミガキ	ユビオサエヨコナデ		外：2.5YR7/4淡赤橙色 内：7.5YR6/4にぶい橙色	一部反転作図 ほほ全体に煤付着 二次焼成受ける	
20																	
44															角閃石、長石、雲母、石英		
181																	
120	8層		土師器	壺	9.3	15.4			ヨコナデ	ヨコナデ肩口縁端部にかけて煤付着	ケズリ	ヨコナデ	粘土の継ぎ目明瞭	不定方向のケズリ	外：5YR8/4淡赤橙色 内：5YR7/4にぶい橙色	3/4完形 二次焼成を受ける 磨減著しい	
20																	
44															長石、石英、1mm角閃石、3mmFe		
39																	

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
121	8層		土師器	布留甕	14.6	16.0			ヨコナデ	ヨコナデの後ハケ目	ハケ目	ヨコナデ	ケズリ	ユビオサエの後ランダムにユビでナデアゲ	7.5YR6/4にぶい橙色	3/4完形 ほぼ全面にわたって煤付着	
20																	
44						16.5											
3																	
121	第1砂層 (16層)		須恵器	坏蓋	14.15	14.5			ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラケズリ		外：N6/灰色 内：N5/灰色	反転作図 仕上げナデ	
22																	
45														1mm長石、石英			
123	第1砂層 (16層)		須恵器	坏蓋	13.4	13.6			ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ		外：N5Y5/1灰色 内：7.5YR6/1褐色	反転作図	
21																	
45														7mm長石、石英、チャート (混和材径大きい)			
124	第1砂層 (16層)		須恵器	坏身	12.8	15.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの後にナデ	外：N5/灰色 内：N7/灰白色		
21						4.1											
45																	
125	第1砂層 (16層)		土師器	布留甕	15.2	25.8			ヨコナデ	不定方向のハケ	不定方向のハケ	ヨコナデ	膝-部にはハケズリ 膝-部にはハケズリ	ユビオサエ	外：10YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	3/4完形 両側腹面に黒斑有	
21						30.8											
45																	
126	第1砂層 (16層)		須恵器	甕	10.4	12.4			ヨコナデ	櫛歯状文 (8本1単位)		ヨコナデ	ヨコナデ		外：N7/灰白色 内：7.5Y6/1灰色	内面全体と外面一部に自然軸付着 反転作図	
21						9.35											
45																	
127	第1砂層 (16層)		須恵器	高坏	10.03				ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ	坏底部ヨコナデの後に仕上げナデ	N6/灰色	完形 脚部カキ目の後4方向に方形の透し	
21																	
45														3mm長石、石英、雲母			
128	第1砂層 (16層)		石製品	白玉												報告No.125の甕の中より出土 14個	
21																	
45																	
129	17層		須恵器	坏蓋	13.1	13.3			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N5/灰色	3/4完形	
21						4.6											
46														石英、長石			
130	17層		須恵器	坏蓋	13.03	13.3			ヨコナデ	強いナデの為段ができる		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N5/灰色	3/4完形 全体に1/4自然軸かかる	
21						3.65											
46														3mm石英、2mm長石			
131	17層		須恵器	坏身	10.6	13.6			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5YR7/2明褐色 内：N4/灰色		
21																	
46														3mm長石、石英			
132	17層		須恵器	坏身	12.6	14.3			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデの後に仕上げナデ	外：10YR7/2にぶい黄橙色 内：7.5YR6/4にぶい橙色	3/5完形 外面全体の1/4と内面一部に黒斑有 二次焼成の可能性有	
21						5.6											
46														3.5mm石英、2mm長石			
133	17層		須恵器	無蓋高坏	14.4				ヨコナデ	ヨコナデの後櫛歯状文 (5本1単位)	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5PB7/1明青灰色 内：N7/灰白色	坏部	
21																	
46														長石、石英			
134	17層		須恵器	坏蓋	13.3	13.5			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：7.5Y5/2灰オリーブ色 内：10YR7/3にぶい黄橙色	内面に煤付着 二次焼成を受ける 1/2反転作図	
21						6.0											
46														4mm長石、石英			
135	17層		須恵器	高坏	10.95	13.2			ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N7/灰白色	透し穴は全部で3ヶ所 口縁部と底部は反転作図 4/5完形	
21						12.0											
46														2mm長石			

第8表

報告No 押印No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考								
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土										
					底径	器高	幅	重さ																	
136 21 46 43	17層		須恵器	高坏		9.1												カキ目 ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5Y5/1灰色 内： 5Y6/1灰色 1mm長石、石英	脚部		
137 21 46 20	17層		須恵器	壺	19.1	20.05												ヨコナデ 波状文	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N5/灰色 内：N6/灰 色 2mm長石、石英	内面一部に自然軸 附着		
138 22 47 46	17層		土師器	小型丸 底壺	11.3													ヨコナデ エ	ハラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ の後放射 状暗文	ハラケズ リの後暗 文	外：2.5YR7/6橙色 内： 2.5YR7/6橙色 長石、石英、角閃石	反転作図1/3残	
139 22 47 179	17層		土師器	高坏	18.2													ヨコナデ エの後ナ デ		ヨコナデ	ヨコナデ	外：2.5YR8/3淡黄色 内：2.5Y7/3淡黄色 3.5mm長石、石英、角閃 石、雲母	反転作図 坏部		
140 22 47 4	18層		須恵器	坏蓋	12.0													ヨコナデ	ヨコナデ ハラケズ リ	ナデ	ナデ	仕上げナ デ	N7/灰白色 長石、3mm角閃石	4/5完形	
141 22 47 28	18層		須恵器	坏蓋	13.7	13.8												ヨコナデ 煤附着	ヨコナデ ハラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ の後ナデ	ヨコナデ の後ナデ	外：2.5Y7/1灰白色 内： 10YR8/3浅黄橙 3mm石英、長石	3/4完形 全体の 約1/2に黒斑有	
142 22 47 199	17層		土師器	高坏	15.3													ヨコナデ の後縦方 向のハラ ミガキ		ヨコナデ 煤附着	ヨコナデ の後縦方 向のハラ ミガキ	ハラ状工 具による キザミ	外：7.5YR5/3にぶい褐色 内：7.5YR6/4にぶい橙色 3mm長石、石英、雲母、 角閃石	坏部 反転作図	
143 22 47 183	17層		土師器	高坏														ヨコナデ ハラケズ リ	ハラケズ リの後ナ デ 端部 ヨコナデ		棒状工具 によるケ ズリ ユ ビオサエ	ハケメの 後ナデ	外：10YR7/3にぶい黄橙色 内：10YR7/3にぶい黄橙色 8mm石英、3mm長石、角 閃石、雲母	脚部 反転作図	
144 22 47 21	18層		須恵器	坏蓋	13.15	13.4												ヨコナデ	ヨコナデ ハラケズ リ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N5/灰 色 5mm石英、2mm長石	反転作図 3/5完 形	
145 22 47 8	18層		須恵器	坏蓋	12.9													ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ の後仕上 げナデ	N4/灰色 2.5mm長石、石英	反転作図 2/3完 形 全体の2/3自 然軸がかかっている	
146 22 48 16	18層		須恵器	坏身	11.1	13.6												ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：5YR8/1灰白色 内： 5PB5/1青灰色 3mm長石、石英	1/2残 反転作図 全体に二次焼成を 受けたのか煤附着	
147 22 48 58	18層		須恵器	坏身	12.2	14.2												ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：2.5Y7/1灰白色 内： 2.5Y8/1灰白色 2mm石英、長石	反転作図 1/6残	
148 22 48 6	18層		須恵器	坏蓋	13.4	13.6												ハラケズ リ	ヨコナデ		ヨコナデ の後仕上 げナデ	ヨコナデ	外：N7/灰白色 内：N6/ 灰色 2mm長石	1/2完形 反転作 図 外面自然軸に より紅色に光る	
149 22 48 38	18層		須恵器	高坏	12.2	14.0												ハラケズ リ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	外：5YR4/8赤褐色 内： 5YR6/4にぶい橙色 1mm長石、2mm石英	坏部 反転作図 スカシは3方(台 形状)	
150 22 48 18	18層		須恵器	高坏	13.8													ヨコナデ	カキ目 脚部ヨコ ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ 脚部ヨコ ナデ	ヨコナデ	外：N4/灰色 内：7.5GY4/1暗緑灰色 2mm長石	1/2完形 全体に 黒斑有 外面1/4 によく焼けた痕有

第8表

報告No 挿入No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法量				特徴						色調		備考
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎土		
151 22 48 61	18層		須恵器	高坏						脚部カキ目	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	外：5Y7/1灰白色 内：7.5Y7/1灰白色 1mm長石、石英	無蓋高坏脚部 反転作図	
152 22 48 44	18層		須恵器	高坏	9.2					脚部ヨコナデ	ヨコナデ		脚部ヨコナデ	ヨコナデ	外：5Y5/1灰色 内：5Y6/1灰色 2mm長石、石英	脚部	
153 22 48 9	18層		須恵器	高坏	16.6				ヨコナデ	耳を付けた後カキ目を付ける 耳残は1つ	カキ目 ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	内部全面に自然釉が付着	外：N4/灰色 内：7.5GY4/1暗緑灰色 2mm長石	脚部カキ目 透しは4方、バリを取る為のヘラケズリは粗雑	
154 22 48 10	18層		須恵器	無蓋高坏(耳付)	15.8				ヨコナデ	ヨコナデの後脚描波状文(10本単位)	ヘラケズリ ヨコナデ	自然釉のため調整は不明	自然釉のため調整は不明		N6/灰色 3mm長石、1mm石英	脚部の透しを入れた後バリは処理しない 口縁部端部欠損(焼成後) 脚部端部自然釉	
155 23 49 65	18層		須恵器	甗	17.1				頸部ヨコナデの後波状文(10本単位)	ヨコナデ沈み突文(10本単位)の後穿孔	ユビオサエ 自然釉 付け根ヘラケズリ	ヨコナデ	ユビオサエ 自然釉	外：N6/灰色 内：N6/灰色 5mm長石	ほぼ完成形		
156 23 49 158	18層		須恵器	甗	10.9					ヨコナデ凹線 刺突列点文(8本単位)	カキ目		ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N5/灰色 3mm長石、3mm石英 混和材非常に粗い	外面自然釉付着	
157 23 49 7	18層		須恵器	有蓋脚付き深鉢	37.3 25.0	41.4 36.2			ヨコナデ	カキ目の後凹線 義杉状、平行状 刺突列点文	ヨコナデ	強いヨコナデ フ子具の痕をナデ消す	ヨコナデ	タタキの後ヨコナデ 端部ヨコナデ	外：N6/灰色 内：N5/灰色 5mm長石、2mm石英	受部径：40.7 脚部透し穴は全周6ヶ所計12ヶ所 脚部外面ヨコナデの後凹線、脚部波状文	
158 22 50 60	18層		須恵器	器台	26.0					カキ目の後脚部波状文 条ヨコナデ一部自然釉	ヨコナデ	2条	ユビオサエの後ヨコナデ	ヨコナデ	外：N6/灰色 内：5Y4/灰色 3mm長石、石英	脚部 反転作図 1/5残 透し穴は全周で5ヶ所 坏底部にタタキ目	
159 22 50 49	18層		須恵器	器台	27.0					ヨコナデの後波状文と施文その後透し	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ	外：5B6/1青灰色 内：5B5/1青灰色 2mm長石、2.5mm石英	反転作図 1/3残 透しは全周で12個 坏底部にタタキ目	
160 23 50 5	18層		土師器	高坏	16.8				ヨコナデの後ランダムなナデ	ヨコナデの後ランダムなナデ	ラセン状のナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ケズリ	2.5YR7/6橙褐色 3mm長石、雲母、角閃石、クサリ礫	完形 全面に化粧粘土を塗付 端部1/5と脚部1/4にスス付着	
161 23 50 42	18層		土師器	高坏	14.8	15.2			ヨコナデ	ユビオサエ 脚部ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ		外：5YR7/6橙褐色 内：5YR8/4淡橙褐色 長石、石英、角閃石	脚部外面ヘラケズリ内面ユビオサエの後ヨコナデ	
162 23 50 187	18層		土師器	高坏	28.6				ヨコナデ	ヨコナデ貼り付け凸帯	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	外：7.5YR8/4浅黄橙褐色 内：7.5YR8/4浅黄橙褐色 3mm長石、2.5mm石英、角閃石	須恵器模倣土師器坏部 反転作図	
163 23 50 169	18層		土師器	甗	20.2				左上がりのハケメの後ヨコナデ	左上がりのハケメの後ナデ	横方向のハケメの後ヨコナデ	ヘラケズリの後ナデ	ヨコナデ	ハケメの後ヨコナデ	外：10YR5/4にぶい黄褐色 内：10YR5/4にぶい黄褐色 4.2~0.5mm長石、1.50~0.5mmクサリ礫、雲母		
164 27 53 240	37層		弥生土器	壺 広口	32.4				ヨコナデの後籐状文(9枚単位)2帯	ハケメの後ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメの後ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄褐色 7mm長石、5mm石英、3mm角閃石、雲母、クサリ礫			
165 27 53 293	37層土器溜り		弥生土器	壺	23.4				ヨコナデの後波状文(6枚単位)脚部直線	ハケメの後ナデ 剥離、磨滅著しい	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメの後ヨコナデ	7.5YR5/3にぶい褐色 3mm長石、3mm石英、雲母			

第8表

報告No 棟No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法量				特徴						色調		備考		
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎土				
166 27 53 239	第5北 第1面		弥生土 器	壺 広口	31.2				ヨコナデの 後格子状に 刺突文 端 部黒斑有	ユビオサエ の後ヨコナ デ付突帯上 にユビツマミ		ヨコナデ	ヨコナデ			7.5YR5/3にぶい褐色	反転作因		
167 27 53 165	2区第1 面		弥生土 器	長頸壺 広口	16.3	21.9			ヨコナデの 後刺突文 頸 部ナゲハケの 後刺突文	タテハケ の後飾描 文	ハラケズ リ	ヨコナデ 頸部不定 方向のナ ゲ	不定方向 のナゲ	不定方向 のナゲ	外：7.5YR8/3浅黄褐色 内：7.5YR7/6橙色	表面全体の1/2に 黒斑有			
168 27 53 269	2区第1 面		弥生土 器	器台		19.1				ハラミガ キ 全周 8ヶ所の 穿孔有	ヨコナデ		ユビオサ エの後粗 いケズリ	磨滅の為 詳細不明	外：10YR6/2灰黄褐色 内：10YR5/2灰黄褐色			脚部	
169 27 53 296	第1面		弥生土 器	鉢	39.4	41.0			ヨコナデの 後刺突文 (10條 1単位) 頸部 刺突文 (11 条1単位)	ハラミガキ の後流れた 刺突文 (11 条1単位)	横方向の ハラミガ キ	ハラケメ の後ナゲ	ハラケメ の後ナゲ	ハラケメ の後ナゲ	10YR6/3にぶい黄褐色		1mm長石、1mm角閃石、 雲母、石英		
170 27 53 182	第1面		弥生土 器	甕	45.0				ヨコナデの 後刺突文2 帯 一部黒 斑有	横方向のハ ケメの後ナ ゲ 左上がりのハ ケメの後ナ ゲ		ヨコナデ	縦方向の ハラケメ の後ナゲ		2.5Y5/3黄褐色	5mm角閃石、3mm長石、 2mm石英			
171 27 53 273	第1面		弥生土 器	無頸壺	9.2	13.6			ヨコナデの 後刺突文	ヨコナデの 後刺突文、 刺突文 下キ ハラミガキ	ケズリの 後ミガキ	ヨコナデ	ハラケズ リの後ナ ゲ	ハラケズ リの後ナ ゲ	外：2.5Y6/3にぶい黄色 内：2.5Y6/3にぶい黄色			2mm長石、角閃石、石英、 雲母	完形 表面磨滅し ている 焼成後穿孔
172 26 51 13	1層		弥生土 器	鉢	6.2	6.8			横方向の ミガキ	縦方向の ミガキ	縦方向の ミガキ	ヨコナデ	ケズリ の様なミ ガキ	ユビオサ エ	2.5Y6/3にぶい黄色		角閃石、長石、石英、雲 母		
173 26 51 14	1層		弥生土 器	小型鉢	15.7				ユビオサ エの後ナ ゲ	ユビオサ エの後ナ ゲ	指で押圧 調整	ランダム なハラケ 目調整	ランダム なハラケ 目調整	ランダム なハラケ 目調整	10YRにぶい黄褐色	5mm角閃石、長石、角閃 石、雲母			
174 26 51 267	1層		弥生土 器	鉢	11.4				ヨコナデ の後キザ ミメ	ハラケメ の後ハラ ミガキ	横方向の ハラミガ キ	ハラケ目 の後ヨコ ナゲ	ハラケメ の後ナゲ	ハラケメ の後ナゲ	外：2.5Y8/2灰白色 内： 10YR8/3浅黄褐色			2.5mm長石、2mm石英、 角閃石	表面磨滅の為調整 一部不明瞭 全体 の1/4に黒斑有
175 26 51 274	1層		弥生土 器	鉢	12.6	13.8			ヨコナデ	粗いハラ ケメ調整 残存部分 に沈線状 圧痕有	2/3剥離、 残存部分 に沈線状 圧痕有	ヨコナデ	ケズリ の後ヨ コナゲ	ケズリ	外：7.5YR5/3にぶい褐色 内：10YR6/3にぶい黄褐色		3mm角閃石多く入る、長 石、雲母		
176 26 51 257			弥生土 器	鉢	24.2				ヨコナデ の後波状 刺突文 (3条1 単位)	ハラケメの 後波状 刺突文 (3条1 単位) ハラ ミガキ	横方向の ハラミガ キ	ヨコナデ	横方向の ハラミガ キの 後放射状 のハラミ ガキ	横方向の ハラミガ キの 後放射状 のハラミ ガキ	7.5YR5/4にぶい褐色	長石、角閃石、雲母			
177 26 51 287	6層		弥生土 器	台付鉢						ハラミガ キ	ヨコナデ		ハラケメ の後ヨコ ナゲ		5YR7/4にぶい橙色			3mm石英、2mm長石、雲 母	脚部完形
178 26 51 295	6層内		弥生土 器	甕	17.0				ヨコナデの 後2條の凹 溝を施した 後門形 弁文 (6筋)	ハラミガ キ	ヨコナデ の後刺突 文2帯	ヨコナデ	ヨコナデ		5YR6/4にぶい橙色		4mm長石、4mm石英		
179 26 51 311			弥生土 器	甕	29.4				ヨコナデ	左上がり のハラミ ガキ		ヨコナデ	左上がり のハラケ メ		7.5YR5/4にぶい褐色	2mm長石、2mm角閃石、 1mm石英、雲母			
180 26 51 178			弥生土 器	鉢	30.8	31.4			ヨコナデ の後刺突 文 端部 刺突文	ヨコナデの 後刺突文 10條 2帯 刺突文	横方向の ハラミガ キ	ヨコナデ	ユビオサ エの後横 方向のハ ラミガキ	ハラケメ	2.5Y5/3黄褐色			3.5mm長石、3mm角閃石、 雲母	

第8表

報告No 押込No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考	
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土			
					底径	器高	幅	重さ										
181 26 51 324	38層、 37層掘 削中		弥生土 器	壺														内外面共に媒付 着、黒斑有
					5.6													4mm長石、1mm石英、 2mm角閃石
182 26 52 266	37層		弥生土 器	壺	12.1	12.3			磨滅の為 調整不明	磨滅の為 調整不明		炭化物付 着						二次焼成を受ける 穿孔片側2個
						4.85												1mm石英、長石、2.5mm 角閃石
183 27 52 284	38～37 層		弥生土 器	壺					ヨコナデ	ヘラミガ キ	ミガキ	ヨコナデ 増部媒付 着	ハケメの 後ヨコナ デ	ヘラミガ キ				二次焼成を受け内 外面共に剥離激し い 円孔は2個1組 で2ヶ所
						11.8												5mm長石、3mm石英、雲 母、角閃石
184 27 52 265	38層		弥生土 器	壺	11.0	11.4			ヨコナデ	ユビオサ エの後不 定方向の ナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ユビオサ エ					外：10YR6/3に 黄褐色 内：2.5YR6/3に 黄褐色 2mm長石、1.5mm石英、 2.5mm角閃石
185 26 52 177	37層土 器溜り		弥生土 器	甕	15.9				ヨコナデ	縦方向のハ ケメ 縦方 向のヘラミ ガキ		ヨコナデ	ナデ 磨滅 著しく化粧 粘土残部は 全体の1/6					5YR5/4に 赤褐色 4mm石英、5mm長石
186 26 52 310	37層		弥生土 器	甕	14.4				ヨコナデ	ハケメの 後ヘラミ ガキ		ハケメの 後ヨコナ デ	ハケメ					7.5YR6/3に 褐色 3mmクサリ礫、2mm長石、 2mm石英、1mm角閃石、雲母
187 26 52 275	37層土 器溜り		弥生土 器	甕	14.0				ヨコナデ	縦方向のハ ケメの後縦 方向のヘラ ミガキ	縦方向のハ ケメの後縦 方向のヘラ ミガキ 黒斑有	ヨコナデ	左上がり のハケメ の後ナデ	ヘラケズリ の後縦方向 のヘラミガ キ 黒斑有				2.5Y7/3 浅黄色 4mm長石、1mm石英、雲 母
188 26 52 186	37層土 器溜り		弥生土 器	甕	30.6				ヨコナデ	左上がり の後ヘラミ ミ目 ガキ		ヨコナデ	ユビオサ エの後ナ デ					10YR5/3に 黄褐色 3mm長石、4mm石英、 2mm角閃石
189 26 52 306	37層土 器溜り		弥生土 器	甕	14.0				ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ナデ					5YR6/4に 赤褐色 1mm以下長石、雲母
190 28 54 312	38層及 び37層 北岸部 おちぎ わ	流路3	弥生土 器	甕	21.4				ヨコナデ	縦方向のハ ケメの後横 方向のヘラ ミガキ		ヨコナデ	ハケメの 後ヘラミ ガキ					10YR7/3に 黄褐色 粗、4mm長石、5mm石英
191 28 54 313	38層及 び37層 北岸部 おちぎ わ	流路3	弥生土 器	甕	23.6				ヨコナデ	下から上 の後刺突 文へのハケ メ		ヨコナデ	ハケメ					7.5YR7/4に 赤褐色 粗、3mm石英、3mm長石、 2mm雲母、クサリ礫
192 28 54 321	48層		弥生土 器	甕	15.6				刺突文の 後ヨコナ デ	縦方向のハ ケメの後横 方向のヘラ ミガキ		縦方向の ハケメの 後ヨコナ デ	左上がり のハケメ の後ヨコナ デ					10YR7/4に 赤褐色 2mm長石、2mm石英、 2mm角閃石、雲母
193 28 54 316	40層、 41層	流路3	弥生土 器	甕	16.6	19.7			ヨコナデ	タタキ目 媒付着	ナデ	ヨコナデ	ヘラミガ キ	ヘラケズ リ				外：7.5YR4/4 褐色 内： 7.5YR4/6 褐色 5.5mm長石、1.5mm角閃石、 石英、雲母
194 28 54 200	41層以 下		弥生土 器	甕	15.0				ヨコナデ	タタキ		ヨコナデ	ユビオサ エの後ケ ズリ					外：2.5YR6/2 灰黄色 内： 2.5YR6/2 灰黄色 2.5mm長石、2mm角閃石、 石英、雲母
195 28 54 309	41層		弥生土 器	甕	13.6				ハケメの 後ヨコナ デ	ハケメの 後ヘラミ ガキ		ヘラミガ キ	体部から口 縁部にかけて のヘラミ ガキ					7.5YR6/3に 赤褐色 1mm長石、石英、雲母、 角閃石

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
196 28 54 201	48層		弥生土器	甕	14.0				ヨコナデ	タタキ		ヨコナデ	エビオサエの後ナデ一部スス附着		外：2.5Y7/3浅黄色 内：2.5Y7/3浅黄色 6mm長石、3mm角閃石、石英、雲母	反転作図	
197 28 54 289	流路3直上	弥生土器	甕	18.1				ヨコナデ	右上がりのタタキ	右上がりのタタキ	ヨコナデ	ヘラケズリの後ナデ	ヘラケズリの後ナデ	外：10YR5/4にぶい黄褐色 内：7.5YR4/4褐色 9mm石英、7mm長石、3.5mm角閃石、雲母	V様式 反転作図		
198 28 55 307	41層上層掘削中	流路3南岸部	弥生土器	甕	28.6	29.85		ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ磨減顕著		5YRにぶい橙色 5mm長石、4mm石英、2mm角閃石、雲母			
199 28 55 237	41層	流路3	弥生土器	甕	35.2			ヨコナデ	縦方向のハケメの後横方向のハケメ		ヨコナデ	エビオサエの後左上がりのハケメ		10YR4/2灰褐色 2mm長石、3mm角閃石、石英、雲母			
200 28 55 244	41層		弥生土器	甕	51.0			横方向のハケメの後ヨコナデの後端部に刺突	ヘラミガキ		横方向のハケメの後ヨコナデ	左上がりのハケメの後ナデ		10YR5/3にぶい黄褐色 5mm長石、2mm石英、雲母、2mmチャート			
201 29 55 258	37層以下(41層)		弥生土器	甕	19.0			ヨコナデ	左上がりのヘラミガキ		ヨコナデ	ハケメの後ヘラケズリハケメの後ヘラミガキ		7.5YR5/4にぶい橙色 3mm角閃石、2mm長石、石英	二次焼成を受ける 内外面磨減		
202 29 55 321	48~42層	流路3南岸部	弥生土器	甕	24.4			ヨコナデ	縦方向の後刺突ハケメの後横方向のハケメ		ヨコナデ	ナデ		5YR5/4にぶい赤褐色 3mm長石、2mm石英、2mm角閃石			
203 29 55 252	42層		弥生土器	甕	16.4			ヨコナデ	縦方向のハケメ		ヨコナデ	左上がりのハケメの後ナデ	ナデ	5YR6/4にぶい橙色 2mm長石、2mm石英、2mm角閃石、雲母	外面爆附着 表面二次焼成により剥離著しい		
204 29 55 272	42層(48~42層)		弥生土器	中型甕	12.6	13.1		ヨコナデ	ヨコナデの後ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ナデ		外：10YR6/3にぶい黄褐色 内：10YR6/3にぶい黄褐色 3mm角閃石、2mm長石、石英	口縁部1/4下半部黒炭有 全体に強い二次焼成を受ける 表面の化粧粘土のほとんど剥離する		
205 29 55 322	流路3	弥生土器	甕	15.2				刻み目	ハケメ 爆附着		ハケメの後ヨコナデ	ナデ		5YR6/4にぶい橙色 4mm長石、2mm石英、5mm角閃石、雲母			
206 29 56 172	42層		弥生土器	甕	13.6			ヨコナデ	縦方向のハケメの後ナデ		ヨコナデ	ナデの後ヘラミガキ 下層ヘラケズリの後ナデ		10YR5/4にぶい褐色 2mm石英、雲母、4mm長石、角閃石	ほぼ完形		
207 29 56 315	流路3下層砂礫層	弥生土器	甕	15.4				ヨコナデ	ハケメその後凹線その後刺突文		ヨコナデ	エビオサエの後ナデ		5YR5/4にぶい赤褐色 2mm石英、7mm角閃石、長石			
208 29 56 249	37層	流路3北岸部	弥生土器	壺口	11.2			ヨコナデ	縦方向のハケメの後ナデ		ヨコナデ	ヘラケズリの後ナデ		10YR8/2灰白色 2mm長石、6mm石英、チャート、雲母			
209 29 56 291	41層以下(42層)		弥生土器	壺口	14.2			ヨコナデ	ハケメの後刻み目	ヨコナデハケメの後ナデ	横方向のハケメの後ヨコナデ	左上がりのハケメの後ナデ 黒炭有		10YR7/3にぶい橙色 4mm石英、3mm長石、2mm角閃石、雲母			
210 29 56 290	42層		弥生土器	壺口	13.6			ヨコナデ	縦方向のハケメ磨減している		ヨコナデ	ヨコナデ		5YR7/4にぶい橙色 3mm長石、石英、雲母	口縁部		

第8表

報告No 棟区No 因版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
211 29 56 314	38層及 び37層	流路3 北岸部 おちぎ わ	弥生土 器	甕	15.6				液状文 (7条1単 位)	溝描文 (7条1単 位)		ヨコナデ	ヨコナデ 剥離著し い		7.5YR7/3にぶい橙色 2mm石英、2mm長石	二次焼成受ける	
212 29 56 194	41層以 下		弥生土 器	長頸壺	7.6				ヨコナデ 頸 部ヨコナデ溝 描直線文 (9 条1単位) 3帯			ヨコナデ 頸部ナデ		5YR7/4にぶい橙色 粗、3mm石英、3mm長石	内外面共に磨減		
213 29 56 164	41層	流路3 下層	弥生土 器	短頸壺	12.85				ヨコナデの後 凹縁本 頸 部ヨコナデの 後溝描直線文			ヨコナデ 頸部ユビオ サエの後ヨ コナデ		外：10YR8/3浅黄褐色 内：7.5YR8/3浅黄褐色 3mm長石、2mm角閃石、 1.5mm石英	反転作図 全体に 磨減著しい		
214 29 57 171		流路3	弥生土 器	長頸壺	14.6					磨減の為 調整法不明	磨減の為 調整法不明		ヘラナデ 後ナデ	ハケメの後 ナデ	10YR5/4にぶい黄褐色 3mm角閃石、5mm長石、 雲母、石英	体部ほぼ完形	
215 29 57 170		流路3	弥生土 器	長頸壺	14.5				頸部縦方 向のヘラ ミガキ	縦方向の ヘラミガ キ	ユビオサ エ	頸部ナデ	ナデ	ハケメ	10YR5/4にぶい黄褐色 3mm長石、4mm角閃石、 石英、雲母	焼成後穿孔 全体 磨減している 下 部黒斑有 体部ほ ぼ完形	
216 20 57 262	41層	流路3	弥生土 器	壺	28.8				ヨコナデの後 3条の凹縁の 後竹管浮文 (9条1単位)	縦方向の ハケメの 後ヘラミ ガキ		ヨコナデ	左上がりの ハケメの後 縦方向のヘ ラミガキ		7.5YR5/3にぶい褐色 5mm長石、3mm角閃石、 雲母、石英	口縁部内面の一部 と竹管浮文に朱が 残存 内外面共に 一部磨減	
217 30 27 238		流路3	弥生土 器	壺 広 口	28.4				3条の凹縁の 後2重の竹管 文を施した 凹形浮文	ハケメ		ヨコナデ ハケメの 後ヘラミ ガキ	ハケメの 後ヘラミ ガキ		2.5YR4/6赤褐色 2mm長石、3mm角閃石、 石英、雲母	反転作図	
218 30 57 241		流路3	弥生土 器	壺 広 口	26.4				3条の凹 縁の後円 形浮文	横方向の ハケメの 後縦方向 のハケメ		ヨコナデ	横方向の ヘラミガ キ		5YR6/3にぶい橙色 2mm長石、2mm角閃石、 雲母		
219 30 57 250	48～42 層		弥生土 器	壺 広 口	26.2				ヨコナデ の後キザ ミメ 黒 斑有 (5条1単位)	縦方向のハ ケメの後溝 描直線文 (5条1単位)		ヨコナデ	横方向の ハケメの 後液状文 扇状文		5Y7/3浅黄色 3mm長石、石英、雲母		
220 30 57 317	48層		弥生土 器	壺	24.2				ヨコナデ	口縁部付け 模ユビオサ エ ヨコナ デ ハケメ		ユビオサ エ	ハケメ		10R5/6赤色 5mm角閃石、3mm長石、 3mm石英	二次焼成を受ける 内外面共に磨減著 しい	
221 30 57 292	41層内		弥生土 器	壺 広 口	15.0				簾状文 ハケメの後 ヨコナデそ の後簾状文 (2条1単位)	ハケメの後 ヨコナデ		凹形浮文4 箇1箇7ヶ所 コナデ 磨減 計28箇 (推 定復元)	ハケメの後 ヨコナデ	ハケメの後 ヨコナデ	5YR5/6明赤褐色 2mm角閃石、2mm石英、 長石、雲母		
222 30 58 242	48～42 層		弥生土 器	壺 広 口	14.0				ヨコナデ の後鋭突 文 一部 黒斑有 (9条1単位)	縦方向のハ ケメの後溝 描直線文 (9条1単位)		ハケメの後 ヨコナデ	ハケメの後 ヨコナデ		10YR6/3にぶい黄褐色 2mm石英、2mm長石、角 閃石、雲母	内外面共に磨減し ている	
223 30 58 208	48～42 層	流路3 南岸部	弥生土 器	壺 広 口	21.35				ヨコナデの 後キザミメ 端部一部黒 一部ス付産	ヨコナデの後 溝描直線文 (9条1.2m)		ヨコナデ	ケズリの 後ヨコナ デ	ユビオサ エ	外：7.5YR8/2灰白色 内：10YR8/2灰白色 2mm長石、2mm石英、 1.5mm角閃石		
224 30 58 168		流路3	弥生土 器	壺	19.0				強いヨコ ナデ	磨減著しく 調整法 不明		ヨコナデ	縦方向の ヘラミガ キ 磨減 している		5YR5/3にぶい赤褐色 粗、3mm角閃石多量に入 る、長石、石英	口縁部完形 二次 焼成を受けたか？	
225 31 58 288	48層		弥生土 器	鉢	33.0				ヨコナデ	縦方向の ヘラミガ キ		ハケメの 後ヨコナ デ	ハケメの 後ナデ		10YR5/2灰黄褐色 5mm長石、4mm石英、 4mm角閃石	内外面共に磨減し ている	

第8表

報告No 押入No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種 類	器 種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
226 31 58 282	41層	流路3	弥生土 鉢	鉢	29.6				ヨコナデ の後キザ ミメ	ヨコナデの 後縁線状文 (9条1単位) 横線線状文		ヨコナデ	ヨコナデの 後縁方向の ヘラミガキ ハケメ	ナデ ユ ピオサエ	7.5YR6/4にぶい橙色 5mm長石、5mm石英、角 閃石、雲母		
227 30 58 264	48~42 層	流路3	弥生土 壺 広 口	壺 広 口	22.0	36.0			ヨコナデ 端部によ わい凹線	ハケメ調 整の後飾 描直線文 と簾条文	ミガキ	ヨコナデ	ナデ上げ 頸部ハケ メナデ上 げ	外：7.5YR6/3にぶい褐色 内：10YR5/1褐灰色 2mm長石、角閃石、石英	二次焼成の可能性 有 外面磨滅激し い 外面1/4に黒 斑有		
228 31 58 251	41層		弥生土 鉢	鉢	37.8				ヨコナデ	横方向の 平行タタ キ		ヨコナデ	ハケメの 上上げの ハケメの ハケメの ハケメの	横方向の ヘラミガ キ	7.5YR6/4にぶい橙色 3mm石英、1mm長石、雲 母		
229 31 58 236	41層 南岸部		弥生土 鉢	鉢	42.8	46.6			棒状工具に よる刺突 点文その 上から凹 線	横線線状文 (1条1単位) 横線線状文 (1条1単位) 横線線状文 (1条1単位)	ヘラミガ キの後ヘ ラミガキ	ヨコナデ	上上げの ハケメの ハケメの ハケメの	左上がり のヘラミ ガキ	10YR5/3にぶい黄褐色 5mm長石、5mm石英、 2mm角閃石、雲母	内面又又は黒斑有 下半分特に剥離激 しい	
230 32 59 278	41層シル ト Gト レンチ掘 削中		弥生土 鉢	鉢	13.0				ヨコナデの 後縁線状文 (5条1単位) 端部線状文	ヨコナデの 後縁線状文 ヘラ ミガキ 直線 文(7条1単位)		ヨコナデ	左上がり のハケメ	横方向の ヘラミガ キ	7.5YR6/4にぶい橙色 2mm長石、2mm石英、 2mm角閃石、雲母		
231 32 59 261		流路3	弥生土 鉢	台付鉢						ヘラミガ キ 円孔 透し3段8 列		凹線4帯		横方向の ヘラミガ キ	10YR6/3にぶい黄褐色 5mm長石、3mm石英、雲 母	脚部 円孔透しは 貫通していないも のがある 間隔、 高さ不規則	
232 32 59 286	38~37 層	流路3	弥生土 鉢	台付鉢					ヨコナデ	ヘラミガキ の後不規則 な竹管文 黒斑有り		ヨコナデ	縦方向の ハケメ 横方向の ハケメ	ユピオサ エ	10YR5/4にぶい黄褐色 2mm角閃石、2mm長石	脚部	
233 32 59 325	41層			台付鉢	37.65				ヨコナデ の後凹線	ナデハケ メの凹線 ミガキで仕 上げる	縦方向の ハケの後 凹線	ミガキ	ヨコハケ の後ミガ キ	ヘラミガ キ	外：10YR7/4にぶい黄褐色 内：10YR7/3にぶい黄褐色 2.5mm角閃石、2mm長石、 2mm石英		
234 32 59 206		流路3 下層	弥生土 鉢	台付鉢						ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメの 後ナデ		外：2.5Y8/2灰白色 内： 10YR7/2にぶい黄褐色 4mm長石、2.5mm石英、 角閃石、雲母	脚部 5穴有	
235 32 59 202	38~37 層	流路3 北岸部	弥生土 鉢	高環	17.8	26.5			ヨコナデ	横方向の ミガキ 縦方向の ミガキ		ヘラミガ キ ヨコ ナデ 一 部黒斑有	ミガキ	外：2.5YR5/8明赤褐色 内：2.5YR5/6明赤褐色 4mm長石、3mm角閃石、 2.5mm石英、雲母	反転作因 二次焼 成の為か表面剥離 著しい		
236 32 59 294	48層		弥生土 鉢	高環	26.8				ヘラミガ キ 端部 凹線	ヘラミガ キ		ヨコナデ	縦方向の ヘラミガ キの 後縁方向 のヘラミガ キ		5YR6/3にぶい橙色 3mm角閃石、2mm長石、 2mm石英、雲母	坏部	
237 32 59 203		流路3 下層掘 削中	弥生土 鉢	高環	17.7	26.2			ヨコナデ 凹線斜方 向のミガ キ	ミガキ		磨滅し いたため判 断不可能	ミガキ	外：2.5Y6/3にぶい黄色 内：2.5Y5/3黄褐色 1.5mm長石、角閃石、石 英、雲母	反転作因		
238 32 59 204	48層		弥生土 鉢	高環	19.9				ヨコナデ	縦方向の ミガキ 一部黒斑 有り			ミガキ 剥離著し い	外：2.5Y6/3にぶい黄色 内：2.5Y5/3黄褐色 5.5mm角閃石、3.5mm長石、 石英、雲母	坏部		
239 32 59 316	41層		弥生土 鉢	高環					ヘラミガ キ	ヘラミガ キ		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3にぶい褐色 2mm長石、2mm角閃石、 石英、雲母	脚部 内面化粧粘 土塗付		
240 52 60 188	41層		弥生土 鉢	脚台					縦方向の ヘラミガ キ	縦方向の ヘラミガ キ		ヘラミガ キ 脚部 ヘラミガ キ	ヘラミガ キ	5YR6/2灰褐色 3mm長石、3mm角閃石、 雲母	二次焼成を受ける 脚部		

第8表

報告No 挿入No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法量				特徴						色調		備考						
					口径 底径	最大径 器高	長さ 幅	厚さ 重さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎土								
241 32 60 188	48~42層		弥生土器	高坏														ハケメの後縦方向のヘラミガキ	ナデしほり	ヨコナデ	10YR5/3にぶい黄褐色	脚部	
																					3mm石英、2.5mm長石、1mm角閃石、雲母		
242 32 60 190	41層		弥生土器	高坏														縦方向のヘラミガキ	しほり横方向(右から左)のヘラケズリ	横方向(右から左)のヘラケズリ	2.5Y6/3にぶい黄色	脚部 反転作図	
																					7mm長石、3mm石英、角閃石、雲母		
243 32 60 191		流路3	弥生土器	高坏														縦方向のヘラミガキ	しほり左上がりのヘラケズリ	ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙色	脚部完形	
																					2mm角閃石、2mm石英、3mm長石、雲母		
244 32 60 189		流路3	弥生土器	高坏														縦方向のヘラミガキ 一部黒斑有	ヨコナデ	磨滅激しく詳細不明	磨滅激しく詳細不明	10YR5/3にぶい黄褐色	
																					2mm長石、3mm角閃石、2mm石英		
245 32 60 207	40層	流路3直上	弥生土器	水差し型土器	7.3					ヨコナデ	ヨコナデ横溝 楕圓文(12本x1.2mm)と 楕圓狀文	縦方向のミガキ 黒斑有	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ							外：10YR7/3にぶい黄褐色 内：10YR6/3にぶい黄褐色	1/2完形 表面磨滅著しく詳細不明
																					3mm長石、3mm石英、角閃石雲母		
246 33 61 167	74層		弥生土器	壺	19.4					ヨコナデの横半縦竹管文 貼り付け焚祭、扉部刻目有	ハケ目		ヨコナデ	ナデ								5YR5/6明赤褐色	磨滅著しく詳細不明 口縁部完形
																					粗、7mm石英、3mm長石、1mm角閃石、雲母		
247 33 61 173		流路3.5	弥生土器	壺 広口	20.2					ヨコナデの後刺突文、楕圓狀文(11条1単位)		磨滅激しく調整不明 楕圓狀文(11条1単位)	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ							5YR6/3にぶい橙色	有段口縁
																					1.5mm長石、1.5mm石英、角閃石、雲母		
248 33 61 166		流路4.5	弥生土器	壺						左上がりの細かいハケメ 付け板部分ヨコナデ	縦方向のヘラミガキ		ヨコナデ	ナデ								10YR5/3にぶい黄褐色	表面全体の1/3黒斑有
																					粗、6mm石英、5mm長石、2mm角閃石		
249 33 61 185 188		流路5	弥生土器	壺	29.4					ヨコナデ後部 環状文 背の円形群文(窪部x16個)	縦方向のハケメの後ナデ		ヨコナデ	左上がりのハケメの後ヨコナデ								10YR6/3にぶい黄褐色	口縁部
																					3.5mm角閃石、3.5mm長石、1.5mm石英、雲母		
250 33 61 205		流路5	弥生土器	高坏	24.0					ヨコナデ	縦方向のヘラミガキ		ミガキ	ハケメの後ミガキ	ハケメの後ミガキ							外：2.5Y6/2灰黄色 内：2.5Y6/2灰黄色	坏部 反転作図
																					3.5mm長石、2mm角閃石、石英、雲母		
251 33 61 175		流路5	弥生土器	鉢	18.4					ハケメの後ヨコナデ	縦方向のヘラミガキの後横方向のヘラミガキ		ハケメの後ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ							10R5/6赤色	
																					5.5mm石英、4mm長石		
252 33 61 176		流路5	弥生土器	鉢	15.6					ヨコナデ	刺突文 横方向のヘラミガキ		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ							2.5Y6/3にぶい黄色	外面黒斑有り
																					4mm石英、2.5mm長石、4mm角閃石		
253 33 61 193		流路4下層	弥生土器	高坏							縦方向のヘラミガキ 磨滅激しい		ヨコナデ	ナデ	ナデ	ヨコナデ						10YR5/3にぶい黄褐色	脚部ほぼ完形
																					2mm角閃石、1mm長石		
254 33 61 268	48層	流路5西岸部	弥生土器	小型甕	10.4	11.65				ヨコナデ	ヘラケズリの後ミガキ		ケズリ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ユビオサエ						外：10YR7/2にぶい黄褐色 内：10YR6/3にぶい黄褐色	口縁を作る際の爪痕顯著 全体の1/2黒斑有
																					雲母、角閃石、長石、石英		
255 33 61 299		流路5内	弥生土器	甕							ハケメ 磨滅激しく詳細不明 付着	ナデ 植物圧痕有		左上がりのハケメ	ユビオサエ							外：2.5Y6/2灰黄色 内：2.5Y6/2灰黄色	底部
																					2mm石英、1.5mm長石、角閃石、雲母		

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法量				特徴						色調		備考	
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎土			
					底径	器高	幅	重さ										
256 33 62 319	84層		弥生土器	甕	20.0				ヨコナデの後刺突文	横方向のハケメの後縦方向のハケメ		横方向のハケメ				7.5YG5/4にぶい褐色	外面スス付着	
																2mm石英、1.5mm角閃石、雲母		
257 33 62 323	84層		弥生土器	壺	6.6	11.1			ヨコナデハケメの後波状文(5糸1単位) 帯描直線文	ハラケズリ	ヨコナデ	ユビオサエ	ユビオサエ			7.5YR6/3にぶい褐色	ほぼ完形(口縁部一部欠損)	
						12.2												1mm長石、1mm石英、雲母
258 33 62 285	84層 (48層)		弥生土器	台付鉢					ヨコナデ	凹溝3条 孔通し全体で28箇所(不規則に並ぶ)		ヨコナデ	ハケメの後のヨコナデ			7.5YR6/4にぶい褐色	脚部	
						7.4												3mm長石、2mm石英、角閃石
259 33 62 298		流路6	弥生土器	甕						横方向のハケメの後ヨコナデの黒斑有	ハラケズリ		左上がりのハケメ炭化物付着する			外：7.5YR6/3にぶい褐色 内：2.5Y6/1黄灰色	底部	
						6.25										4mm長石、2mm角閃石、石英、雲母		
260 33 62 308		流路6 堀削中	弥生土器	甕	30.6				ヨコナデ	ハケメの後ナデ		ヨコナデ	ハケメの後ナデその後ハラケズリ			7.5YR7/4にぶい橙色	口縁端部外面下半部に煤付着	
																5mm長石、2mm石英、角閃石		
261 33 62 276		流路8	弥生土器	細頸壺	8.0				ヨコナデの後帯描波状文(5糸1単位)	縦方向のミガキの後帯描波状文(5糸1単位)		ヨコナデ	ナデしほり			7.5YR7/2明褐色	口縁部ほぼ完形内外共に磨減	
																2mm長石、2mm石英、角閃石、雲母		
262 33 62 192		流路8	弥生土器	甕	8.6	10.4			ヨコナデ	縦方向のハケメ	縦方向のハケメ	ヨコナデ	縦方向のハラミガキ	縦方向のハラミガキ		10YR6/1褐色	内外面全体に煤付着 外面下半部剥離している(皮1枚はがれている) 内面炭化物付着	
						16.2										5mm長石、3mm石英、雲母		
263 36 67 232	19層		弥生土器	ミニチュア土器 白	3.55	3.8				ハラミガキ 黒斑有			ナデ			2.5Y6/3にぶい黄色		
						2.5	3.6									4mm長石、3mm石英、チャート		
264 34 63 256	41層	流路3	弥生土器	ミニチュア土器 高坏						縦方向のハラミガキ			ナデ			2.5Y5/3にぶい黄褐色		
						3.7										3mm長石、石英、雲母		
265 34 63 253	48層～ 39層		弥生土器	ミニチュア土器 コーヒーカップ型	5.0					ハケメの後ハラケズリ			ユビオサエの後ナデ			2.3Y5/3黄褐色	ほぼ完形	
						5.3										2mm長石、2mm石英、雲母		
266 34 63 254		流路3	弥生土器	ミニチュア土器 高坏	7.0					ハケメの後ハラミガキ			横方向のハケメの後ナデ	ハケメの後ナデ		10YR5/3にぶい黄褐色	外部一部黒斑有	
																3mm長石、2mm角閃石、雲母		
267 34 63 277		流路3 南岸部	弥生土器	ミニチュア土器		7.6				帯描により詳細不明	ユビオサエ	ハケメの後ナデ	ハケメの後ナデ			7.5YR6/4にぶい橙色	外部一部黒斑有	
						2.4										6mm長石、5mm石英、角閃石、雲母		
268 33 63 318	59層砂 礫層	流路3	弥生土器	不明土器						ケズリの後ナデその後縞刻			ケズリ			7.5YR5/4にぶい褐色	外部底部に縞刻有 底部穿孔2穴以上	
						3.4										1mm以下長石、雲母、角閃石		
269 46 63 327		流路3	弥生土器	縞刻土器						煤付着						外：7.5Y4/1灰色 内：2.5Y7/2灰黄色	5mm角閃石、3mm長石、2mm石英	
270 37 69 209	41層		土製品	紡錘車		5.4										10YR7/3にぶい黄褐色	内径：0.6×0.6cm 1/3黒斑有 ユビオサエ	
																長石、3mm石英		
							36.7											

第8表

報告No 挿入No 図面No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
271 34 64 280	3面堀 削中		土製品	紡錘車	3.6											7.5YR5/4にぶい褐色	内径：0.5×0.5cm ユビオサエの後ナ デ
272 34 64 281	41層		土製品	紡錘車	3.4											2.5Y6/3にぶい黄色	内径：0.5×0.5cm 欠損 全体磨減激 しく詳細不明 一 部黒斑有
273 34 64 216	第1面 下層 (22層)	集積遺 構	石製品	紡錘車		3.5	1.45										欠損 滑石
274 34 64 217		集積遺 物とな り	石製品	紡錘車		3.15	0.8										完形 全体磨減著 しい 滑石
275 34 64 218	37層下		石製品	紡錘車		4.18*	0.5										欠損 滑石
276 35 65 212	25層		石製品	凹基無 基鏃		1.95*	0.31										欠損 サヌカイト
277 35 65 228	20～19 層		石製品	石鏃		4.23	0.55										完形 サヌカイト
278 35 65 226	76層		石製品	石鏃		4.05	0.32										完形 サヌカイト
279 35 65 227	41層以 下		石製品	石鏃		4.84	0.62										欠損 サヌカイト
280 35 65 219	37層下 流路3 北岸部		石製品	石鏃		4.02	0.33										完形 サヌカイト
281 35 65 229	41層		石製品	打製石 剣		13.7*	1.3										欠損 サヌカイト
282 35 65 224	48層堀 削中		石製品	打製石 剣		6.97*	1.28										欠損 サヌカイト
283 35 65 225	48層堀 削中		石製品	打製石 剣		5.34*	1.25*										欠損 サヌカイト
284 36 66 221	第1砂 層直上 粘土層 (8層)		石製品	石包丁		11.9*	0.75										欠損 緑泥片岩
285 36 66 221	第3面 堀削中		石製品	石包丁		6.55*	0.66*										欠損 使用痕有 緑泥片岩

*は残存値

第8表

報告No 採掘No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調		備 考
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	胎 土		
					底径	器高	幅	重さ									
286 36 66 223	3区E トレン チ堀削 中		石製品	石包丁			7.69*	0.58*									欠損 研磨痕有 緑泥片岩
287 36 66 305	37層		石製品	石包丁			12.15*	1.3*							10G6/1緑灰色		欠損 未完成 緑 泥片岩
288 36 67 233	41層		石製品	石包丁			13.1	0.65									完形 使用による 磨滅見られる 緑 泥片岩
289 36 67 235	41層谷 南岸部		石製品	石包丁			12.31*	0.7									完形 使用による 磨滅見られる 緑 泥片岩
290 36 67 234	41層谷 南岸部		石製品	石包丁			11.9*	0.44									欠損 研磨痕著し い 使用による磨 滅見られる 緑泥 片岩
291 36 67 230	41層谷 南岸部		石製品	石包丁			14.4*	0.67									欠損 使用痕、研 磨痕有 緑泥片岩
292 36 67 231	41層谷 南岸部		石製品	石包丁			14.82*	0.81									欠損 使用による 磨滅見られる 緑 泥片岩
293 36 67 232	41層谷 南岸部		石製品	石包丁			16.7*	0.7									研磨痕有 使用に よる磨滅見られる 緑泥片岩
294 36 68 220	41層 堀削中		石製品	石包丁			5.75*	0.68									欠損 研磨痕有 使用に よる磨滅見られる 欠損 により穿孔をやり直し使 用した 緑泥片岩
295 36 68 222	41層		石製品	石包丁			5.15*	0.81*									欠損 研磨痕有 粘板岩
296 36 68 303	41層 or谷北 岸部お ちぎわ		石製品	石包丁			3.55*	0.49*							7.5Y4/1灰色		欠損 緑泥片岩
297 36 68 304	42層検 出中		石製品	石包丁			5.05*	0.83*							7.5GY5/1灰色		欠損 緑泥片岩
298 36 68 301	流路5		石製品	石包丁			4.7*	0.75*							2.5GY4/1オリブ灰色		欠損 使用痕、研 磨痕有 緑泥片岩
299 36 68 300	流路5 下層		石製品	石包丁			8.75*	0.84*							5GY6/1暗オリブ灰色		欠損 使用痕有 緑泥片岩
300 37 69 209	41層	流路3	石製品	大型蛤 刃石斧			11.4*	4.8									欠損 全体に磨滅 激しい 緑泥片岩

第8表

報告No 押原No 図版No 実測No	出土層位	出土遺構	種類	器種	法 量				特 徴						色 調	備 考	
					口径	最大径	長さ	厚さ	口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面			胎 土
					底径	器高	幅	重さ									
301	井戸1 土ベラ 内		石製品	太型蛤 刃石斧			7.8*	3.2*									欠損 磨滅、剥離 著しい 緑泥片岩
37																	
69							6.2*	2412*									
210																	
302	42層 谷北岸 部		石製品	太型蛤 刃石斧			7.1*	5.3								欠損 全体によく 研磨されている 緑泥片岩	
37																	
70							6.35*	370*									
213																	
303	表面清 掃中		石製品	太型蛤 刃石斧 (平基)			9.95*	5.0								欠損 緑泥片岩	
37																	
70							6.85*	610*									
215																	
304	48層		石製品	太型蛤 刃石斧			10.85	4.2*								欠損 使用痕有 緑泥片岩	
37																	
70							6.1*	315*									
215																	
305	41~37 層		石製品	敲石			6.3*	6.3								欠損 花コウ岩	
37																	
70							10.8	650*									
211																	
313	37層		縄文土 器	凸帯文 土器				1.1		ヨコナデ 沈線			ケズリ	外：2.5Y5/2暗灰黄色 内：2.5Y6/3にふい黄色 2mm角閃石、長石、石英、 雲母	貼付凸帯		
48																	
47																	
328																	
314	Eトレ ンチ精 査中		縄文土 器	凸帯文 土器				1.15		ヨコナデの 後キザミ ケズリ ス ス付着			ユビオサ エの後ヨ コナデ	外：2.5Y4/2暗灰黄色 内：10YR4/4褐色 1.5mm長石、角閃石、雲 母、石英	貼付凸帯		
48																	
47																	
329																	
315	流路5		縄文土 器	凸帯文 土器				1.12		ヨコナデ			ヨコナデ	外：2.5Y4/2暗灰黄色 内：2.5Y4/2暗灰黄色 1.5mm角閃石、石英、長 石、雲母	貼付凸帯		
48																	
47																	
330																	
316	3面相 当層谷 北岸部		縄文土 器	凸帯文 土器						ヨコナデ ケ ズリ 藍白 帯部ユビオサ エの痕跡		ナデ		外：7.5YR4/3褐色 内： 10YR6/3にふい黄褐色 2mm角閃石、1.5mm長石	貼付凸帯		
48																	
47																	
331																	
317	17層		須恵器	甕	32.5					ヨコナデ	ヨコナデ の後波状 文 (10本 1単位)		ヨコナデ	ヨコナデ	外：N4灰色 内：N5灰色 長石 石英	口縁部 反転作図 内面自然軸付着	
21																	
70																	
70																	
318	2層内	井戸1	土師器	小皿	7.0					ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/2灰白色 口縁端部 5YR 7/4にふい橙色 角閃石	反転作図	
7																	
76																	
76																	
319	3層内	井戸1	土師器	小皿	7.2					ヨコナデ	ユビオサ エ		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/2にふい黄橙色 1mm長石	反転作図	
7																	
77																	
77																	
320	18層		須恵器	甕		12.6				ヨコナデ	ヘラケズ リ		ヨコナデ	ユビオサ エ	外：N5/灰色 内：N5/灰 色 2mm長石、石英	外面自然軸付着	
23																	
159																	
159																	
321	8層		土師器	甕						縦方向の ハケ目の 後ナデ	不定方向の ハケ目 推 円形の透か しヶ所		縦方向の ヘラケズ リ	ユビオサ エ	7.5YR6/4にふい橙色 3mm石英、2mm長石、雲 母、角閃石	反転作図	
20																	
162																	
162																	
322	18層		土師器	高坏	17.7					ヨコナデ	カキ目 煤薄く付 着する		ヨコナデ	ヨコナデ	外：5YR7/6褐色 内： 5YR8/4淡橙色 長石、石英、角閃石、雲 母	杯部 反転作図	
23																	
180																	
180																	

第8表

番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
B-1	NTZ-33	試堀	堀削土内		骨片	?		E-25 (2回目)
B-2	NTZ-33	試堀	堀削土内		ウマカウシ 骨片	?		E-36 (2回目)
B-3	NTZ-33	試堀	堀削土内		不明 (大型の鳥)	右大腿骨		E-44 (3回目)
B-4	NTZ-33	試堀	中世	遺構内	ウマカウシ 骨片	?	12世紀前半代	E-48
B-5	NTZ-33	第1区中央西側		遺構?	骨片?		中・近世	E-88
B-6	NTZ-33	第5区	第1面	構状遺構1周辺	ウマ	右上顎臼歯	12世紀後半	R-93
B-7	NTZ-33	第3区		集石遺構	不明 (大型の鳥)	右大腿骨	12世紀後半～13世紀	R-137
B-8	NTZ-33	第7区南	遺構検出中		?	?骨片	中世以降	R-162
B-9	NTZ-33	第2区	ガス管下サブトレ堀削中		ウマ	右上顎臼歯	古墳時代	R-207
B-10	NTZ-33	第1区北側	地山直上包含層		ウマ	左橈骨	中・近世	R-208
B-11	NTZ-33	第1区北側	地山直上包含層		?	?骨片	中・近世	R-209
B-12	NTZ-33	第3区		集石遺構	イノシシ	右腸骨の一部	12世紀後半～13世紀	R-247
B-13	NTZ-33	第1区東端境界部南側	清掃中		ウマ	右上顎臼歯	中世	R-253
B-14	NTZ-33	第2区西側	清掃中		ウマ	右上顎臼歯 (1) 右上顎第2小臼歯 (2)	中世	R-257
B-15	NTZ-33	第6区		井戸2	ウシ	右中足骨	15世紀	R-270
B-16	NTZ-33	第4区	遺構検出中		?	?骨片	中世	R-302
B-17	NTZ-33	第6区		井戸2	ウシ	右立方舟状骨	15世紀	R-333
B-18	NTZ-33	第6区		井戸2	イシガメ (1) カメ類 (2)	背甲 (1) 腹甲 (2)	15世紀	R-353
B-19	NTZ-33	第1区中央西側	第1面下層 (その2)		?	?骨片	古墳時代	R-642
B-20	NTZ-33	第1区谷北岸部	第1砂層直上粘土層下		?	?骨片	古墳時代	R-668

第9表

番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
B-21	NTZ-33	第1砂層直上粘土層	第1砂層直上粘土層		?	肋骨(焼けている)	古墳時代	R-673 セクション北
B-22	NTZ-33	第4区	第1面下層		ウマ	上顎臼歯	古墳時代	R-677
B-24	NTZ-33	第5区	第1砂層直上粘土層		?	?骨片	古墳時代	R-741
B-25	NTZ-33	第2区南西	第1砂層(その2)		ウマ	右上顎臼歯	古墳時代	R-790
B-26	NTZ-33	第2区	6層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀後半	R-1326(その2)
B-27	NTZ-33	第2区	6層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀後半	R-1326(その3)
B-28	NTZ-33	第2区	6層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀前半	R-1326(その4)
B-29	NTZ-33	第2区	6層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀後半	R-1326(その10)
B-30	NTZ-33	第4区・第5区	植物遺体多く含むシルト層	流路3・4肩部分	イノシシ	右上腕骨	弥生時代中期	R-1396
B-31	NTZ-33	第3区Gトレ以東	下層砂礫層	流路3	?	関節の一部?	弥生時代中期	R-1488(その2)
B-33	NTZ-33	第6区		井戸2	イシガメ	背甲 腹甲	15世紀	R-361
B-34	NTZ-33	第6区	6層	井戸2	イシガメ	腹甲 背甲の一部	15世紀	R-499
B-35	NTZ-33	第6区	6層	井戸2	イシガメ(1) ヒキガエル(2)	背甲、腹甲多数4 個体以上(1) 右上腕骨(2)	15世紀	R-521
B-36	NTZ-33	第6区	10層	井戸2	イシガメ	背甲 腹甲	15世紀	R-568
B-37	NTZ-33	第1区セクション北側谷北岸部	第1砂層直上?		?	肋骨片	古墳時代	R-777
B-38	NTZ-33	第2区	1層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀前半	R-780(ふるい1mm)
B-39	NTZ-33	第2区	1層	井戸5	カエル	いろいろ	13世紀前半	R-780(ふるい2mm)
B-40	NTZ-33	第3区北側谷北岸部	37層検出中		?	?骨片	弥生時代	R-1717
B-41	NTZ-33	第3区北側	38層及び37層	流路3北岸部おちぎわ	?	?骨片	弥生時代	R-1762

第9表

番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
S-1	NTZ-33	サヤ管部分(西北)	ビット検出中		ナミマガシワガイ	左殻	中世	R-50
S-2	NTZ-33	第2区	表面清掃中		カガミガイ	左殻腹縁部	中・近世	R-64
S-3	NTZ-33	第5区	第1面遺構検出中		ナミマガシワガイ	左殻破片	中世	R-97
S-4	NTZ-33	第4区	第1面遺構検出中		セタシジミ		中世	R-98 共に琵琶湖水系国産種
S-5	NTZ-33	表面清掃中			セタシジミ	右殻	中・近世	R-99
S-6	NTZ-33	第4区北側	遺構検出中		セタシジミ	右殻	中世	R-104
S-7	NTZ-33	第4区北	第1面攪乱堀削中		セタシジミ(大)(小)	(大)左殻(小)右殻	近世	R-122
S-8	NTZ-33	第4区	第1面攪乱堀削中		セタシジミ	右殻	近世	R-128
S-9	NTZ-33	第1区	攪乱堀削中		オオノガイ	右殻前部破片	近世	R-177
S-10	NTZ-33	第1区中央部			カガミガイ	左殻後部	中世	R-256
S-12	NTZ-33	第3区中央	第1面下層その2		ツメタガイ		古墳時代以降	R-523
S-13	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	不明種		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい1mm)巻貝
S-14	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	甲殻類(カニ?)	足の一部	5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい1mm)巻貝
S-15	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	マメウニ		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい2mm)巻貝
S-16	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	ウニ類		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい2mm)巻貝
S-17	NTZ-33	第4区	第1面遺構検出中		タテボシガイ	右殻	古墳時代	R-98 琵琶湖水系国産種
S-18	NTZ-33	第4区北	第1面攪乱堀削中		アサリ	右殻	近世	R-122
S-19	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	魚骨?		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい2mm)巻貝
S-20	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	シラゲガイ(幼貝)		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい1mm)巻貝
S-21	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m付近ⅠⅡ	谷北岸部	クリンイトカケガイ(幼貝)		5世紀末～6世紀初頭	R-561(ふるい1mm)巻貝

第10表

番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
S-22	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	リシケクチキレ ガイ?		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)巻貝トウガ タガイ科
S-23	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	アラムシロガイ (幼貝)	殻頂部	5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)巻貝
S-24	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ホソマキギヌガ イ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)巻貝(記録 無し)
S-25	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ゴマツボ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)巻貝(大阪 新記録?)
S-26	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ナガヌマケボリ クチキレ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)巻貝(大阪 初?)
S-27	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ヒメカノコアサ リ(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-28	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ミジンシラオガ イ(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-29	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ミツカドカタビ ラガイ(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-30	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	キヌマトイガ イ?(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい1mm) 北方系のハナシキヌ マトイガイに似る
S-31	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	マメウニ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-32	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	イヨスタレの様 な輪助だが不明		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-33	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ヤカドツノガイ (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-34	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	イチョウシラト リガイ? (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-35	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	マテガイ類		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)破片
S-36	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	カキ類(おそら くマガキ)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-37	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	カノコアサリ?		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-38	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	フジツボ類		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-39	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	フミガイ(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-40	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ウニ類		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-41	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ニオガイ(幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい1mm)穿 孔性二枚貝乗らかい岩 などに穴をあけてすむ

第10表

番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
S-42	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ヒメエガイ? (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-43	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ヒメエガイ (幼 貝)	左殻前半部	5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-44	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	バカガイ類		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-45	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	カキ類 おそらくイタボ ガキ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-46	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	魚類の耳石らし い		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-47	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	破片 (貝がほと んど)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-48	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	甲殻類 (カニな ど)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm)
S-49	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	マメクサベニガ イ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 1mm) (大阪新記 録?)
S-50	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	有孔虫 (原生動 物)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561(ふるい1mm) フジツボ類の殻板に ついている
S-51	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	フジツボ類		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-52	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	スミスシラゲガ イ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-53	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	チビシヤジク		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-54	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	コベルトフネガ イ (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-55	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ヒバリガイ?		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-56	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	アワジチヒロガ イ?		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-57	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	マガキ (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-58	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	バカガイ (幼貝)		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-59	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	ウズサクラガイ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-60	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	サクラガイ類	左殻	5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-61	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近ⅠⅡ	谷北岸部	アサリ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)

第10表

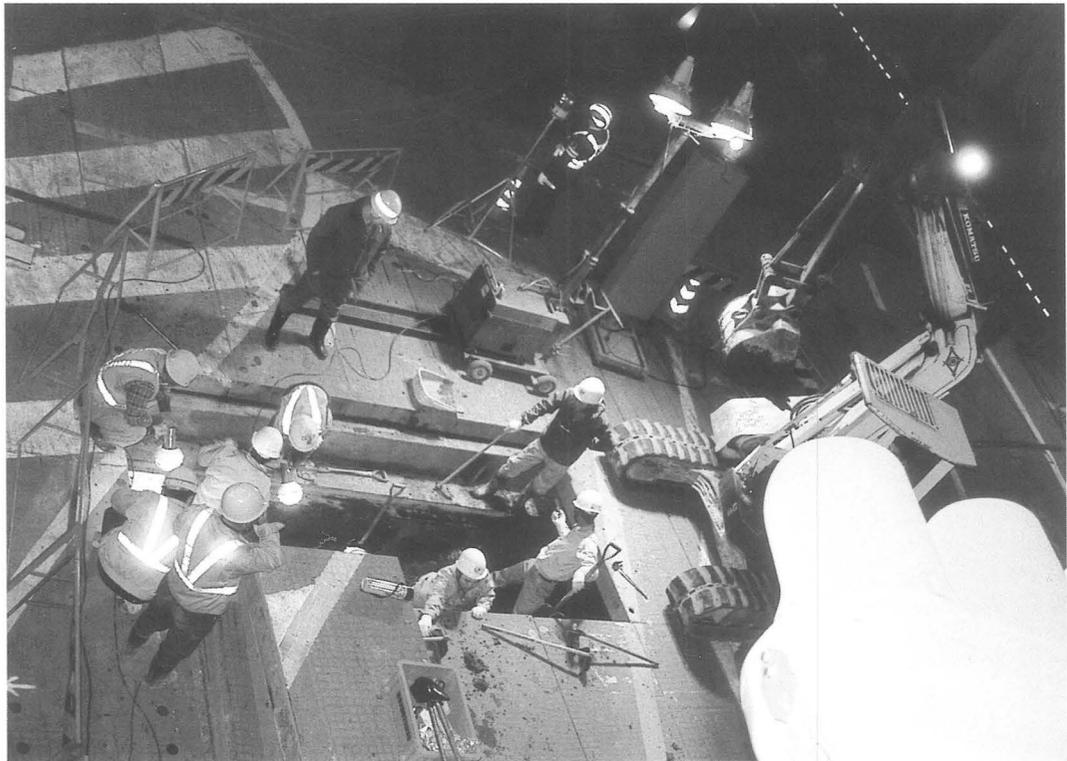
番号	遺跡名	出土地区	出土層位	出土遺構	種類	部位	時期	備考
S-62	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近 I II	谷北岸部	クチベニデガイ		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-63	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近 I II	谷北岸部	チビクチベニガ イ	左殻前半部	5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)
S-64	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近 I II	谷北岸部	アサリの幼貝		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい2mm) ウチムラサキの幼貝 比較標本なし
S-65	NTZ-33	第2区ガス管下	コフン層TP+11.3m 付近 I II	谷北岸部	二枚貝の破片		5世紀末～6世紀 初頭	R-561 (ふるい 2mm)同定不可

第10表

圖版



調査地全景（南から）



夜間機械掘削（南から）



覆工板下作業風景 平板実測（西から）



覆工板下作業風景 実測（北西から）



第4区会所状遺構検出状況（東から）



第4区会所状遺構遺物出土状況（西から）



第5区中世遺構検出状況（東から）



第3区集石遺構検出状況（南から）



第7区井戸1断ち割り状況（南から）



第6区井戸2断ち割り状況（北から）



第5区井戸3断ち割り状況（西から）



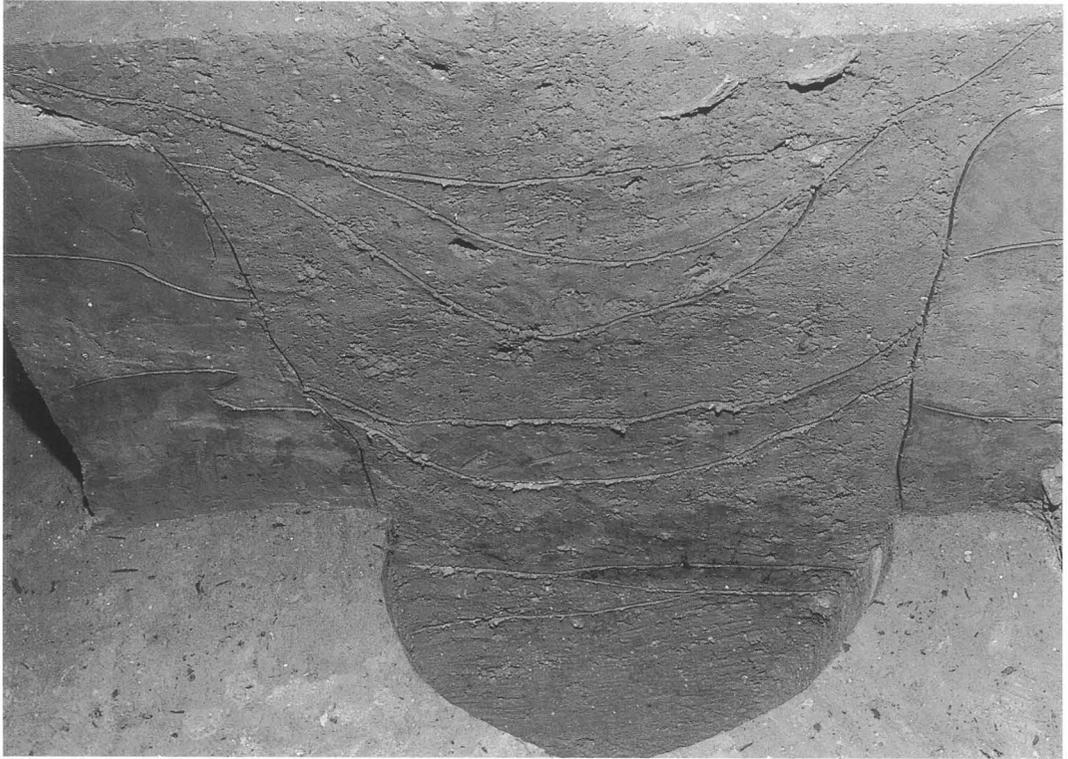
第5区井戸4検出状況（西から）



第5区井戸4上部掘削状況（北西から）



第5区井戸4下部遺物出土状況（西から）



第2区井戸5断ち割り状況（北から）



第5区第1砂層（16層）遺物出土状況（南西から）



第3区西側足跡面検出状況（北から）



第3区東側足跡面検出状況（北から）



第4区足跡面検出状況（北から）



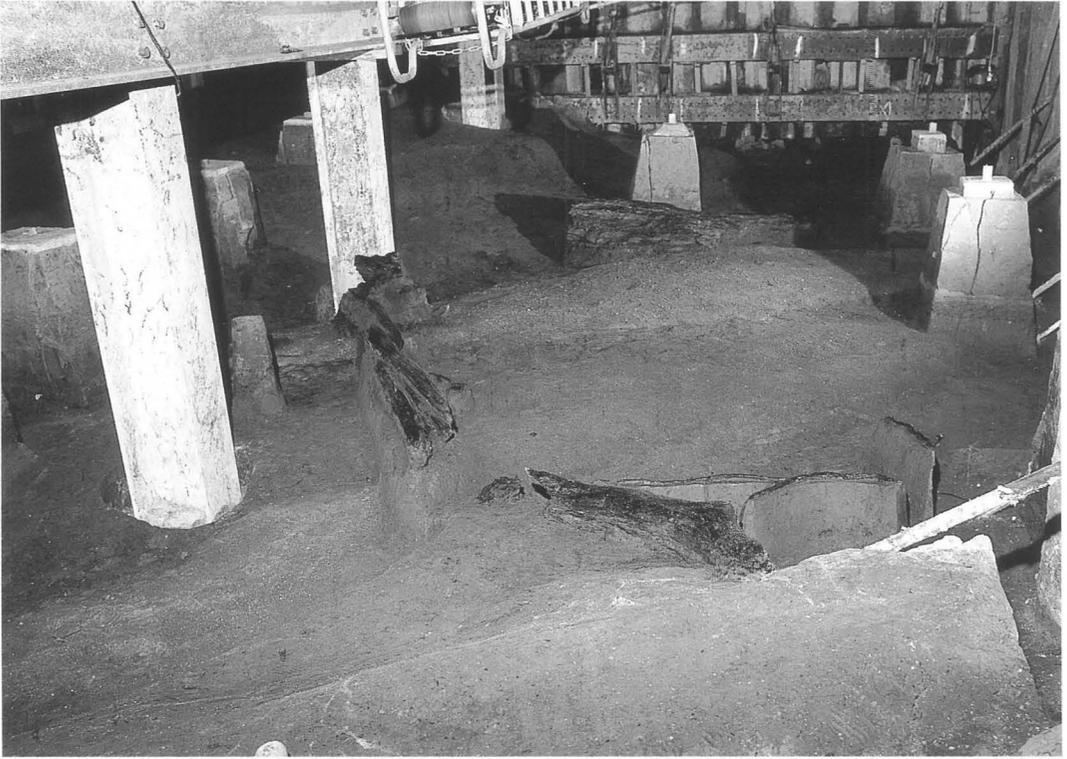
第4区足跡面直上層遺物出土状況（南から）



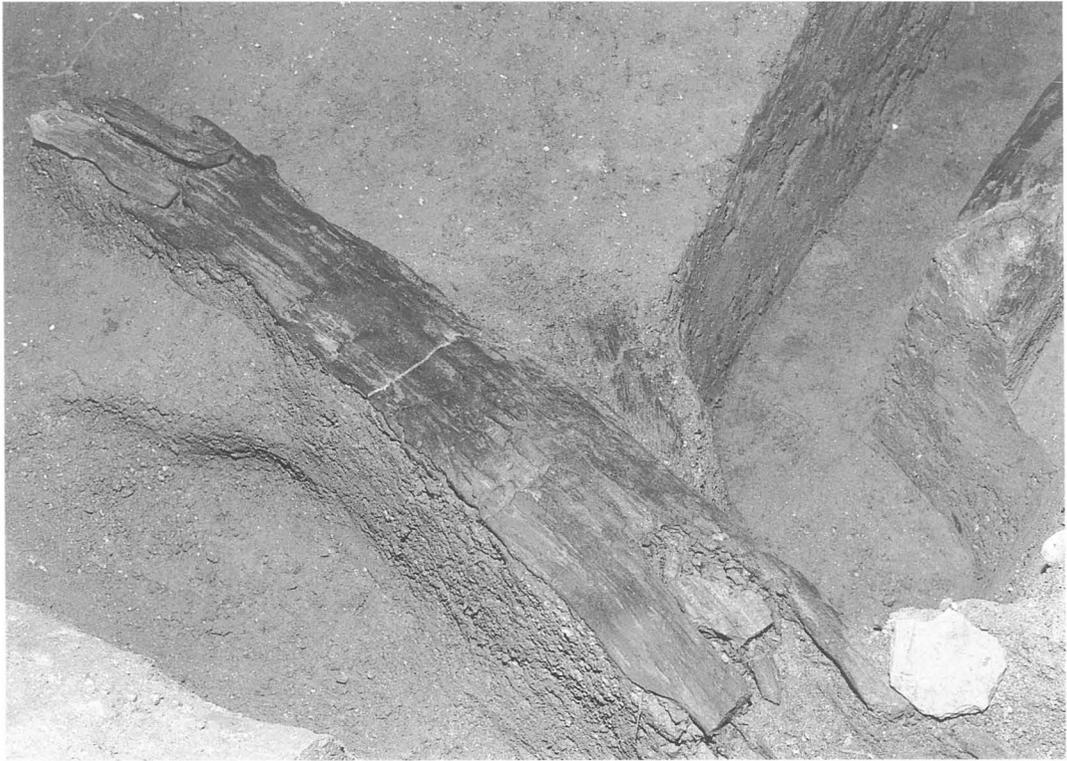
第2区ガス管下トレンチ古墳時代層遺物出土状況（南から）



第2区ガス管下トレンチ古墳時代層遺物出土状況（南から）



第4区加工木材出土状況（北から）



第2区流路3内加工木材出土状況（東から）



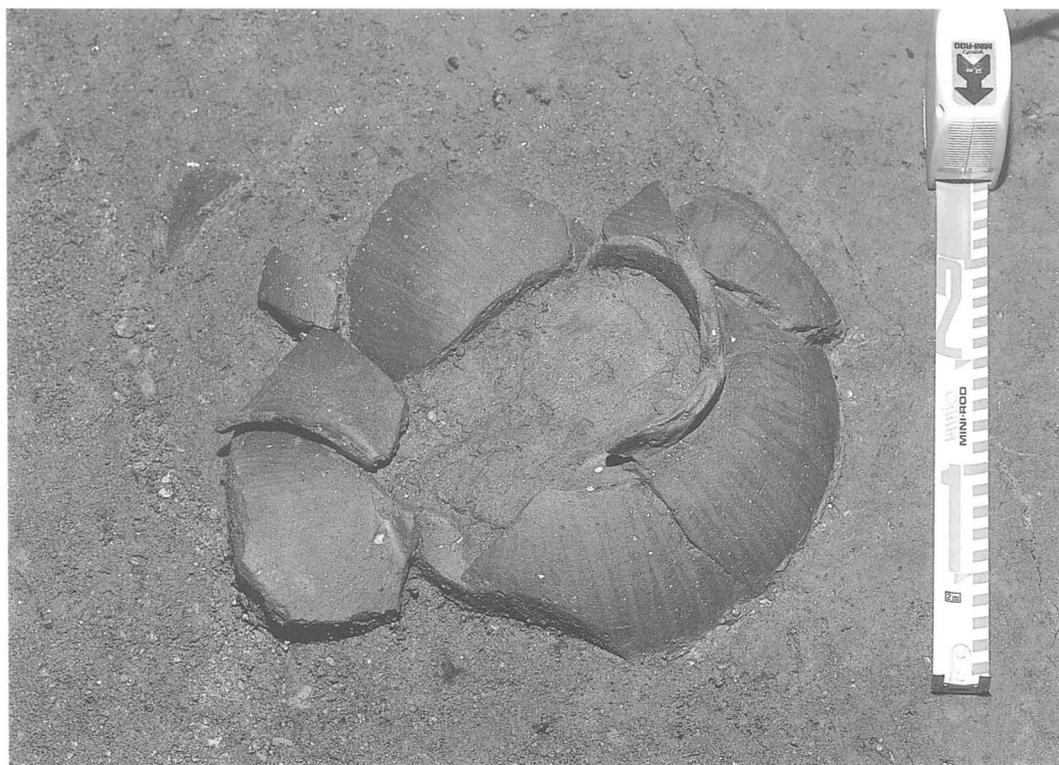
第1区、4区流路3(左)流路4検出状況(北から)



第3区流路3検出状況(北東から)



第4区流路3内遺物出土状況（北から）



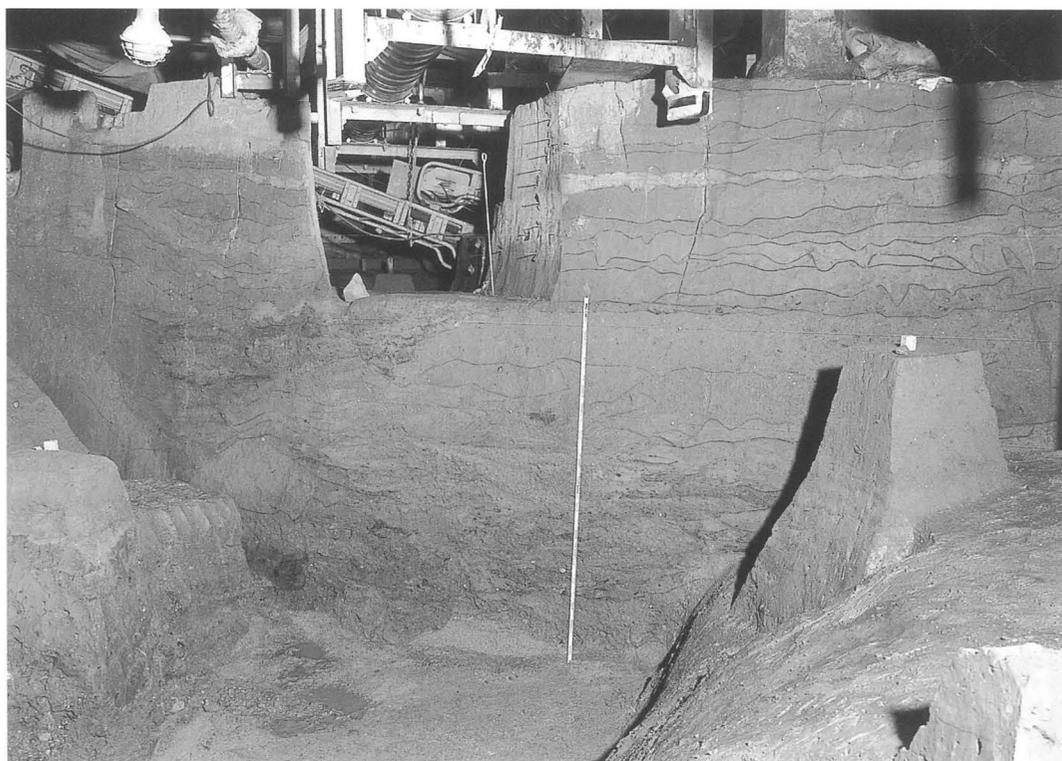
第4区流路4ベース内遺物出土状況（南から）



第3区流路3北岸部遺物出土状況（西から）



第3区流路3南岸部石包丁出土状況（北から）



谷断面（南から）



谷完掘状況（北東から南西を見る）



谷完掘状況（東から）



谷完掘状況（南西から）



1

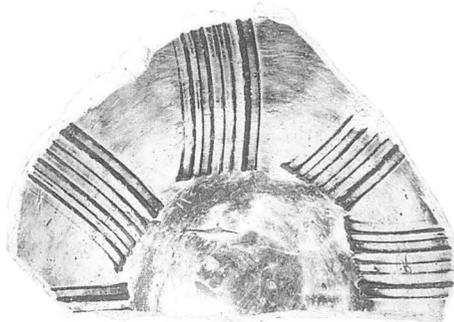
2



3



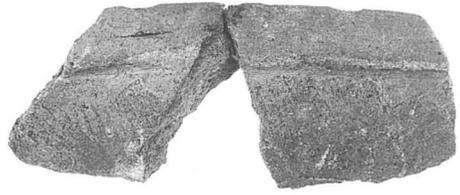
4



5



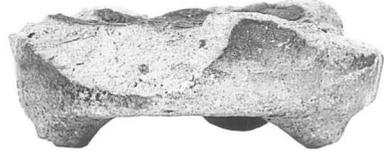
6



10



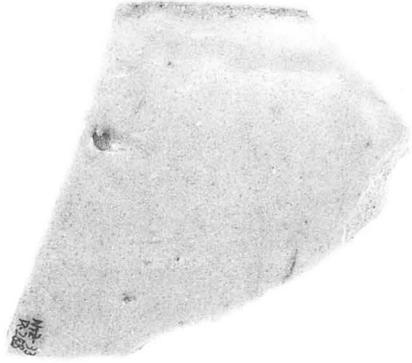
7



11



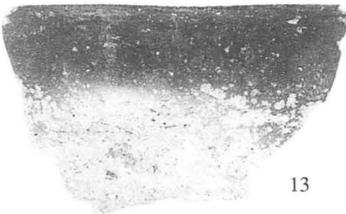
8



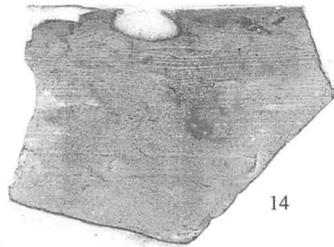
12



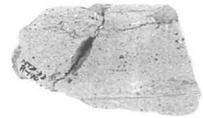
9



13



14



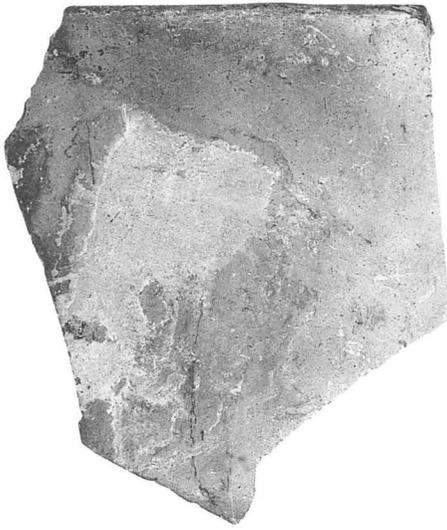
15



16



17



18



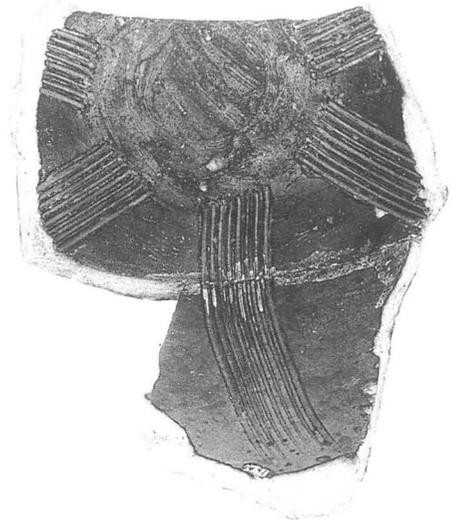
21



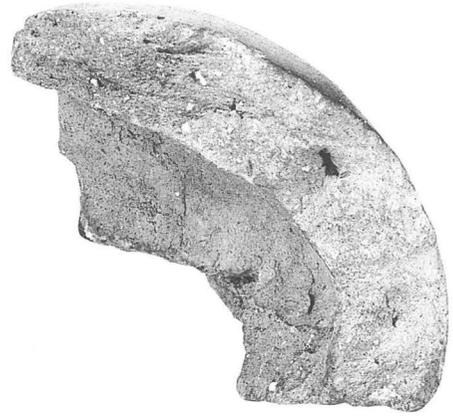
19

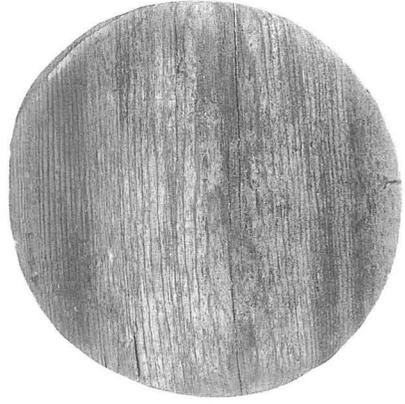
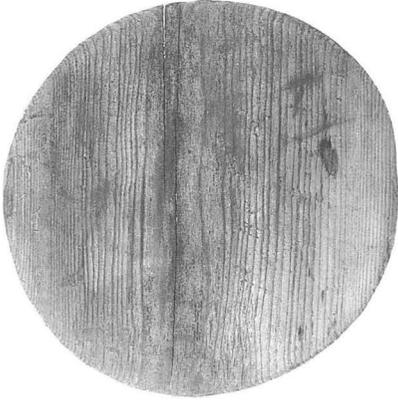


20

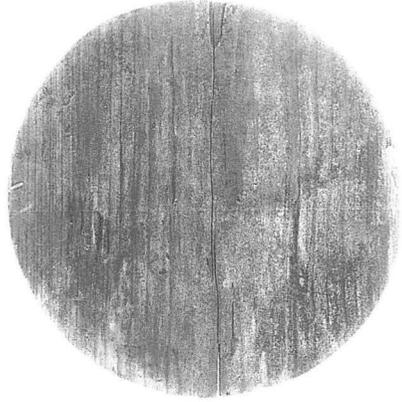
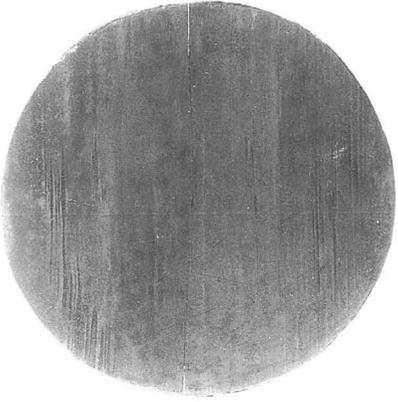


22

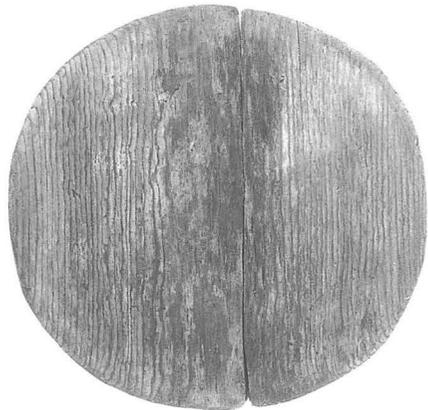
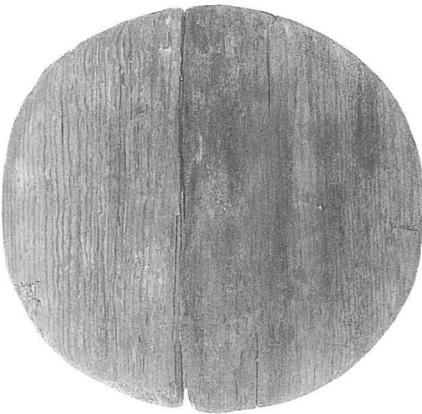




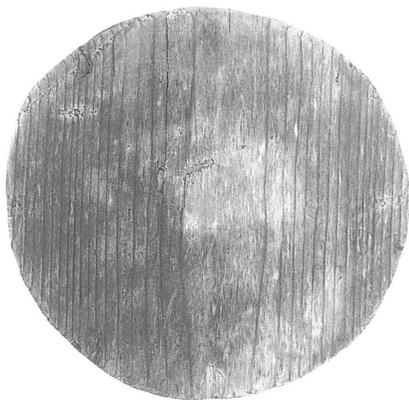
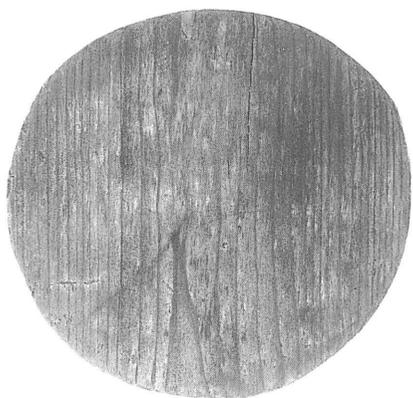
24



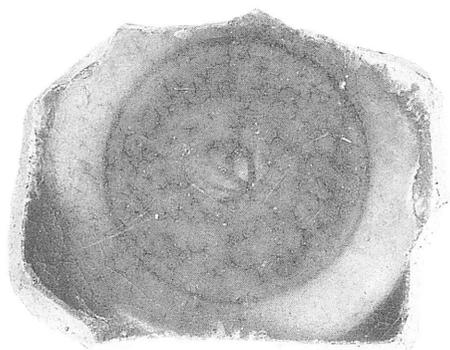
25



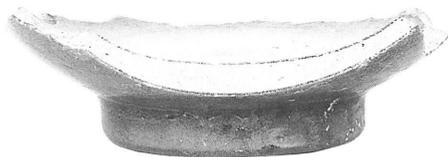
26



27



29



28



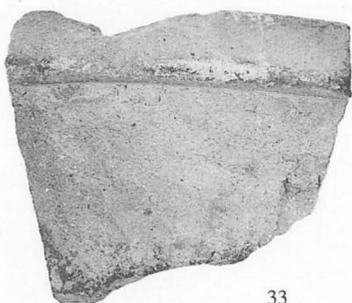
30



31



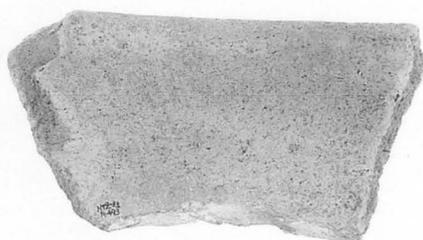
32

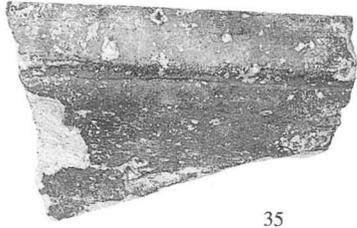


33

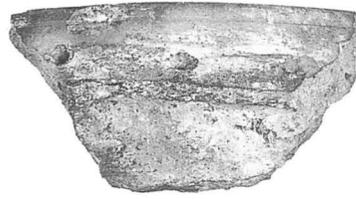


34





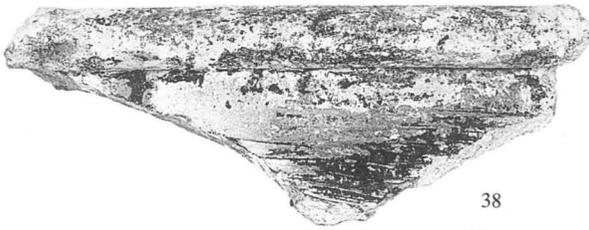
35



36



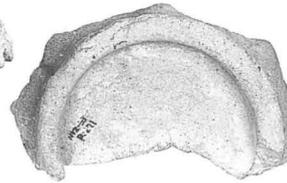
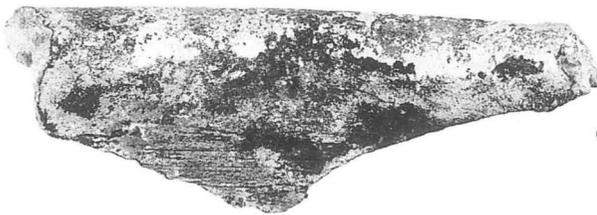
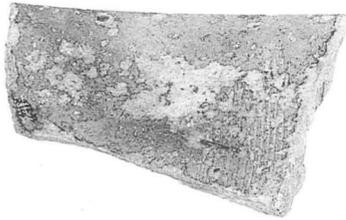
37

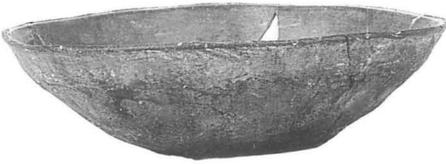


38



39



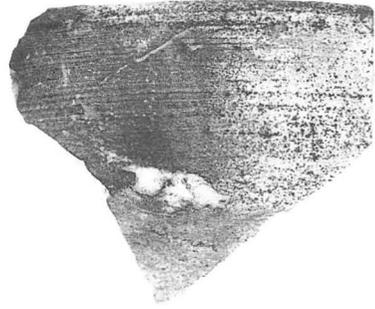




42



43



45



44



46



47



49



48



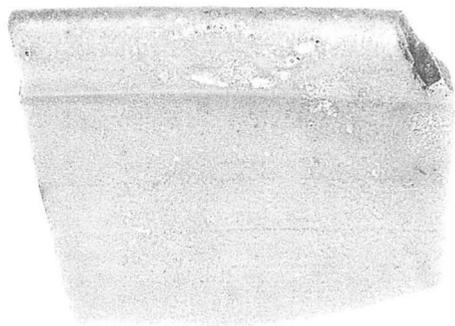
50



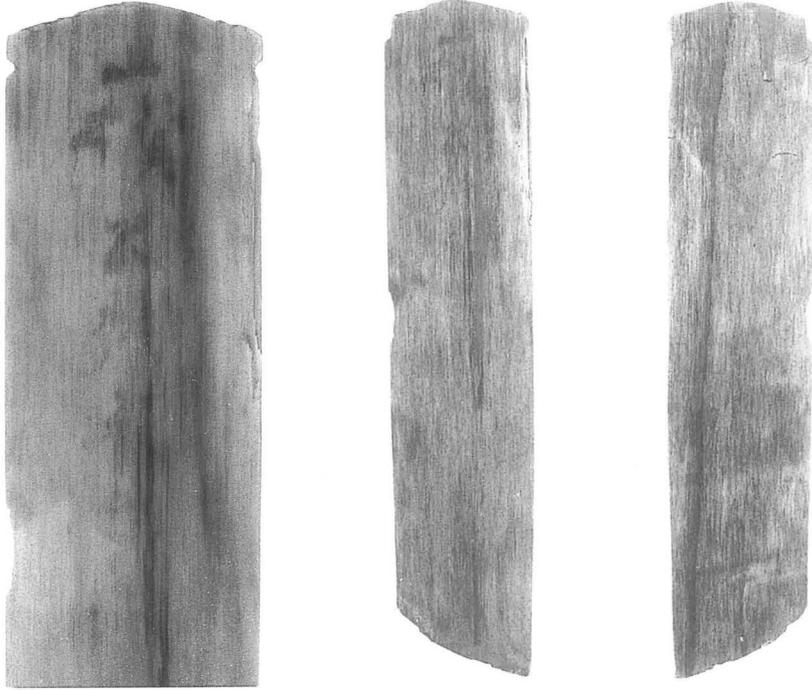
51



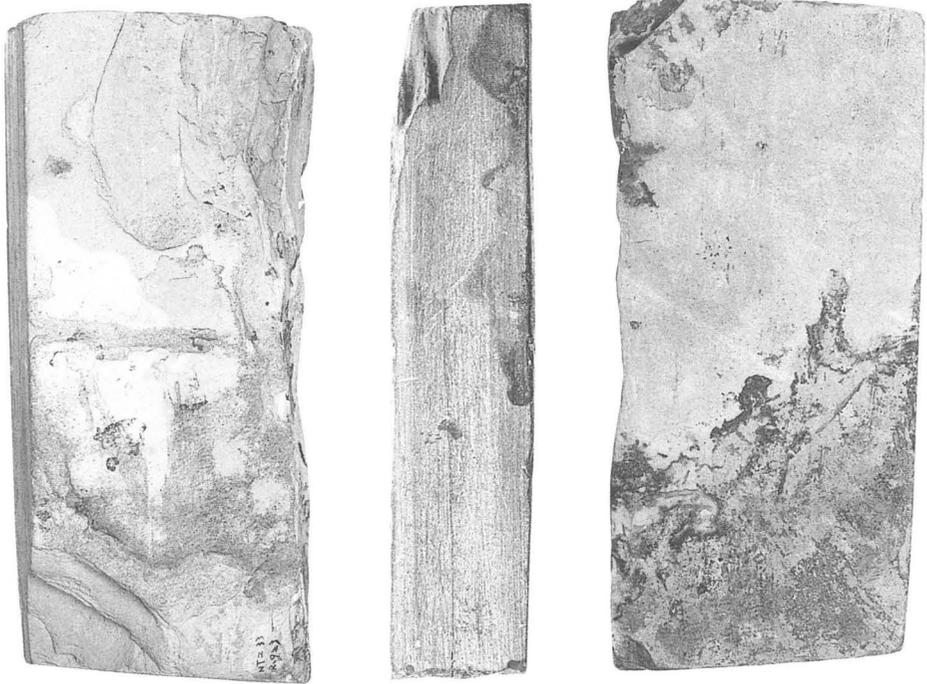
52



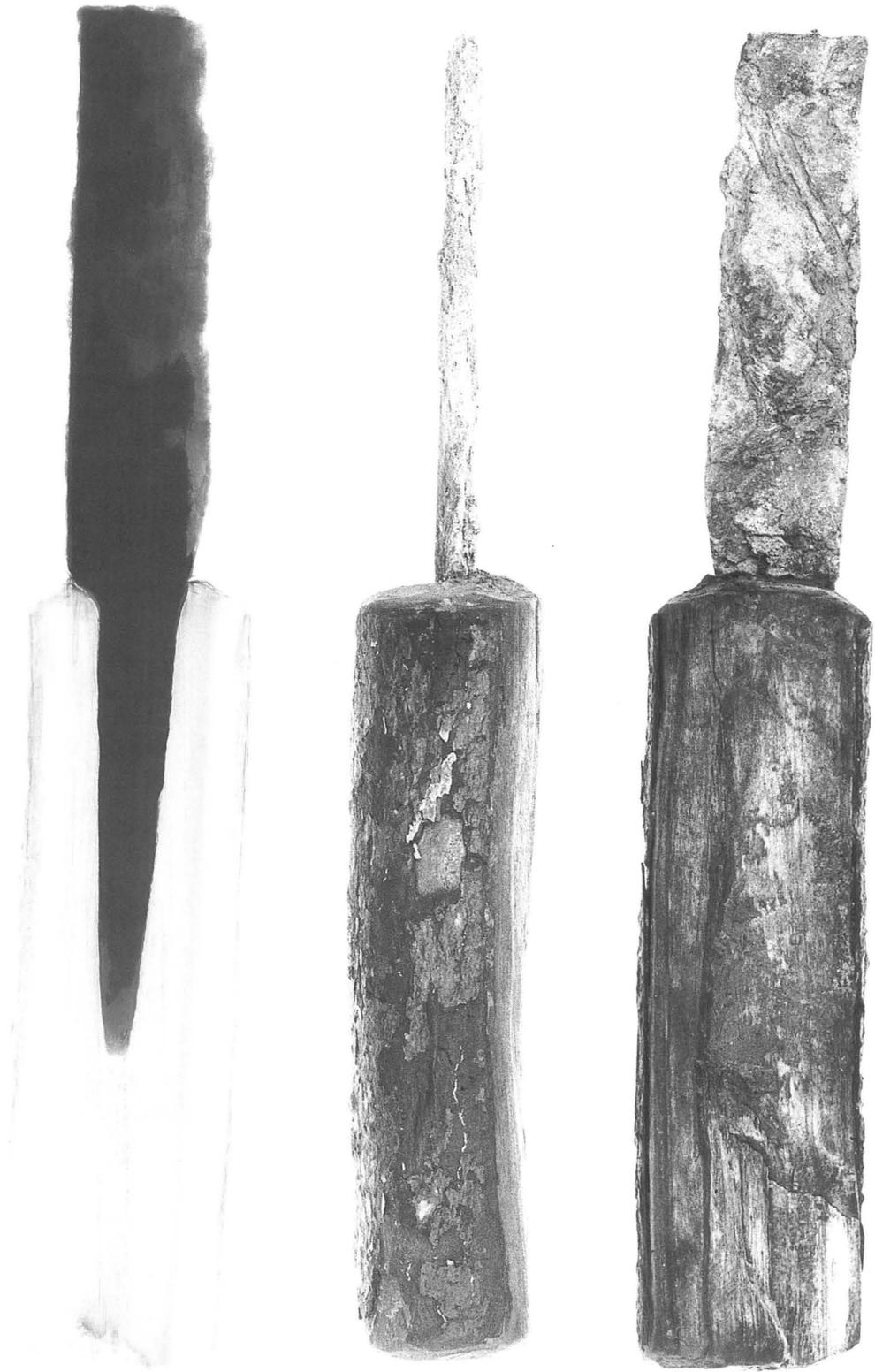
53

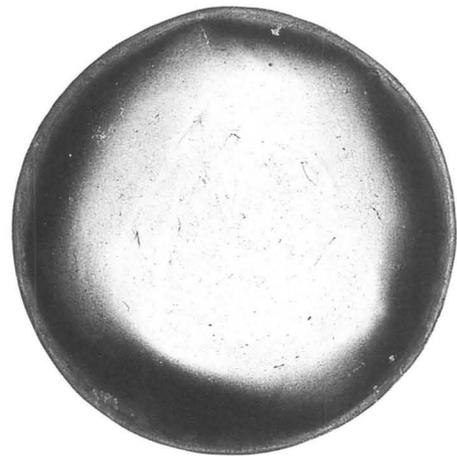
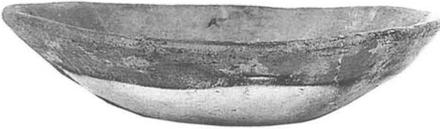


54



55







62



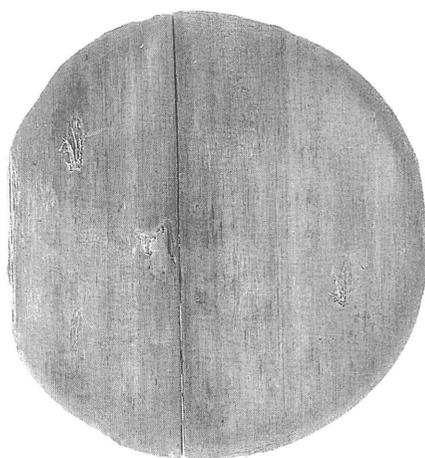
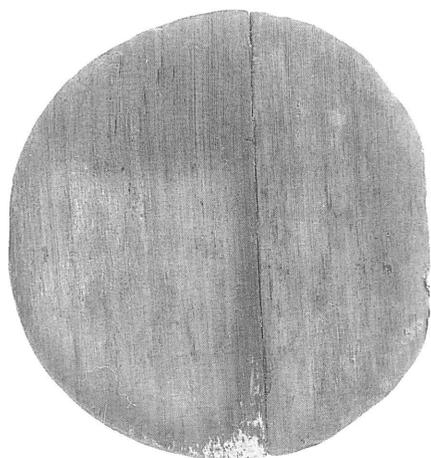
59

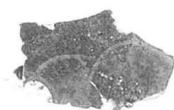


60



61





65



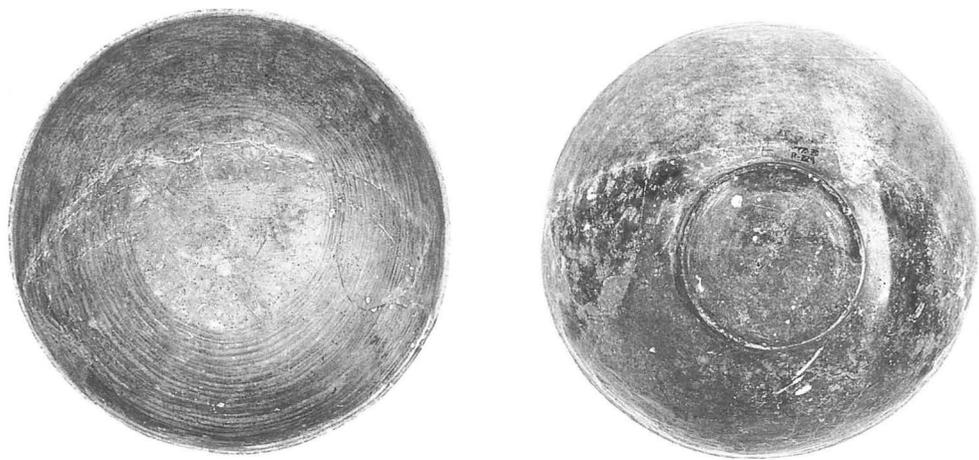
66



65



66



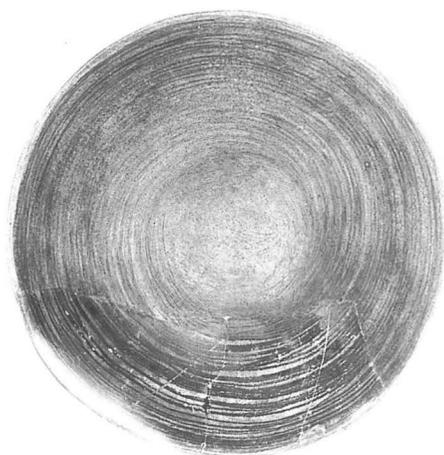
67

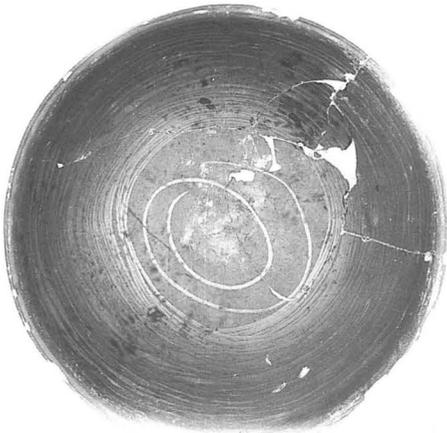


68









75



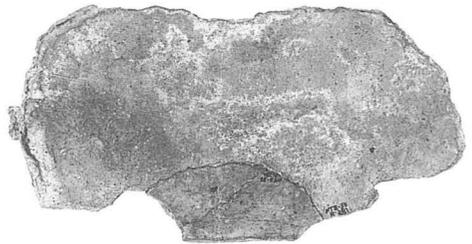
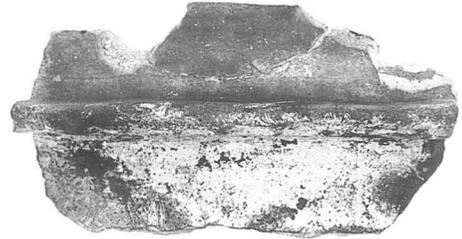
76



77



78



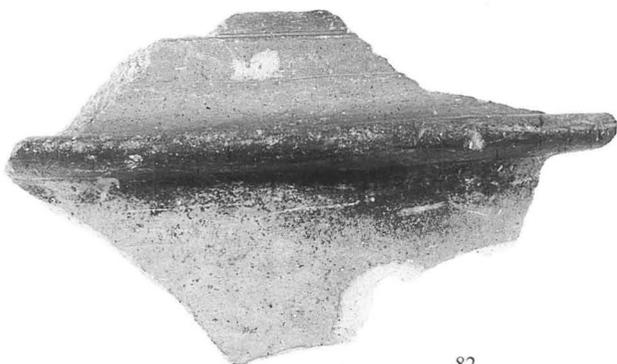
79



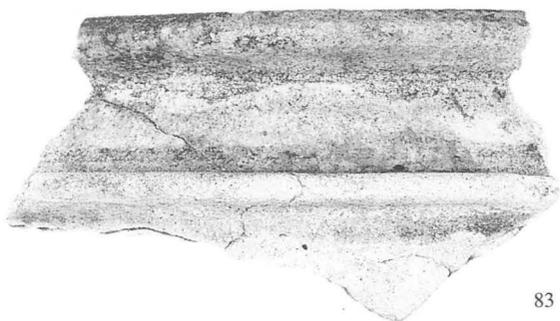
80



81



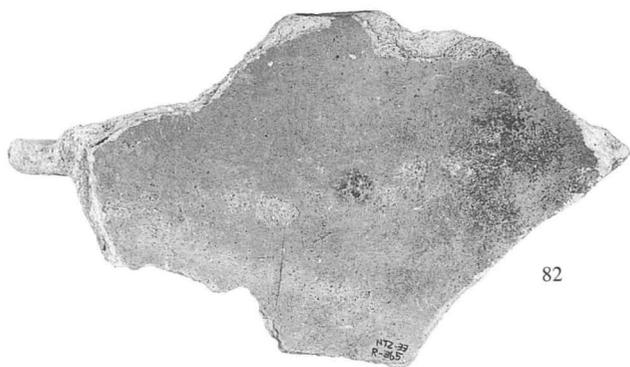
82



83



81



82



83



84



85



86



87



88



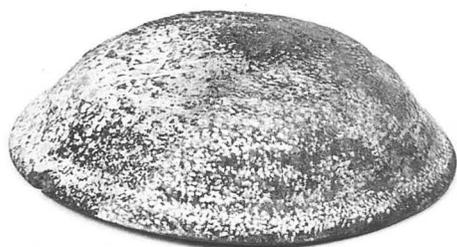
90



89



91



92



96



93



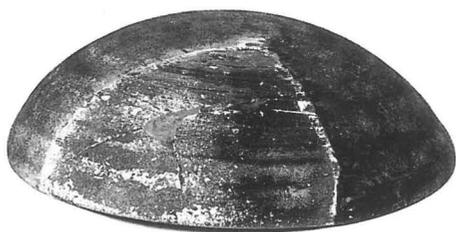
97



94



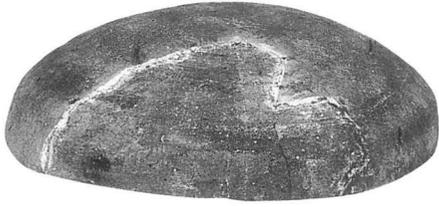
98



95



99



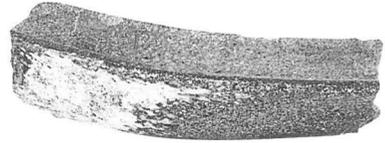
100



105



101



106



102



107



103



108



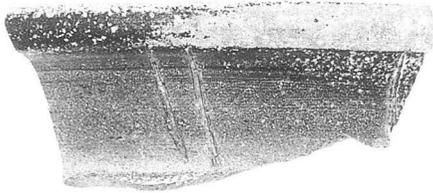
104



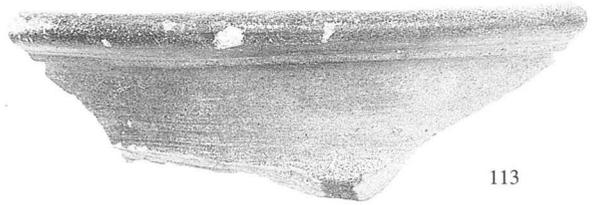
109



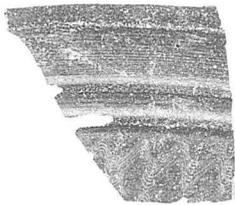
110



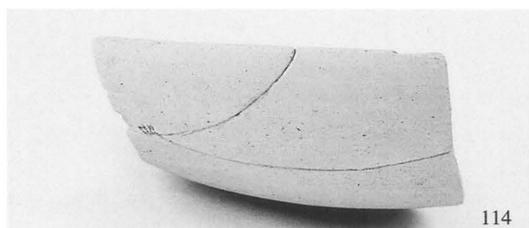
111

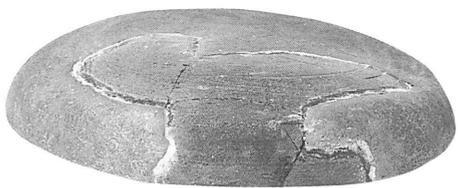


113



112

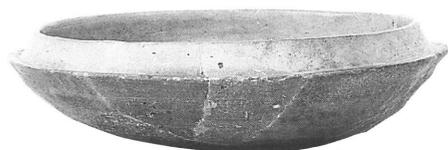




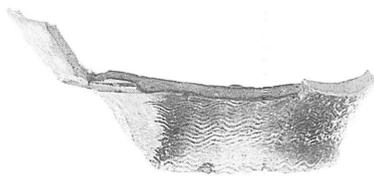
122



123



124



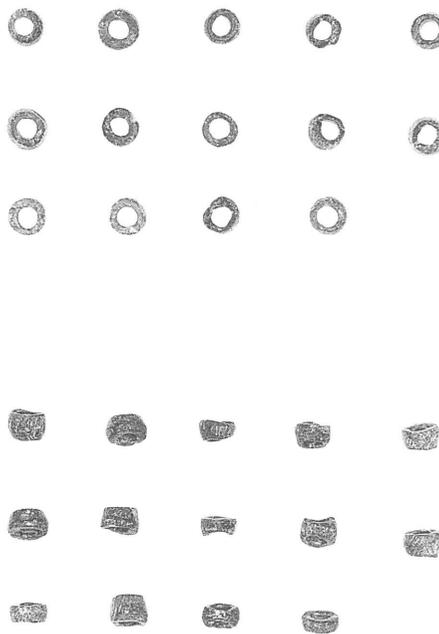
126



127



125



128



129



134



130



135



131



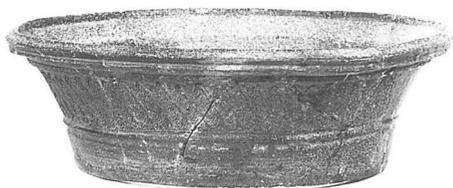
132



136



133



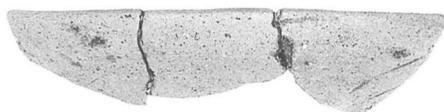
137



138



142



139



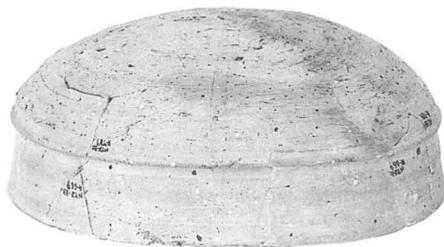
143



140



144



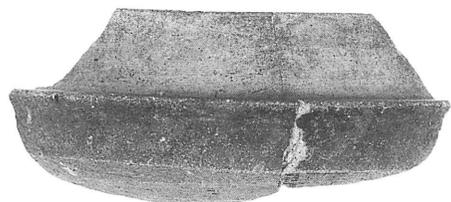
141



145



146



147



148



149



150



151



152



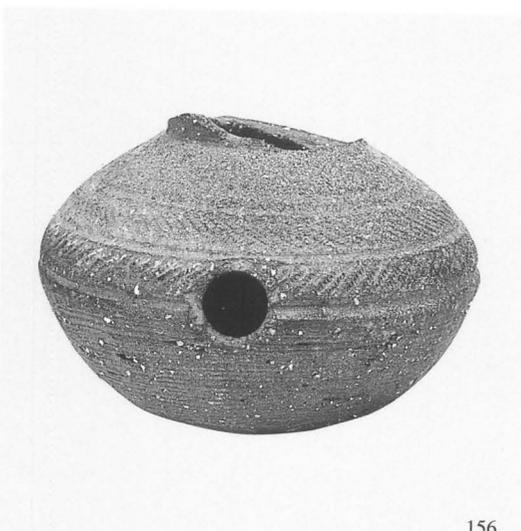
153



154



155



156



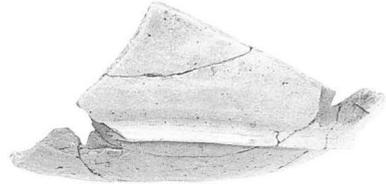
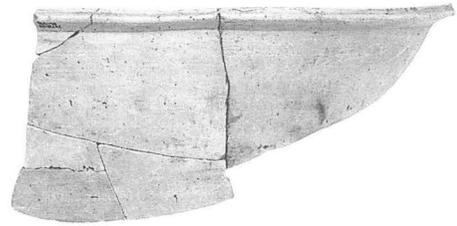
157



158



161



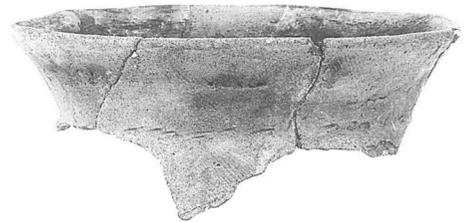
162



159



160



163



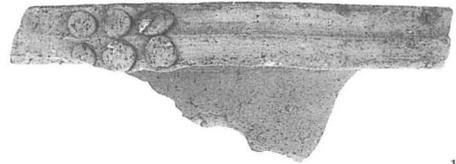
172



177



173



178



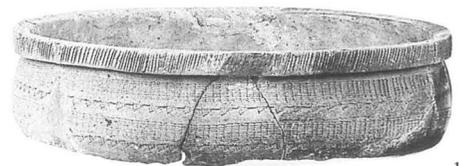
174



179



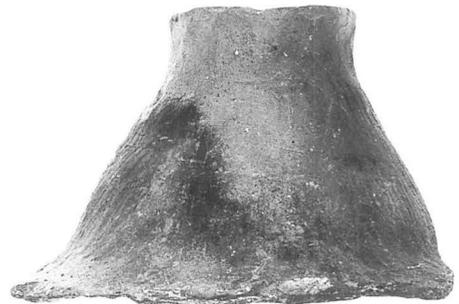
175



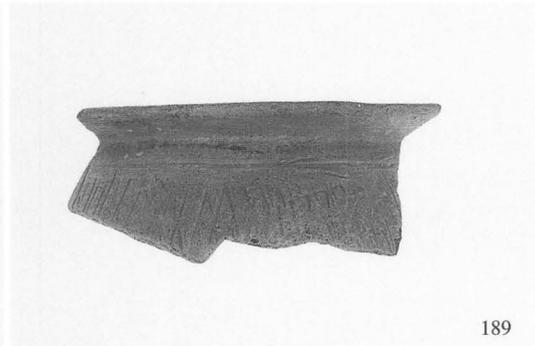
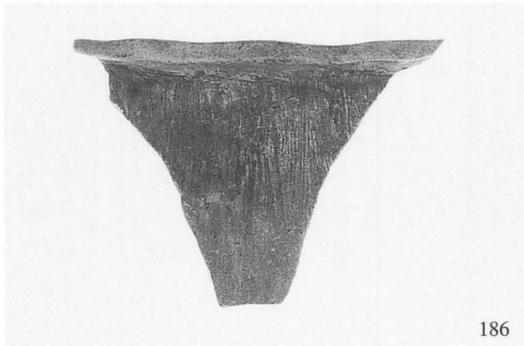
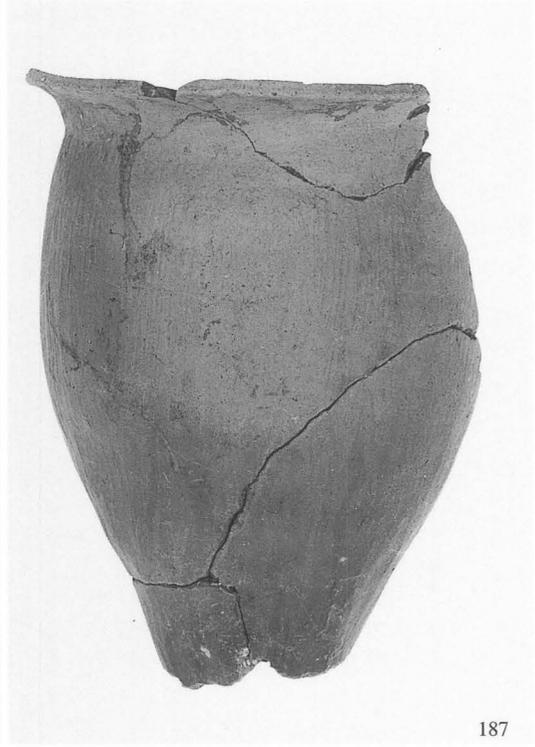
180



176

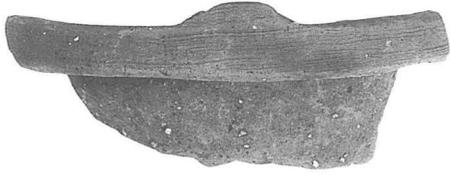


181

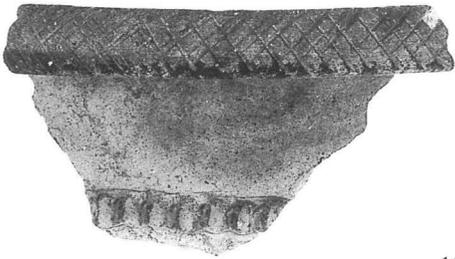




164



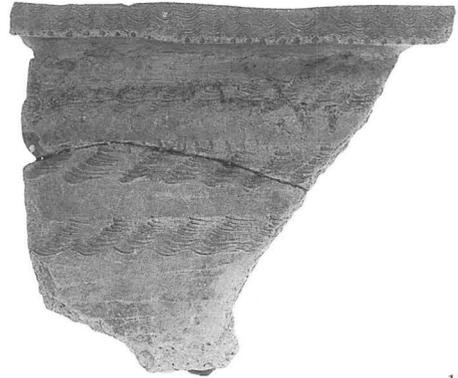
165



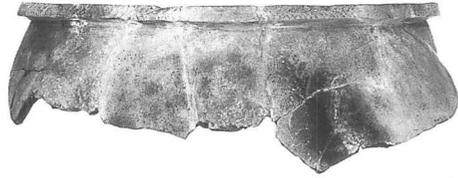
166



168



169



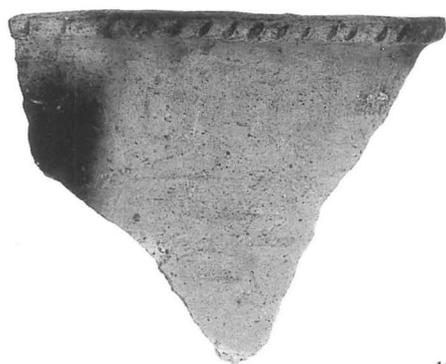
170



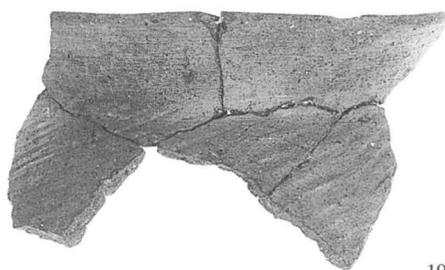
167



171



190



194



191



195



192



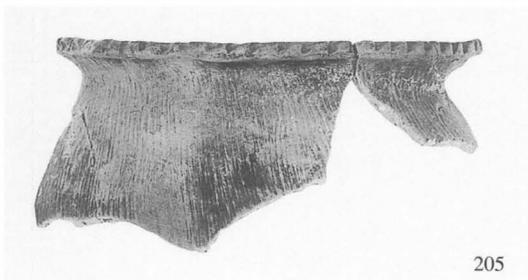
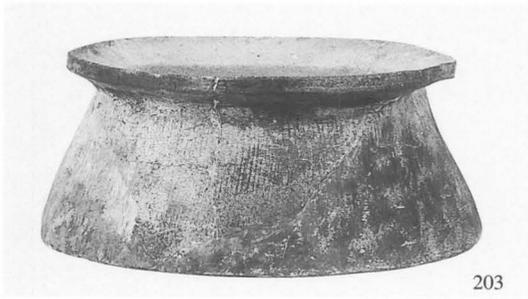
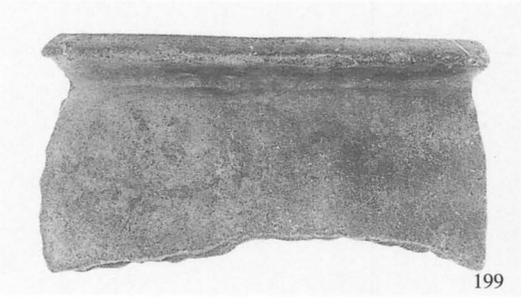
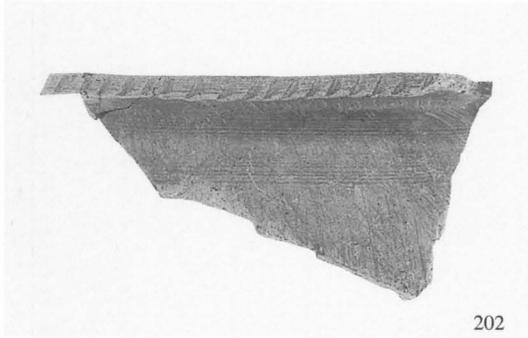
196



193



197

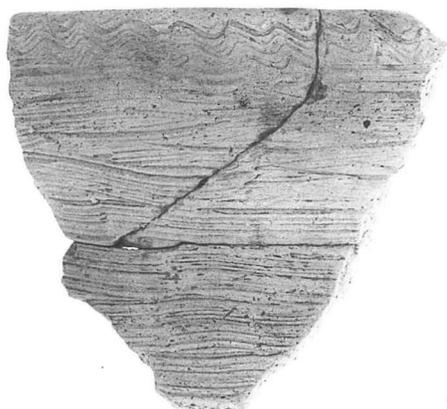




206



210



211



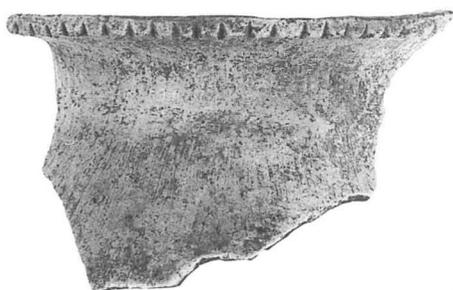
207



212



208



209



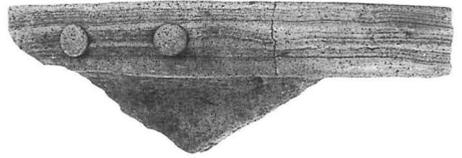
213



214



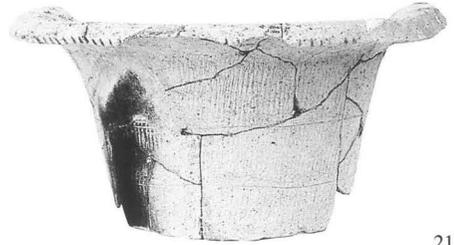
217



218



215



219



220



216



221



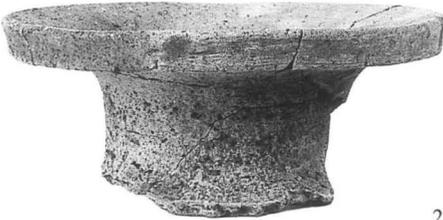
222



227



223



224



228



225



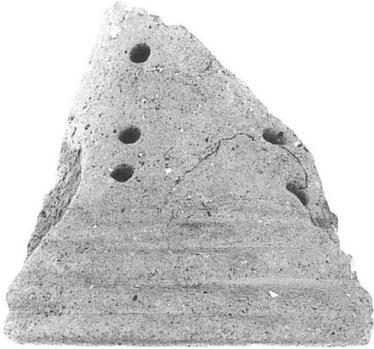
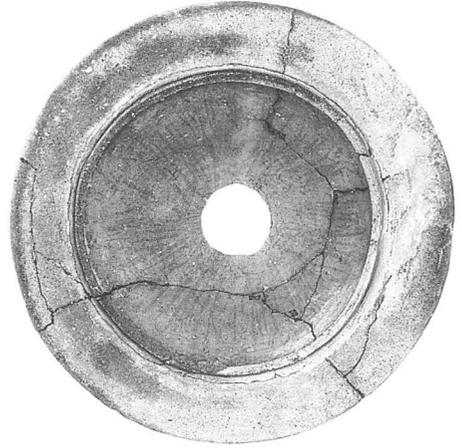
226



229



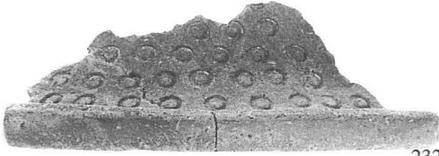
230



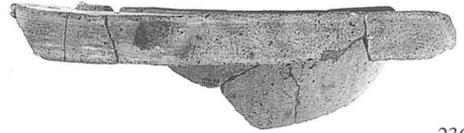
231



235



232



236



233



237



238



234



239



240



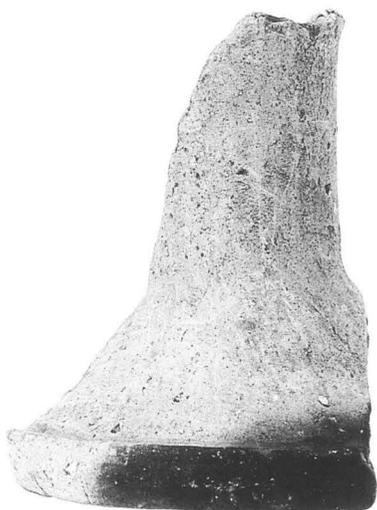
243



241



244



242



245



246



252



247



253



248



254



249



250



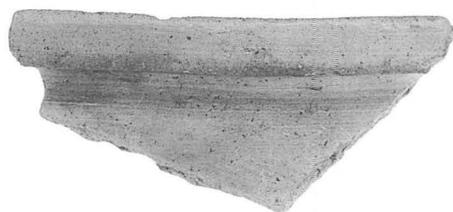
251



255



256



260



257



261



258



259



262



263



266



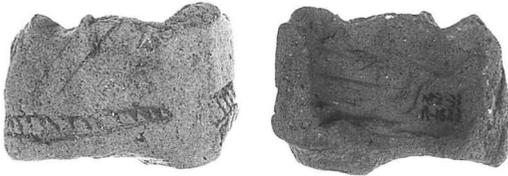
264



265



267



268



269



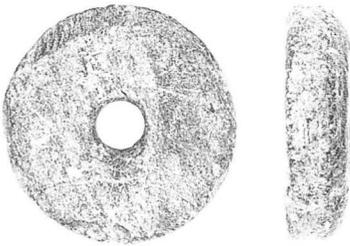
271



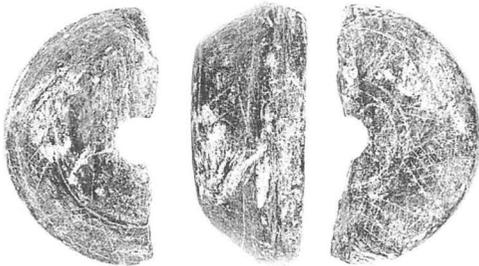
270



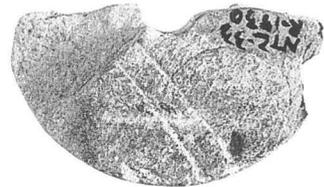
272



273



274



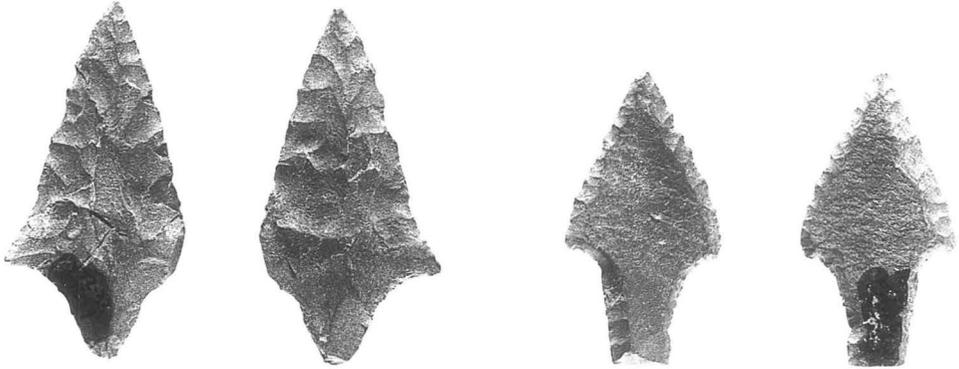
275



276

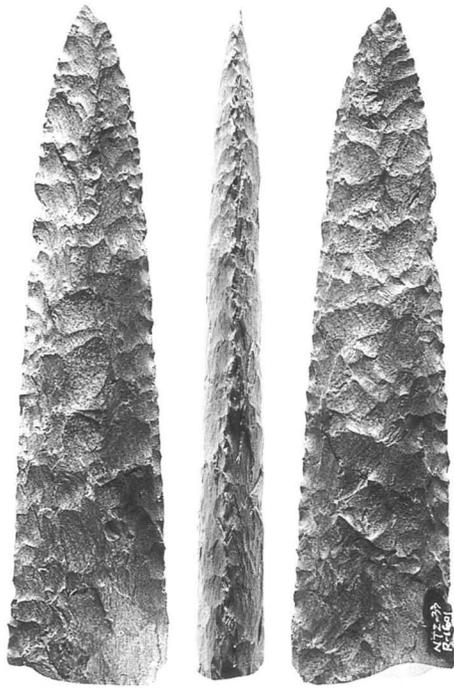
277

278

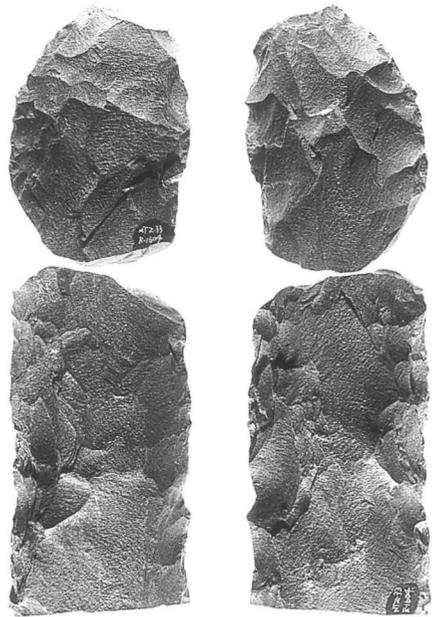


279

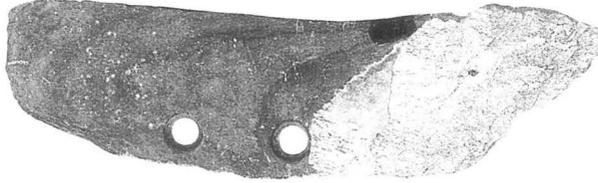
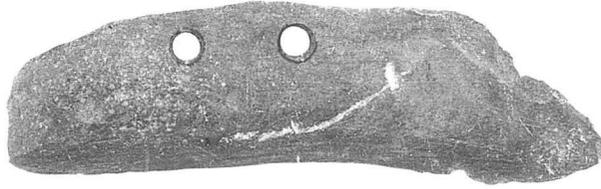
280



281



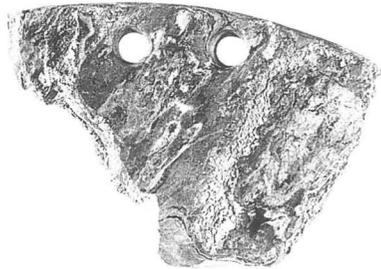
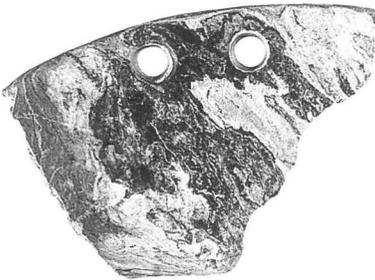
282



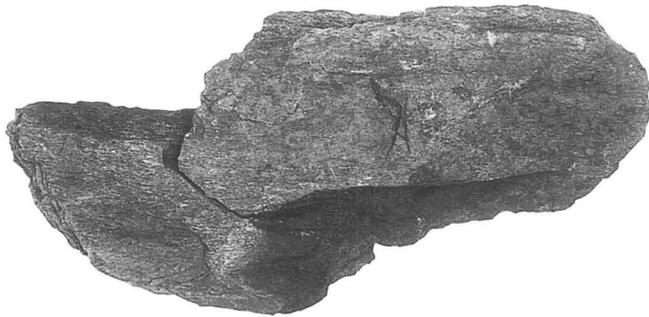
284



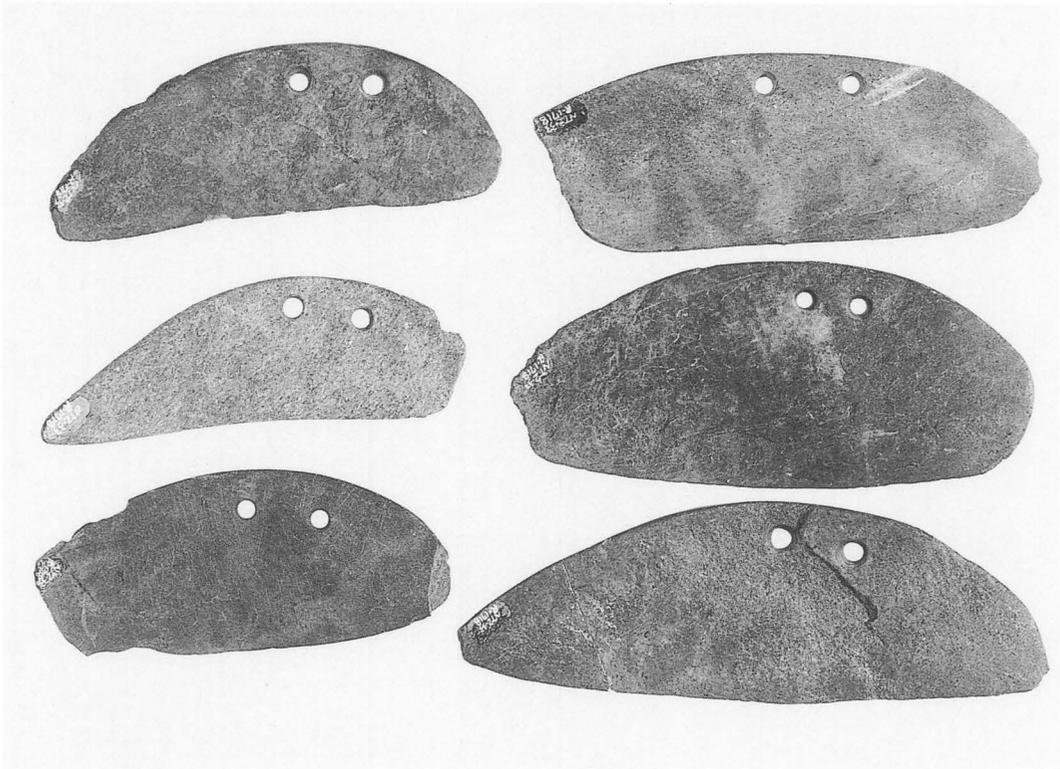
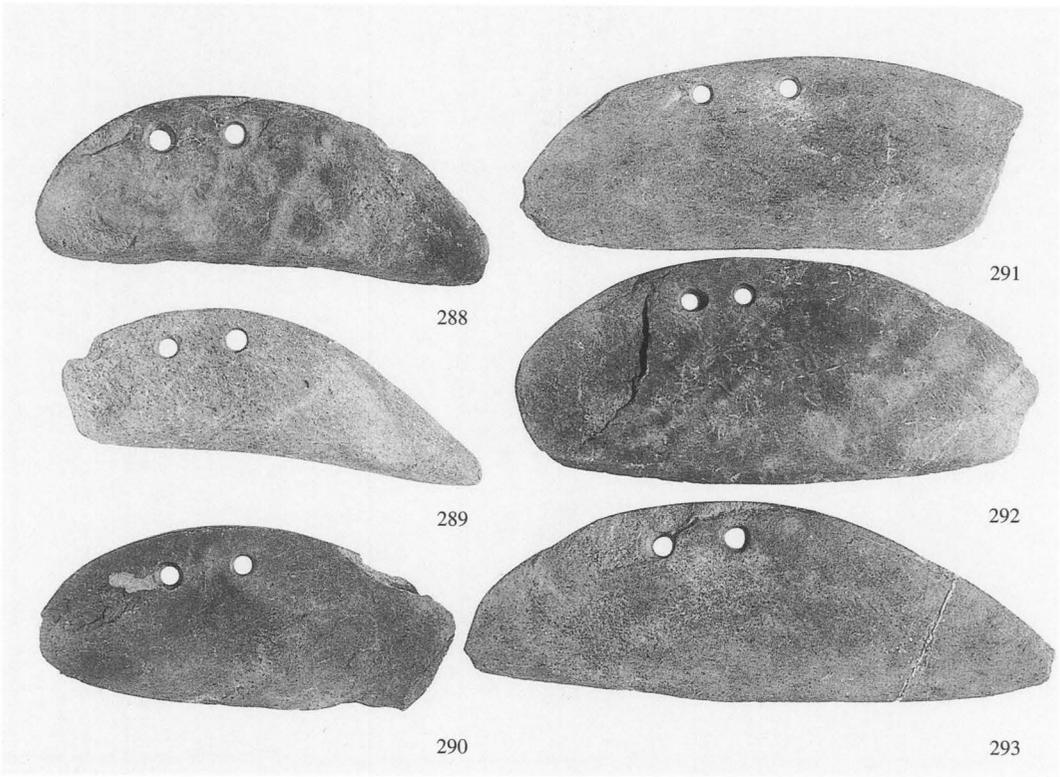
285

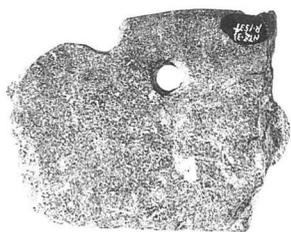


286

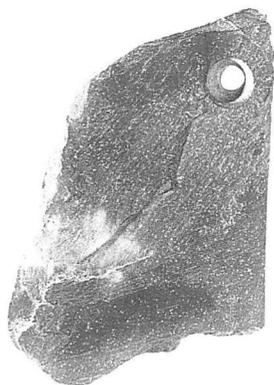
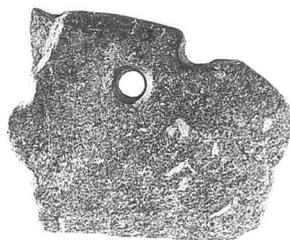


287

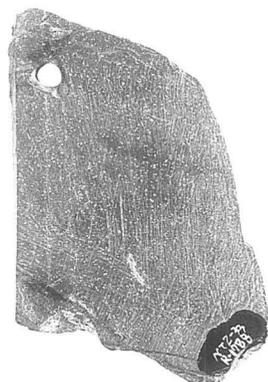




294



295



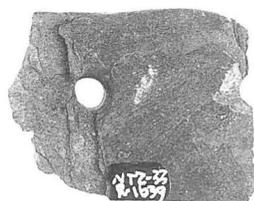
296



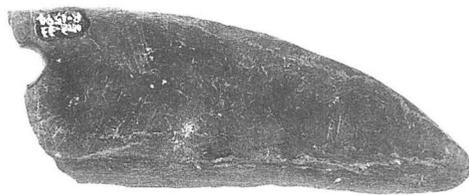
297

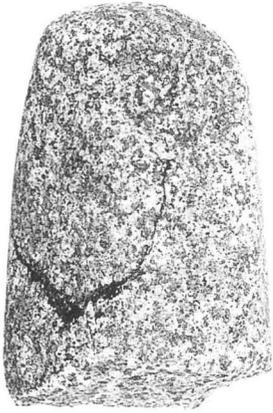


298

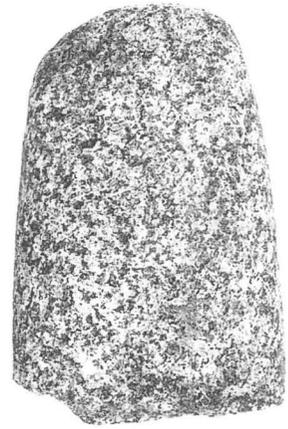


299





300



301

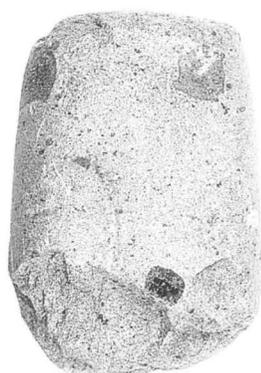


302

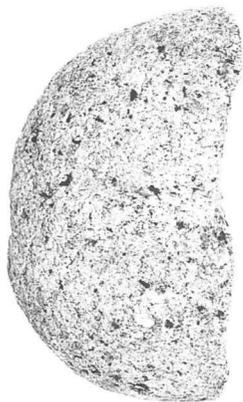




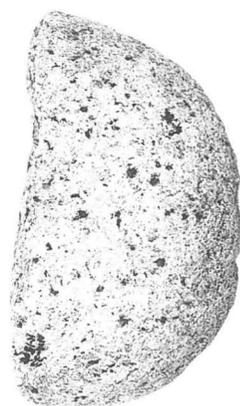
303



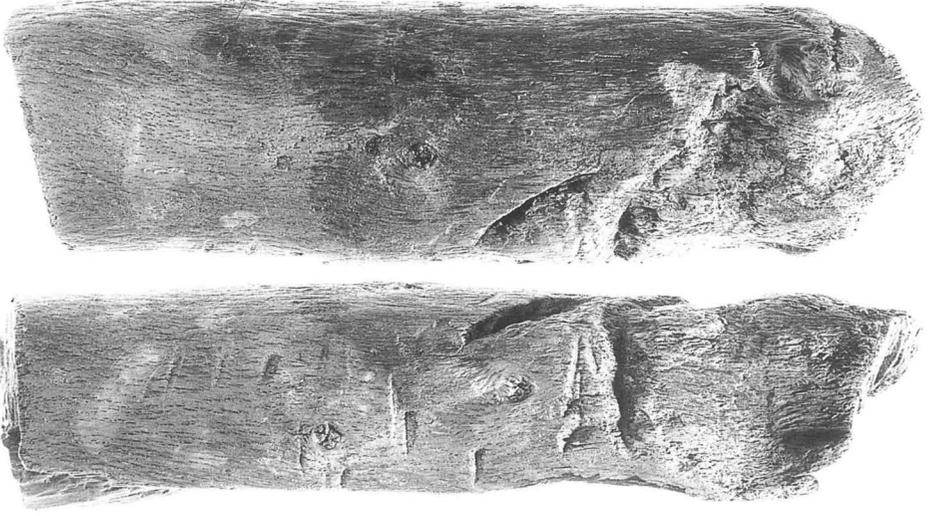
304



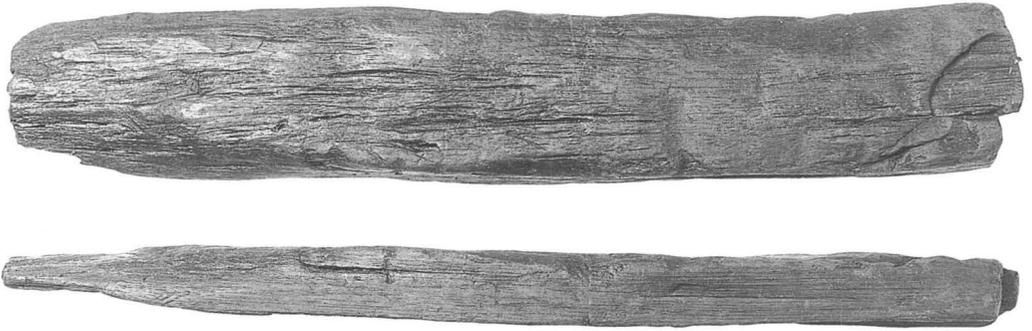
305







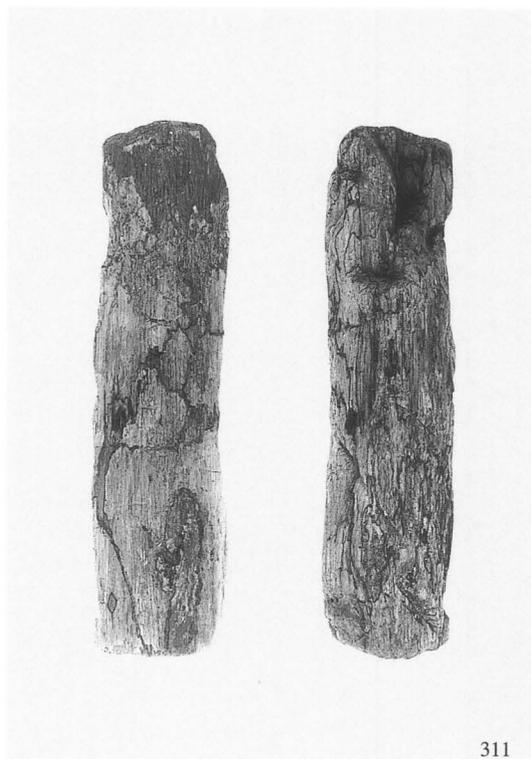
307



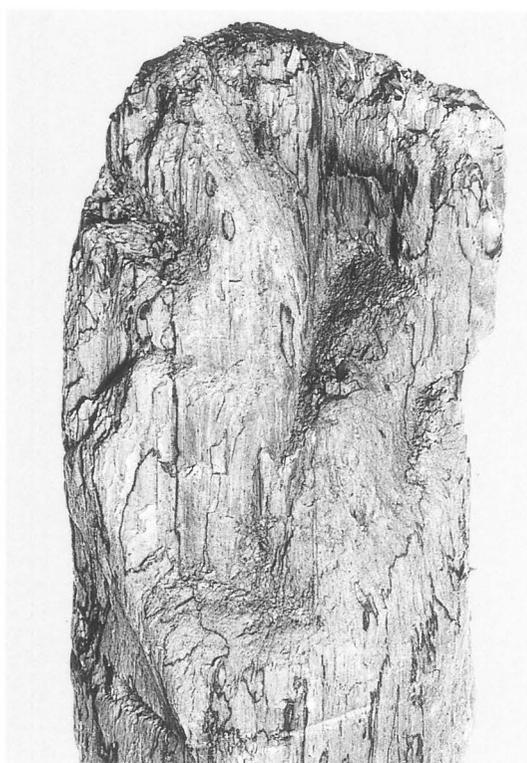
308



310

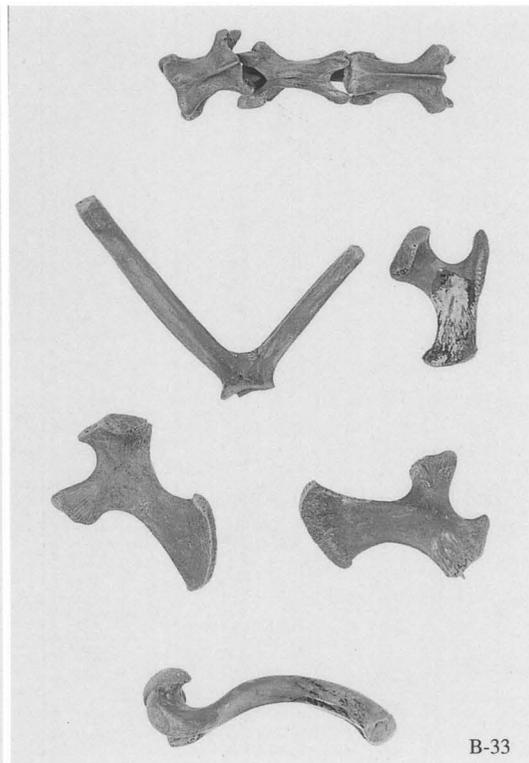
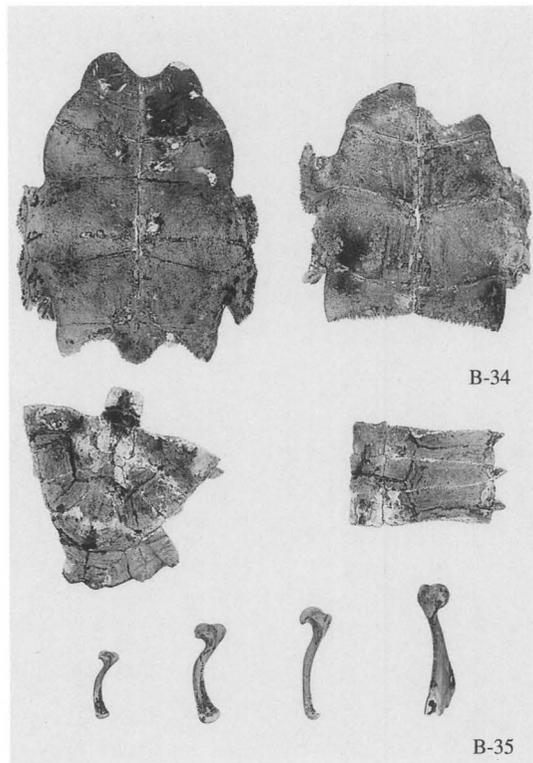
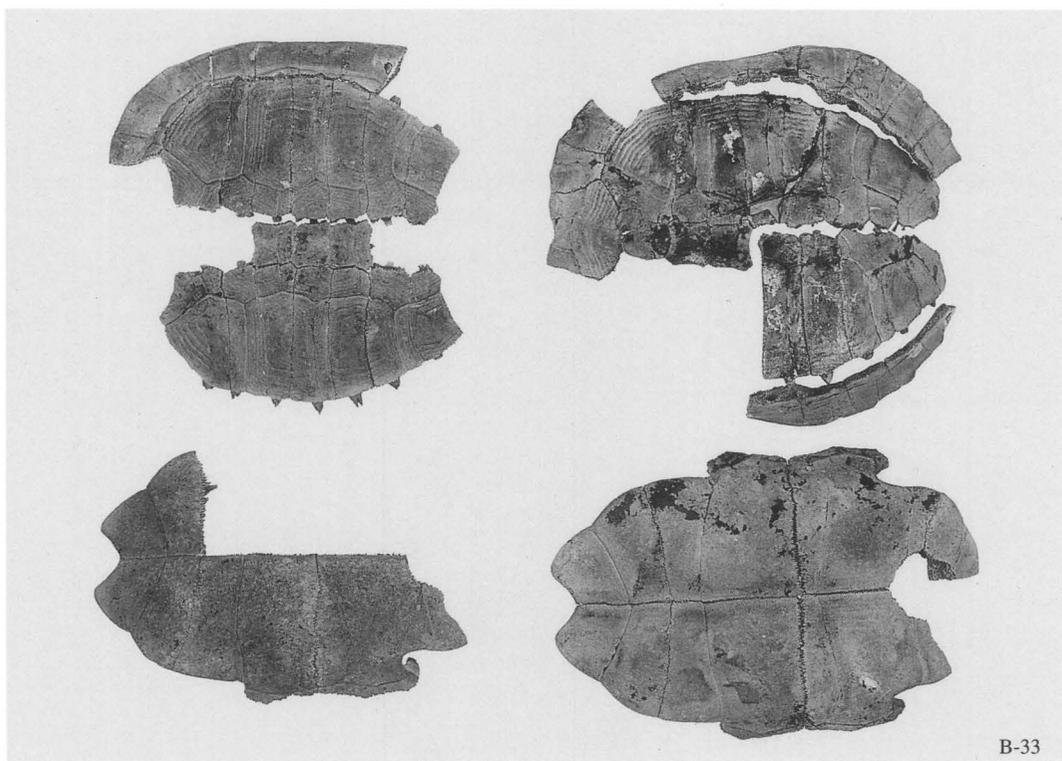


311

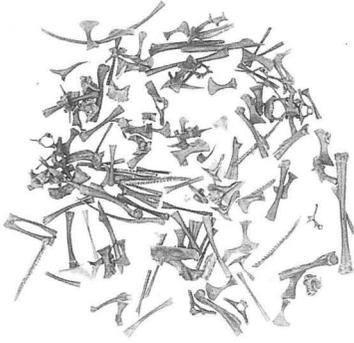


312

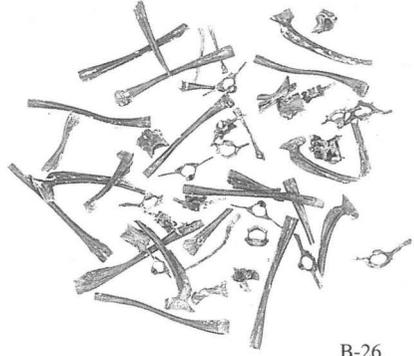




B-33



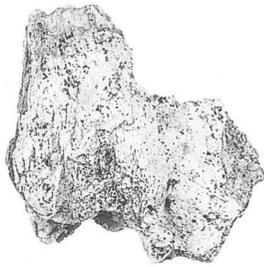
B-29



B-26



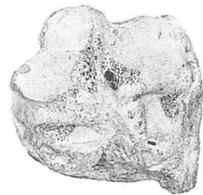
B-4



B-10



B-25



B-17



B-13



B-14



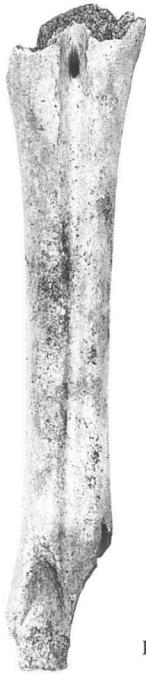
B-14



B-9



B-12



B-15



B-7



B-30



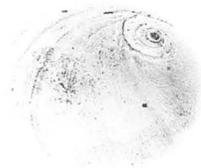
S-17



S-4



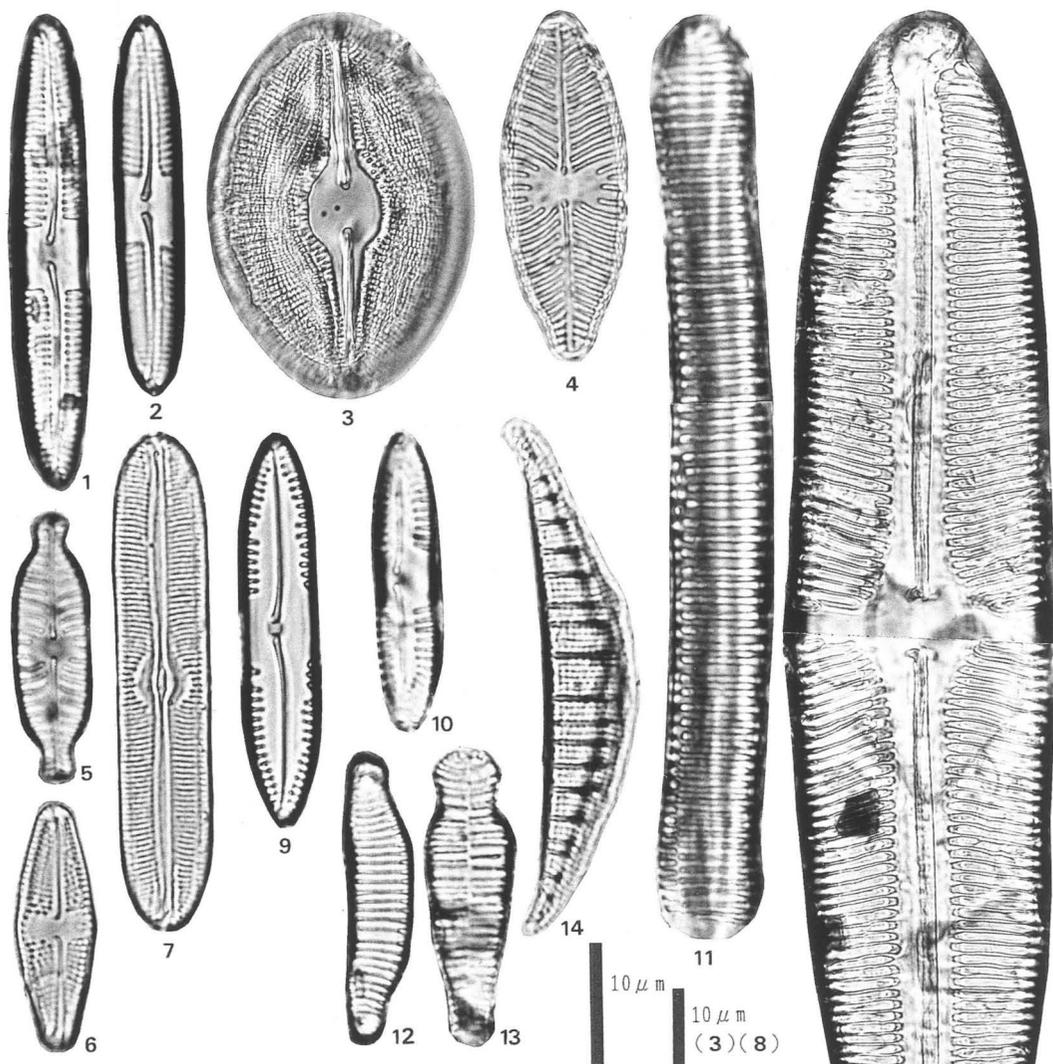
S-10



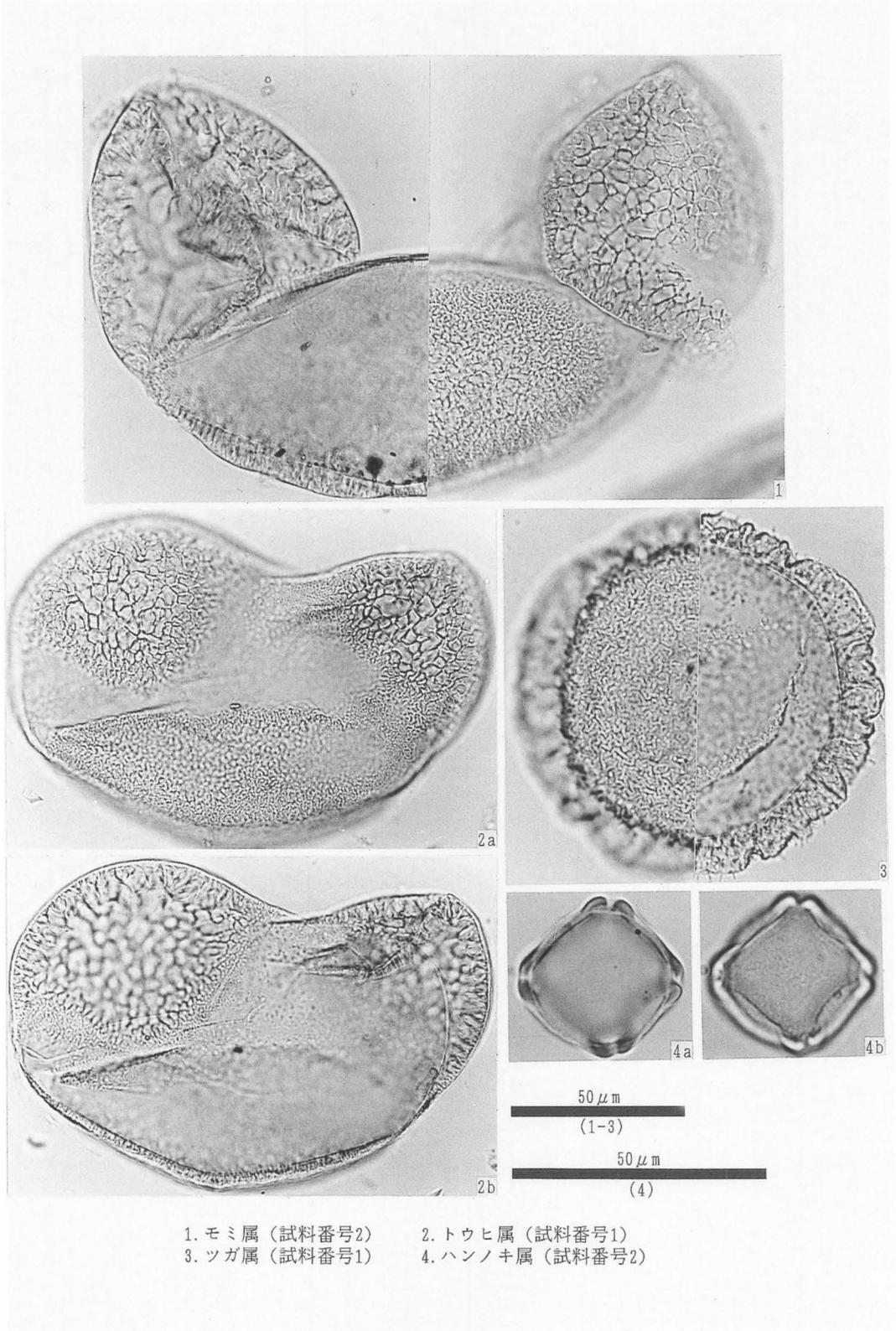
S-12



S-3

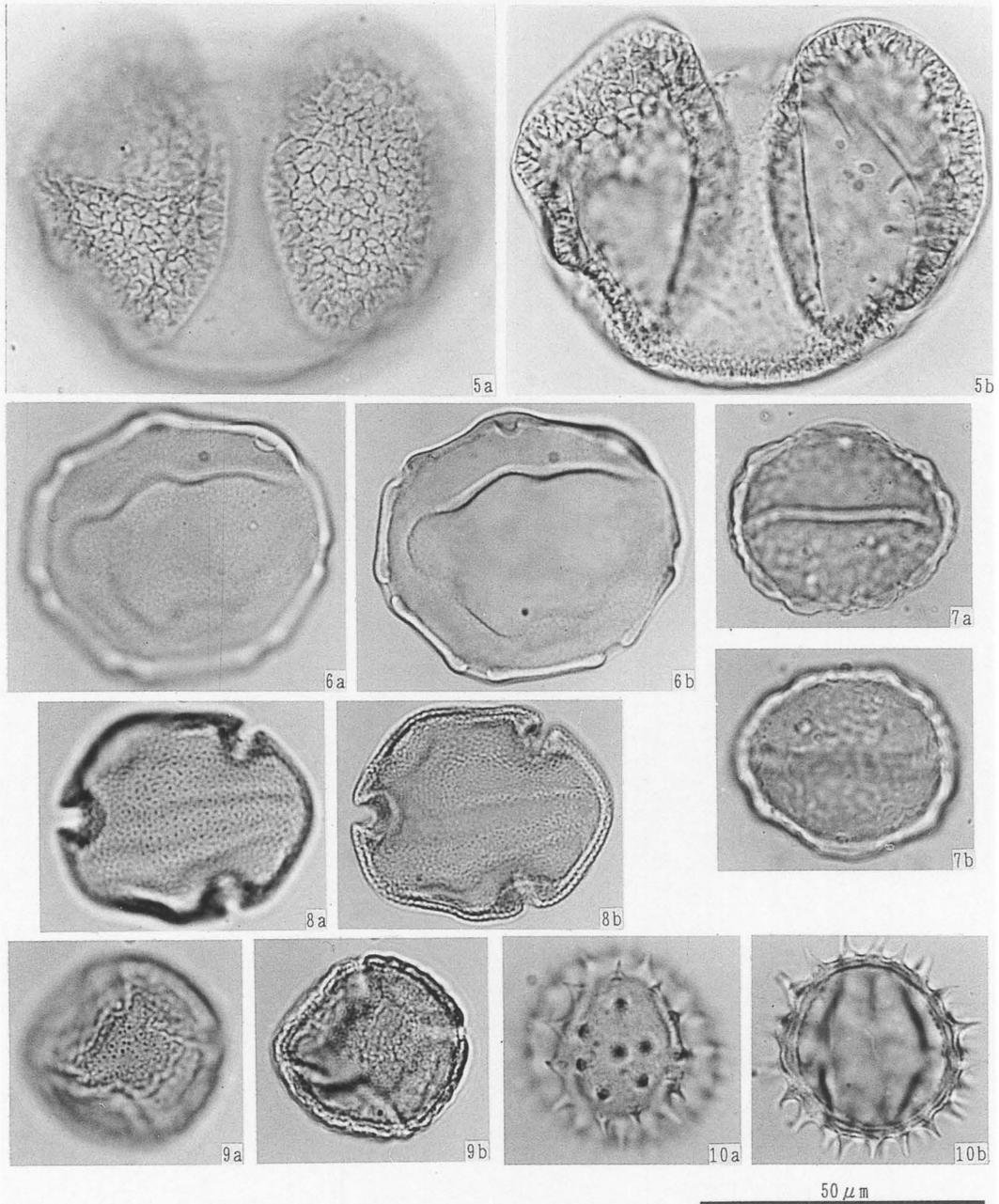


1. *Caloneis leptosoma* Krammer & Lange-Bertalot (試料番号2)
2. *Caloneis leptosoma* Krammer & Lange-Bertalot (試料番号8)
3. *Diploneis yatukaensis* Horikawa et Okuno (試料番号1)
4. *Navicula elginensis* var. *cuneata* H. Kobayasi (試料番号1)
5. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (試料番号2)
6. *Navicula mutica* Kuetzing (試料番号8)
7. *Navicula* sp. (試料番号8)
8. *Pinnularia imperatrix* Mills (試料番号5)
9. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (試料番号8)
10. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (試料番号5)
11. *Eunotia formica* Ehrenberg (試料番号5)
12. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (試料番号1)
13. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (試料番号2)
14. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (試料番号8)



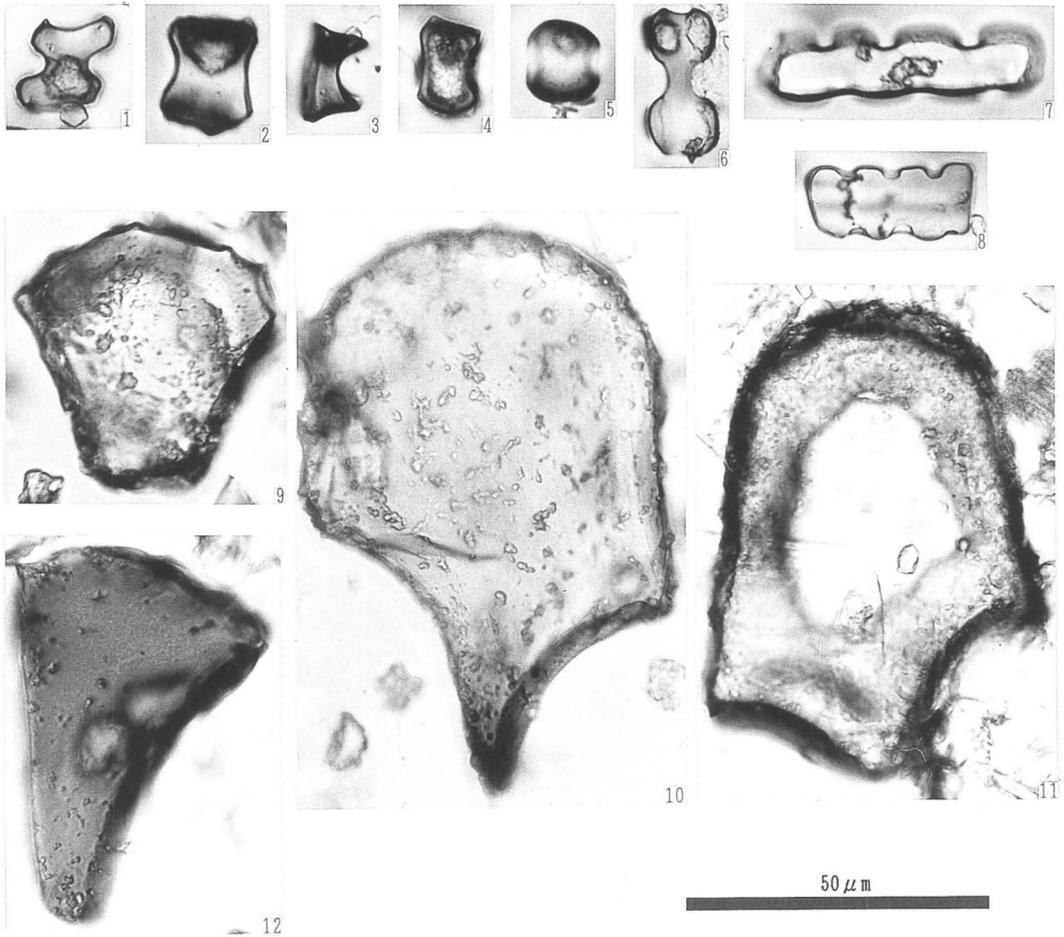
1. モミ属 (試料番号2)
3. ツガ属 (試料番号1)

2. トウヒ属 (試料番号1)
4. ハンノキ属 (試料番号2)



5. マツ属単維管束亜属 (試料番号1)
 7. ニレ属-ケヤキ属 (試料番号2)
 9. キンボウゲ科 (試料番号2)

6. クルミ属-サワグルミ属 (試料番号1)
 8. シナノキ属 (試料番号2)
 10. キク亜科 (試料番号2)

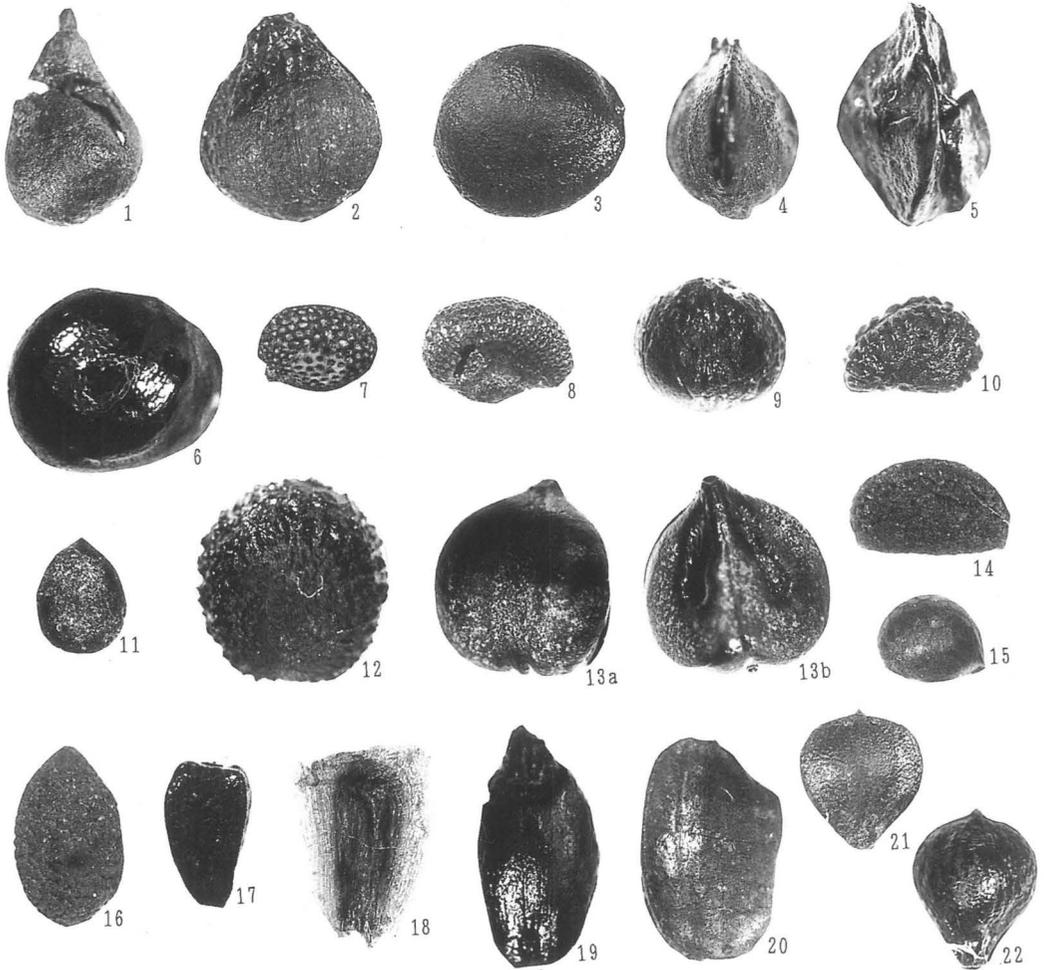


- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. キビ族短細胞珪酸体 (試料番号5) | 2. ネザサ節短細胞珪酸体 (試料番号4) |
| 3. タケ亜科短細胞珪酸体 (試料番号3) | 4. タケ亜科短細胞珪酸体 (試料番号3) |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体 (試料番号5) | 6. ススキ属短細胞珪酸体 (試料番号8) |
| 7. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (試料番号1) | 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (試料番号6) |
| 9. タケ亜科機動細胞珪酸体 (試料番号3) | 10. ヨシ属機動細胞珪酸体 (試料番号5) |
| 11. ヨシ属機動細胞珪酸体 (試料番号8) | 12. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (試料番号7) |



- 1. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号19)
- 3. モモ (試料番号6)
- 5. ハクウンボク (試料番号20)
- 7. クマシデ属 (試料番号23)
- 9. ノブドウ (試料番号14)
- 11. カナムグラ (試料番号11)
- 13. メロン類 (試料番号9)
- 15. メハジキ属 (試料番号9)
- 17. アカザ科 (試料番号9)
- 19. ナス科 (試料番号1)

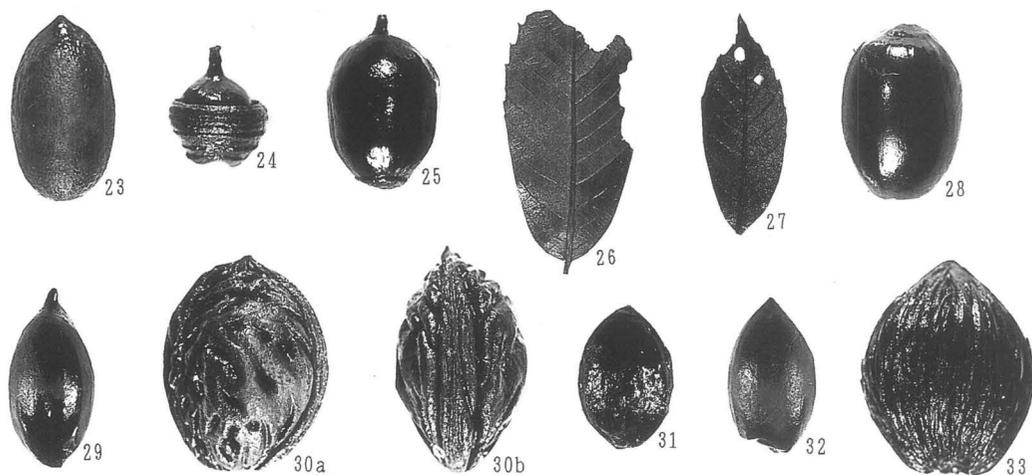
- 2. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号19)
- 4. ウメ (試料番号3)
- 6. マメ科 (試料番号49)
- 8. カラスザンショウ属 (試料番号23)
- 10. クマノミズキ (試料番号1)
- 12. タデ科 (試料番号14)
- 14. イネ (試料番号13)
- 16. ホタルイ属 (試料番号9)
- 18. カラスウリ (試料番号49)



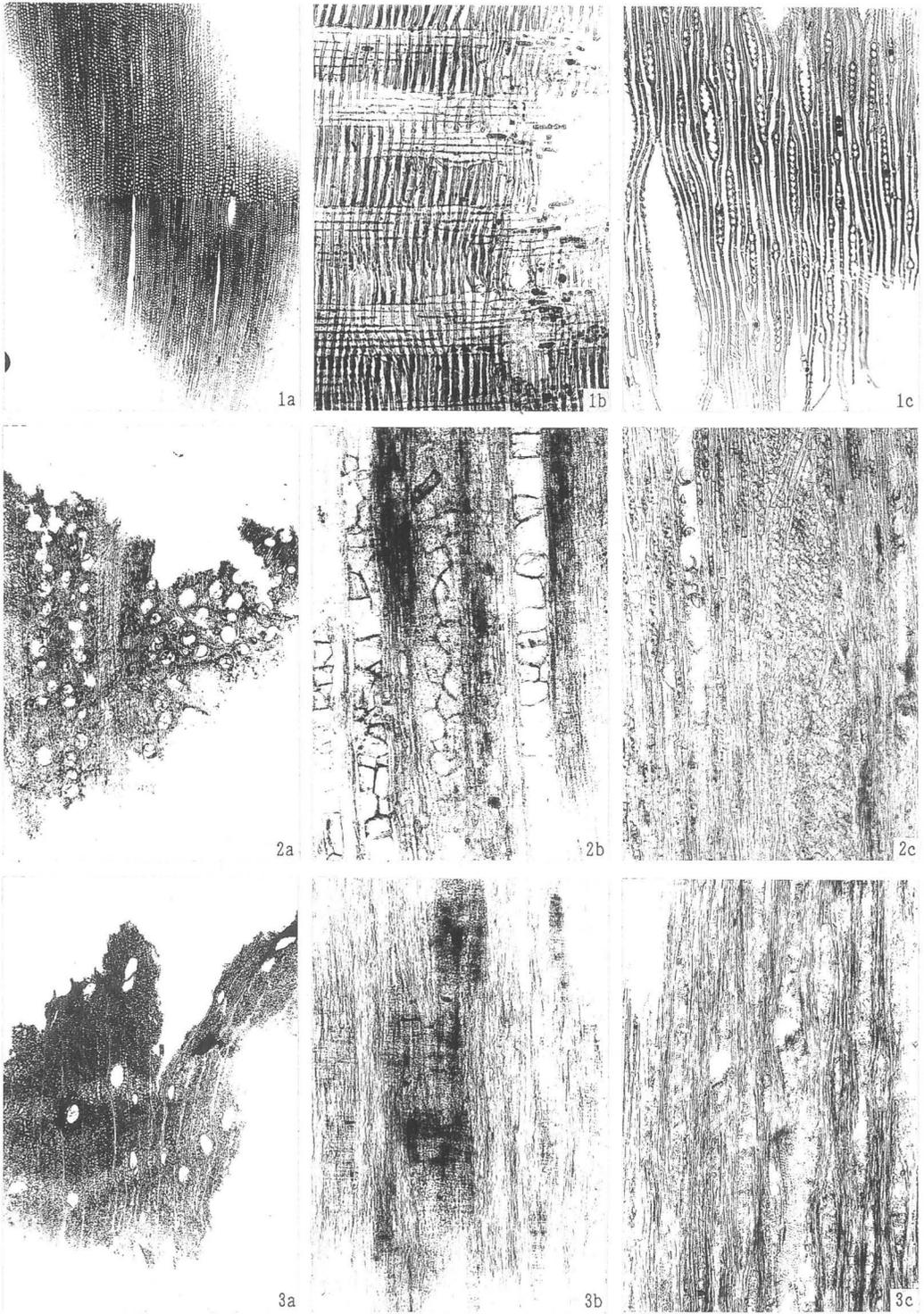
1mm 1mm 1mm 1mm
 (3) (5, 9, 13, 19, 20) (1, 2, 12) (4, 6-8, 10, 11, 14-18, 21, 22)

1. クマンデ属 (試料番号119)
3. ムクノキ (試料番号133)
5. ソバ (試料番号16)
7. マタタビ属 (試料番号69)
9. クマノミズキ (試料番号111)
11. エノキグサ近似種 (試料番号122)
13. ノブドウ属 (試料番号109)
15. シソ属 (試料番号17)
17. メナモミ属 (試料番号14)
19. オオムギ (試料番号103)
21. カヤツリグサ科 (試料番号16)

2. イヌシデ (試料番号118)
4. タデ属 (試料番号69)
6. アカザ科-ヒユ科 (試料番号94)
8. ヒサカキ (試料番号94)
10. キイチゴ属 (試料番号119)
12. アカメガシワ (試料番号94)
14. タラノキ (試料番号119)
16. ニワトコ (試料番号94)
18. オモダカ属 (試料番号14)
20. イネ (試料番号52)
22. ホタルイ属 (試料番号14)

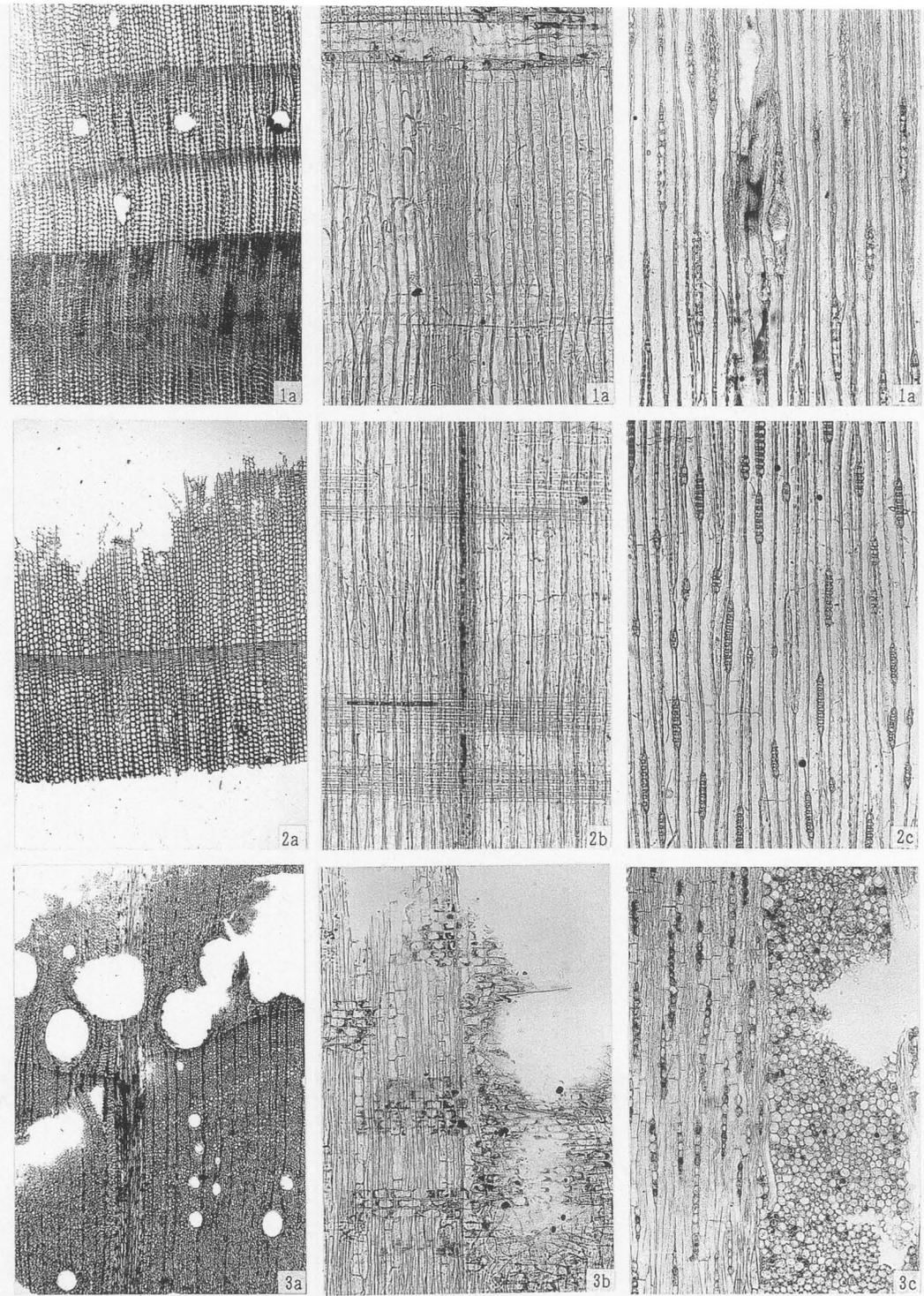


- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 23. イヌガヤ (試料番号93) | 24. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号143) |
| 25. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号143) | 26. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号143) |
| 27. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号143) | 28. コナラ属 (試料番号137) |
| 29. シイノキ属近似種 (試料番号132) | 30. モモ (試料番号114) |
| 31. スモモ (試料番号30) | 32. エゴノキ属 (試料番号73) |
| 33. 虫えい (試料番号60) | |



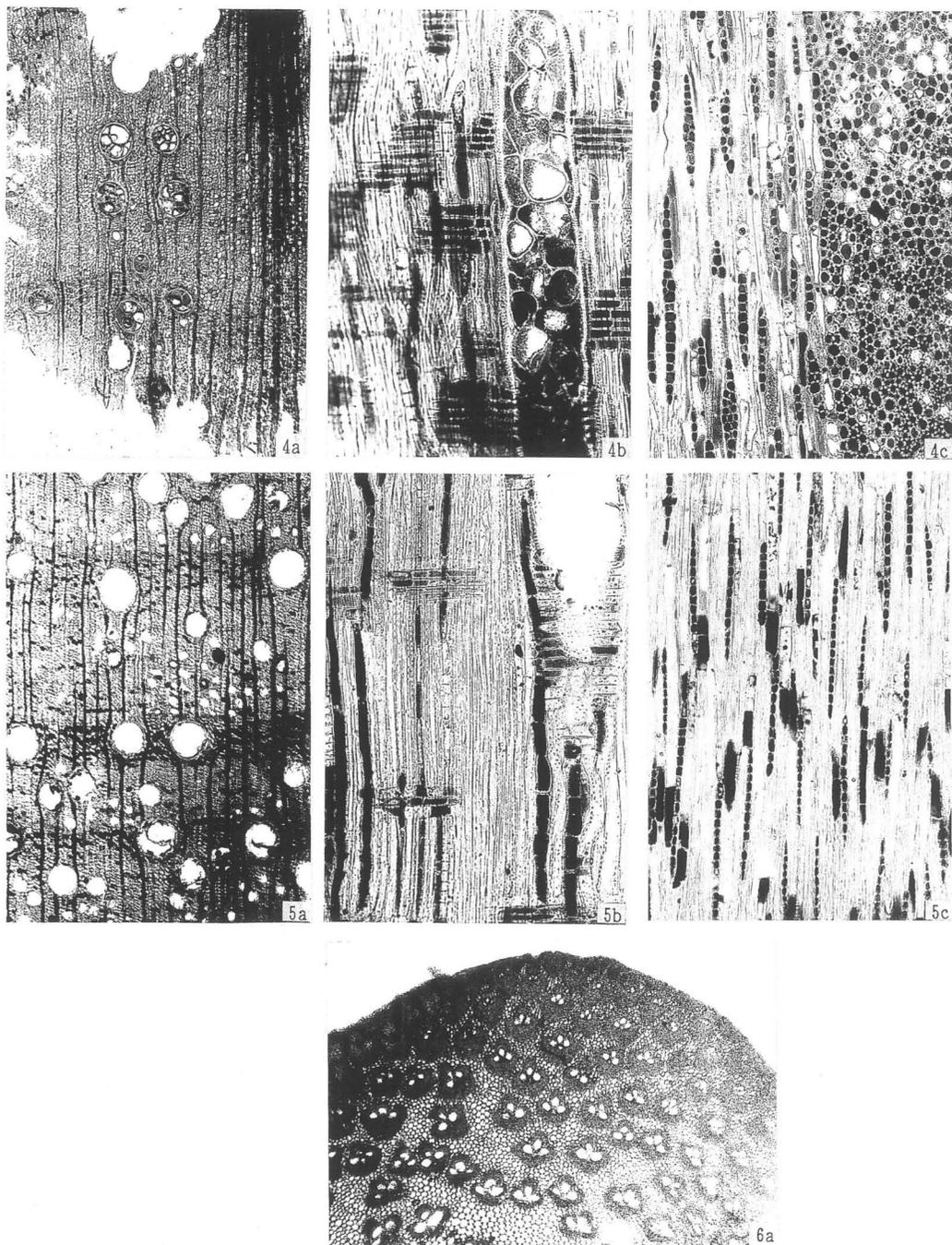
1. モミ属 (試料番号39)
 2. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号105-2)
 3. ムクノキ (試料番号20)
 a: 木口, b: 柱目, c: 板目

200 μm : a
 200 μm : b, c



1. マツ属複維管束亜属 (SE-05 ①)
 2. ヒノキ属 (試料番号8)
 3. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (SE-05 ①)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a
 200 μm : b, c



4. コナラ属アカガン亜属 (試料番号7)
 5. クリ (試料番号6)
 6. イネ科タケ亜科 (SE-05 ①)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目, 6: 横断面

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

西之辻遺跡第33次発掘調査報告

平成7年3月31日

発行 (財) 東大阪市文化財協会

印刷 (株) 近畿印刷センター